

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

にしひらない
西平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2017

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
(公財)岩手県文化振興事業団

西平内 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業團埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設事業に関連して、平成26・27年度に発掘調査を行った九戸郡洋野町西平内I遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。今回の調査によって、本遺跡からは縄文時代後期初頭から前葉にかけての大規模な配石造構とその内側に列石が確認され、さらにそれを覆う2枚の整地土の存在も明らかとなりました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての关心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成29年3月

公益財團法人 岩手県文化振興事業團
理事長 菅野 洋樹

例　　言

1 本報告書は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内に所在する西平内I遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2 本遺跡の調査は、三陸沿岸道路建設事業に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課との協議を経て、国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所の委託を受けた公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

3 岩手県遺跡台帳に登載されている遺跡番号は「IF48-0041」、遺跡略号は「NH I -14・15」である。

4 野外調査・室内整理に関わる期間等は、以下のとおりである。

野外調査…期間：平成26年6月2日～11月28日　対象面積：5,500m²　終了面積3,250m²

平成27年4月20日～10月2日　終了面積：2,250m²

担当者：平成26年度　濱田 宏、宮内勝巳、藤田崇志

平成27年度　濱田 宏、高木 晃、村上 拓、米田 寛、川村 均、藤田崇志、南野龍太郎、中浜洋介、伊東 格

室内整理…期間：平成26年10月1日～10月31日、12月1日～平成27年3月31日

平成27年11月1日～平成28年3月31日

担当者：平成26年度　濱田 宏、宮内勝巳

平成27年度　濱田 宏、川村 均、藤田崇志

5 報告書は、第I章を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、第II章以下を濱田が執筆した。本書の構成・編集は濱田・川村が行った。

6 野外調査時には青森県階上町、岩手県久慈市・洋野町の野外作業員、室内整理では当センターの期限付職員が諸作業に従事した。

7 試料の分析・鑑定は次の機関に依頼した。

放射性炭素年代測定(AMS)…株式会社加速器分析研究所

石質鑑定…花崗岩研究会

ヒスイの成分分析…糸魚川市フォッサマグナミュージアム

8 調査および報告書作成にあたり、次の方々からご指導をいただいた（順不同・敬称略）。

小林達雄（國學院大學）、富樫泰時（秋田県在住）、小林克（秋田県埋蔵文化財センター）、菊池徹夫（早稲田大学）、岡村道雄（東京都在住）、山本暉久（昭和女子大学）、鈴木保彦（日本大学）、戸田哲也（株式会社玉川文化財研究所）、熊谷常正（盛岡大学）、高田和徳（御所野遺跡博物館）成田滋彦・永瀬史人（ともに青森県埋蔵文化財調査センター）、関根達人・上條信彦（ともに弘前大学）、古谷涉（埼玉県埋蔵文化財調査事業団）、植田真・秋本雅彦（株式会社バスコ）、山田しろう（株式会社加速器分析研究所）、長内和則（岩手県久慈市在住）、中澤秀男（岩手県一関市在住）、井上雅孝（滝沢市教育委員会）、小保内裕之（八戸市博物館）、千田政博（洋野町教育委員会）、中澤秀男（一関市在住）、

9 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

10 2カ年の調査成果は、それぞれ当センターホームページ、現地説明会資料、概報に公表しているが、記載が異なる場合は本書の報告がすべてに優先する。

凡　　例

- 1 遺構図の縮尺は1/40を原則としたが、焼土遺構および埋設土器は1/20、陥し穴状遺構は1/60で掲載した。これに依らないものについては、それぞれにスケール等を示している。
- 2 層位の表記は、基本層序にローマ数字を、遺構の埋土に算用数字を用いた。
- 3 遺構図版中の石器は「S」と表記した。
- 4 遺物図は、土器と石器のうち礫石器が1/3、土製品・制片石器・石製品が1/2、石皿などの大形の礫石器は1/4および1/5の縮尺で掲載した。
- 5 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」に基づいている。
- 6 国土地理院発行の地形図は、図中に図幅名と縮尺を付して掲載した。

目 次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	2
1 周辺の地形	2
2 地質	2
3 基本層序	2
4 周辺の遺跡	4
III 野外調査と室内整理の方法	8
1 野外調査	8
(1) グリッドの設定	8
(2) 試掘・表土除去	8
(3) 遺構の検出と精査	8
(4) 写真撮影	8
(5) 調査経過	9
2 室内整理	10
(1) 作業経過	10
(2) 遺物整理の方法	10
(3) 遺構図面の整理	10
(4) 写真撮影と整理	10
IV 検出遺構と出土遺物	11
1 検出遺構	11
(1) 堅穴住居跡	11
(2) 堅穴状遺構	13
(3) 土坑	13
(4) 陥し穴状遺構	21
(5) 炉跡	24
(6) 焼土遺構	26
(7) 埋設土器	28
(8) 掘立柱建物跡と柱穴	29
(9) 配石遺構	30
(10) 整地層	49
2 出土遺物	50

V 自然科学分析	185
1 平成26年度西平内I遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	185
2 平成27年度西平内I遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	191
3 ヒスイ製垂飾品の鑑定結果	195
VI 総括	198
1 調査経過のまとめ	198
2 各種遺物の出土状況	198
3 配石遺構群構成礫の石質	199
4 遺構の重複関係とその内容	203
報告書抄録	295

表 目 次

第1表 周辺の縄文時代後期の遺跡	6	第4表 土製品観察表	180
第2表 柱穴状土坑一覧表	50	第5表 石器・石製品観察表	182
第3表 土器観察表	174		

図版目次

第1図 遺跡位置図	1	第19図 25~27号土坑	65
第2図 周辺の地形区分図	3	第20図 28~30号土坑	66
第3図 土層概念図	3	第21図 31~34号土坑	67
第4図 周辺の遺跡	5	第22図 35~37号土坑	68
第5図 グリッド配置図	7	第23図 1~3号陥し穴状遺構	69
第6図 1号竪穴住居跡	52	第24図 4~5号陥し穴状遺構	70
第7図 2号竪穴住居跡	53	第25図 6~7号陥し穴状遺構	71
第8図 3号竪穴住居跡	54	第26図 8~10号陥し穴状遺構	72
第9図 4号竪穴住居跡	55	第27図 11~13号陥し穴状遺構	73
第10図 5号竪穴住居跡	56	第28図 14~1~16号陥し穴状遺構	74
第11図 1号竪穴状遺構	57	第29図 1~3号炉跡	75
第12図 1~4号土坑	58	第30図 4~5号炉跡	76
第13図 5~8号土坑	59	第31図 6~8号炉跡	77
第14図 9~11号土坑	60	第32図 9~10号炉跡	78
第15図 12~14号土坑	61	第33図 1~4号焼土遺構	79
第16図 15~18号土坑	62	第34図 5~8号焼土遺構	80
第17図 19~21号土坑	63	第35図 9~12号焼土遺構	81
第18図 22~24号土坑	64	第36図 13~14号焼土遺構	82

第37図	1～4号埋設土器	83	第84図	出土遺物（8）	130
第38図	1・2号掘立柱建物跡	84	第85図	出土遺物（9）	131
第39図	3・4号掘立柱建物跡	85	第86図	出土遺物（10）	132
第40図	5号掘立柱建物跡	86	第87図	出土遺物（11）	133
第41図	柱穴位置図	87	第88図	出土遺物（12）	134
第42図	1・2号集石	88	第89図	出土遺物（13）	135
第43図	3・4号集石	89	第90図	出土遺物（14）	136
第44図	5・6号集石	90	第91図	出土遺物（15）	137
第45図	7号集石	91	第92図	出土遺物（16）	138
第46図	8・9号集石	92	第93図	出土遺物（17）	139
第47図	10・11号集石	93	第94図	出土遺物（18）	140
第48図	12・13号集石	94	第95図	出土遺物（19）	141
第49図	14・15号集石	95	第96図	出土遺物（20）	142
第50図	16・17号集石	96	第97図	出土遺物（21）	143
第51図	18・19号集石	97	第98図	出土遺物（22）	144
第52図	20・21号集石	98	第99図	出土遺物（23）	145
第53図	22・23号集石	99	第100図	出土遺物（24）	146
第54図	24・25号集石	100	第101図	出土遺物（25）	147
第55図	26・27・1・2号集石	101	第102図	出土遺物（26）	148
第56図	28・29号集石	102	第103図	出土遺物（27）	149
第57図	30・31号集石	103	第104図	出土遺物（28）	150
第58図	32・33・1・2号集石	104	第105図	出土遺物（29）	151
第59図	34・35号集石	105	第106図	出土遺物（30）	152
第60図	36・1・2号集石	106	第107図	出土遺物（31）	153
第61図	37・38号集石	107	第108図	出土遺物（32）	154
第62図	39・40号集石	108	第109図	出土遺物（33）	155
第63図	41・42号集石	109	第110図	出土遺物（34）	156
第64図	43・44号集石	110	第111図	出土遺物（35）	157
第65図	45・46号集石	111	第112図	出土遺物（36）	158
第66図	47・48号集石	112	第113図	出土遺物（37）	159
第67図	49・50号集石	113	第114図	出土遺物（38）	160
第68図	51～53号集石	114	第115図	出土遺物（39）	161
第69図	54・55号集石	115	第116図	出土遺物（40）	162
第70図	56・57号集石	116	第117図	出土遺物（41）	163
第71図	58号集石（1）	117	第118図	出土遺物（42）	164
第72図	58号集石（2）・59号集石	118	第119図	出土遺物（43）	165
第73図	内帶の石列	119	第120図	出土遺物（44）	166
第74図	整地層断面図A・C	120	第121図	出土遺物（45）	167
第75図	整地層断面図B	121	第122図	出土遺物（46）	168
第76図	整地層断面図D	122	第123図	出土遺物（47）	169
第77図	出土遺物（1）	123	第124図	出土遺物（48）	170
第78図	出土遺物（2）	124	第125図	出土遺物（49）	171
第79図	出土遺物（3）	125	第126図	出土遺物（50）	172
第80図	出土遺物（4）	126	第127図	出土遺物（51）	173
第81図	出土遺物（5）	127	第128図	遺物毎の出土分布（1）	200
第82図	出土遺物（6）	128	第129図	遺物毎の出土分布（2）	201
第83図	出土遺物（7）	129	第130図	遺物毎の出土分布（3）	202

写真図版目次

写真図版1	平成26年度調査 航空写真	209	写真図版38	1～4号集石	246
写真図版2	調査区近景	210	写真図版39	5～7号集石	247
写真図版3	基本層序・整地層の堆積（1）	211	写真図版40	8～10号集石・作業風景	248
写真図版4	整地層の堆積（2）	212	写真図版41	11～13号集石	249
写真図版5	1～4号土坑	213	写真図版42	14～17号集石	250
写真図版6	5～8号土坑	214	写真図版43	18～22号集石・作業風景	251
写真図版7	9～12号土坑	215	写真図版44	23～26号集石・作業風景	252
写真図版8	1～4号陥し穴状遺構	216	写真図版45	27～30号集石	253
写真図版9	5～8号陥し穴状遺構	217	写真図版46	31～34号集石	254
写真図版10	9～12号陥し穴状遺構	218	写真図版47	35～38号集石・作業風景	255
写真図版11	13～16号陥し穴状遺構	219	写真図版48	39～42号集石・実測作業	256
写真図版12	1号埋設土器、 1～3号焼土遺構	220	写真図版49	43～45号集石	257
写真図版13	4～7号焼土遺構	221	写真図版50	46～49号集石	258
写真図版14	平成27年度調査 調査区近景	222	写真図版51	50～54号集石・現地説明会	259
写真図版15	内帶全景・外帶の状況ほか	223	写真図版52	55～58号集石	260
写真図版16	1号堅穴住居跡	224	写真図版53	59号集石・遺物出土状況	261
写真図版17	2号堅穴住居跡	225	写真図版54	出土遺物（1）	262
写真図版18	3号堅穴住居跡	226	写真図版55	出土遺物（2）	263
写真図版19	4号堅穴住居跡	227	写真図版56	出土遺物（3）	264
写真図版20	5号堅穴住居跡・作業風景	228	写真図版57	出土遺物（4）	265
写真図版21	1号堅穴状遺構・作業風景	229	写真図版58	出土遺物（5）	266
写真図版22	13～16号土坑	230	写真図版59	出土遺物（6）	267
写真図版23	17～20号土坑	231	写真図版60	出土遺物（7）	268
写真図版24	21・22号土坑・作業風景	232	写真図版61	出土遺物（8）	269
写真図版25	23～26号土坑	233	写真図版62	出土遺物（9）	270
写真図版26	27～30号土坑	234	写真図版63	出土遺物（10）	271
写真図版27	31～34号土坑	235	写真図版64	出土遺物（11）	272
写真図版28	35～37号土坑、1・2号炉跡	236	写真図版65	出土遺物（12）	273
写真図版29	3～6号炉跡	237	写真図版66	出土遺物（13）	274
写真図版30	7～10号炉跡・作業風景	238	写真図版67	出土遺物（14）	275
写真図版31	8～11号焼土遺構	239	写真図版68	出土遺物（15）	276
写真図版32	12～14号焼土遺構、 2号埋設土器	240	写真図版69	出土遺物（16）	277
写真図版33	3・4号埋設土器、 調査区からの眺望	241	写真図版70	出土遺物（17）	278
写真図版34	1・2号掘立柱建物跡	242	写真図版71	出土遺物（18）	279
写真図版35	2号掘立柱建物跡・現地公開	243	写真図版72	出土遺物（19）	280
写真図版36	3号掘立柱建物跡	244	写真図版73	出土遺物（20）	281
写真図版37	4号掘立柱建物跡	245	写真図版74	出土遺物（21）	282
			写真図版75	出土遺物（22）	283
			写真図版76	出土遺物（23）	284
			写真図版77	出土遺物（24）	285

写真図版78 出土遺物 (25)	286	写真図版83 出土遺物 (30)	291
写真図版79 出土遺物 (26)	287	写真図版84 出土遺物 (31)	292
写真図版80 出土遺物 (27)	288	写真図版85 出土遺物 (32)	293
写真図版81 出土遺物 (28)	289	写真図版86 出土遺物 (33)	294
写真図版82 出土遺物 (29)	290		

I 調査に至る経過

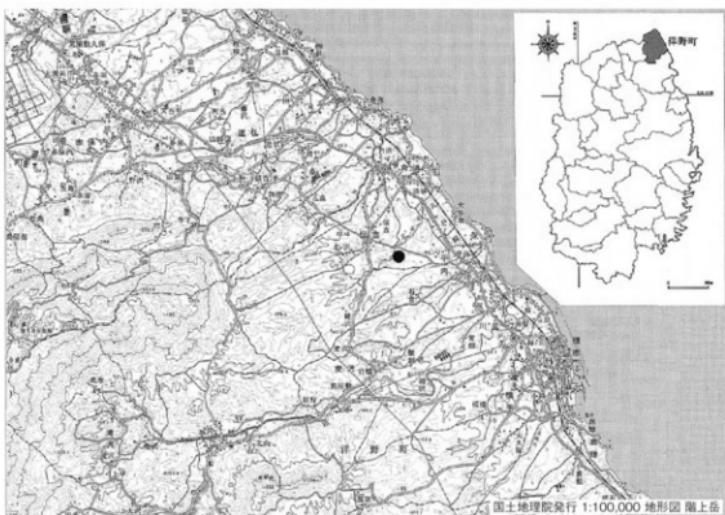
西平内I遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業(洋野～階上)の事業区域内に存在することから、発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各県の太平洋沿岸を結ぶ延長359kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成25年2月6日付け国東整陸一課第1027号により、三陸国道事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成25年2月13日に試掘調査を行い、平成25年3月22日付け教生第1776号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成26年は4月1日付け、平成27年は4月10日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所)



第1図 遺跡位置図

II 遺跡の立地と環境

1 周辺の地形（第2図）

九戸郡洋野町は岩手県北沿岸、青森県境に位置し、北は青森県階上町、南は久慈市、西は九戸郡軽米町・九戸村などの市町村、東は太平洋に面している。西平内I遺跡は、最寄りの太平洋岸からおよそ2km、青森県境からも同程度の距離をもつ北向きの丘陵上に立地する。

從来この地域の段丘・丘陵は、高位から九戸段丘、白前段丘、種市段丘、玉川段丘に分けられてきたが、松山力氏は種市段丘を種市段丘と川尻段丘に細分（松山：2004）し、その後更にこの川尻段丘を白前段丘の低位面に組み入れ、高位の白前段丘とともに白前段丘として区分し直している（松山：2013）。

本遺跡は、遺跡の西側を北流する渋谷川と20mほどの比高をもち、白前段丘高位面から低位の川尻段丘にかけて広がる。今回の調査範囲における標高は61.4~63.2mで、配石遺構群北側の調査区域外は北向きの広い緩斜面となる。また、調査区西側は段丘崖の急傾斜面となっており、遺跡範囲は確實に渋谷川で区切られている。

2 地 質

洋野町（旧種市町）の地質は、町東側のJR八戸線と海岸線の間を除き花崗閃緑岩で占められ、それ以外の上述した地区は、角浜から渋谷川河口付近までがデイサイト～流紋岩質溶岩や火山碎屑岩、その地域から有家川河口付近までは疊岩や凝灰岩を伴う砂岩（種市層）を基盤とする。これら基盤岩上には、段丘堆積物の砂礫層・砂層・泥層などのがり、さらにこの上を火山灰や軽石起源の褐色火山灰層群と黒色土（クロボク）が覆う。

褐色火山灰層群は、下位から九戸火山灰層、高館火山灰層、八戸火山灰層の3つに区分される。九戸火山灰層は、旧種市町域では2m以上の厚さをもつが、軽石層の分布や層序は明らかでない。高館火山灰は、後期更新世の火山碎屑物などから構成された地層で、主に十和田火山起源のものから構成される。

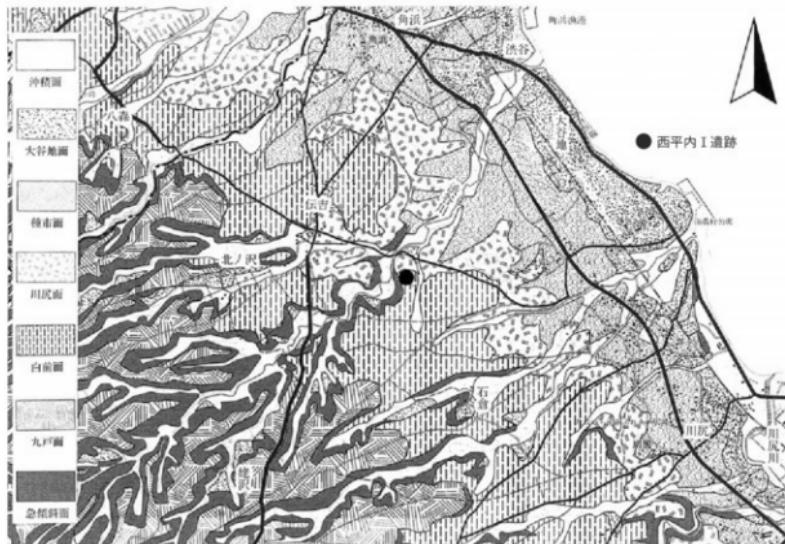
八戸火山灰層は、火山碎屑物層とその上の火碎流堆積物の2つから構成され、從来12,000~13,000年前に噴出した火山碎屑層と言われてきたが、最近では約15,000年前とされる。青森県南東部では、火山灰層と軽石層が互層となり、下位から6層に区分されるが本遺跡での対比は出来ていない。

岩手県北から青森県東南部にかけての完新世火山碎屑物の状況については、下位から南部軽石層、小国軽石層、中振軽石層、十和田b降下火山灰層、十和田a降下火山灰層などの十和田火山起源のものと、それより新しい苦小牧火山灰層（從来白頭山苦小牧と言わしたもの）がある。

3 基本層序（第3図）

調査前の調査区の状況は、昭和に入り植林された杉林と雑木の生い茂る山林で、地権者によると地形を大きく変えるような土地造成は行っていないとのことである。

小さな尾根状をなす当初の調査区中央部と東側ないし南端付近では、整地層の有無により若干層位に違いがあるが、概ね以下のようない層序をなしている。なお、整地層1・2は、基本層序IとIIの間に介在し、上に間層を挟んでいない。



第2図 周辺の地形区分図



第3図 土層概念図

第Ⅰ層：10YR2/3 黒褐色 シルト 現表土及び森林腐食土で層厚15~20cm。
(整地層1：10YR4/4 褐色 粘土質シルト)
(整地層2：10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト これを基調とするが上面は黄褐色との混合土に見える)
第Ⅱ層：10YR2/1 黒色 シルト 橙色の火山噴出物を全体的に含む。層厚20~25cm。
第Ⅲ層：10YR3/3 暗褐色 シルト 減移層で層厚10~20cm。本層上面が配石遺構築面。
第Ⅳ層：10YR3/4 暗褐色 シルト 八戸火山灰層で層厚は50cm以上。

整地層1については、第Ⅳ層以下のいわゆる浮石粒を含む地山（暗褐色土）とは異なり、まったくそれを含まないという点から、人手により持ち込まれた土壤と解釈した。また、整地層2は、第Ⅱ層の黒褐色土が平らに造成され、その部分が整地された土壤のように見えている可能性があるが、調査時には判断をつけられなかった。

4 周辺の遺跡（第4図・第1表）

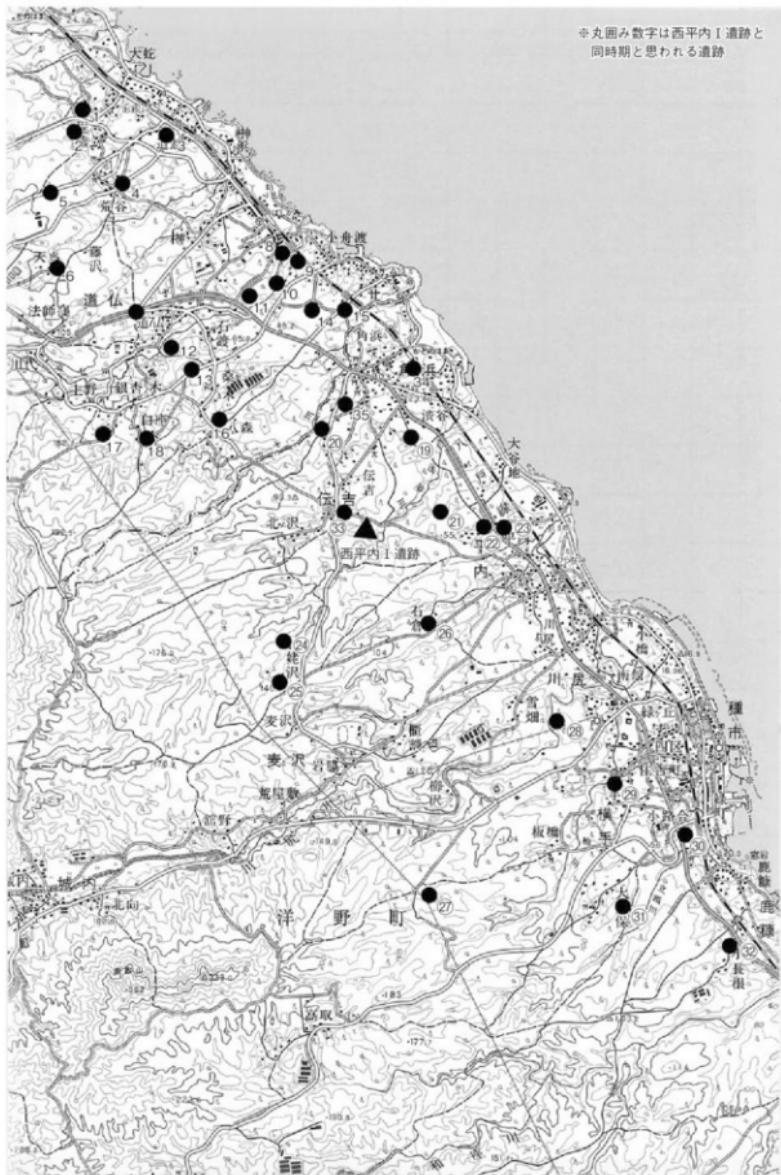
平成27年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録される洋野町内の遺跡は207箇所で、平成16年度には、現洋野町教育委員会により角浜・伝吉・平内・麦沢（姥沢）地区を対象とした詳細分布調査が行われ、その際に43箇所もの遺跡が追加登録された。それ以後、町内をいくつかの地区に分け分布調査を実施する予定だったが、実施されていない。この中では特に、旧大野町に未発見の遺跡が多く存在するものと考えられている。以下、時代毎に町内の遺跡について記載する。

旧石器時代では、鉄山遺跡・有家遺跡が紹介され、いずれからも石刀・剥片が出土しているという。ともに高館火山灰層から出土したと言われる。

縄文時代の遺跡は143箇所を数えるが、草創期のものは確認されていない。早期には大平遺跡・ゴッソー遺跡・大宮I遺跡などがあり、当埋蔵文化財センターが調査したゴッソー遺跡からは日計式・寺の沢式土器の他、魚骨回転文を有するものも出土している。また、当時岩手大学の草間教授によつて調査された大宮遺跡からは貝殻文土器が多く出土し、中でも貝殻文が施文される尖底土器が復元されたことは大きな成果とされた。前期では、上のマッカ・平内I・藤好沢などの他、上述のゴッソー遺跡からは前期初頭の遺物が多く出土した。中期では、千敷平・北ノ沢Iなどが挙げられる。

本遺跡と同時期となる後期の遺跡は、平内II・たけの子・上岡谷・長坂・上のマッカ・石倉・上水沢IIなどの遺跡があり、当センターが調査した上水沢II遺跡からは後期中葉を主体とする住居跡が11棟見つかっている。本遺跡の周辺2km圏内にあって後期の遺物が採取できる遺跡には、田ノ端（後期前葉？）・笹花II（後期初～前葉）・伝吉I（後期前葉）・平内II（後期前葉）・北平内V（？）・姥沢I（後期初～前葉）・姥沢III（後期前～中葉）など7遺跡がある。晚期では、たけの子・大平・戸類家などがあり、中でもたけの子遺跡は町内を代表する晚期の遺跡として有名である。また、戸類家遺跡は、昭和32年当慶應大学の江坂教授によって発掘調査された遺跡である。

弥生時代の遺跡では、上水沢II遺跡からは弥生時代後期の住居跡1棟が見つかっており、この他に荒巻・大平・大宮I・大宮II遺跡などある。洋野町内の貝塚としては、ホックリ貝塚・八木貝塚・小子内貝塚・黒マッカ貝塚の4遺跡があり、また製塙関連と目されるものには、4遺跡に加えゴッソー・たけの子遺跡などが挙げられよう。また、古代の製塙遺跡として、二十一平遺跡からは製塙土器とともに土製支脚片が多く出土しており、一連の作業場であったことを窺わせる。



第4図 周辺の遺跡（縄文時代後期の遺跡）

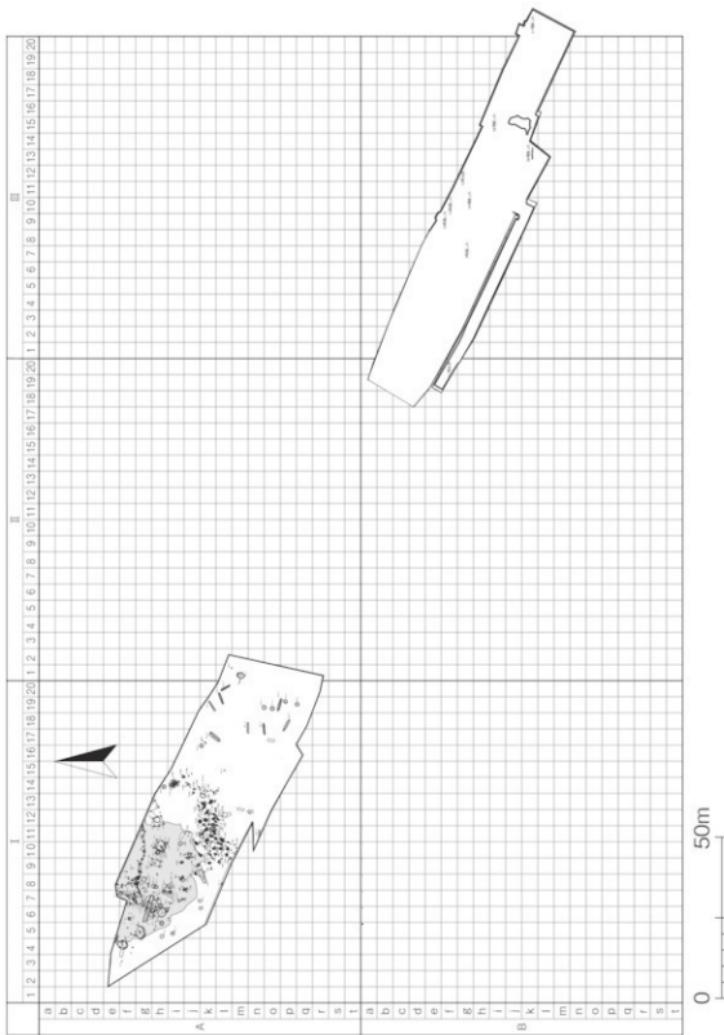
古墳時代以降については、「平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書」洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集に詳しいので参照されたい。

洋野町の北側には青森県階上町が隣接するが、若干こちらの遺跡の状況について触れておく。

なお、縄文時代後期の祭祀に関わるであろう本遺跡の性格・内容から、周辺における同時期の遺跡について、第4図・第1表に掲載した（洋野町教育委員会提供）。洋野町内に限らず青森県階上町内の遺跡も加えたが、丸開み数字は後期初頭から前葉の遺物が出土している遺跡を示している。近年、当センターが実施したこの地区的復興調査では、当該期の遺跡が複数確認されているが、サンニヤI 遺跡からは「コ」の字形に組まれた石開炉が設置される後期初頭の堅穴住居3棟が確認されており、本遺跡との関連が強く窺われる。また、平成26年の階上町下天摩遺跡の発掘調査では、本遺跡の事例よりも小規模ではあるが、海側に向く尾根の緩斜面から同時期の集石遺構が7基確認されており、同種の遺構が検出された遺跡として注目されよう。

第1表 周辺の縄文時代後期の遺跡

No.	遺跡コード	遺跡名	よみがな	種別	遺構・遺物	所在地	備考
1	446010	程熊（2）	ほどくまかっこに	散布地	縄文（前・後）	階上町	
2	446009	程熊（1）	ほどくまかっこいち	散布地	縄文（前・後）	階上町	
3	446070	浜久保（2）	はまくほかっこに	散布地	縄文（後）	階上町	
4	446027	浜久保（1）	はまくほかっこいち	散布地	縄文（早・前・後）	階上町	
5	446075	荒谷	あらや	散布地	縄文（後）	階上町	
6	446083	藤沢（1）	ふじさわかっこいち	散布地	縄文（早・前・後）	階上町	
7	446078	道伝鹿鷹	どうづのぬか	散布地	縄文（前・後・晚）	階上町	
8	446025	柳山	さかきやま	散布地	縄文（後・晩）	階上町	
9	446014	鹿藏崖（2）	かくらくばかっこに	散布地	縄文（後）	階上町	
10	446013	鹿藏崖（1）	かくらくばかっこいち	散布地	縄文（後・晩）	階上町	
11	446019	横沢	よこざわ	散布地	縄文（中・後）	階上町	
12	446088	大草里崖	おおぞうりくば	散布地	縄文（中・後）	階上町	
13	446081	下天摩	しもてんま	散布地	縄文（後・晩）	階上町	H26調査
14	446004	泉田崖（2）	いずみたくほかっこに	散布地	縄文（後）	階上町	
15	446003	泉田崖（1）	いずみたくほかっこいち	散布地	縄文（早・前・後）	階上町	
16	446089	下平崖	しまいたいくば	散布地	縄文（中・後）	階上町	
17	446068	上野前	うののまえ	散布地	縄文（後）	階上町	
18	446021	白座	はくざ	集落跡	縄文（早・前・中・後）	階上町	
19	IF58-2053	笹花II	ささのはに	散布地	縄文土器（後期）	洋野町	H23新規
20	IF57-2343	田ノ端	たのはた	散布地	縄文土器（後期）	洋野町	H23新規
21	IF48-0017	平内Ⅱ	ひらないに	散布地	縄文土器（中前期～後期前葉）	洋野町	H11-13・H23-25調査
22	IF48-0110	北平内V	きたひらないご	散布地	縄文土器（後・晚期）	洋野町	H23新規
23	IF48-0121	北平内IV	ひたにらないよん	散布地	縄文土器（後期）	洋野町	H23新規
24	IF47-1360	箕沢Ⅲ	うばさわさん	散布地	縄文土器（前・後期）	洋野町	H23新規
25	IF47-1390	箕沢I	うばさわいち	散布地	縄文土器（後期）	洋野町	H23新規
26	IF48-1025	石倉	いしくら	集落跡	縄文土器（後期）	洋野町	
27	IF58-1006	たけの子	たけのこ	散布地	縄文土器（後・晚期）	洋野町	
28	IF48-2128	サンニヤI	さんにやいち	散布地	縄文土器（後期）	洋野町	H27・28調査
29	IF48-2283	トネの木	とののき	散布地	縄文土器（後・晚期）	洋野町	
30	IF58-0341	ゴツツー	ごっそー	集落跡	縄文土器（早～晚期）	洋野町	H8・12調査
31	IF58-1205	大久保	おおくぼ	散布地	縄文土器（前・後・晚期）	洋野町	
32	IF58-1354	鹿郷塚II	かぬかはまに	集落跡	縄文土器（後期）	洋野町	H25新規
33	IF57-2306	伝吉I	でんきいち	散布地	縄文土器（早・前・後期）	洋野町	H23範囲更正



第5図 グリッド配置図

III 野外調査と室内整理の方法

1 野外調査

(1) グリッドの設定

調査では、3級基準点2点と区画付杭4点の打設（世界測地系）を測量業者に委託し、その成果を使用した。以下に成果値を記載する。

基準点1	X = 47,781.729m	Y = 71,792.544m	H = 62.228m
基準点2	X = 47,750.172m	Y = 71,860.005m	H = 62.148m
付 杭1	X = 47,790.000m	Y = 71,800.000m	H = 62.736m
付 杭2	X = 47,780.000m	Y = 71,820.000m	H = 62.977m
付 杭3	X = 47,780.000m	Y = 71,840.000m	H = 63.118m
付 杭4	X = 47,750.000m	Y = 71,840.000m	H = 61.415m

(2) 試掘・表土除去

調査は、県教育委員会生涯学習文化課が実施した試掘調査結果に基づいて、その箇所をあらためて人力で掘削し、遺構が検出される層位や土層の堆積状況を観察した。その後、試掘トレッチを新設し、遺構の分布状況を確認した。その後の表土除去については、大まかには重機を稼働して行い、部分的には人手も用いながら進めた。

(3) 遺構の検出と精查

今回の調査における遺構検出作業だが、配石遺構と整地層に関する区域では、表土直下の造成土である整地層1（黄褐色土）、その下の整地層2（黒色土）、その下層に基本層序第Ⅲ層の暗褐色土、基盤層である第Ⅳ層暗褐色土の各上面で都合4回実施した。また、それ以外の整地層1・2が認められない地点では、第Ⅲ層下位もしくは第Ⅳ層上面で1回行い、この箇所では土坑や土壙墓、陥し穴状遺構などが検出された。

遺構の精査は、二分法・四分法を使い分けたが、陥し穴状遺構については、土層断面を横断面で、遺構の縱方向はエレベーション図を作製した。個々の遺構は、堆積状況を観察後に遺構の全景を撮影し土層断面図は人手によって、平面図は電子平板で作製した。

なお、配石遺構については、対象となる遺構にポイントを入れて写真を撮影し、その後電子平板でその座標を計測、写真上で重ね合わせてデジタルトレースを行った。撮影の際は、疊の稜線を白チョークで描き、明瞭に写るよう心がけた。

(4) 写 真 摄 影

野外調査時の写真撮影には、平成26年度は6×7判モノクロームフィルムカメラ1台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D）1台を、平成27年度にはマミヤ645なども使用した。撮影では、日付や遺構名、方角などを記したカードを写し込み、室内整理時の作業に活用した。

なお、平成26年7月17日（木）にはセスナ機による航空写真撮影を、同年8月8日の現地説明会の

際には、無人撮影機ドローンによる当センターホームページ掲載用の空中写真撮影を行った。

(5) 調査経過

平成26年6月2日（月） プレハブ・駐車場用地の整地工事を行い、調査開始。次週9日（月）より作業員稼働。

- 6月9日（月） 登録作業員33名で資材を搬入。
- 6月11日（水） 重機による表土掘削作業と環境整備を実施。
- 6月11日（水） 基準点設置作業開始（株式会社ダイヤ）
- 7月17日（木） 空中写真撮影実施（東邦航空）
- 8月8日（金） 現地説明会開催（午前11時から） 参加者約80名。
- 9月2日（火） 東日本大震災復旧作業労災防止センター所長小林豊氏による安全衛生教育受講（於：洋野町役場の一施設）
- 9月3日（水） 登録作業員20名に減る。
- 9月17日（水） 調査区域外の工事施工箇所にて陥し穴状造構2基確認。試掘調査を行うこととなる。
- 9月24日（木） 試掘調査実施。
- 9月26日（金） 事業地内に工事が入ることから、プレハブ・駐車場用地を平内駅隣接地に移設する。
- 10月2日（木） 調査面積の増加について委託者・県生涯学習文化課・埋蔵文化財センターによる協議。
- 11月4日（火） 勤務時間が冬時間となる。
- 11月21日（金） 終了確認。
- 11月26日（水） 資材の積み込み・撤収。
- 11月27日（木） 地権者並びに洋野町教育委員会に終了の挨拶、調査終了。

平成27年4月20日（月） 登録作業員20名で資材を搬入し、調査開始。

- 5月11日（月） 業者による切り株処理作業開始。
- 6月11日（木） 県生涯学習文化課・埋蔵文化財センターによる現地協議。
- 8月3日（月） 県生涯学習文化課との現地協議。
- 8月18日（火） 外部委託による配石造構群の三次元計測実施。
- 8月25日（火） 東日本大震災復旧作業労災防止センター所長小林豊氏による安全指導。
- 9月2日（水） 現地公開日（午後1時30分から） 参加者約80名。
- 9月14日（水） 花崗岩研究会による石質鑑定作業。
- 9月15日（火） 当センター室内作業員研修（午前11時から）。
- 9月18日（金） 国外の地震による津波注意報発令。影響なし。
- 9月29日（火） 終了確認。
- 10月2日（金） 搬出準備・資材整理・積み込みを行い、すべての調査を終了。

2 室内整理

(1) 作業経過

平成26年12月1日（月） 平成26年度室内整理作業開始。1月31日まで作業員1名、それ以降3月31日まで2名体制で実施。調査員は1月中旬より2名体制となる。当該年度の作業を実施。

3月31日（金） 平成26年度の室内整理作業を終了。

平成27年12月1日（火） 平成27年度室内整理作業開始。3月31日まで調査員3名、作業員5名体制で実施。

3月30日（金） 平成27年度の室内整理作業を終了。

(2) 遺物整理の方法

出土した遺物は、年度毎に現場の段階で水洗と大まかな仕分けを完了し、室内では更に土器類と石器類に分類、その後重量計測を行った。掲載遺物は、登録作業後に実測、点検・修正、トレースを行い、それらをスキャナーで読み込んでデジタルデータとし編集した。

(3) 遺構図面の整理

遺構図は、電子平板で作製した平面図と作業員が人力で作製した断面図（縮尺1/20）をデジタルデータ化して、修整を加えた後にデジタル編集した。

(4) 写真撮影と整理

野外調査時に撮影した遺構写真のうち、6×9判モノクローム写真はネガフィルムとともに紙焼きをアルバムに貼付し、デジタルカメラで撮影したRAWデータは、遺構ごとに個別のフォルダーにまとめ収納要綱に従って収納した。

遺物の写真撮影は、当センターの撮影技師がデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS1 Mark II）を使用し撮影している。なお、平成26年度分の遺物撮影は27年度にあわせて実施した。

IV 検出遺構と出土遺物

1 検出遺構

(1) 壁穴住居跡

平成27年度調査により、調査区西側の平坦部から緩斜面に5棟検出した。調査区外に延びる1棟を除く4棟は石窯をもつ。住居の共伴遺物や内帶の石列との重複関係から、いずれも縄文時代後期前葉かその直前期に属するものと思われる。今回炉跡として報告する遺構も壁穴住居であった可能性は高く、これらも含め、内帶の構築とそれ以前の住居群との時期的な様相も明らかとなった。

1号壁穴住居跡

遺構（第6図、写真図版16）

【位置・検出状況】調査区中央部北西寄りのIA6g・6f・7g・7fグリッドに跨がる。第Ⅲ層下～Ⅳ層上面において、本遺構の南壁で重複する14号土坑とともに検出した。

【重複関係】上述の14号土坑との新旧関係は、土坑の方が新しい。また、28号・32号・37号土坑とも重複するが、32号土坑は本遺構より新しく、トレーナー北側にある他の2基は新旧が不明である。

【平面形・規模】平面形は北東～南西方向に長い楕円形状で、想定される規模は400×520cmである。

【埋土】焼土ブロックや黄褐色土浮石粒をまばらに含む暗褐色土が主体である。

【床面・壁】第Ⅳ層を床面とし、概ね平坦である。壁は壁溝から外反しつつ立ち上がる。

【炉】南側に礎が置かれないコの字形の石窯がある。石窯の外側にまで明赤褐色の焼土が形成され、内部にある燃焼部焼土も発色の良い赤褐色をなす。32×43cmの不整円形、厚さは10cmを測る。

【その他の付属施設】柱穴や土坑は確認出来なかった。

遺物（第77・78・83図ほか、写真図版54・55・58ほか）

縄文時代後期初頭から前葉の土器が7,901g出土したほか、土製円盤、錚形土製品、石器類では石斧、石錐、石斧、磨石、石錘のほか、有孔石製品などが出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の壁穴住居跡である。

2号壁穴住居跡

遺構（第7図、写真図版17）

【位置・検出状況】平坦部の西端付近IA5gグリッドに位置する。2号炉跡とともに第Ⅳ層上面で検出した。最寄りの遺構は、北西側にある3号壁穴住居跡で、25mほどの距離を置く。

【重複関係】上述のとおり、本遺構の埋土中に2号炉跡が確認された。本遺構が旧い。

【平面形・規模】円形ないし楕円形をなす。円形と想定しての推定規模は、直径400cm前後である。

【埋土】炭化物粒を含む黒褐色土の単層。炭化物粒は10mm前後と大きく、また混入量が多かった。

【床面・壁】第Ⅳ層を床面とし平坦である。壁は低い。床面南西側に石皿が見られた。

【炉】床面中央付近に3個の炉石がコの字形に配される石窯を確認した。炉の西側が開く。燃焼部焼土は21×30cmの不整円形で厚さは最大6cm、明褐色の焼けの良い焼土である。

【その他の付属施設】柱穴や土坑類は検出されない。

遺物（第62・104図ほか、写真図版72・89ほか）

縄文時代後期の土器片786 gと石斧が1点出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

3号竪穴住居跡

遺構（第8図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕 調査区西端部のIA4e・4fにあり、第Ⅲ層下～Ⅳ層上面で確認した。

〔重複関係〕 重複は認められないが、整地層1の広がりの端部が本遺構の東側の一部を覆う。

〔平面形・規模〕 平面形は不整橢円形で、壁の凸凹が激しい。規模は252×346cmを測る。

〔埋土〕 浮石粒をまばらに含む暗褐色土の單層で、黄褐色のブロックを部分的に含む。

〔床面・壁〕 床面は第Ⅳ層の傾斜方向に下がり平坦である。壁はいずれも緩やかに立つ。

〔炉〕 床面中央に燃焼部焼土と炉石4個が出土した。焼土は27×31cmの不整円形をなす。

〔その他の付属施設〕 Pit 1～8が壁際に巡る。規模は直径20～40cm、深さは6～60cmと幅がある。

遺物（第83・112図、写真図版58・76）

369 gの縄文土器と2点の敲石が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

4号竪穴住居跡

遺構（第9図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕 調査区北西隅のIA4e・5eに跨がり、遺構の北側2/3以上は調査区外に延びる。

検出面はⅣ層上面で、本来はⅢ層かそれに相当する層で確認出来る。〔重複関係〕 認められない。

〔平面形・規模〕 不整円形あるいは橢円形をなし、計測可能な規模は直径252cmと標準より小さい。

〔埋土〕 上位は炭化物粒や焼土粒を含む黒褐色土、下位も黄褐色土粒を含む黒褐色土が堆積する。

〔床面・壁〕 床面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。東壁は途中段状をなす。

〔炉〕 確認出来なかった。

〔その他の付属施設〕 精査できた箇所にはなし。

遺物（第83図、写真図版58）

縄文時代後期の土器片782 gが出土した。土製品、石器類は出土していない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡である。

5号竪穴住居跡

遺構（第10図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕 調査区北西部、内帯から延びるヒゲ状の石列下でプランが確認出来たもので、IA7f・7gに跨がって位置する。検出面は配石遺構構築面相当、第Ⅲ層である。

〔重複関係〕 複数の柱穴（P032など）・トゲ状の石列と重複する。石列より旧いことは確実である。

〔平面形・規模〕 円形基調であるが不整で、東西方向の規模は直径380cmを測る。

〔埋土〕 褐色土ブロックを含む暗褐色土の單層である。焼土粒や炭化物粒は混入しない。

〔床面・壁〕 床面は細かな凸凹をもつ。西壁のみ緩やかに立ち上がる。

〔炉〕 東寄りに石壠炉を確認した。10×30cmあまりの細長い礫二個の間に厚さ6cmの燃焼部がある。

〔その他の付属施設〕 貯蔵穴と考えられるPit 1（60?×94cm）を床面で検出した。深さは26cm。

遺物（第58・62・110図、写真図版75・83・89）

縄文中期末から後期前葉の土器片282.5 gが、石器類では石皿が床面から出土した。

時期 出土遺物と重複する石列から、縄文時代後期初頭から前葉を含むそれ以前の住居跡である。

(2) 壴穴状遺構

1号竪穴状遺構

遺構（第11図、写真図版21）

【位置・検出状況】調査区中央部西側のIA6hグリッドに位置し、1号竪穴住居跡とは北東側で隣接する。整地層の土層観察ベルトで確認した。検出面は第Ⅲ層下位～Ⅳ層上面である。

【重複関係】本遺構の南東側で33号土坑と重複するが、新旧関係が定かでない。

【平面形・規模】平面形は不整な円形、規模は238×300cm、壁高は29cmを測る。

【埋土】上～中位は炭化物粒を含む暗褐色土、下位は黒褐色土と黄褐色土が自然堆積している。

【床面・壁】床面は極めて平坦で、そこからの壁の立ち上がりは緩やかである。

【付属施設】確認されない。

遺物 縄文後期の土器片97 gが出土したが、石器類、土製品は見られない。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に属する遺構と思われる。

(3) 土坑

平成26年度に検出した土坑の総数は12基で、当初分と拡張部箇所には10基、追加箇所に2基確認した。土壙墓と考えられるものが1基ある。平成27年度の総数は25基（13～37号）で、平面形は円形と楕円形が主体、断面形はフラスコ形、浅皿形、円筒形などがある。土壙墓と思しき15号土坑からは、海岸付近から持ち込まれたと思われる夥しい量の小円礫が出土した。これに似た円礫は、調査区の中央部から西側と南側に分布（第129図）しているが、これらの出土状況等は別記する。

1号土坑（第12図、写真図版5）

【位置・検出状況】当初の調査区中央部南端IA81グリッドに位置し、遺構の南側ほぼ半分は調査区域外に延びる。第Ⅲ層上面で検出した。

【平面形・規模】平面形は円形をなすか。規模は開口部径107×?cm、底部径81×?cmである。

【埋土】自然堆積で2層に分層される。上位が浮石粒を含む黒褐色土、下位は暗褐色土が基準となる。

【底面・壁】底面は凸凹をもつ。断面形は逆台形状をなし、検出面からの深さは最大で44cmを測る。

【時期】出土遺物がなく詳細な時期は不明であるが、縄文時代後期前葉に属するものであろう。

2号土坑（第12図、写真図版5）

【位置・検出状況】当初の調査区南継斜面IA6kグリッドに位置する。第Ⅳ層上面で確認した。

【平面形・規模】平面形は不整円形。規模は開口部径81×98cm、底部径75×80cm。深さは19cm。

【埋土】上～下位は浮石粒を含む褐色砂質シルトが、その両端には黄褐色の地山崩落土が入る。

【底面・壁】底面はほぼ平坦で細かな凹凸を有する。断面形は皿状をなし、深さは最大で19cmを測る。

【遺物】埋土から縄文土器が3.5 g出土している。

【時期】縄文時代後期前葉頃に機能していた可能性があるが、断定できない。

3号土坑（第12図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕追加調査区傾斜面。IA19oグリッドに位置する。

〔平面形・規模〕平面形はほぼ円形を呈し、規模は開口部径112cm×底部径109cm、深さは105cm。

〔埋土〕軟質でしまりの無い黒色土やロームブロックとその粒子を多く含む暗褐色土が見られる。壁周辺には崩落土が入り、下位には黒色土が堆積する。人為的な埋戻しであると考えられる。

〔底面・壁〕底面はほぼ平坦で中央部がやや深くなる。

〔時期〕縄文時代後期前葉か。

4号土坑（第12図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕追加調査区傾斜面。IA19pグリッドに位置する。

〔平面形・規模〕平面形は円形を呈し、規模は開口部径107cm×底面径107cm、深さは52cmである。

〔埋土〕1～3層ほぼ水平な堆積状況であることから、人為的な埋戻しと考えられる。壁周辺には崩落土を含む黒褐色土が堆積。

〔底面・壁〕底面は平坦で壁の近くで緩やかに立ち上がる。

〔時期〕縄文時代後期前葉か。

5号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕2号土坑の東側に隣接し、第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕不整精円形をなし、規模は開口部径86×120cm、底部径69×112cmほどである。

〔埋土〕浮石が混入する暗褐色土の単層であるが、人為的に埋め戻されたような感じを受ける。

〔底面・壁〕底面は平坦で断面形は皿状をなす。深さは最大で11cmである。

〔遺物〕縄文土器の破片約13gが出土した。

〔時期〕縄文時代後期前葉頃に属する可能性がある。形状から土壙墓であった可能性も否定できない。

6号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕IA5iグリッドに位置し、北側3mには7号土坑がある。第IV層上面で検出。

〔平面形・規模〕平面形は不整円形で、断面形はいわゆるフラスコ形をなす。遺構上部は削られており、当時の形状、深さは残っていない。開口部径100×110cm、底部径113×119cmの規模をもつ。

〔埋土〕上～中位は浮石粒を含むにぶい黄褐色土、下位は地山崩落土主体の黄褐色土に分層した。

〔底面・壁〕底面は平坦で壁は若干反る。深さ27cm。底面には10～15cmの角礫6個が散在する。

〔遺物〕敲石と思われる石器1点と、縄文土器の破片102gが出土した。

〔時期〕埋土に礫を含んでいるほか、堆積状況が人為的であることから、土壙墓に転用された可能性がある。機能していた時期は、縄文時代後期前葉頃の可能性があるが断定できない。

7号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕6号土坑の北側3m、IA5hグリッド西端に位置する。第IV層上面で確認した。

〔平面形・規模〕平面形は不整円形で、断面形はフラスコ形を呈する。これも遺構の上部は大きく削られているものと思われる。規模は、開口部径99×100cm、底部径123×132cm。

〔埋土〕ボサボサとしまりがない人為堆積を思わせる明黄褐色土の単層で、浮石粒を疎らに含む。

〔底面・壁〕底面は平坦だが、壁は丸みを持ちながら立ち上がる。深さは最大62cmである。

〔時期〕 人為的堆積であり、土壙墓に転用されたフラスコ土坑と思われる。縄文時代後期前葉頃か。

8号土坑（第13図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A19q グリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈し、開口部径127cm×底面径109cm、深さは23cm。

〔埋土〕 上位にローム粒を含む黒褐色土、下位には黒褐色土が堆積する。人為的に埋戻される。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

9号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜部の I A 1m に位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形を呈し、開口部径247cm×底面径113cm、深さは67cm。

〔埋土〕 上位から黒色土と黒褐色土が堆積し、1層の下には焼土が形成される。人為的な埋戻しか。

〔底面・壁〕 底面中央部はほぼ平坦だが、丸底になり壁の立ち上がりは不明瞭である。

〔遺物〕 土器片3.4gのはかに、敲石と磨石、石斧の未製品がそれぞれ1点ずつ出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

10号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 追加調査区傾斜面。I A19mグリッドに位置する。

〔平面形・規模〕 平面形は円形を呈し、開口部径118cm×底面径104cm、深さは100cm。

〔埋土〕 上位から暗褐色土、黒褐色土、黒色土が堆積し、壁の近くに崩落土がみられる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、中央に直径15cmの小ピットがある。壁は内傾しながら立ち上がる。

〔時期〕 縄文時代後期前葉か。

11号土坑（第14図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 II B20f グリッドに位置し、南側半分は調査区域外にある。III層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形。規模は開口部径211×?cm、底部径63×?cm。

〔埋土〕 上～中位は浮石粒を含む黒褐色土、下位は暗褐色土小ブロックを含む褐色土が自然堆積する。

〔底面・壁〕 底面は大きく波打ち、壁は丸みをもつ。検出面からの深さは最大で82cmを測る。

〔時期〕 出土遺物がなく詳細な時期は不明である。

12号土坑（第15図、写真図版7）

〔位置・検出状況〕 III B12g グリッドに位置する。第IV層上面で検出した。西側は搅乱を受けている。

〔平面形・規模〕 平面形は隅丸長方形をなす。規模は開口部径72×135cm、底部径61×133cmである。長軸方向はN-22°-Wである。

〔埋土〕 3層に分層したが、いずれも人為堆積層と思われる。上位は浮石粒を含む黒色土、上～中位は黒褐色土、下位は1層よりも黒味の強い黒色土からなる。

〔底面・壁〕 底面は全体に平坦である。断面形は逆台形状をなし、検出面からの深さは40cmを測る。

〔時期〕 出土遺物がなく詳細は不明であるが、縄文時代の土壙墓と思われる遺構である。

13号土坑（第15図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 IA 5 h グリッドに位置し、第Ⅲ層下上面～Ⅳ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径136×151cm、底部径82×91cmである。

〔埋土〕 上～中位は浮石粒を含む暗褐色土が、下位も地山の崩落ブロックを含む暗褐色土からなる。

〔底面・壁〕 底面はほぼ平坦で、壁は直立気味に底面から立ち上がる。断面形は円筒形で深さ95cm。

〔時期〕 詳細な時期は不明であるが、縄文時代後期前葉に属する貯蔵用と思われる土坑である。

14号土坑（第15図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 IA 6 h グリッドに位置する。検出面は第Ⅳ層上面である。

〔遺構間の重複〕 1号堅穴住居跡より本遺構の方が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形はほぼ円形をなし、規模は開口部径138×158cm、底部径140×159cmである。

〔埋土〕 6層以上に分層される自然堆積層であるが、下位の堆積状況は不明である。上位は浮石粒をわずかに含む黒褐色土と壁際に暗褐色の地山崩落土が、中位は地山の崩落ブロックを含む褐色土が主体である。3層の上部には長さ50cm・幅20cmあまりの礫が1個入れ込まれる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内湾して立ち上がる。断面形はフ拉斯コ形、深さは165cmを測る。

〔遺物〕 土器片1265gのほか、石錐と搔削器が1点ずつ出土した。

〔時期〕 縄文時代後期前葉の土坑と思われるが、礫が入ることから墓に転用された可能性がある。

15号土坑（第16図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 調査区西側 IA 8 h グリッドにあり、北側には23号土坑が重複する。いずれも検出面は第Ⅳ層上面であるが、23号土坑は本遺構の底面を精査中にプランの一部を確認した。

〔遺構間の重複〕 本遺構の方が23号土坑よりも新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は四隅が角張る楕円形。規模は開口部径、底部径とも90×127cm。

〔埋土〕 7層に分層される人為堆積層である。上～中位は先述した小礫を含む暗褐色土、下位は地山のブロックを含む暗褐色土が壁際に堆積、他は浮石粒を全体に含む黒褐色土である。小礫は、粒径0.4～7cm、総重量1,865g、総数1,058個を数える。海岸付近から持ち込んだものと思われるが、本遺構を主体とし、第129図に示した範囲に満遍なく出土した。これらがこの土坑を供給元となるとすれば、ここから小礫を振りまくなど、何らかの儀礼に使われた可能性がある。

〔底面・壁〕 底面は凸凹を有し、壁は内湾する。断面形は台形、検出面からの深さは44cmである。

〔遺物〕 上述した小礫のほか、土器片が100gほど出土した。土製円盤も1点見られる。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する特殊な用途をもつ遺構であろう。

16号土坑（第16図、写真図版22）

〔位置・検出状況〕 IA 12 n グリッド、第Ⅳ層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形か楕円形、規模は開口部径94×120cm前後、底部径49×82cmを測る。

〔埋土〕 8層に分層される自然堆積層で、上～中位は浮石粒を含む黒褐色土、壁際に地山崩落土の褐色土、中～下位は浮石粒を含む暗褐色土が主体となる。最下部には厚さ5cm程度の黒色土が堆積。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は深い円筒形、深さは110cmである。

〔時期〕 縄文時代に属する土坑と思われるが、用途は不明である。

17号土坑（第16図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 IA 8 k グリッドにあり、検出面は第IV層上面。〔遺構間の重複〕 炭窯に切られる。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形、規模は開口部径95×140cm前後、底部径64×110cm前後。

〔埋土〕 炭化物粒を含む暗褐色の自然堆積層の単層である。

〔底面・壁〕 底面には凹凸をもち、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿形、深さは60cmである。

〔遺物〕 土器片が207g出土した。

〔時期〕 繩文時代に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

18号土坑（第16図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 IA 9 j グリッドに位置、第IV層上面で検出。〔遺構間の重複〕 炭窯に切られる。

〔平面形・規模〕 平面形は楕円形基調の不整形、規模は開口部径90×151cm、底部径62×111cm。

〔埋土〕 17号土坑と同じ、炭化物粒を含む暗褐色土の単層である。

〔底面・壁〕 底面には多くの凹凸をもつ。壁も同様である。断面形は浅皿形、深さは30cmである。

〔遺物〕 土器片が175gと土製円盤1点が出土した。

〔時期〕 繩文時代に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

19号土坑（第17図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 IA 12 h グリッドで、2号掘立柱建物を構成する柱穴とともに第IV層上面で検出。

〔遺構間の重複〕 2号掘立柱建物跡のP002と重複する。本遺構が旧い。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径191×202cm、底部径158×180cmを測る。

〔埋土〕 4層に分層した。上位は浮石粒を含む黒褐色土、中～下位は褐色土が堆積する。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿形で、深さは32cmである。

〔時期〕 2号掘立柱建物跡との重複関係から、繩文時代後期前葉以前の土坑と思われる。

20号土坑（第17図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 IA 14 h グリッド、58号集石の北側1mに隣接する。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形をなし、規模は開口部径117×120cm、底部径69×93cmを測る。

〔埋土〕 上位は浮石粒を含む黒褐色土、中位は炭化物粒を含む暗褐色土、下位には褐色土が見られる。

〔底面・壁〕 底面は壁際が高く壁は直立気味に立ち上がる。断面形は円筒形、深さは83cmである。

〔遺物〕 土器片4gと石斧が1点出土した。

〔時期〕 繩文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものと思われる。

21号土坑（第17図、写真図版24）

〔位置・検出状況〕 IA 10 h グリッド、柱穴P021の北西側に隣接する。第IV層上面で検出した。

〔遺構間の重複〕 P021とは重複関係はない。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径110×116cm、底部径138×145cmである。

〔埋土〕 8層に分層したが、人為堆積の様相をみせる。上～中位は、浮石粒や地山のブロックを含む黒褐色土と壁際に暗褐色土が、下位は黄褐色土や褐色土などの明るい色調の土壤が堆積している。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形はフラスコ状、深さは115cm。

〔遺物〕 底面直上には一括土器があり、総量で1,042g出土した。

〔時期〕出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものであろう。

22号土坑（第18図、写真図版24）

〔位置・検出状況〕IA16kグリッドにある。第IV層上面で検出できた。

〔平面形・規模〕平面形は略円形で、規模は開口部径90×95cm、底部径117×125cmを測る。

〔埋土〕上位は暗褐色土、中位は褐色土、中～下位は浮石や炭化物を含む暗褐色土が主体である。

〔底面・壁〕底面は北側に傾斜し北壁は内湾気味に立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは76cm。

〔遺物〕土器片等16gが出土し、石斧も1点見られる。

〔時期〕縄文時代後期初頭～前葉の土坑で、貯蔵穴に類するものと考えられる。

23号土坑（第18図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕IA8hグリッドに位置する。前述のとおり15号土坑を精査中に検出した。

〔遺構間の重複〕15号土坑と重複するが、本遺構の方が旧い。

〔平面形・規模〕平面形は梢円形状で、規模は開口部径115×142cm、底部径97×131cmを測る。

〔埋土〕上位は浮石粒を含むにぶい黄褐色土、下位はしまりのある褐色土が自然堆積している。

〔底面・壁〕底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿状、深さは45cmである。

〔時期〕重複関係・検出面の検討から、縄文時代後期初頭～前葉以前、早期に属する可能性がある。

24号土坑（第18図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕IA8iのグリッド杭を中心に土坑3基が集中するIA7iに位置する。第IV層上面で確認した。土坑内に入るための施設なのか、足をかけるステップ状の掘り込みを有する。

〔平面形・規模〕平面形は梢円形で、規模は開口部径84×97cm、底部径は209×222cmである。

〔埋土〕自然堆積と思われる。上位は浮石粒や炭化物粒を含む暗褐色土、中～下位は地山の崩落ブロックや浮石粒を含む黒色土主体、最下部には暗褐色や褐色のブロックが薄く堆積している。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は内傾し立ち上がる。断面形はフラスコ形で、壁の崩落も少なく形が整っている。深さは174cmほど、括れる部分は底面から120cm、その箇所の直径は50cmである。

〔遺物〕土器片等1,492gのほか、ミニチュア土器と棒状の石製品、敲石が1点ずつ出土した。

〔時期〕出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴として機能した土坑と思われる。

25号土坑（第19図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕IA7hグリッドに位置し24号土坑同様、第IV層上面でプランを確認した。

〔平面形・規模〕平面形は梢円形、規模は開口部径98×116cm、底部径は150×153cm。

〔埋土〕概ね5層に分層した。上位はしまりのある暗褐色土、中位は浮石粒を含む黒褐色土で人為堆積の様相、下位には炭化物粒を含む黒褐色土が見られ、最下部には黒色土が薄く堆積している。

〔底面・壁〕底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる。断面形はフラスコ形状、上下が対称形で砂時計のようにも見える。検出面からの深さは162cm。これも最小径は50cmと狭い。

〔遺物〕土器片252gが出土した。他に、土製円盤と敲石が1点ずつある。

〔時期〕出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴として機能した土坑と思われる。

26号土坑（第19図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 IA8 i グリッドに位置し、第IV層上面で確認。

〔平面形・規模〕 平面形は円形で、規模は開口部径100×117cm、底部径は172×182cmを測る。

〔埋土〕 炭化物粒を含む黒褐色土と北側の壁際から浮石粒を含む暗褐色土が入り込む。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がり窄まる。そこからは若干開きながら開口部に続く。断面形はいわゆるフ拉斯コ形で、検出面からの深さは115cmを測る。

〔遺物〕 土器片が776g出土した。石器類は、石鏃1点である。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉ころの貯蔵穴もしくは墓に転用された可能性がある。

27号土坑（第19図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 IA8 i グリッド、3号集石の南西側に位置する。第III層下面で検出した。

〔遺構間の重複〕 3号集石と重複するが、本遺構の方が旧い。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径117×118cm、底部径90×100cmである。

〔埋土〕 4層に分層、自然堆積と思われる。浮石粒の混入割合が異なるにぶい黄褐色土2層からなる。

〔底面・壁〕 底面は傾斜し、北壁は凹凸を持つ。断面形は浅い円筒状で、深さは最大で50cmを測る。

〔遺物〕 土器片が60gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉以前に属する土坑であるが、3号集石の下部土坑の可能性もある。

28号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 IA7 g グリッドに位置、1号竪穴住居跡床面の第IV層上面で検出した。

〔遺構間の重複〕 1号竪穴住居跡との重複関係は、検出状況から本遺構のほうが旧い。

〔平面形・規模〕 平面形は略円形で、規模は開口部径183×207cm、底部径73×87cmである。

〔埋土〕 上～中位は、黒色土の混入割合の異なる黒褐色土2枚、下位は暗褐色土が堆積する。

〔底面・壁〕 平坦な底面から壁が立ち上がり開口部で開く。断面形は逆台形状で、深さは110cm。

〔時期〕 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉以前に属する土坑である。

29号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 IA14 k グリッドに位置し、30号土坑とともに50～54号集石に囲まれる。

〔遺構間の重複〕 30号土坑とわずかに重複するが、本遺構のほうが旧い。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な梢円形。規模は開口部径90×120cm前後、底部径84×110cm前後。

〔埋土〕 2層に分層したが、浮石粒をわずかに含む黒褐色土の単層で自然堆積と思われる。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は浅皿状をなす。深さ25cm。

〔遺物〕 土器片が48gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

30号土坑（第20図、写真図版26）

〔位置・検出状況〕 29号土坑で記載のとおり。〔遺構間の重複〕 29号土坑と重複し、本遺構が新しい。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な梢円形、規模は開口部径124×184cm、底部径97×154cmである。

〔埋土〕 29号土坑と同じ。

〔底面・壁〕 底面は凹凸をもち、壁は直立気味に立ち上がる。断面形は浅皿状で、深さは35cm。

〔遺物〕 土器片が30gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

31号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 IA10 i グリッドにあり、14号焼土遺構に隣接する。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径111×120cm、底部径96×109cmを測る。

〔埋土〕 人為堆積か。上～中位は褐色土ブロックを含む黒褐色土、下位は褐色土が堆積。

〔底面・壁〕 底面には凹凸をもち、壁は直立気味。断面形は浅皿状、深さは44cmである。

〔遺物〕 土器片が92gほど出土した。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、詳細は不明である。

32号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 IA6 h グリッドに位置し、1号竪穴住居跡の西側でそれと重複する。当初はこれに伴う柱穴を想定し査定したが土坑規模となった。検出面は住居床面の第IV層上面である。

〔遺構間の重複〕 検出状況から、本遺構の方が1号竪穴状遺構よりも新しか。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径146×154cm、底部径150×183cmである。

〔埋土〕 土層図を作製し忘れたため不明。自然堆積だったと思われる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は内傾して立ち上がる。断面形はフラスコ形、深さは145cmを測る。

〔遺物〕 土器片等が732g程度出土した。

〔時期〕 重複関係から縄文時代後期以降に属する土坑と思われる。

33号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 1号竪穴状遺構とともにIA6 h グリッドにある。第IV層上面で検出した。

〔遺構間の重複〕 本遺構の方が1号竪穴状遺構よりも新しか。

〔平面形・規模〕 平面形は円形基調で、規模は開口部径123×125cm前後、底部径96×100cm前後。

〔埋土〕 2層に分層した人が堆積と思われる。褐色土ブロックを含む黒褐色土が見られる。

〔底面・壁〕 底面は平坦で、壁は直立気味に開く。断面形は浅い円筒状、深さは47cmを測る。

〔遺物〕 土器片38gのほか、1号集石出土の破片と接合した石製円盤が1点出土した。

〔時期〕 重複関係から縄文時代後期以降に属する土坑だが、詳細は不明である。

34号土坑（第21図、写真図版27）

〔位置・検出状況〕 IA8 g グリッドに位置し、6号・13号焼土遺構に隣接。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形、規模は開口部径136×150cm、底部径145×158cmを測る。

〔埋土〕 上位は褐色土ブロックを含む黒色土、中位は褐色土、下位は炭化物を含む黒色土が堆積する。

〔底面・壁〕 底面は平坦、壁はオーバーハンプする。断面形はフラスコ形、深さは47cmである。

〔遺物〕 土器片等が265g出土した。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

35号土坑（第22図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 IA7 f グリッドに位置し、36号土坑が北側に隣接する。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は崩落のため不整。規模は開口部径104×114cm、底部径103×111cm。

〔埋土〕 3層に分層される自然堆積層で、粘性の弱い黒褐色土が主体である。

〔底面・壁〕 底面は平坦、壁はいたん括れて広がる。断面形はフ拉斯コ形、深さは70cmを測る。

〔遺物〕 土器片がおよそ100g出土した。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

36号土坑（第22図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 IA7eグリッドにあるが調査区外に延びる。第IV層上面で検出した。

〔平面形・規模〕 平面形は円形か隅丸の長方形。規模は開口部径？×74cm、底部径？×46cm。

〔埋土〕 4層に分層される自然堆積層で、上部の黑色土より下は3枚の黒褐色土が主体となる。

〔底面・壁〕 底面は傾斜し、壁は直立気味に立ち上がり大きく聞く。断面形はラッパ形、深さ72cm。

〔時期〕 縄文時代後期初頭～前葉に属する土坑と思われる。

37号土坑（第22図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 IA6gグリッドに位置し、精査時に床面（第IV層上面）で検出した。

〔遺構間の重複〕 本遺構が1号竪穴住居より新しいか、それに付属する土坑である。

〔平面形・規模〕 平面形は不整な円形、規模は開口部径89×106cm、底部径56×60cmを測る。

〔埋土〕 黒褐色土の単層（自然堆積）で、壁際に地山のブロックを含んでいる。

〔底面・壁〕 底面は丸みをもち、壁は直立して立ち上がる。断面形は円筒形、深さは52cmである。

〔時期〕 縄文時代後期に属する土坑と思われるが、1号竪穴住居跡に付属する可能性もある。

（4） 陥し穴状遺構

遺構名	1号陥し穴状遺構	2号陥し穴状遺構	3号陥し穴状遺構
位置	IA19k	IA18a	IA18af付近
検出状況	第III層下面	第III層下面	第III層下面
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形 溝状	溝状	溝状
	断面形 V字形	V字形	V字形
規模	開口部径 (cm) 40~52×362	42~52×334	64~66×333
	底部径 (cm) 4~10×368	4~10×336	4~12×358
	深さ (cm) 137	101	139
長軸方向	N-57°-E	W-E0°	N-84°-E
埋土	上位は白色粒子を含む黒色土。上～中位にかけては黄褐色小ブロックを含む黒褐色土。下位にも地山崩落小ブロックを含む黒褐色土が見られる	上～中位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土。中～下位には浮石含む暗黄褐色土と黒褐色土が堆積する	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土。中位は浮石粒が目立つ黒褐色土。下位は暗褐色土主が体で、最下部にはしまりのない黒褐色土が見られる
	底面 緩やかな凹凸あり	ほぼ平坦	東側に傾斜する
図	Z3	Z3	Z3
写真図版	8	8	8
特記事項	・埋土より縄文土器片21.5g出土	・遺物なし	・遺物なし

遺構名	4号陥し穴状遺構	5号陥し穴状遺構	6号陥し穴状遺構
位置	I A17p・18pに跨る	I A11n	I A17k・17lに跨る
棲出状況	第Ⅲ層下面	第Ⅲ層下面	第Ⅲ層上面
重複関係	なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状
	断面形	V字形	V字形
規模	開口部径 (cm)	56~73×372	250前後
	底部径 (cm)	13~31×419	4~10×190
	深さ (cm)	141	124
長軸方向	N-58°-W	N-89°-W	N-40°-E
埋土	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中位は浮石粒を含む暗褐色土と地山崩落上の明黄褐色土、下位には暗褐色土、最下部にはフカフカとしまりのない黒褐色土が堆積する	上位は白色粒子を含む黒色土や浮石粒の混じる暗褐色土、中位は暗褐色土と黒褐色土、下位フカフカとしまりのない黒色土である	上位は白色粒子や浮石粒を含む黒色土、中位は地山崩落土を含む暗褐色土と黄褐色土、中~下位にはしまりのない褐色土が堆積
底面	若干凹凸があるがほぼ平坦	平坦だが、東壁は段あり	平坦
図	24	24	25
写真図版	8	9	9
特記事項	・底面直上付近から器台が1点出土しており配石遺構群と同じ時期と思われる ・瓦砾とは異なる用途の可能性あり	・埋土より縄文土器片85g出土	・17基中最大規模の陥し穴で当初は2基の重複に見えた ・埋土より縄文土器片85g出土

7号陥し穴状遺構	8号陥し穴状遺構	9号陥し穴状遺構	10号陥し穴状遺構
ⅢB7g・8gに跨る	I A19o	I A19t	I A20l
第Ⅲ層上面	第Ⅲ層	第Ⅲ層	第Ⅲ層
なし	なし	なし	なし
溝状	溝状	溝状	溝状
V字形	V字形	V字形	V字形
38~44×376	65~73×404	44~59×366	45~53×300
9~13×397	3~13×342	5~9×375	5~11×340
86	124	124	103
N-88°-W	N-72°-W	N-70°-W	N-29°-W
上位は浮石粒を含む黒褐色土。上位の壁際から暗褐色土が入る	上部の浮石が混入する暗褐色土が入り、以下黒褐色土・暗褐色土なども見られる	上位に黒色土や黒褐色土が入り、底面近くにも黒色土が堆積	上位には黒色土と黒褐色土が、底面近くにも黒色土が堆積
平坦	東側にわずかに傾斜する	ほぼ平坦	平坦で中央部や深い
25	26	26	26
9	9	10	10
・遺物なし ・遺構上部に削平及ぶ	・遺物なし	・縄文時代後期前業の土器片が117.58g出土	・遺物なし

遺構名		11号陥し穴状遺構	12号陥し穴状遺構	13号陥し穴状遺構
位置		ⅣB1k	ⅢB15k	ⅢB9e
棲出状況		第Ⅱ層	第Ⅲ層	第Ⅲ層
重複関係		なし	なし	なし
形状	平面形	溝状	溝状	溝状
	断面形	Y字形	Y字形	Y字形
	開口部径 (cm)	69~81×331	90~102×271	98~117×402
規模	底部径 (cm)	10~13×340	20~23×269	10~26×412
	深さ (cm)	130	147	146
長軸方向		N~68°~E	N~45°~E	N~89°~W
埋土	上位は黒色~黒褐色土、上位の埋 露から中位には暗褐色土、下位に は地山崩落土であるにぶい黄褐色 土が堆積する	上位は褐色土粒を含む黒褐色土 が、上~中位は地山崩落土である 明黄褐色土主体	上位は混入物のない黒色土、中位 は地山崩落土の黄褐色土、下位も 黄褐色土などがみられる、最下部 にはフカフカしたしまりのない黒 褐色土が堆積する	
底面	繩かい凹凸あるもほぼ平坦	北側が下がり気味だが平坦	西側わずかに持ち上がる	
回	27	27	27	
写真図版	10	10	11	
特記事項	・縄文時代後期前葉の土器片が 76.4g出土	・遺物なし	・遺物なし	
	・本遺構北側に後期前葉の土器集 中区あるが前述不明			
14号陥し穴状遺構-1・2	15号陥し穴状遺構	16号陥し穴状遺構		
ⅢB10g・10h・11hiに跨る	ⅢB10f・10g	ⅢB13k・14k		
第Ⅳ層上面	第Ⅳ層上面	第Ⅳ層上面		
陥し穴間の重複あり	なし	なし		
溝状	溝状	溝状		
U字形	V字形	V字形		
60×?	37~67×348	58~101×386		
11~17×166	4~9×367	6~12×359		
50	87	130		
N~73°~W	N~6°~W	W~E0°		
上位は浮石粒を含む黒色土、中位 は地山崩落土主体の暗褐色土。下 位は褐色土ブロックを含む黒色 土、最下部に暗褐色土が自然堆積 する	上~中位は混入物のない黒色土が 堆積し、その下には地山崩落ブロ ックを含む暗褐色土が主体となる	上位中央部は黄褐色土粒を含む黒 色土が、上位壁際は褐色土や暗褐 色土のブロックが、中位には黒褐 色土、下位には地山崩落土が堆積 している		
西側で持ち上がる	ほぼ平坦	ほぼ平坦		
28	28	28		
11	11	11		
・遺物なし	・遺物なし	・遺物なし		

(5) 炉 跡

平成27年調査で10基を精査した。本来竪穴住居に付属したもののが大半であろうが、周辺に柱穴等は確認できず単独の炉跡として扱う。石圓炉と土器埋設炉の2種があり、8基確認された前者には、炉石が全周するものとコの字形などに配されるものの2種がある。土器埋設炉はともに焼土を伴う。

1号炉跡

遺構（第29図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 IA17 k グリッドにあり、IV層上面で検出した。

〔形態・規模〕 コの字形をなす石圓炉である。大小6個余りの炉石があるが、使用時の状況が保たれているかは不明。礫の抜き取り痕はない。焼土は20cmほどの不整形をなすが、不明瞭。

〔焼土の様相・厚さ〕 明褐色焼土粒を含む黒褐色土で、焼け具合は極めて悪い。厚さは8cmである。

遺物 炉跡周辺から55gの縄文土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期に属するものと思われるが、詳細な時期は不明である。

2号炉跡

遺構（第29図、写真図版28）

〔位置・検出状況〕 IA 5 g グリッドに位置する2号竪穴住居跡内にある。その炉跡の北東側で確認。

〔重複関係〕 上述のとおり、2号竪穴住居跡と重複する。検出状況から住居よりも新しい遺構である。

〔形態・規模〕 北側を開けるコの字形の石圓炉で4個の炉石からなる。最大の炉石は13×34cm。焼土は20×30cmの不整形をなす。規模は45×47cmである。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼成の良い明褐色の焼土であるが脆い。厚さは10cmである。

遺物 炉内から土器片17.5gが出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われる。

3号炉跡

遺構（第29図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 IA 6 f グリッドに位置し、2号炉跡の北東側5m付近に位置する。

〔形態・規模〕 小さめの炉石15個あまりが全周する石圓炉で、最大の炉石は10×25cm。焼土は円形に配される炉石の内側に30×43cmの不整形をなす。全体規模は66×70cmを測る。

〔焼土の様相・厚さ〕 焼け具合は良いがやわらかい、褐色のものが厚さ20cmほど形成されていた。

遺物 周辺から11gの縄文土器が出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われる。

4号炉跡

遺構（第30図、写真図版29）

〔位置・検出状況〕 IA 6 h グリッドに位置し、竪穴住居跡や土坑に開まれるようにある。

〔重複関係〕 本遺構が住居跡に付属する炉と仮定すれば、上述した各種遺構とは大半が重複する。

〔形態・規模〕 これも北側の礫を欠くコの字形の石圓炉で5個の炉石からなる。最大の炉石は18×40cmほど、焼土は25×40cmの広がりをもつ。全体規模は62×68cmである。

〔焼土の様相・厚さ〕 燃焼部で厚さは5cmほど、形状は不整な菱形で、規模は45×47cmを測る。

遺物 炉内から10gの土器片が出土した。

時期 出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉に属するものと考えられる。

5号炉跡

遺構（第30図、写真図版29）

【位置・検出状況】1号堅穴状遺構の南西2mあまり、IA6iグリッドの北西隅に位置する。

【形態・規模】L字状にある残存する炉石2個と燃焼部焼土からなる石開炉で、炉石はそれぞれ16×28cm、5×28cmを計る。本来は炉石が周囲するかコの字をなすものであろう。焼土は直径22cmあまりの円形基調で、全体規模は40×40cm前後か。

【焼土の様相・厚さ】焼成が極めて良好な明褐色焼土が、厚さ14cmほど形成される。

遺物 55gの縄文土器片が出土した。

時期 周辺の状況等から、縄文時代後期初頭～前葉に属するものと考えられる。

6号炉跡

遺構（第31図、写真図版29）

【位置・検出状況】IA7hグリッドに位置、1号堅穴住居跡の南東側に接する。

【重複関係】住居に伴うとすれば、1号堅穴住居跡など周辺の遺構と重複するが、新旧は不明である。

【形態・規模】全体規模62×67cm、炉石13個あまりがコの字状に配される石開炉で、南東側が開く。長さ20cm、幅15cm前後の炉石が多いが、それらが組まれる中に燃焼部焼土は形成されない。

遺物 出土していない。

時期 遺物は出土していないが、縄文時代後期初頭～前葉に属する可能性が高い。

7号炉跡

遺構（第31図、写真図版30）

【位置・検出状況】当初調査区西端部のIA7iグリッド中央、24号土坑南側に隣接する位置にある。

【形態・規模】炉石6個が二の字状になる石開炉で、遺構の東西側には礫が配置されない。燃焼部焼土の発達が悪い。全体規模は60cm前後、炉石は最大で13×26cm、最小は6cm角である。

【焼土の様相・厚さ】断面では焼土ブロックを含む褐色土が厚さ5cmあまり観察出来た。

遺物 この周辺から縄文土器が35g出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものと思われるが、詳細な時期は不明である。

8号炉跡

遺構（第31図、写真図版30）

【位置・検出状況】IA10hグリッドの3号掘立柱建物跡内に位置する。整地層2下暗褐色土で検出。

【重複関係】上述のとおり、掘立柱建物の中にあるが新旧は不明である。

【形態・規模】全体規模は直径75cmあまり、形状はコの字状で東側の礫を欠く。全体としてみれば円形をなす石開炉である。礫の抜き取り痕はない。炉石は最大13×30cm、最小は長さ10cmほどである。

【焼土の様相・厚さ】30×40cmの不整形の燃焼部がある。厚さは12cm、焼け具合は良好である。

遺物 130gほどの縄文土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属すると考えられる。重複関係は不明である。

9号炉跡

遺構（第32図、写真図版30）

【位置・検出状況】IA8gグリッドに位置する。埋設される土器はその東隅に斜位に置かれる。

【重複関係】本遺構の位置づけによるが、検出状況では重複が認められない。

【形態・規模】全体規模は56×77cmの円形基調で、炉石はなく抜き取られたような痕跡もない。

【焼土の様相・厚さ】土器周辺から中央部は明赤褐色を呈し、厚さは10~18cmである。

遺物 炉内の埋設土器を含み、722gの土器が出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期初頭～前葉に属する。住居付属の炉というよりは祭祀に関わるか。

10号炉跡

遺構（第32図、写真図版30）

【位置・検出状況】IA7fグリッドに位置し、焼土内に粗製の深鉢形土器が斜位に設置される。

【重複関係】これも本遺構の解釈によるが、検出状況では新旧関係のある遺構はない。

【形態・規模】埋設土器を含む規模は55×97cmで、形状は長楕円形基調である。

【焼土の様相・厚さ】土器の胴部に沿う焼土が形成される。厚さは10cmほどである。

遺物 1個体の埋設土器とその他の土器片、総量3,338g出土した。粗製深鉢（111）を掲載した。

時期 出土遺物と炉の形態などから、縄文時代中期末葉～後期初頭に属するものとしておく。

（6）焼土遺構

平成26・27年度とも7基ずつ検出した。それらの遺構確認面と検出数は、整地層1上面2基、整地層2で2基、基本層序Ⅲ層面が3基、Ⅳ層上面が7基である。

1号焼土遺構（第33図、写真図版12）

【位置・検出状況】調査区西端の緩斜面部、IA3fグリッド第Ⅲ層上面で検出した。

【平面形・規模・厚さ】平面形は37×48cmの不整形。燃焼部は明褐色をなし、厚さは7cmを測る。

【遺物】縄文土器の破片13gが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

2号焼土遺構（第33図、写真図版12）

【位置・検出状況】整地層1の中央部、IA7g・7hグリッドで3号焼土遺構とともに検出された。

【平面形・規模・厚さ】57×74cmの不整形をなし、燃焼部焼土は最大9cm。色調は2種に分かれる。

【遺物】土器片16gが出土した。

時期 ^{14}C 年代測定（AMS）の結果は $180 \pm 20\text{yrBP}$ であり、近世以降の新しい焼土遺構と判断した。

3号焼土遺構（第33図、写真図版12）

【位置・検出状況】整地層1の中央部、IA19oグリッドで検出された。

【平面形・規模・厚さ】38×43cmの不整形で、燃焼部焼土の厚さは6cm。炭化物粒を多く含む。

時期 ^{14}C 年代測定（AMS）を行ったが、結果は $80 \pm 20\text{yrBP}$ で近世以降の焼土遺構と思われる。

4号焼土遺構（第33図、写真図版13）

【位置・検出状況】IA15lグリッド第Ⅲ層上面で検出。付近に柱穴等を探したが検出できなかった。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は35×56cmほどの不整形、最大厚は9cmを測る。

〔遺物〕 縄文土器片24.1gが出土した。

時期 出土遺物から縄文時代に属すると思われるが、詳細な時期は不明である。

5号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 IA 8 h グリッドの整地層1除去後、同2の上面で検出。付近に柱穴等は未確認。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は28×58cmの不整形、燃焼部の厚さは4cmである。

時期 ^{14}C 年代測定（AMS）で、測定値は $870 \pm 20\text{yrBP}$ 。古代末から中世初頭と判断される。

6号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 整地層2の上面、IA 8 g グリッドに位置する。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は40×66cmの不整楕円形、燃焼部焼土の厚さは8cmである。

時期 年代測定（AMS）値は $3,630 \pm 30\text{yrBP}$ で、縄文時代後期前葉頃と判断される焼土遺構である。

7号焼土遺構（第34図、写真図版13）

〔位置・検出状況〕 II A 1 1 グリッドにおいて、9号土坑の北側第II層下面～III層上面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は33×64cmの不整な長楕円形で、燃焼部焼土は厚さ5cmを測る。

時期 検出面から縄文時代に属すると思われるが、後期前葉に属する可能性が高い。

8号焼土遺構（第34図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 IA 9 h グリッドに位置し、本遺構自体は4号掘立柱建物跡にある。

〔形状・規模・厚さ〕 平面形は不整楕円形で33×65cmの範囲に広がる。最大厚は8cmである。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

9号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 IA 8 h グリッドで26号土坑とともに、第III層面で検出した。

〔平面形・規模・厚さ〕 36×60cmの不整楕円形で、燃焼部は最大17cmほど形成される。燃焼良好。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

10号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 IA 9 f グリッドにある数少ない内帶内側の遺構。検出面は第III層中である。

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は25×33cmの不整楕円形、燃焼部は最大13cm。焼けは良くない。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

11号焼土遺構（第35図、写真図版31）

〔位置・検出状況〕 IA 9 g グリッドに位置する。検出面は第III層である。礫の抜き取り痕はない。

〔平面形・規模・厚さ〕 25×30cmを測る台形状で、燃焼部は最大7cmの厚さで形成されている。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

12号焼土遺構（第35図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 IA 7 i グリッド北西に位置し、検出面は整地層2下の暗褐色土上面である。

1 検出遺構

〔平面形・規模・厚さ〕 平面形は34×93cmの不整形、厚さは最大7cm。〔遺物〕 土器片34g。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

13号焼土遺構（第36図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 IA 7 f グリッドにあり、第III層面で検出されるべき遺構である。

〔平面形・規模・厚さ〕 40×?cmの円形をなすものか。燃焼部は最大12cmの厚さをもつ。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

14号焼土遺構（第36図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 IA 10 i グリッドの、31号土坑の南側に隣接する。整地層 2 下暗褐色土中に検出。

〔平面形・規模・厚さ〕 36×48cmの不整形で、燃焼部は9cmの厚さに形成。燃焼部は縮まっている。

時期 検出面から縄文時代に属するが、詳細な時期は不明である。

（7）埋設土器

1号埋設土器

遺構（第37図、写真図版12）

〔位置・検出状況〕 IA 5 h グリッドに位置し、整地層 1 の広がりとともに、第IV層上面で検出。

〔規模〕 検出時に確認出来た土器の大きさは直径42cmほどで、これよりも若干大きめの掘り方をもっていた。検出時には欠損しているように思えた口縁部だったがこれも復元できた。

時期 遺物の特徴から、縄文時代後期初頭～前葉に属すると思われる。

2号埋設土器

遺構（第37図、写真図版32）

〔位置・検出状況〕 IA 8 i グリッドにあり、26号土坑が隣接する。整地層 2 下の暗褐色土で検出。

〔規模〕 埋設される土器は全周しない。この土器よりも10cmほど大きめの掘り方をもつ。

時期 出土した土器から、縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

3号埋設土器

遺構（第37図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕 IA 8 g グリッドで、内帶から南西方向に延びるトゲ状の石列の付け根付近にある。

整地層 2 下の暗褐色土上面に相当する層（III層相当）で確認された。

〔規模〕 埋設土器の大きさは直径48cmでこれも全周しない。両側に10cmほどの掘り方をもつ。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

4号埋設土器

遺構（第37図、写真図版33）

〔位置・検出状況〕 IA 12 k + 12 l グリッドに跨がる付近、38号集石と40号集石の中間に位置する。

〔規模〕 埋設土器は直径30cmあまりで全周する。両側に10~20cmの掘り方をもつが、これは土坑状をなす。この規模は開口部で36×50cm、底部で19×24cm、深さは30cmを測る。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構と考えられる。

(8) 掘立柱建物跡と柱穴

内帶の石列が環状に巡る仮定して、それに沿うように、かつその中心方向に軸を描えて並ぶ掘立柱建物跡が5棟見つかった。これらは4ないし6個の柱穴を使用するが、縄文時代の土器片が出土するものもあり、5棟とも配石遺構（内帶とした石列）に何らかの形で関わる遺構と考えられる。これらを構成する柱穴内から出土した炭化物のAMS年代測定を行ったが、その結果からみても配石遺構と同様、縄文時代後期初頭から前葉に属するものであることはほぼ間違いかろう。

柱穴は総数で35個確認されたが、掘立柱建物を構成するもの23個、それ以外のもの12個である。これらについては、第3表に一覧を掲載した。

1号掘立柱建物跡

遺構（第38図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I A12h・12g・13hの各グリッドに跨る。柱穴群は第VI層上面で検出した。

〔建物方位〕 1間×1間の掘立柱建物で柱穴は4個使用する。長軸方向はN-29°-Wである。

〔柱間距離〕 短軸P005-P009 237cm、長軸P001-P005 254cm。

〔面積〕 9.3m²前後。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

2号掘立柱建物跡

遺構（第38図、写真図版34）

〔位置・検出状況〕 I A11h・12hに位置し、1号掘立柱建物に隣接する。第VI層上面で検出。

〔重複〕 19号土坑とP002が重複するが、後者が新しい。

〔建物方位〕 1間×2間の柱穴を6個使用する建物で、中間の柱穴が外に張り出す所謂亀甲形、あるいは六角形タイプと呼ばれるものである。長軸方向はN-18°-Wである。

〔柱間距離〕 P004-P007 221cm、P003-P006 252cm、P004-P008 142cm、P008-P003 148cm、P007-P002 140cm、P002-P006 136cm。

〔面積〕 10.5m²前後。

遺物 出土していない。 時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

3号掘立柱建物跡

遺構（第39図、写真図版36）

〔位置・検出状況〕 I A10h・11hグリッドに跨る。6個の柱穴はいずれも第VI層上面で検出した。

〔重複〕 8号炉跡は付属するものではない。他に柱穴が見られるが、いずれも新旧は不明である。

〔建物方位〕 2号掘立柱建物跡と同じ、1間×2間の六角形タイプである。長軸方向はN-21°-E。

〔柱間距離〕 P012-P015 258cm、P013-P026 248cm、P012-P021 173cm、P021-P013 164cm、P015-P016 162cm、P016-P026 168cm。

〔面積〕 13.3m²前後。

遺物 P021から土器片が15.3g出土した。

時期 縄文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

4号掘立柱建物跡

遺構（第39図、写真図版37）

〔位置・検出状況〕 IA 9 g・9 h グリッドに跨る。3号掘立柱建物に隣りあう。第VI層上面で検出。

〔重複〕 本遺構内に8号焼土があるが、伴う可能性もある。P017は本遺構には絡まない。

〔建物方位〕 1間×1間柱穴4個使用の建物で、長軸方向はN-15°-Eである。

〔柱間距離〕 長軸P019-P028 253cm、P022-P018 255cm、単軸P019-P022 196cm、P028-P018 177cm。〔面積〕 7.3m²前後。

〔付属施設〕 上述のとおり8号焼土が炉となるか。

遺物 P022から土器片が10.6g出土した。

時期 繩文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

5号掘立柱建物跡

遺構（第40図）

〔位置・検出状況〕 IA 7 f グリッドの疊群が散乱する付近に位置する。

〔重複〕 5号竪穴住居跡と重複するが、本遺構のあり方から住居よりも新しい。

〔建物方位〕 1間×1間、柱穴4個使用の建物である。長軸方向は1号・4号掘立柱建物と逆となり、その方向はN-72°-Eである。

〔柱間距離〕 長軸P033-P035 270cm、P031-P034 240cm、単軸P033-P031 200cm、P035-P034 220cm。

〔面積〕 6.6m²前後。

〔付属施設〕 柱穴などが周辺にあるが、本遺構には伴うものではない。

遺物 P031から7.8g、P033から5.1g、P034から33.1g、それぞれ土器片が出土した。

時期 繩文時代後期初頭～前葉に属するものとする。

（9）配石遺構

平成26年度調査の開始直後から大量の疊が確認され、日を追うごとにその広がりは拡大した。調査の中ほどにはその全貌が明らかとなり、最終的に確認できた疊の総数は1,000個以上を数えた。この疊群の性格については、これらとともに出土する土器が縄文時代後期初頭から前葉を主体とすることから、いわゆる「縄文時代の配石遺構」の可能性が高いことが明らかとなった。疊が配列される状況の違いから、60基あまりの石の集合体と捉えられる外帶と、弧状をなす石の列とみられる内帶という二重構造をとることを確認したが、初年度の調査はその時点で終了を迎える。

平成27年度は、これら内帶・外帶からなる配石遺構の詳細を調査すべく「三次元計測」なる方法も用いながら、「配石遺構の一部移設・復元」を念頭に置いた調査を実施した。対象とした配石遺構は、内帶の疊700個あまりと外帶の配石遺構5基の疊群で、調査の終盤に洋野町立角の浜小学校の旧校舎の校庭に運び込んでいるが、これら実物の疊と三次元計測時の位置データにより、内帶のすべてと外帶の集石5基については復元が可能な状況にある。それ以外の疊については、石質鑑定のみを行った。

外帶の集石群

配石遺構のうち、外帶を構成する疊群に対しては「石の集合体」という意味合いで「集石」と呼称し、全体で62基を登録した。他の遺構名に付け替える案として、「集石」と「配石墓」を区別する、

あるいはすべてを「配石遺構」と変更するなども考慮したが、墓である証拠として人骨が確認されなかったことなどもあり、ここでは調査時の遺構名をそのまま用いることとした。

外帶の集石群は、石が配置される状況によって二つに大別される。いわゆる「配石墓」のように石の集合体として捉えられるものとそうでないものの二種である。さらに前者には、下部土坑を伴うものと伴わないものがあるが、これらの別については、それぞれの遺構の記載項目の中に示す。

1号集石

遺構（第42図、写真図版38）

【位置・検出状況】 I A 7 i グリッドに位置し、他の集石とともにⅢ層暗褐色土で検出した。

【規模等】 長さ220cm、幅75cmに大小9個の礫からなる。北西から南東方向に直線状に延びる。

【構成礫の石質】 砂岩が主体で、花崗岩・花崗閃綠岩が数個混じる。

【下部土坑】 構築面下に土坑等は確認できない。

【性格】 下部土坑は伴わない。外帶の南西端にあり、その一部を構成するものと思われる。

遺物 土器片が647g出土したほか、33号土坑出土の破片と接合した石製円盤が1点ある。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

2号集石

遺構（第42図、写真図版38）

【位置・検出状況】 1号集石の東側、I A 7 j・8 j グリッドなどに跨がる。Ⅲ層で検出した。

【規模等】 およそ2m四方の範囲に30個強の礫が検出された。このうち、集合体として捉えられる礫はS 9～27で、長さ170cm、幅100cmほどの規模をもつ。

【構成礫の石質】 砂岩・花崗岩・花崗閃綠岩が主体で、他にデイサイト・ハンレイ岩が見られる。円礫は全体の1～2割程度混じる。

【下部土坑】 磯の配置に沿って61×109cmの下部土坑が検出された。底面には凹凸があって、北側と南側の2箇所は深く大きい。埋土は褐色土としまりのない暗褐色土である。

【性格】 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから、埋葬施設の可能性も否定できない。いずれ、外帶の一部を構成する集石である。

遺物 土器片2,735gのほか、ミニチュア土器や土製円盤、石器類では砥石と石製円盤が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

3号集石

遺構（第43図、写真図版38）

【位置・検出状況】 I A 8 i グリッド南東隅に位置する。他の集石とともにⅢ層で検出した。27号土坑と重複するが、本遺構の方が新しい。

【規模等】 長さ170cm、幅110cmあまりの範囲に大小20個弱の礫からなる。

【構成礫の石質】 砂岩が主体で、花崗岩・花崗閃綠岩が数個混じる。

【下部土坑】 構築面下に土坑は確認できないが、上述のとおり27号土坑と切り合う。

【性格】 下部土坑は伴わず墓とは認められない。外帶の一部を構成する集石である。

遺物 土器片2,840gとミニチュア土器が2点出土した。石器は出土していない。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

4号集石

遺構（第43図、写真図版38）

〔位置・検出状況〕 IA 9 i グリッドの南東隅に位置し、Ⅲ層下面で検出した。本遺構の上には整地層1は被らない。斜面方向である南北側が長い。

〔規模等〕 10個の礫が梢円形に配され、長さ122cm、幅60cmほどの広がりをもつ。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩が主体で、角閃石ヒン岩が混じる。円礫は全体の2割混入する。

〔下部土坑〕 磨の広がりに沿って55×122cmの下部土坑が検出された。これも底面の凹凸が著しい。埋土はしまりのない暗褐色土である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは言い切れない。下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が1,937g出土した。石斧の未製品も1点見られる。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

5号集石

遺構（第44図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 IA 8 j・9 j グリッドに跨がって位置し、18号土坑と重複する。いずれ本遺構の方が新しい。Ⅲ層あるいはその相当層で検出したが、斜面の上方は整地層1ないし2が被さっていた。

〔規模等〕 80×140cmの範囲に7個の礫があり南北方向に長い。いずれの礫も検出面より浮く。

〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩からなる。

〔下部土坑〕 重複するとした18号土坑が、これに伴う下部施設であった可能性は否定できない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する集石としておく。

遺物 土器片635gのほか、異形石器が1点出土している。

時期 検出面から縄文時代後期に属する遺構である。

6号集石

遺構（第44図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 IA 9 j グリッドに位置し、整地層1の広がりを挟む。Ⅲ層下面で検出した。

〔規模等〕 10個の礫が長さ192cm、幅90cmの範囲に配される。立石と思える細長い礫も観察される。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗閃緑岩・ディサイトが見られ、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 磨の広がりとは異なる向きに84×98cmの円形基調の土坑が見つかった。埋土は暗褐色土の単層で、ブロック状の黄褐色土を含む。底面には凹凸が目立つ。深さは最大32cmである。

〔性格〕 人骨は出土せず墓とは断定できないが、土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片2,742gのほか、ミニチュア土器と土製円盤が、石器類では石鏃と小形の石斧未製品が1点ずつ出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

7号集石

遺構（第45図、写真図版39）

〔位置・検出状況〕 IA 9 j・10 j グリッドに跨がって位置する。Ⅲ層で検出した。

〔規模等〕 90×285cmほどの範囲に30個あまりの礫が検出された。集合体をなす礫は6個あまりで、長さ150cm、幅90cmの規模である。

〔構成礫の石質〕 砂岩主体で花崗岩・花崗閃緑岩・ディサイト・凝灰岩がある。円礫は全体の1割。
 〔下部土坑〕 6個からなる礫の周辺に $85 \times 148\text{cm}$ の南北に細長い土坑を1基確認した。底面の凹凸が目立つ。埋土はしまりのない黒褐色土の単層で、深さは31~40cmである。
 〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できない。下部土坑を伴うことから、墓の可能性もある。
 遺物 土器片7,634gのほか、ミニチュア土器や不明土製品、石器は搔削器、敲石、磨石が見られる。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

8号集石

遺構（第46図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 IA9kグリッド中央付近に位置し、検出面はⅢ層上面である。礫とともにその外側に楕円形の暗褐色土のプランを確認した。下部土坑内にも数個（S14・15など）礫が混入する。前者の礫群のうち中央に並ぶものは、長辺側を東西に向けて置いているように見える。
 〔規模等〕 検出時の広がりは $84 \times 102\text{cm}$ ほどの規模で南北に長い。
 〔構成礫の石質〕 砂岩を主体とし、他は花崗岩・花崗閃緑岩がある。角礫がほとんどである。
 〔下部土坑〕 ほぼ検出プランより、 $114 \times 140\text{cm}$ の土坑を確認した。礫の下部と底面が密着しており凹凸が目立つ。礫はいずれも土坑内に落ち込むように入り込んでいる。埋土は上位がしまりのない暗褐色土、下位は第Ⅳ層に似る褐色土が人為堆積している。深さは35cmほどである。
 〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、埋葬施設を下部に残す配石墓の可能性がある。
 遺物 土器片が824g出土した。石器は見られない。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

9号集石

遺構（第46図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 IA9kグリッド、8号集石の西側1mに位置する。Ⅲ層で検出した。
 〔規模等〕 $50 \times 90\text{cm}$ ほどの範囲に5個の礫を検出、S2~4の下に小さい土坑を確認した。
 〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩からなり、すべて角礫である。
 〔下部土坑〕 上述のとおり $42 \times 66\text{cm}$ ほどの小規模な土坑を有する。
 〔性格〕 埋葬部の土坑とするには小規模であり、他の下部土坑とは性格が異なるだろう。
 遺物 土器片は611g、石器では搔削器などが出土した。
 時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

10号集石

遺構（第47図、写真図版40）

〔位置・検出状況〕 IA9lグリッドの北東側に位置し、Ⅲ層面で検出。整地層1には覆われない。
 〔規模等〕 $110 \times 215\text{cm}$ の範囲に11個の礫を検出、構成礫6個は長さ90cm、幅100cmに広がる。
 〔構成礫の石質〕 砂岩と花崗閃緑岩からなる。円礫はS9のみである。
 〔下部土坑〕 構成礫の下に、 $70 \times 76\text{cm}$ の隅丸方形の土坑を確認した。これらはいずれも土坑内に落ち込むように入るが、底面には届いていない。埋土は暗褐色土の単層で、深さは20cmを測る。
 〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。
 遺物 土器片が229g出土したのみで、石器は見られない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

11号集石

遺構（第47図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A10 k グリッドの南西側に位置し、これもⅢ層上面で検出した。18個の礫うち、配石と見なせるものはS 1～3を除く15個である。S 5は長さ1mを計る巨礫で立石であったか。

〔規模等〕 15個の礫は60×160cmの範囲に広がる。S 5が立石であったとすれば若干小規模となる。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で花崗閃緑岩・花崗岩・ハンレイ岩などからなる。円礫は2割混じる。

〔下部土坑〕 S 5が立っていたと思われる掘り方を伴う楕円形の土坑を検出した。礫の並びと同じ方向を長軸としている。規模は85×138cm、深さは40cm弱で、埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 下部土坑を伴い遺物も含まれることから、配石墓の可能性もある遺構である。

遺物 土器片636gのほか、下部土坑から土製円盤と石斧の未製品、この他には石鎌が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

12号集石

遺構（第48図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A 9 k・10 k グリッドに跨がる。集石の外側に楕円形のプランを伴いながら、すべてⅢ層上面で検出した。本遺構は大小7個の礫からなり、一部は整地層1に覆われる。

〔規模等〕 55×92cmほどの規模をもつ。S 1は立石であった可能性もある。

〔構成礫の石質〕 S 1が花崗閃緑岩で、他は砂岩である。円礫は1個含まれる。

〔下部土坑〕 楕円形土坑1基を検出した。規模は76×106cm、深さは20cm。埋土は暗褐色土の単層。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから、配石墓の可能性もある。

遺物 土器片437gと石製円盤などが出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

13号集石

遺構（第48図、写真図版41）

〔位置・検出状況〕 I A10 k・10 l グリッドの西側に跨がってあり、12号集石同様これも礫の外側に楕円形の黒褐色土プランが確認できた。検出面はⅢ層の暗褐色土である。

〔規模等〕 8個の礫があるが、大きめのS 1～5・7の5個で配石を構成する。斜面に対して上下左右に礫が埋め込まれ、その中央の隙間にも礫が入る。規模は70×105cmを測る。

〔構成礫の石質〕 S 3が花崗閃緑岩で他は砂岩である。円礫はS 2・8、ハンレイ岩である。

〔下部土坑〕 検出プランと異なり、不整な楕円形に掘りあがった。規模は92×118cm、深さは15cmあまりと浅い。底面には細かな凹凸がある。埋土はやわらかい黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある遺構である。

遺物 土器片484gと石製円盤が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

14号集石

遺構（第49図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A101 グリッドの北西端に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ160cm、幅60cmほどの範囲に4個の礫が散乱する。一連のものとは捉えにくい。

〔構成礫の石質〕 すべて砂岩である。〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片84gのみ出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものであろう。

15号集石

遺構（第49図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A101 グリッドの南西隅に位置する。III層上面において、礫の外側に黒褐色の楕円形プランも確認した。14個の礫のうちS10以外で配石をなすが、整然と組まれている。

〔規模等〕 13個の礫は74×108cmの範囲に広がる。長軸は南北方向からは若干ずれています。

〔構成礫の石質〕 13個の礫は砂岩とディサイト2個からなる。円礫は1個のみである。

〔下部土坑〕 級の並びと同方向に長軸をもつ下部土坑が確認できた。規模は70×124cm、深さは25cm。それぞれの礫は底面まで届いておらず、底面の凹凸は小さい。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片355gと石鎌が1点出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

16号集石

遺構（第50図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A 9 1・10 1 グリッドの南端に位置する。III層下～IV層上面で、下部土坑の円形プランとともに検出した。この4個の礫だけが集石をなしていたかは不明である。

〔規模等〕 48×75cmの範囲にあり南北方向に長い。

〔構成礫の石質〕 砂岩1個、花崗閃緑岩3個。

〔下部土坑〕 不整形の土坑を検出した。規模50×74cm、深さ30cm。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、小規模ながら下部土坑を伴うことから、配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が63g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

17号集石

遺構（第50図、写真図版42）

〔位置・検出状況〕 I A101 グリッド中央の南寄りにあり、III層～IV層上面で礫11個とその周りに土坑のプランを確認した。長軸方向は西側に振れる。配石と見なせる礫はS1・2を除く9個であろう。

〔規模等〕 9個の礫は90×115cmほどにあり、楕円形をなしてまとまる。S5は立石であったか。

〔構成礫の石質〕 砂岩が主体で花崗閃緑岩・花崗岩・ピン岩・凝灰岩が見られる。角礫が主である。

〔下部土坑〕 立石状のS5が埋まる土坑を確認した。不整楕円形をなし、規模は80×115cm、深さは10～35cmを測る。底面は礫の掘り方と思われる大きな凹凸をもつ。埋土は暗褐色土が主体である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が454 g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

18号集石

遺構 (第51図、写真図版43)

〔位置・検出状況〕 I A10 1 グリッドの南東隅に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ150cm、幅65cmの範囲に5個の礫があり、中でも2個の細長い円礫は並列する。

〔礫の石質〕 3個の砂岩、花崗岩、花崗閃緑岩1個ずつからなる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が218 g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

19号集石

遺構 (第51図、写真図版43)

〔位置・検出状況〕 I A10mグリッド北側に位置する。III層下～IV層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ330cm、幅150cmあまりの範囲に7個の礫が散在する。まとまりはない。

〔礫の石質〕 砂岩、花崗岩、花崗閃緑岩からなる。

〔下部土坑〕 構築面下に土坑は確認できない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片486 gのほか、石器類は、2種の敲石計2点と石製円盤1点などが出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

20号集石

遺構 (第52図、写真図版43)

〔位置・検出状況〕 I A10 j グリッド南東隅に位置する。III層面で礫26個とともに、外側に不明瞭な楕円形のプランも確認できた。長軸方向は東側に振れる。配石と見なせる礫は大小20個あまりか。

〔規模等〕 配石をなす礫は85×155cmの範囲にあり、他の配石よりも小礫が多く密集した状態である。

〔構成礫の石質〕 砂岩、花崗閃緑岩、花崗岩にデイサイトや凝灰岩が見られ、うち円礫は3個である。

〔下部土坑〕 S 3～8、21～26などの下部に、楕円形の土坑を確認した。礫の広がりよりは小さく、規模は55×94cm、深さは12～15cmを測る。底面には大きな凹凸がない。埋土は黒褐色土の單層。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片2,418 gと石斧の未製品1点が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

21号集石

遺構 (第52図、写真図版43)

〔位置・検出状況〕 I A11 j グリッド北側に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 およそ180cm四方に4個の礫が散在する。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩や珪質頁岩からなる。

〔下部土坑〕 確認できない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する礫群であるが、まとまりは認められない。

遺物 土器片が58g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

22号集石

遺構（第53図、写真図版43）

〔位置・検出状況〕 IA11k グリッド北側に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。長軸を北西—南東方向にもつ。12個の礫を確認したが、原位置を保っていないS3～8は集石から外れる。

〔規模等〕 塊をなす6個の礫は80×142cmの範囲にあり、特にS2は深く差し込まれている。

〔構成礫の石質〕 花崗岩とヒン岩からなり、円礫はS7のみである。

〔下部土坑〕 不整形の細長い土坑状の掘り込みを伴う。規模は64×115cm、深さは35～40cmを測る。底面は丸みを帯び比較的平坦である。埋土は土器片を含む黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が1,283g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

23号集石

遺構（第53図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 IA10k・11k グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層上面で円形に確認できた。

〔規模等〕 130×164cmの範囲に丸く広がる。礫間には適度な隙間が保たれている。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩で、デイサイトが1個混じる。赤みをもつ礫が多い。

〔下部土坑〕 磨の広がりに沿うように、円形の土坑が確認された。規模は94×136cm、深さは30cm前後である。いずれの礫も底面には達しておらず、比較的平坦である。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土していないが、土坑を伴う配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片649gと敲石が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

24号集石

遺構（第54図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 23号集石の南西側、IA10k・11k グリッドに跨がる。Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 磨は120×240cmの範囲に散らばる。S11と他の2つの磨で70×100cmの広がりをもつ。

〔構成磨の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩から構成され、すべて角磨である。

〔下部土坑〕 規模75×104cm、深さ20cmあまりの不整椭円形をなす土坑が1基確認された。埋土は粘性のある暗褐色土で浮石粒を含む。底面は磨の凹凸もなく平坦である。

〔性格〕 まとまりのない磨の配置だが、土坑を伴うことから墓として機能した可能性がある。

遺物 土器片503gのほか、ミニチュア土器が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

25号集石

遺構（第54図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A 10 k グリッド南端に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。15個ほどの礫は、木根に若干押されているものもある。検出時には石刀の欠損品もこの周辺から出土した。

〔規模等〕 細は90×95cmの範囲に三角形に広がり、そのまとまりは比較的密である。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・ヒン岩などからなる。円礫はS 8のみである。

〔下部土坑〕 長方形の土坑が1基確認され、規模は70×94cm、深さは30cm強である。埋土はしまりのない黒褐色土の単層で底面には凹凸がある。長軸方向は西側に45度前後振れている。

〔性格〕 人骨は出土していないが、土坑を伴う配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が869g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

26号集石

遺構（第55図、写真図版44）

〔位置・検出状況〕 I A 10 l グリッド中央からわずかに北東側に位置し、Ⅲ層上面で黒褐色土のプランとともに集石を検出した。S 8～10を除く15個あまりの礫の集まりは極めて密である。

〔規模等〕 15個の礫は110×115cmの楕円形に広がる。S 11は最も大きく目立つ礫である。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩が主体で頁岩を数個含む。円礫は1個だけであった。

〔下部土坑〕 楕円形基調の土坑状の掘り込みが認められた。規模は107×130cm、深さは15～32cmを測る。底面は、礫の掘り方なのか凹凸が著しい。埋土は土器片を含む褐色土の単層でしまりがない。

〔性格〕 人骨は出土しておらず断定できないが、墓として機能した可能性がある。

遺物 土器片が546g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

27号集石-1

遺構（第55図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 I A 10 l グリッド北東隅に位置し、20個以上の礫の集合をⅢ層上面で検出した。当初は長さ2m、幅70cmに及ぶ1基の集石としたが、後日中央から二つの集合体に分けた。

〔規模等〕 S 1～6・16～19など10個あまりの礫からなり、85×87cmほどの範囲に広がる。S 6はまとまりに入らない。S 19は磨石である。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗閃緑岩・ディサイトなどで、円礫は数個混入する。赤化した礫も混じる。

〔下部土坑〕 楕円形基調の不整な土坑が見つかった。規模は112×63cm、深さは10～30cmである。底面は凹凸があり、埋土は黒褐色土～暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 土器片が1,576g出土した。27号集石として取り上げたもので、2との区別は出来ない。また、土製円盤が1点出土したが、土器片同様いざれかは分からぬ。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

27号集石-2

遺構（第55図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 上述のとおり、IA10Iグリッドの27号集石-1北東側に隣接する。

〔規模等〕 S 7~14など10個あまりの礫からなり、55×116cmの範囲に広がる。

〔構成礫の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩の3種がある。これにも赤みのある礫を含む。

〔下部土坑〕 挖り込みがあるが、規模は55×110cmで、深さは1030cm弱である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 上述のとおり。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

28号集石

遺構（第56図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 IA10I・11Iグリッドに跨がる。周りの集石とともに、Ⅲ層上面で30個以上の礫と土坑状の楕円形プランを検出した。S 8・17~22・37などはその塊から外れる。

〔規模等〕 級は110×176cmの楕円形に広がり礫間の隙間は小さい。長軸は北東から南西方向にある。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩を主体にデイサイトなどが見られ、円礫は全体の1~2割ほど混入する。赤化した礫も数個あるが、置かれる前に被熱したものか。

〔下部土坑〕 不明瞭ではあるが、不整な楕円形の土坑が確認された。礫は底面に至らず、そこに凹凸は少ない。埋土はしまりのない黒褐色土の単層である。

〔性格〕 断定はできないが墓の可能性がある。残存状態が良いため、移設対象とした遺構である。

遺物 土器片が666g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

29号集石

遺構（第56図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 IA11k・11Iグリッドに跨がり、Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 級は72×164cmの範囲に広がり、長軸は北東~南西方向にある。S 1・2は墓標や目印か。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩・砂岩が主体で、デイサイト・アブライトが混じる。円礫は2割程度。

〔下部土坑〕 台形基調の不整な土坑が1基確認できた。規模は80×118cm、深さは18~25cmである。底面は礫の形状にあわせて凹凸をもつ。埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が253g出土した。石器は出土していない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

30号集石

遺構（第57図、写真図版45）

〔位置・検出状況〕 IA11kグリッド中央からわずかに南寄りに位置する。Ⅲ層上面暗褐色土層で検出した。20個あまりの礫を確認したが、S 1・13~17などはまとまりから外れている。

〔規模等〕 塊をなす礫は70×140cmほどの範囲にあって、中央部は礫が密集している。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩を主体とし、閃緑岩やはんれい岩が1個ずつ入る。円礫は混入しない。

〔下部土坑〕不整円形の土坑が確認された。規模は82×101cm、深さは10~42cmを測る。底面は斜面下方に深くなり、礫の凹凸も若干認められる。埋土は黒褐色土の単層でしまりに欠ける。

〔性格〕下部土坑の状況から埋葬に関わる遺構とは考えにくいが、墓であった可能性も残る。

遺物 土器片430gと敲石が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

31号集石

遺構（第57図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕IA11kグリッドの北東寄りにあり、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。30個以上の礫からなるが、S1~3などの大きい礫は墓標であったか。S5はまとまりから外れる。

〔規模等〕礫は120×160cmの範囲にあり、その中央部は小さめの礫で占められる。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩を主体に、デイサイト・凝灰岩・はんれい岩・頁岩などが1つずつ入る。円礫は全体の2割ほどである。赤化した礫が数個混入しているが、被熱したものか。

〔下部土坑〕不明瞭ではあるが、不整な梢円形の土坑が確認された。規模は106×158cm、深さは5~25cmを測る。礫は底面に至らず、そこに凹凸は少ない。埋土はしまりのない黒褐色土の単層である。

〔性格〕人骨等は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が273g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

32号集石

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕IA11kグリッド南端に位置し、Ⅲ層上面暗褐色土層で検出。礫が落ち込む様相。

〔規模等〕礫は85×90cmの範囲に密集している。礫同士が重なる箇所も見られる。

〔構成礫の石質〕花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩・はんれい岩の4種があり、うち円礫は3個である。

〔下部土坑〕円形基調の土坑が1基検出された。規模は81×98cm、深さは最大30cmを測る。底面はわずかに被打つが礫の凹凸は見られない。埋土は単層でしまりがない。

〔性格〕人骨は出土していないが、下部施設を伴うことから墓となる可能性がある。

遺物 土器片がわずか35g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

33号集石-1

遺構（第58図、写真図版46）

〔位置・検出状況〕IA11kグリッドの南西隅に位置し、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。全体規模等が不明確であったが、木根を境として東西二つに分かれる集石と判断した。ここでは33号集石-1・2として記載する。本遺構は15個あまりの礫からなる。

〔規模等〕S5~8、10~14など95×132cmの範囲にあり、うちS7は立石と思われる。

〔構成礫の石質〕砂岩と花崗閃緑岩を主体に花崗岩やハンレイ岩が入る。円礫は1~2割程度混入。

〔下部土坑〕梢円形基調の不整な土坑が確認出来た。規模は72×100cm、深さは10~30cmを測る。底面には細かな凹凸がある。埋土は黒褐色土~暗褐色土の単層で、ほぼしまりはない。

〔性格〕人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 土器片が322 g 出土したが、2とは区別できない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

33号集石-2

遺構 (第58図、写真図版46)

〔位置・検出状況〕 I A11 k グリッドの南西隅、上述のとおり、33号集石-1の東側にある。

〔規模等〕 磨はS 1・2のはか、15~22・26~28などからなる。これらは94×180cmの範囲にある。

〔構成礫の石質〕 砂岩を主体に花崗斑岩などが入る。円礫は認められない。赤化した礫が目立つ。

〔下部土坑〕 楕円形基調の掘り込みがあるが、規模は55×110cm、深さは数cm～最大40cm弱である。底面は礫の掘り方の細かな凹凸がある。埋土は黒褐色土～暗褐色土の单層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、下部施設をもつ配石墓であった可能性がある。

遺物 322g土器片が出土したが、1と区別できない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

34号集石

遺構 (第59図、写真図版46)

〔位置・検出状況〕 I A12 k グリッドの北西隅にあり、周辺の集石とともにⅢ層上面で検出した。

〔規模等〕 70×82cmに広がる。大きめの磨4個が長方形をなし、その中は2つの礫で充填される。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩・花崗閃緑岩で、ホルンフェルスが1個入る。すべて角礫である。

〔下部土坑〕 円形基調の土坑が検出された。規模は79×100cm、深さは15~34cmを測る。礫の形状にあう凹凸が見られる。埋土は黒褐色土の单層でフカフカとやわらかい。

〔性格〕 人骨等は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片がわずか40 g 出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

35号集石

遺構 (第59図、写真図版47)

〔位置・検出状況〕 I A12 k グリッド西端に位置する。IV層上面で検出した。

〔規模等〕 45×100cmの範囲に4個の角礫があり、2個は上下に重なる。

〔磨の石質〕 花崗閃緑岩2個と砂岩2個からなる。

〔下部土坑〕 確認できない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片が110 g 出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

36号集石-1

遺構 (第60図、写真図版47)

〔位置・検出状況〕 当初は幅70~80cm、長さ250~280cmに広がる14個の礫から構成される1基の集石として登録したが、途中S 1~7、S 8~13の2基の集石に分けることとした。本遺構はI A12 k グリッド南西隅に位置、Ⅲ層上面で検出した。集石内を区切るように配置される礫がある。

〔規模等〕 90×122cmに広がり、S 7は若干外れる。S 1は目印的な使われ方か。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・閃綠岩からなる。円礫はS 6のみである。

〔下部土坑〕 不整な梢円形の土坑を検出した。規模は64×112cm、深さは最大30cmである。底面は礫の凹凸が目立ち、斜面方向に傾く。埋土は黒褐色～暗褐色土の單層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある。

遺物 土器片が50g出土したが、2との区別はできていない。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

36号集石－2

遺構（第60図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 IA 12 l グリッドの基点杭を遺構の中心に置く。これもⅢ層上面で検出した。

〔規模等〕 6個の礫が50×94cmの範囲に重なるようにある。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・ヒン岩などで、すべて角礫である。

〔下部土坑〕 磨り方が残る箇所があるが、下部施設は認められない。

〔性格〕 墓葬施設は持たないが、配石墓に類する配石遺構の可能性がある。

遺物 上述のとおり。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

37号集石

遺構（第61図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 IA 12 k・12 l グリッド、Ⅲ層上面で検出した。10個の礫が梢円形に密集する。

〔規模等〕 級は58×70cmほどの範囲にあって、礫間は密集している。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・砂岩を主体とし花崗斑岩がひとつ入る。円礫は2個である。

〔下部土坑〕 梢円形基調の土坑で、規模は74×78cm、深さは10～18cm。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片が40g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

38号集石

遺構（第61図、写真図版47）

〔位置・検出状況〕 IA 12 l グリッド北端に位置し、これもⅢ層上面で土坑プランとともに確認した。

〔規模等〕 長軸方向を北東～南西にもつ集石で、74×114cmの範囲に広がる。礫は密集していない。

〔構成礫の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・石英斑岩などからなり、円礫は2個混じる。

〔下部土坑〕 梢円形の土坑を検出した。規模は82×88cm、深さは最大35cmである。底面は小さく波打ちいすれの礫も底面には届かない。埋土は黒褐色土の單層でやわらかい。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片のみ、105g出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

39号集石

遺構（第62図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12 k グリッドの南端に位置し、Ⅲ層上面で検出した。三角形に配置されるか。

〔規模等〕 磨は一辺が120cmの三角形に広がり、磨間は密集した箇所とそうでない箇所がある。

〔構成磨の石質〕 花崗岩・花崗閃緑岩・砂岩・ハンレイ岩などからなる。円磨は見られない。

〔下部土坑〕 方形基調の不整な土坑を疊下に伴う。規模は90×92cm、深さは10~40cmを測る。底面は地形面に沿って傾斜し、部分的に磨の凹凸を有する。埋土は暗褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓となる可能性がある遺構である。

遺物 土器片107gのはか、石斧の未製品が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

40号集石

遺構（第62図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12 k グリッド南東側、Ⅲ層上面で磨と楕円形のプランを確認した。

〔規模等〕 62×117cmの範囲にあり、他はその中を区切るように配されている。

〔構成磨の石質〕 砂岩と花崗岩がほぼ半数で、他に花崗閃緑岩や閃緑岩がある。円磨はS12のみ。

〔下部土坑〕 85×111cmの楕円形の下部土坑を検出した。細長い磨が縦に埋め込まれる部分の底面には、その形状に伴う凹凸が見られる。埋土はやわらかい暗褐色土の単層である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部に土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片は79g出土し、石器は異形石器が1点見られた。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

41号集石

遺構（第63図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12 k + 13 k グリッドに跨がってある。Ⅲ~Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ135cm、幅50cmあまりの範囲に6個の磨があり、二つの塊をなす。

〔磨の石質〕 花崗閃緑岩とアブライトからなる。〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する磨群である。

遺物 土器片が370g出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

42号集石

遺構（第63図、写真図版48）

〔位置・検出状況〕 I A12 k グリッド東寄りに位置し、Ⅲ層上面の暗褐色土で検出した。

〔規模等〕 磨が155×188cmの範囲に広がる。

〔構成磨の石質〕 花崗閃緑岩とアブライトが主体で、花崗岩・砂岩・ハンレイ岩などが見られる。

〔下部土坑〕 挖り上がりが不整な楕円形をなす土坑を確認した。規模は125×210cm、深さは14~28cmである。底面は大きく波打つが凹凸は少ない。埋土は黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨等が出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性がある。

遺物 土器片が828g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

43号集石

遺構 (第64図、写真図版49)

〔位置・検出状況〕 I A12 j・12 k グリッドに跨がって位置し、Ⅲ層上面で検出した。

〔規模等〕 比較的大きめの礫が直径120cmほどの範囲にあるが、集合体として捉えやすい。

〔構成礫の石質〕 花崗岩と花崗閃緑岩がほぼ半数で、これらはすべて角礫である。

〔下部土坑〕 集合体の外周に沿う不整円形をなす土坑を確認した。規模は直径130cm前後、深さは25cmを測り、底面には大きな凹凸がない箇所もある。いずれの礫も周囲から落ち込んでいる。

〔性格〕 墓とは断定できないが、円形の下部土坑を伴う配石墓の可能性がある。

遺物 土器片がわずか12g出土したのみである。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

44号集石

遺構 (第64図、写真図版49)

〔位置・検出状況〕 I A12 k グリッドに位置し、これもⅢ層上面の暗褐色土で検出した。南北に長い。

〔規模等〕 楕円形をなす礫12個は70×94cmほどの範囲に広がり、S 1・13・14はそれから外れる。

〔構成礫の石質〕 花崗岩を主体に、砂岩・花崗閃緑岩・デイサイト・ひん岩・アブライトがあり、円礫が全体の1割程度含まれる。S 4～7などは赤みの強い色調を見せる。

〔下部土坑〕 楕円形をなす土坑が確認された。規模は100×130cm、深さは25cm前後で、底面は皿状をなす。礫が底面に至らないためか、凹凸は見られない。埋土は炭化物粒を含む暗褐色土の単層。

〔性格〕 人骨や副葬品と思われる遺物は出土していないが、下部土坑を有する配石墓の可能性がある。

遺物 土器片73gのほか、ここでは数少ない石匙が1点出土している。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

45号集石

遺構 (第65図、写真図版49)

〔位置・検出状況〕 I A13 k グリッドの中央から南寄りに位置する。Ⅲ層上面およびそれに相当する層で検出した。礫20個強の礫を確認したが、S 20・21は集石部分から若干距離を置く。

〔規模等〕 それらを除く広がりは110×180cmになるが、礫どうしが重なり合っている。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩とアブライト・デイサイトが主体で、円礫は1割ほど混じる。

〔下部土坑〕 集合体よりも小さめの椭円形土坑を1基確認した。規模は100×172cm、深さは最大で20cmを測る。底面には目立つ凹凸がない。埋土は黒褐色土の単層でやはりしまりがない。

〔性格〕 下部土坑を伴う配石墓の可能性がある遺構である。

遺物 土器片661gと石斧の未製品1点が出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

46号集石

遺構 (第65図、写真図版50)

〔位置・検出状況〕 I A12 l グリッドに位置し、Ⅲ～Ⅳ層上面で検出した。

〔規模等〕 磨 2 個からなる。

〔構成の石質〕 花崗閃緑岩と花崗岩である。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 外帶の一部を構成する磨群である。

遺物 土器片が204 g 出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

47号集石

遺構 (第66図、写真図版50)

〔位置・検出状況〕 I A13 k グリッドの北側に位置し、検出面はⅢ層上面の暗褐色土である。磨17個とその周辺に円形のプランも確認した。軸方向は斜面に沿うが不明瞭である。

〔規模等〕 比較的大きめの磨は140×140cmの範囲にあるが、密集した感じではない。

〔構成磨の石質〕 花崗岩が生体で、花崗閃緑岩と砂岩が1個ずつ混じる。円磨は1個である。

〔下部土坑〕 S 9～12を除く箇所に、不整な梢円形をなす土坑を1基確認した。規模は95×130cm、深さは10～15cmを測る。底面には大きな凹凸が認められず、比較的平坦である。

〔性格〕 墓とは断定できないが、下部土坑を伴うことから配石墓の可能性もある。

遺物 土器片が1,328 g 出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

48号集石

遺構 (第66図、写真図版50)

〔位置・検出状況〕 I A13 k グリッド北西隅に位置し、検出面はⅢ層上面である。S 4 など立石状か。

〔規模等〕 残り 7 個の磨は74×82cmの範囲に円形に密集している。

〔構成磨の石質〕 砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩のほか、溶岩と閃緑岩が混じる。円磨は3個程度。

〔下部土坑〕 幅80×長さ100cmの概ね台形をなす土坑を検出した。深さは10～25cmで、底面には磨が埋まる深さの凹凸が認められる。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性がある。

遺物 土器片が411 g 出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

49号集石

遺構 (第67図、写真図版50)

〔位置・検出状況〕 I A12 j・13 j グリッドに跨りⅢ層上面で検出。S 2 は台石からの転用である。

〔規模等〕 4 個の磨は60×100cmの範囲にあり、S 6 と S 7 は重なる。

〔構成磨の石質〕 花崗岩が4個、アブライトが1個で、すべて角磨である。

〔下部土坑〕 S 6・7 の外側に、幅75×長さ85cmの不整円形の掘り込みを確認した。磨の据え方に関わるもので、埋葬施設とは思われない。深さは30cm前後で、底面には凹凸が見られる。

〔性格〕 この状況から埋葬に関わる集石ではないと思われる。外帶の一部を構成する集石である。

遺物 土器片が314 g 出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

50号集石

遺構（第67図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 IA14 i グリッド杭付近にある。III層上面で検出した。

〔規模等〕 110×150cmの範囲に礫7個が散乱している。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩とアブライトの他、風化の進んだ蛇紋岩（石斧の未製品）が見られる。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帶の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片398g、石器では石斧の未製品が1点出土した。

時期 検出面から縄文時代後期に属するものである。

51号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 IA14 k グリッドにある。III層上面で検出した。

〔規模等〕 長さ150cmに礫2個のみ。

〔礫の石質〕 2個とも花崗閃緑岩である。

〔下部土坑〕 なし。

〔性格〕 外帶の一部を構成する礫群としておく。

遺物 わずか4gの土器片が出土したのみである。

時期 縄文時代後期に属するものである。

52号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 IA14 j グリッドの南西端に位置する。III～IV層上面で検出した。

〔規模等〕 70×140cmあまりの範囲に大きめの礫が2個。

〔礫の石質〕 ともに花崗閃緑岩である。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帶の一部を構成する礫群である。

遺物 土器片375gと敲石が1点出土した。

時期 縄文時代後期に属するものである。

53号集石

遺構（第68図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 IA13 j・14 j グリッドに跨がり、III層上面で検出した。8個の礫を確認した。

〔規模等〕 6個の礫は40×70cmの範囲に広がる。礫間には隙間が見られる。

〔構成礫の石質〕 すべてアブライトであったが、石質が1種類であるのは本遺構の礫群だけである。

〔下部土坑〕 不整形の土坑を検出したが、礫の形状に伴う凹凸はその掘り方そのものと言える。深さは最大で45cmで、埋土はやわらかい黒褐色土の単層である。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できない。

遺物 土器片が464g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

54号集石

遺構（第69図、写真図版51）

〔位置・検出状況〕 53号集石の東側、IA14jグリッドに位置する。III層上面で検出した。

〔規模等〕 50×92cmの範囲に細長く並ぶ。S1・6は配石からは外れるか。

〔構成礫の石質〕 アブライト主体で、花崗岩・ホルンフェルスが混じる。すべて角礫で赤く変色する。

〔下部土坑〕 幅48cm×長さ92cmの長方形をなす土坑を1基検出した。深さは15cm程度で、底面には礫の形に沿う凹凸が認められる。埋土は黒褐色土の單層でしまりがない。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性がある。

遺物 土器片197gのほか、石斧が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

55号集石

遺構（第69図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕 IA14jグリッドに位置し、これもIII層上面で検出した。9個の礫を確認した。

〔規模等〕 4個の大きめの礫は82×96cmの範囲にあり、S7にS2が重なる。S2は墓標のか。

〔構成礫の石質〕 アブライト・花崗岩・花崗閃緑岩・ディサイトなどがあるが、円礫は2個である。

〔下部土坑〕 幅56cmほどの掘り込みを確認した。深さは最大で33cmを測る。

〔性格〕 人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性がある。

遺物 土器片が457g出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

56号集石

遺構（第70図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕 IA15jグリッドにあり、III～IV層で検出した。

〔規模等〕 小礫1個を含む礫3個が散乱している。

〔礫の石質〕 花崗閃緑岩とアブライトの他、蛇紋岩（石斧の未製品）あり。

〔下部土坑〕 認められない。

〔性格〕 規模は小さいが、外帶を構成する礫群の一部である。

遺物 土器片が294g出土した。石器は石箇が1点見られた。

時期 出土遺物から縄文時代後期に属するものである。

57号集石

遺構（第70図、写真図版52）

〔位置・検出状況〕 IA15jグリッド杭を中心に4つのグリッドに跨がる。III層上面で検出した。9個の礫を確認しているが、S1・6以外は小さめの礫が並ぶ。

〔規模等〕 85×120cmの範囲に広がる。いずれの礫も構築面より高い位置にある。

〔構成礫の石質〕 花崗閃緑岩1点と他はすべてアブライトで、いずれも角礫である。

〔下部土坑〕 なし。

〔性格〕 下部土坑を伴わず、配石墓とは言い難い。外帶を構成する礫群の一部である。

遺物 土器片592gと異形石器が1点出土した。

時期 出土した遺物などから、縄文時代後期に属する遺構である。

58号集石

遺構（第71・72図、写真図版52）

【位置・検出状況】本遺構は、数多くある集石の中で最大規模をもち、かつ調査区内で最も標高の高い地点につくられたもので、当初の調査区北東側Ⅰ A14 i グリッドに位置する。これもⅢ層上面で、50個以上の大小の礫の広がりを確認した。S 1は30~65cm×120cmほどある巨礫であるが、途中で折れ原位置は保っていない。検出時、周辺には土坑等のプランは確認されなかった。

【規模等】50以上を数える礫は300×370cmあまりの範囲にあるが、上述の密集した箇所は130×185cm前後で、最終的に検出できた下部土坑もほぼこの広がりに重なっている。

【構成礫の石質】花崗閃緑岩とアブライトを主体とし、ホルンフェルスやチャートが含まれる。円礫は全体の1~2割混入し、赤みを帯びる礫も中央部に目立つ。

【下部土坑】礫を除去後、不整楕円形をなす幅1.8m×長さ25m、深さ35~40cmの下部土坑を検出した。一見2つの土坑に見えたが、上段部底面の堆積土と下段部北西側の底面に同じ堆積土が分布していることから、掘り込みが2段となる1基の土坑と判断した。1~3層はしまりがなく、他の下部土坑堆積土と状況は同じである。ブロック状の黄褐色土がモザイク状に分布し、人為堆積と考えられる。

【性格】下部土坑は、土壙墓としては規模が大きすぎるようであり、また埋土は重複と捉えられるような堆積状況ではなかった。このことだけから埋葬行為があったかどうかは判断できない。敢えて墓と捉えるならば、主体部が下段部となり、配石設置に関わる範囲が上段部と捉えるのが適当か。

遺物 土器片1,021gと錘形土製品、土製円盤、石器類では砥石、敲石がそれぞれ1点ずつ出土した。

時期 出土遺物等から、縄文時代後期初頭～前葉に属する遺構である。大形の下部土坑を伴う最大規模の配石遺構であり、外帶の中でも特別な遺構であったものと考えられる。

59号集石

遺構（第72図、写真図版53）

【位置・検出状況】Ⅰ A10 j・10 k グリッドの西側に跨がって位置する。整地層1が施される範囲の境界付近にあるが、それを除去後にⅢ層上面で検出した。下部土坑のプランは不明瞭であった。

【規模等】礫は50×150cmの範囲に広がる。S 2は立石であった可能性がある。

【構成礫の石質】砂岩に花崗閃緑岩が1つずつ混入する。S 9のみ円礫である。

【下部土坑】幅94×長さ112cmの楕円形をなす土坑を検出した。深さは最大で40cmを超える。埋土は、土器片をわずかに含む黒褐色土の単層でしまりがない。底面には大小の凹凸をもつ。

【性格】人骨は出土しておらず墓とは断定できないが、配石墓の可能性がある。

遺物 土器片2,241gと土製円盤1点、石器類では石皿からの転用品、有孔石製品が出土した。

時期 出土した遺物等から、縄文時代後期に属する遺構である。

内帶の石列（第73図、写真図版15）

本遺構は、調査区北側の中央部に確認された総数180個の礫からなる石の列で、整地層1の除去作業を開始したところ、第Ⅲ層からⅣ層上面あるいは整地層2の上面で徐々に多数の礫が顔を出し、最終的にはその数を数えることとなった。全体規模は不明であるが、階上岳のある西南西方向にトゲ状の石列が4mほどまっすぐに延び、弧状をなす本体は、北側の調査区域外に広がることが予想される。

構成礫の石質は、花崗岩がおよそ65%を占め、次いで花崗閃緑岩が10%弱、花崗斑岩・ディサイトが3%ずつで、他にはハンレイ岩・ベグマタイト・斑岩などが見られる。全体としてみれば環状ないし弧状に配されているが、途切れ途切れの箇所も見受けられる。重なり合う礫もあるが、あまり密集した感じは受けない。礫の大きさは、拳大より小さいものから直径80cmほどの巨礫もあり、角礫・亜角礫が主体ながらも、2~3割ほど円礫が混じる。重複する遺構に5号堅穴住居跡があるが、確実に本遺構の方が新しい。また、3号埋設土器とは隣接するが重複関係ではない。本遺構の内側に検出された遺構には、P010・011の二つの柱穴と10号焼土遺構があるが、本遺構との関連は掴めていない。

この遺構全体を、弧状あるいは環状の円環をなすものとして線形を描いてみたが、直径は約25~30m前後と想定され、平面図からは多少いびつな楕円形を呈するものと考えられる。これから判断して、調査区域内では全体の約1/4~1/5程度が調査できたことになるが、予測の域を出ない。地形的に見ると、南側から北側に向けて緩く傾斜している様子がわかるが、自然地形がそうであったのか、あるいは人の手による土地造成によるものかは判断が付けられなかった。

(10) 整 地 層

整地層1・2

遺構（第74~76図、写真図版3・4）

【位置・検出状況】調査区北西部の東西方向 I A 4 f ~ I A 14 h グリッド、南側は I A 8 k グリッド付近にまで広がる約750mの2枚の整地層で、調査開始直後、表土掘削時にその直下で黄褐色土の広がりが確認された。その面には黒褐色土が見え隠れする部分があり、当初はこの二つの上下関係がよく掴めなかつた。

【精査の状況】上述したように、整地層1は黄褐色、2は黒色から黒褐色をなす。いずれも調査区外の北側にも延びることは断面観察から明らかである。前者は内帶の石列を完全に覆うが、後者は石列の構築面との区別がつきにくく、これも人為的造成によるものと判断はしたが確証はない。しかし、整地層1・2とも施されている範囲は概ね同じように広がり、厚さも10~20cm程度とこれにもほとんど差が見られないことから、造成作業時には土壤の色調の別や土量などが当然意識されていたものと考えたい。また、整地層1については、平面的に掴んだ範囲と調査区北側の南向きセクションで観察される範囲が異なり、断面で見る東側への広がりは、58号集石の直前までであった可能性が高い。このことは、集石内で最大規模をもつ58号集石が整地層1で被覆されず、これだけが地表に露出していたことを示すのではないか、と考える。

【重複関係】整地層1・2とも、内帶の石列すべてと外帶の集石遺構のほとんどを覆う。すべての集石が被覆されたか否かは不明である。

【平面形・規模】検出した平面形状は円形基調で、推定される直径は50m前後である。内帶の石列および掘立柱建物の曲線状の並びとも同心円状をなす。石列と整地層間の間隔は15~18mほどで、各種遺構が集中している。上述のとおり、いずれもこれよりは古い遺構群である。

【遺物】ともに縄文時代の土器片等を数点ずつ含んでいた。のことから、整地造成作業は縄文時代後期前葉以降に行われたと思われるが、遺物が細片のため詳細な時期は不明である。

【時期】集石遺構群を覆うことから、縄文時代後期初頭から前葉以降に何らかの意図で行われた人為的作業である。3点行った年代測定だが、縄文時代晚期中葉 (2790 ± 30 yrBP) が最も古い値である。

第2表 柱穴状土坑一覧表

柱穴名	グリッド	開口部(cm)	断面図深さ(cm)	平面図深さ(cm)	検出面標高(m)	遺物	備考
P001	I A12g	51×47	65	65	62.4		1号掘立柱
P002	I A12h	56×52	35	26	62.5		2号掘立柱
P003	I A12h	58×49	42	38	62.5		2号掘立柱
P004	I A11h	54×46	30	31	62.4		2号掘立柱
P005	I A13h	60×57	53	59	62.4		1号掘立柱
P006	I A12h	46×38	60	60	62.5		2号掘立柱
P007	I A12h	45×40	30	33	62.4		2号掘立柱
P008	I A11h	38×37	-	22	-		2号掘立柱
P009	I A13h	52×48	56	55	62.5		1号掘立柱
P010	I A8f	44×39	27	33	61.8	有り	
P011	I A9f	39×34	20	31	61.8	有り	
P012	I A10h	57×46	22	26	62.4		3号掘立柱
P013	I A10h	71×62	45	51	62.4		3号掘立柱
P014	I A10h	69×56	40	42	62.4		
P015	I A11h	52×43	15	16	62.4		3号掘立柱
P016	I A11h	44×42	76	77	62.4		3号掘立柱
P017	I A9h	34×33	17	21	62.4		
P018	I A9h	64×60	56	60	62.4		4号掘立柱
P019	I A9g	46×41	53	56	-		4号掘立柱
P020	I A10h	53×48	-	39	62.4	有り	
P021	I A10h	50×35	88	92	-	有り	3号掘立柱
P022	I A9h	44×41	50	51	62.4	有り	4号掘立柱
P023	I A8g	63×35	-	57	-		
P024	I A10h	61×58	-	31	-	有り	
P025	I A10h	50×47	48	58	62.4		
P026	I A10h	53×46	46	53	62.4		3号掘立柱
P027	I A9g	51×43	46	49	62.4		
P028	I A9h	57×53	60	66	62.4		4号掘立柱
P029	I A8g	50×46	-	58	62.2		
P030	I A7f	36×33	-	66	-		
P031	I A7g	68×51	90	96	-	有り	5号掘立柱
P032	I A7f	45×40	92	35	62.2		
P033	I A7f	64×53	-	69	62.2	有り	5号掘立柱
P034	I A7f	66×60	-	52	62.1	有り	5号掘立柱
P035	I A7f	67×57	-	15	62.0		5号掘立柱

2 出 土 遺 物

(1) 土器の分類と土製品について

平成26・27年度調査で出土した土器・土製品の総重量は260kg弱を計る。縄文時代後期初頭から前葉にかけての遺物がそのほとんどを占め、他は縄文時代早期の貝殻文、早期末から前期初頭、中期末から後期初頭、弥生時代後期の交互刺突文をもつ一群に限られる。器種には、深鉢・鉢・浅鉢・大小の壺・釣手土器などがあり、特に後期の土器は器種のバリエーションが豊富である。

土器については、遺構内外とも以下のように分類し、主体をなす後期初頭から前葉の土器群は、榎本(2008)の当該期の編年に振り分けた。なお、土器観察表への掲載は、それぞれの群(類)にお

いて、遺構内→遺構外の順としている。

- A群→縄文時代早期中葉に属する貝殻腹縁文が施される一群（白浜式・寺の沢式相当）
- B群→縄文時代早期末葉から前期初頭に属する胎土に植物繊維を含む一群（赤御堂式相当）
- C群→縄文時代中期末葉から後期初頭に属する一群（大木10式～門前式相当）
- D群→縄文時代後期初頭から前葉に属する一群（前十腰内式および十腰内I～II式）
- * I～VI類の6つに細分。土器觀察表にはDを省略、ローマ数字のみを記載
- I類…前十腰内I式「牛ヶ沢式」など、隆帯による文様主体のもの
- II類…「湯舟沢A式」など、方形区画文等の沈線文主体のもの
- III類…「薬師前・小牧野3期」など、巴状入組文主体の十腰内I式直前段階
- IV類…連結する円環状の入組文など、十腰内I式古段階
- V類…種類豊富な入組文や帶縄文が見られる十腰内I式新段階
- VI類…複数の沈線からなる多重沈線文が見られる段階
- E類→弥生時代後期に属する一群（天王山式もしくは赤穴式）
- F類→縄文時代後期と思われる無文土器
- G類→縄文時代後期を主体とする粗製土器

土製品は、土偶（4点）、土版？（1点）、鐸形土製品（15点）、ミニチュア土器（22点）、土製円盤（86点）、耳飾り（1点）、紐状土製品（1点）、不明土製品（2点）を掲載した。この他に、鐸形土製品やミニチュア土器の破片など約80点の不掲載遺物があるが、図化できない細片であった。

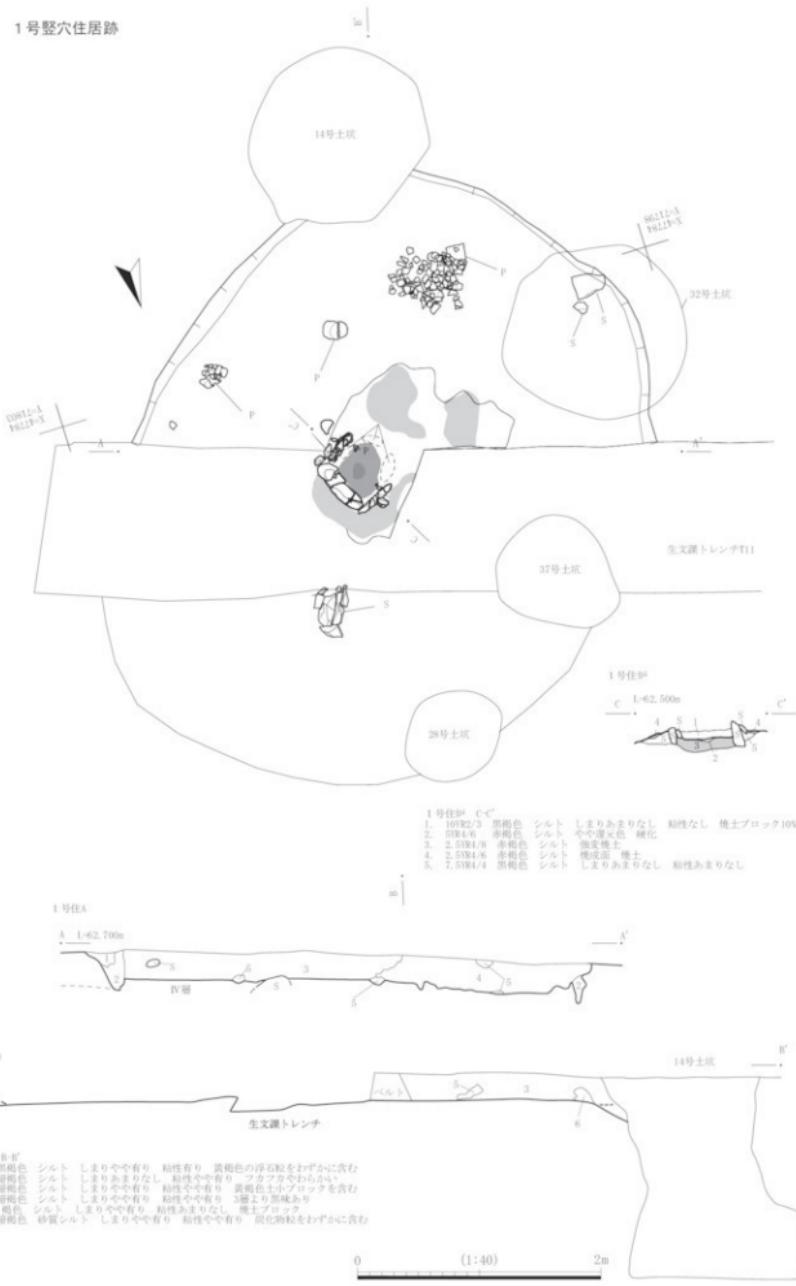
（2）石器・石製品について

2カ年の調査で出土した石器・石製品の総重量はおよそ170kg、点数は500点弱を数える。全体における器種毎の出土点数等の詳細は、第128～130図に示したとおりである。剥片石器の種類には、石鏃・石匙・石箋・異形石器・搔削器などがあり、礫石器には石斧およびその未製品・砥石・石皿台石類・敲磨器類があり、前者の特徴としては石匙が少なく、異形石器が比較的多いことが挙げられる。後者では石斧とその未製品および敲石が多いという傾向が見られたが、石斧の未製品については、須原の分類（2014）に沿り、1～4段階の別を第4表の備考欄に記載した。敲石は渋谷川流域から得られるハンレイ岩を素材とし、円形のものと長方形状のものがある。いずれも素材縁辺の一部あるいは全周が使われ、円形のものでは側面が薬研状をなすものも見られる。ハンマー的な使用が想定されるが、石斧製作工程の研磨以前の作業に関わる遺物と考えられる。

石製品（括弧内は掲載点数）には、石製円盤（18点）、有孔石製品（5点）、ヒスイ製垂飾品（1点）、石刀・石劍（6点）、石斧のミニチュア製品（2点）とその未製品（4点）、棒状石製品（1点）があり、全点掲載した。

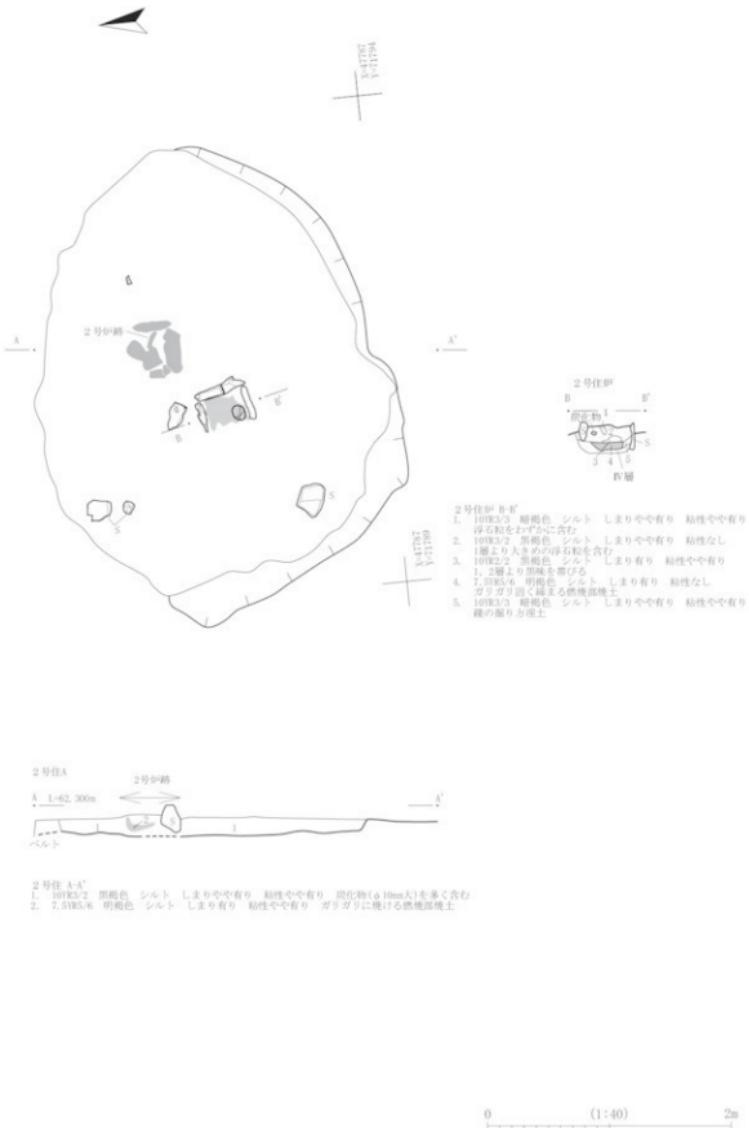
第129図右上の石器類出土分布から分かるように、これらは外帯の集石遺構周辺からの出土が多く、このことは土器・土製品類にも同様に認められる。また、第15号土坑からまとまって出土した小礫についても、第図左下に見るよう分布傾向は変わらないようである。

1号鑿穴住居跡



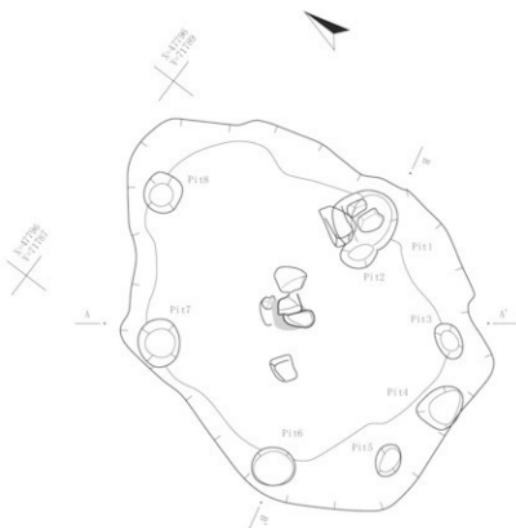
第6図 1号竪穴住居跡

2号竪穴住居跡



第7図 2号竪穴住居跡

3号堅穴住居跡



3号住A



3号住B



3号住 A-A' B-B'

1. 10YR 3/3 黄褐色 シルト

2. 10YR 5/6 黄褐色 シルト

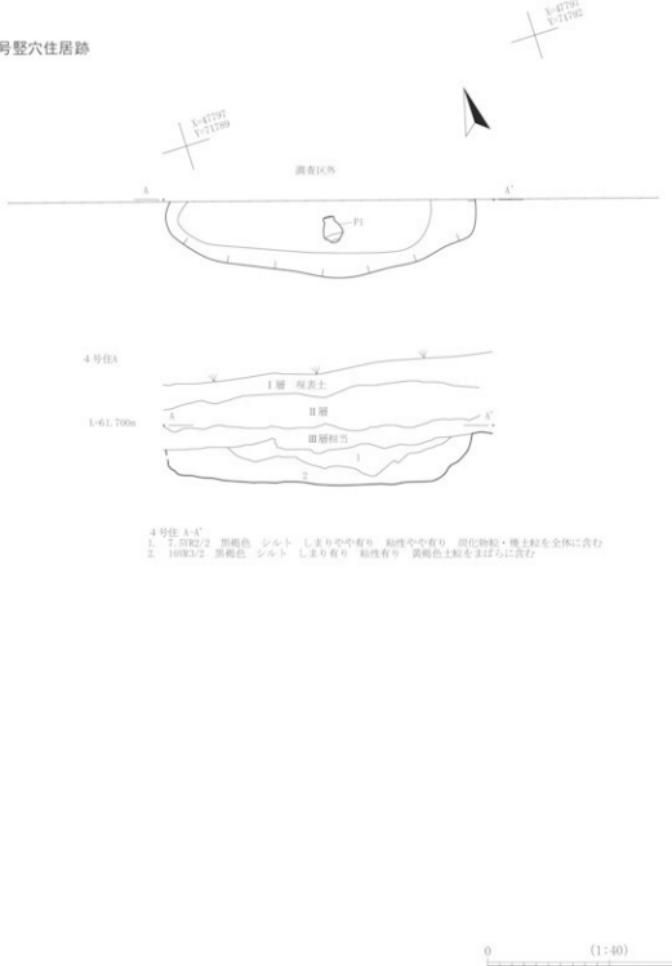
しまり少々有り 粘性少々有り 浮石粒をまばらに含む

しまり有り 粘性少々有り 全体に浮石粒を含むブロック状の土



第8図 3号堅穴住居跡

4号竪穴住居跡



第9図 4号竪穴住居跡

5号堅穴住居跡



5号住 A-A'
1. 10W2/3 黒褐色 シルト しまりあまりなし 黏性あまりなし 白色土ブロック現状

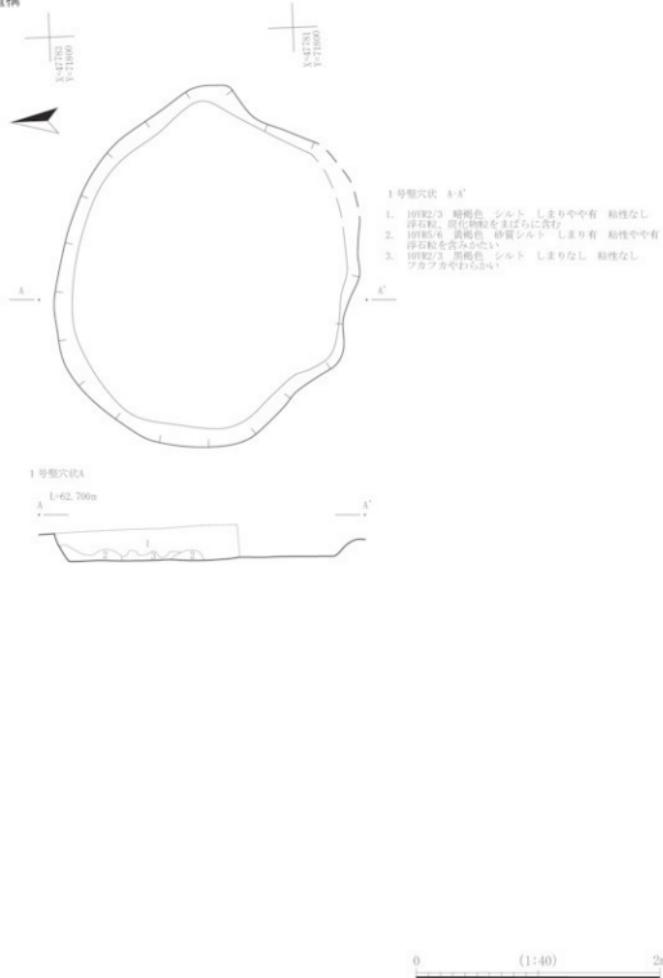
5号住P(1) C-C'
1. 2.53cm 黑褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし やや焼土ブロック面じり
2. 10W3/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし 黏性あまりなし 下面に白色土ブロック面
3. 10W2/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし 黏性あまりなし 白色土ブロックが斑状に混入(10%)

5号住B B-B'
1. 5.34cm 赤褐色 シルト 施肥土 上部硬化
2. 10W2/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし 黏性あまりなし 鮎の脛り方土

0 (1:40) 2m

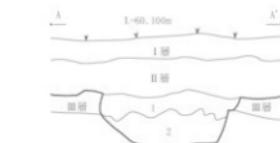
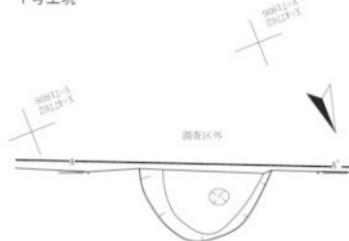
第10図 5号堅穴住居跡

1号竪穴状遺構



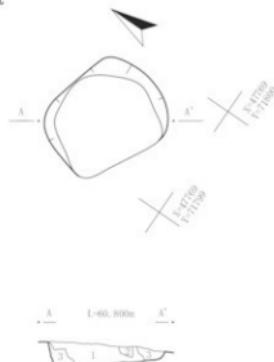
第11図 1号竪穴状遺構

1号土坑



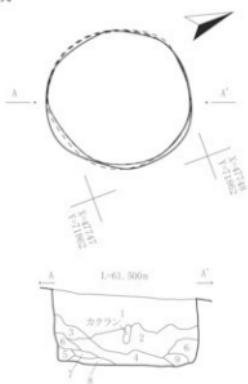
- 1号土坑
 1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 フジシマの浮石粒を含む
 2. 10YR3/3 黒褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
 黑褐色土と黄褐色土の混合土

2号土坑



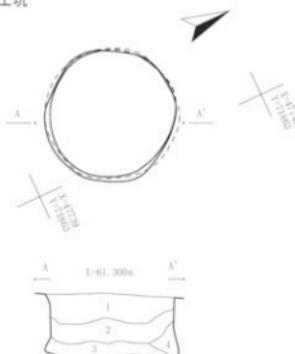
- 2号土坑
 1. 10YR4/2 黒色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 浮石粒を全体に含む。被出面はIV層上面であり最も古い土底
 2. 10YR4/3 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 1層より浮石粒を多く含みブロック状の堆積土
 3. 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
 堆積にのみ堆積する

3号土坑



- 3号土坑
 1. 10YR2/1 黑色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色ブロックを多く含む
 2. 10YR3/3 黒褐色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色ブロックを多く含む
 3. 10YR3/3 黑褐色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色砂子を多く含みサラッとし軟弱
 4. 10YR2/1 黑色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色砂子を多く含みサラッとし軟弱
 5. 10YR3/3 黑褐色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色砂子を多く含みサラッとし軟弱
 6. 10YR5/6 黄褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黑褐色ブロック 砂子を多く含み軟質
 7. 10YR3/3 黑褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黑褐色ブロックを全く含む
 8. 10YR2/1 黑色 しまりなし 粘性なし
 4番と類似し 黑褐色砂子を少な
 9. 10YR2/3 黑褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黑褐色ブロック、コロム砂子を含み軟質

4号土坑

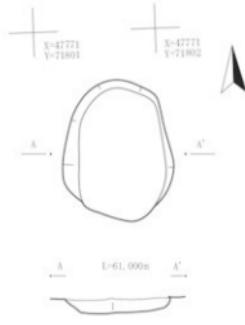


- 4号土坑
 1. 10YR2/1 黑色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色ブロックを僅かに含み軟質
 2. 10YR2/1 黑褐色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色砂子を多く含み軟質
 3. 10YR2/1 黑色 しまりなし 粘性なし
 黑褐色砂子を僅かに含み軟質
 4. 10YR2/1 黑褐色 しまりなし 粘性やや有り
 黑褐色ブロック (硬体崩壊土)、コロム砂子を多く含み軟質
 連続3号土坑と同様に僅かに軟質

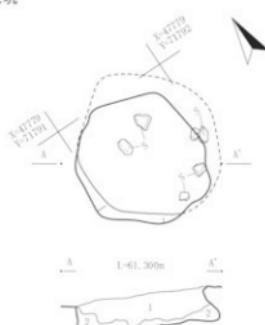
0 (1:40) 2m

第12図 1～4号土坑

5号土坑



6号土坑



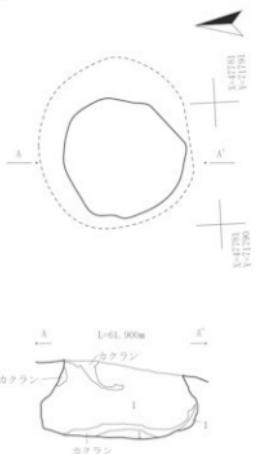
5号土坑

1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりや有り 粘性有り
人為的埋め戻し? 1~30mm人の浮石が混入

6号土坑

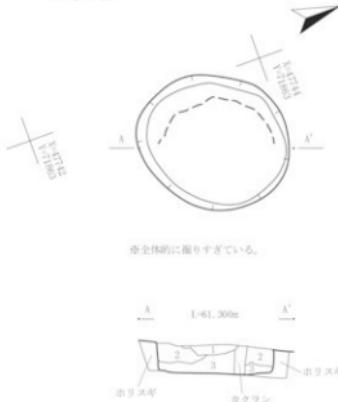
1. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性や有り
浮石をわずかに含む人為堆積層
2. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりや有り 粘性有り (強)
堆山崩落土

7号土坑



7号土坑
1. 10YR3/6 明黄褐色 シルト しまり有り 粘性有り
人為堆積層でボサボサする

8号土坑

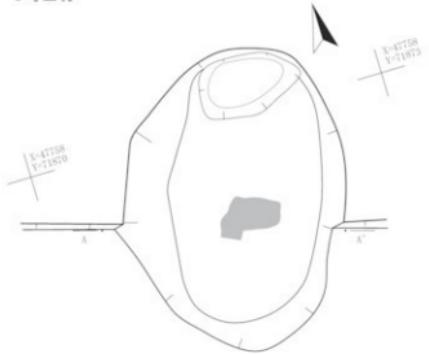


8号土坑
1. 10YR3/6 暗黒褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色ブロック層に黒褐色土が混在
2. 10YR3/7 黑褐色 しまり有り 粘性なし
黒褐色土層、軽く風化した状態
3. 10YR2/3 黑褐色 しまり有り 粘性なし
黄褐色土と黄褐色粒子が2層より多い
堆積土は全体に固く入り、10号土坑と同様に
上部にローム層(ブロック)疊がみられる

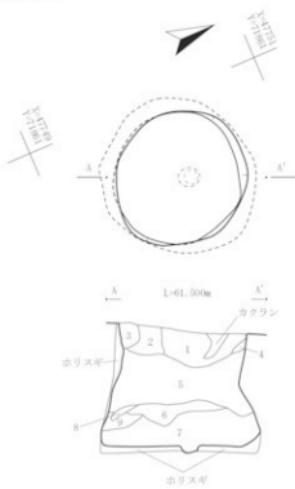
0 (1:40) 2m

第13図 5~8号土坑

9号土坑



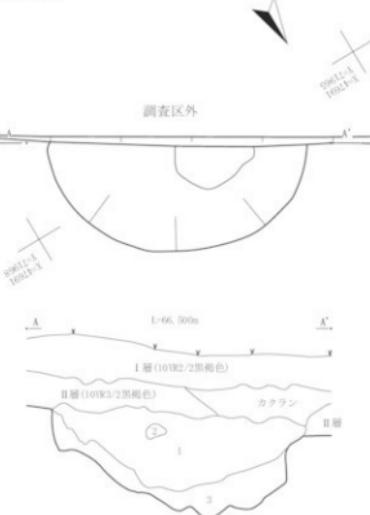
10号土坑



10号土壤

1. 107K24 暗褐色。しまりなし。粘性なし。
黄褐色アブロウ。粘性なし。味もまろ（異質）
2. 107K25 暗褐色。しまりなし。味くしまる。
黄褐色オーロック。粒子が非常に細くしまる。
3. 107K27 暗褐色。しまりなし。味くしまる。
黄褐色アブロウ。味くしまる。味濃い上か
4. 107K28 暗褐色。しまりなし。粘性なし。
黄褐色アブロウ。（味濃い系）
5. 107K29 暗褐色。しまりなし。味くしまる。
黄褐色アブロウ。味くしまる。
6. 107K30 黒色。しまりなし。粘性なし。
黒い小豆の香り。味くしまる。味濃い近くは酸味
7. 107K31 暗褐色。しまりなし。粘性なし。
黒い小豆の香り。味くしまる。味濃い
8. 107K32 暗褐色。しまりなし。味やや苦味。
黒い小豆の香り。味くしまる。味濃い
9. 107K33 暗褐色。しまりなし。粘性なし。
黒い小豆の香り。味くしまる。味濃い
10. 107K34 暗褐色。しまりなし。粘性なし。
黒い小豆の香り。味くしまる。味濃い

11号土坑



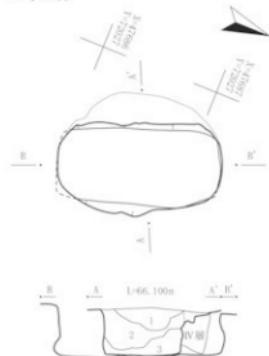
- 11号工法

 1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
暗褐色土ブロックとの混合土で浮石粒をまばらに含む
 2. 10YR4/6 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
暗褐色土小ブロック食む
 3. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
ブロック食む

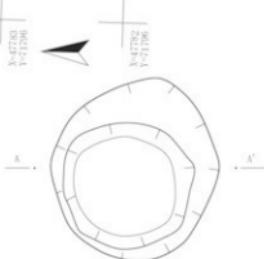
0 (1:40) 2

第14図 9~11号土坑

12号土坑

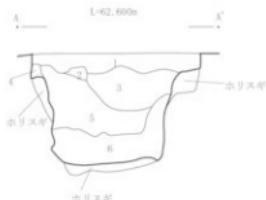


13号土坑

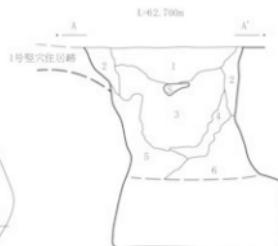
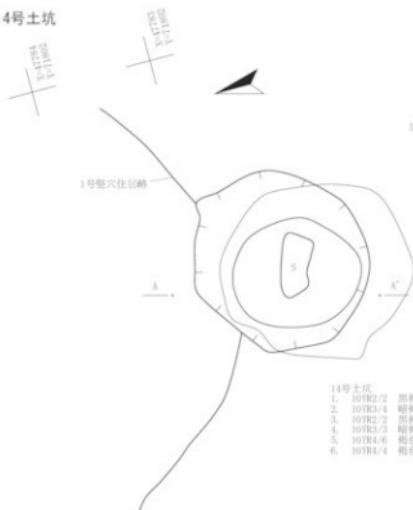


13号土坑

1. 10YE2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石粒を全体に含む
2. 10YE2/2 黒色 シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より堅硬な状態
3. 10YE2/3 黒色 シルト しまりやや有り 粘性有り
1層より浮石粒の混入が多く黒味も強い



14号土坑

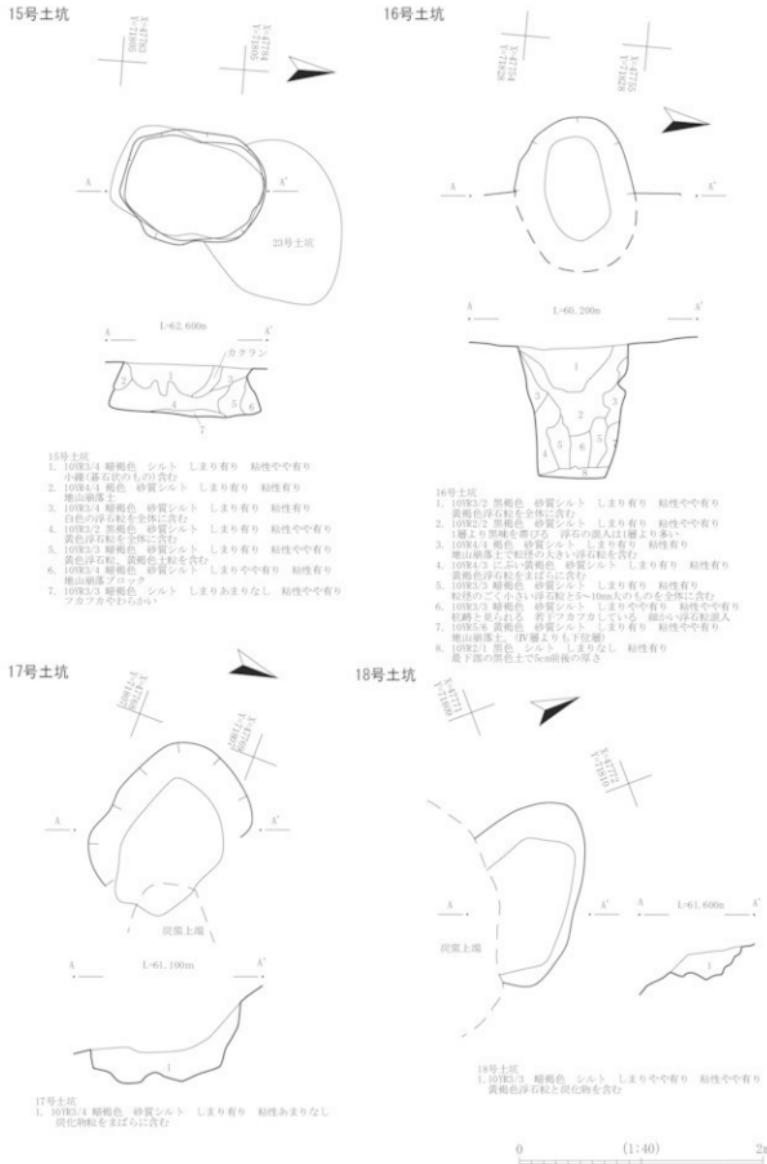


14号土坑

1. 10YE2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性あまりなし 浮石粒をわずかに含む
2. 10YE2/4 坚褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落土(Ⅲ・Ⅳ層混合)
3. 10YE2/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 坚褐色土+オブジェクトとの混合土
4. 10YE2/3 黑褐色 シルト しまり有り 粘性有り 3層より粘性強い
5. 10YE2/4 黑褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 地山崩落土(Ⅲ・Ⅳ層混合)
6. 10YRA/4 梅色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り 廃棄物粒をわずかに含む

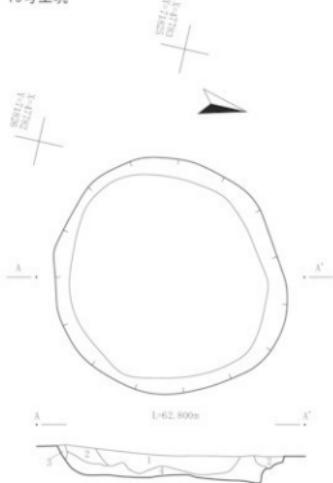
0 (1:40) 2m

第15図 12~14号土坑

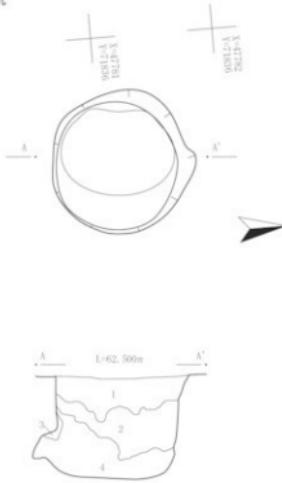


第16図 15~18号土坑

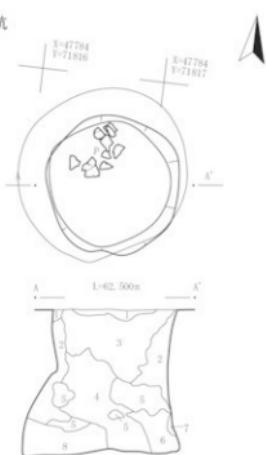
19号土坑



20号土坑



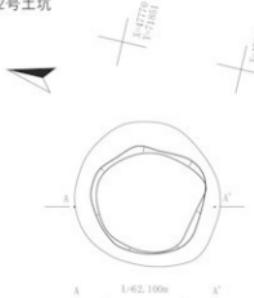
21号土坑



0 (1:40) 2m

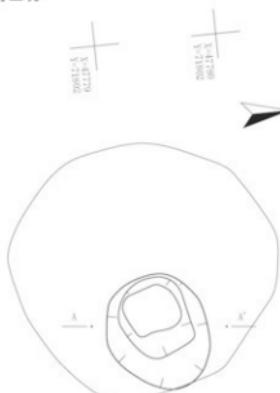
第17図 19~21号土坑

22号土坑

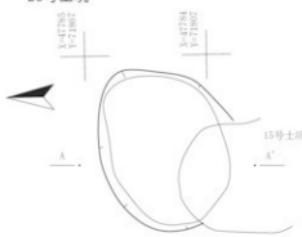


- 22号坑
 1. 10RE/3 嫠褐色 粘土質シルト しまりやや有り 黏性有り
 黄褐色浮石粉を全体に含む
 2. 10RE/4 褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 黏性有り
 浮石粉、炭化物をまばらに含む
 3. 10RE/5 嫠褐色 粘土質シルト しまりやや有り 黏性有り
 地山崩落ブロック
 4. 10RE/3 嫠褐色 粘土質シルト しまりやや有り 黏性やや有り
 灰白色の小ブロック含む
 5. 10RE/4 嫠褐色 粘土質シルト しまりやや有り 黏性やや有り
 ブロック状の混合層
 6. 10RE/4 嫠褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 黏性有り
 浮石粉(粒径小)を全体に含む

24号土坑



23号土坑



23号土坑は15号土坑の底面で検出したもの。



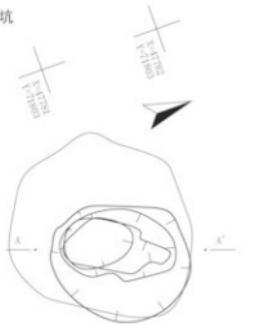
- 23号土坑
 1. 10RE/4 嫠褐色 粘土質シルト しまり有り 黏性有り
 黄褐色浮石粉をまばらに含む
 2. 10RE/4 褐色 粘土質シルト しまり有り 黏性有り
 1層より黒鐵を帯びる 混入物はいずれも黒く緑まる

- 24号土坑
 1. 10RE/3 嫠褐色 シルト しまりやや有り 黏性なし
 駆逐の小さな浮石粉含む
 2. 10RE/4 嫠褐色 シルト しまり有り 黏性やや有り
 浮石粉をたゞらに含む
 3. 10RE/3 嫠褐色 粘土質シルト しまり有り 黏性やや有り
 ϕ3~5mmの大浮石粉含む
 4. 10RE/4 嫠褐色 粘土質シルト しまり有り 黏性有り
 黒より黒い浮石粉を含む浮石粉の混入も含む
 5. 10RE/3 嫠褐色 シルト しまりなし 黏性やや有り
 ロームの小ブロック含む
 6. 10RE/3 嫠褐色 シルト しまりなし 黏性なし
 浮石粉混入のブロック含む
 7. 10RE/1 嫠褐色 シルト しまりなし 黏性やや有り
 崩壊した黄褐色土のロック含む
 8. 10RE/3 嫠褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り
 9. 10RE/4 嫠褐色 シルト しまりやや有り 黏性有り
 10. 崩落ブロック

0 (1:40) 2m

第18図 22~24号土坑

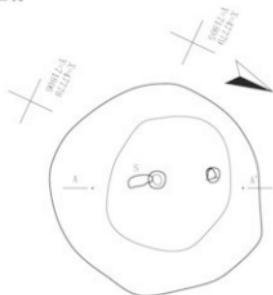
25号土坑



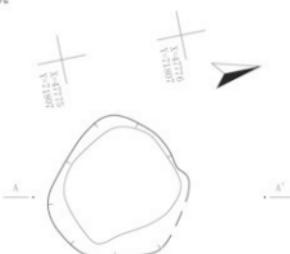
25号土坑

0. 10W3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
1. 10W3/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
2. 10W3/2 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
3. 10W3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性有り
4. 10W2/2 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
5. 10W2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性有り
水平に堆積する最上層の黒土

26号土坑

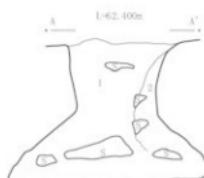


27号土坑



26号土坑

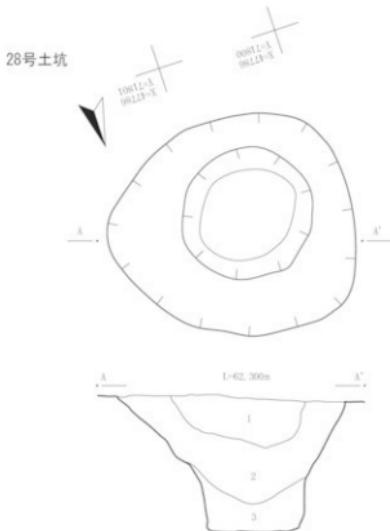
1. 10W2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
2. 10W2/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
3. 黄褐色土20%混入
4. 10W4/3 に近い黄褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
黄褐色土20%



- 26号土坑
1. 10W2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
2. 10W2/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
3. 黄褐色土20%

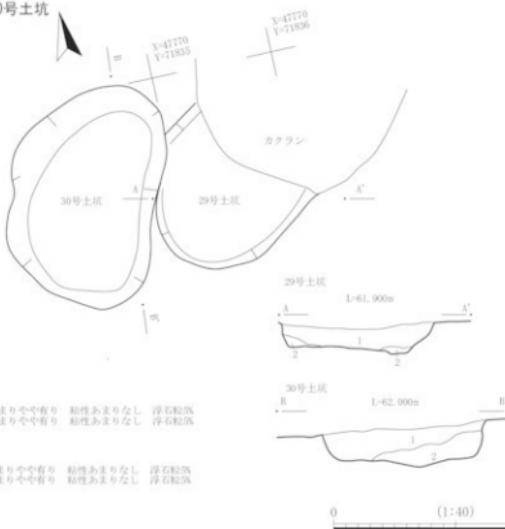
0 (1:40) 2m

第19図 25~27号土坑



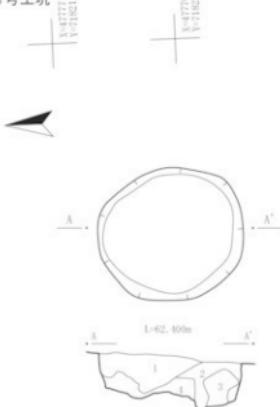
28号土坑
 1. 109R2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
 2. 109R2/3 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし 黒色土ブロック20%
 3. 109R3/3 鮎褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 浮石40%

29号・30号土坑



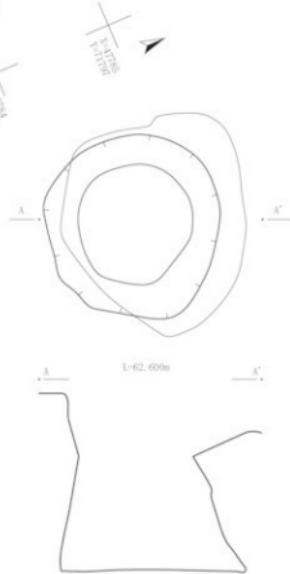
第20図 28~30号土坑

31号土坑

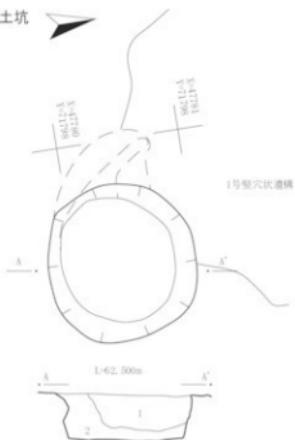


- 31号土坑
- 10TR2/1 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
褐色土ブロック8%
 - 10TR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
褐色土
 - 10TR2/3 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
浮石40%
 - 10TR4/1 極色 粘土質シルト しまり有り 粘性あまりなし

32号土坑

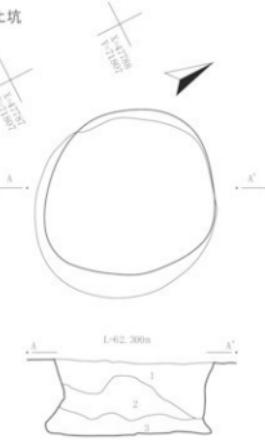


33号土坑



- 33号土坑
- 10TR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
褐色土, 黒褐色土ブロック含む
 - 2, 7, 8TR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし

34号土坑

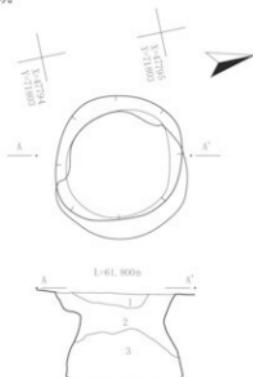


- 34号土坑
- 10TR2/1 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
下部は褐色土ブロック10%
 - 10TR4/1 極色 粘土質シルト しまりやや有り
粘性やや有り 浮石ブロック
 - 10TR2/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
炭化植物含む

0 (1:40) 2m

第21図 31~34号土坑

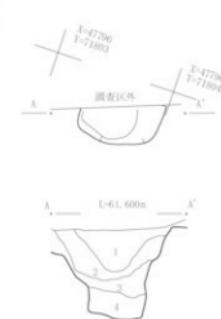
35号土坑



35号土坑

1. 10YR5/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
3. 7.5YR2/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
均質

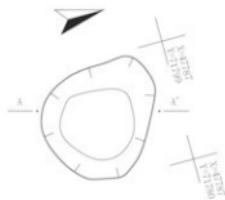
36号土坑



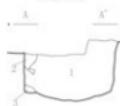
36号土坑

1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
2. 10YR2/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
3. 10YR2/2 黑褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
4. 10YR2/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし

37号土坑



L-62.400m

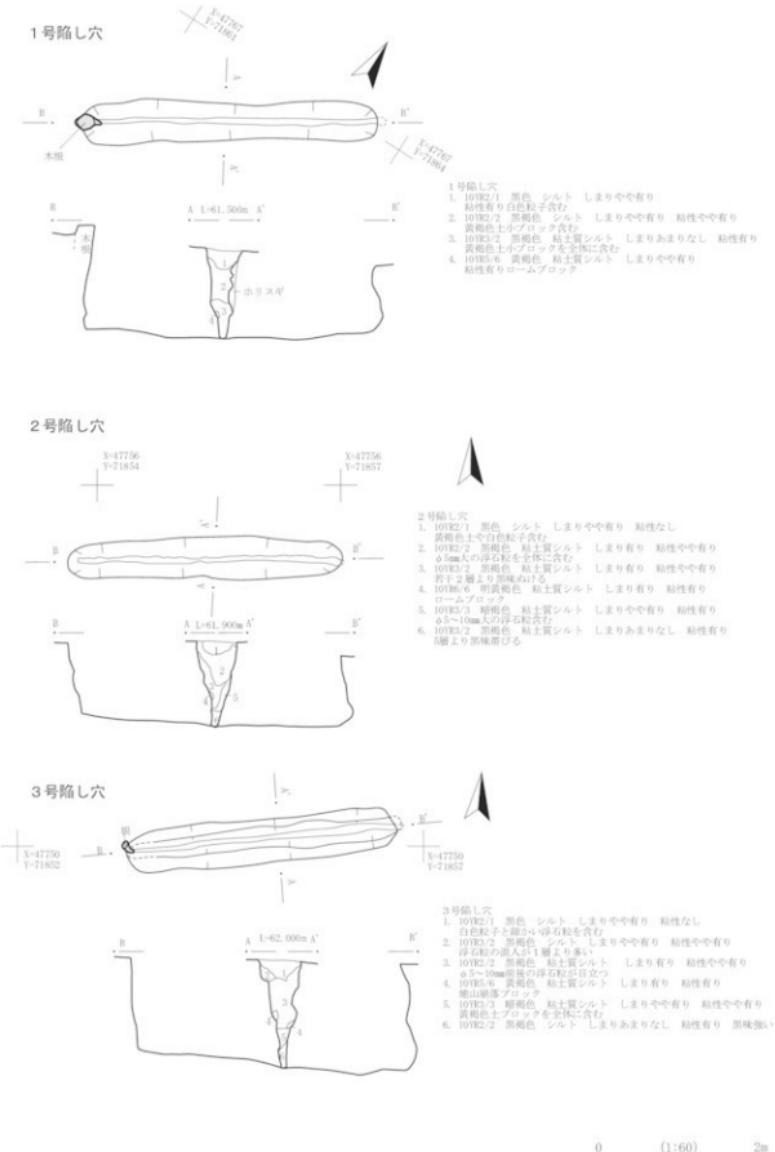


37号土坑

1. 10YR2/2 黑褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 10YR2/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
に点々黄褐色 シルト しまり有り 粘性有り
3. 10YR1/3

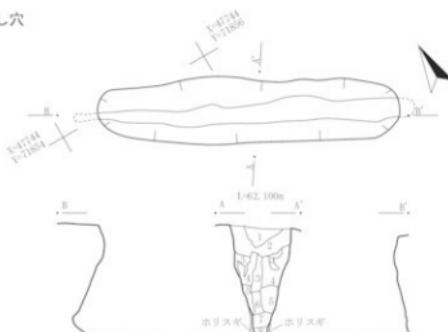
0 (1:40) 2m

第22図 35~37号土坑



第23図 1～3号陥し穴状構造

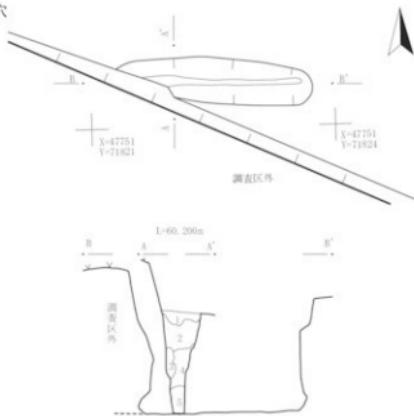
4号陥し穴



4号陥し穴

1. 10Y2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 白色粒子多めに含む
2. 10Y3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 黄褐色土塊 黑色土小ブロックを全体に含む
3. 10Y2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り 2層とよりしまりなく 黄褐色土の混入多い
4. 10Y2/3 黒褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り 黑色土塊
5. 10Y6/6 黑褐色 シルト しまりやや有り 黑色土塊 黑色の地山崩落土で漂石粒を(Φ5mm)もわずかに含む
6. 10Y3/6 黑褐色 シルト しまりやや有り 黑色土塊 クラス化
7. 10Y3/3 黑褐色 シルト しまりやや有り 黑色土塊 黑色の地山崩落土で漂石粒を(Φ5mm)もわずかに含む
8. 10Y2/2 黑褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性ややあり 基下部の黒褐色土

5号陥し穴



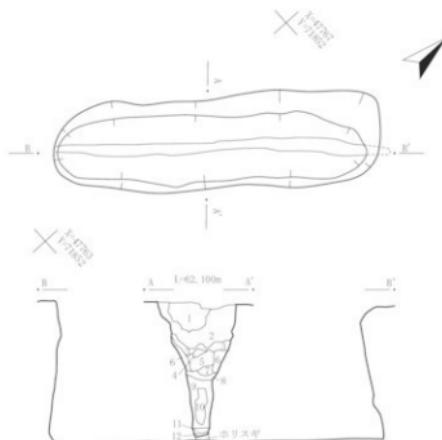
5号陥し穴

1. 10Y2/1 黒色 シルト しまりや有り 黄褐色の粒子を全般に含む
2. 10Y3/2 黑褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 1~3mmの漂石粒を含む
3. 10Y2/3 黑褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 漂石粒の混入が2層より多い
4. 10Y2/2 黑褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 黑褐色を帯びる
5. 10Y2/1 黑色 シルト しまりなし 粘性やや有り しまりのないカバカした最下部の黑色土

0 (1:60) 2m

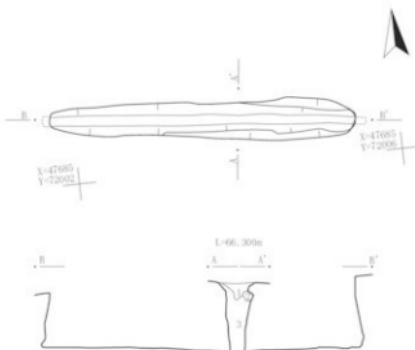
第24図 4・5号陥し穴状構造

6号陥し穴



- 6号陥し穴
1. 10YR5/1 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り 白色粒子、黄褐色土粒をまばらに含む
 2. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし $\phi 2\sim\phi 4$ mmの浮石粒を含む
 3. 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし ブルクチコ色の小ブロックを含む 浮石粒主体の層
 4. 10YR4/5 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
 5. 10YR4/4 黒褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 浮石粒を全休に含む
 6. 10YR5/4 黄褐色 粘土 しまりやや有り 粘性有り 浮石粒 (4.5~10mm) を全体に含む
 7. 10YR6/9 黄褐色 混合層 地山崩落土 (浮石粒) しまりやや有り 粘性有り (強)
 8. 10YR6/8 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り (強) 地山崩落土
 9. 10YR4/6 黒褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り 地山崩落土
 10. 10YR4/6 黒褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り 離代 (松代) にフカフカやわらかく
 11. 10YR3/3 黄褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り (しまりなくやわらかく)
 12. 10YR4/6 黒褐色 粘土 しまり有り 粘性有り 最下部の地山崩落土

7号陥し穴

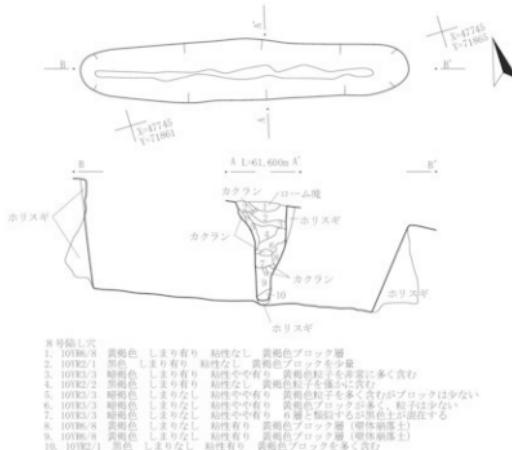


- 7号陥し穴
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 黄褐色土粒 (浮石粒) まばらに含む
 2. 10YR3/2 黑褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り 浮石粒を含むブロック状の地山崩落土
 3. 10YR3/2 黑褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし 浮石粒を全休に含む

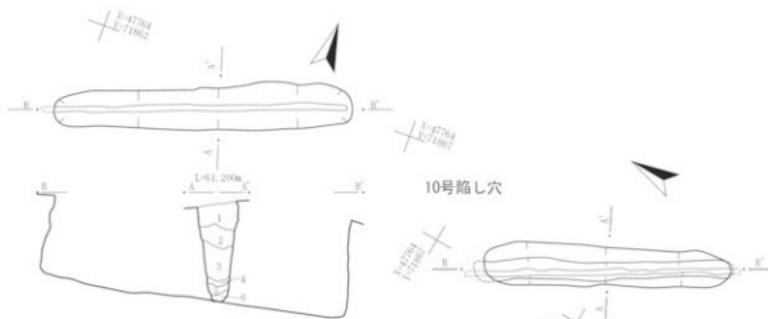
0 (1:60) 2m

第25図 6・7号陥し穴状遺構

8号陥し穴



9号陥し穴



10号陥し穴

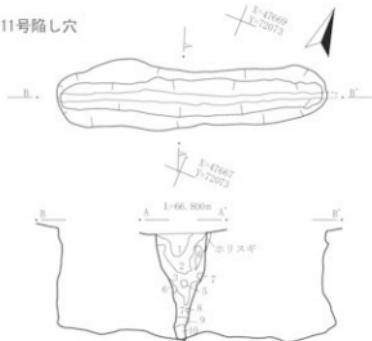


- 10号陥し穴
1. 10YR2/2 黄褐色 しまりなし 粘性なし 黄褐色粒子を少量含む
 2. 10YR2/2 黄褐色 しまりなし 粘性なし 黄褐色ブロックを多く含む、
粒子は1層より少ない
 3. 10YR2/2 黄褐色 しまりなし 粘性なし 黄褐色粒子を僅かに含む
基本1層細層の崩落土が主体
 4. 10YR2/2 黄褐色 しまりなし
 5. 10YR2/2 黄褐色 しまりなし 粘性なし 黄褐色粒子を僅かに含む
6. 10YR2/1 黑色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色土を斑状に含む
7. 10YR2/1 黄褐色 しまりなし 粘性やや有り 黄褐色ブロックを多く含む
(堅体崩落土)

0 (1:60) 2m

第26図 8~10号陥し穴状遺構

11号陥し穴



11号陥し穴
1. 10Y2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性有りなし
粗入物なく黒っぽい

2. 10Y2/2 黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
粗入物多く石粉を含む

3. 10Y3/3 褐褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
地山礫落ブロックを含み2層より色調異なる

4. 10Y4/1 黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
地山礫落ブロックを含む

5. 10Y4/6 褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
ブロック状

6. 10Y5/1 黄褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
3層より地山礫落ブロックの混入有り

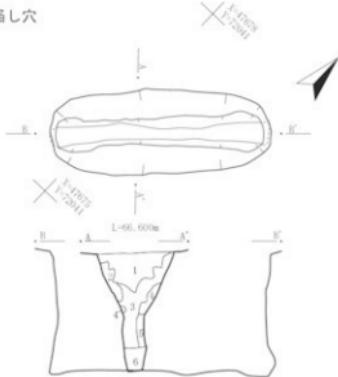
7. 10Y6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
地山礫落

8. 10Y6/7 明黄褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
ブロック状

9. 10Y6/5 に似る 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り
粘性有り (選)

10. 10Y6/9 明黄褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り
地山の堆積土でワカラガやわらか

12号陥し穴



12号陥し穴
1. 10Y2/2 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
褐色土粒を全体にまばらに含む

2. 10Y3/3 褐褐色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
粗入物多く大粒有り

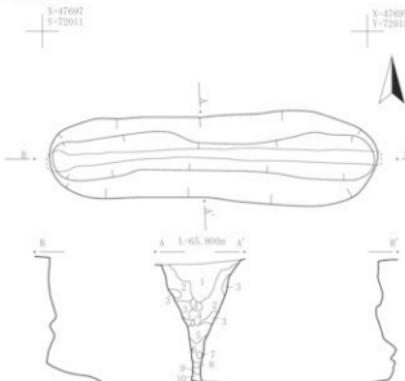
3. 10Y2/3 黒褐色 砂質シルト しまり有り 粘性有り
2層に似るが加味強

4. 10Y6/6 明黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
地山の堆積土

5. 10Y3/3 褐褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
黄褐色土小ワブロック含む

6. 10Y6/9 明黄褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性有り
カカシ化した最下部の土 最下部にあるはずの黒色土は不明瞭

13号陥し穴



13号陥し穴
1. 10Y2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
粗入物ほとんどなし

2. 10Y3/2 黑褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
1層多く黒褐色

3. 10Y3/6 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
ロームブロックで石粉を含む

4. 10Y4/4 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
3層多く黒褐色

5. 10Y3/3 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
浮石粒をまばらに含む 黒褐色土と褐色土の混合土

6. 10Y3/6 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
地山の堆積土

7. 10Y3/2 黄褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
ブロック状

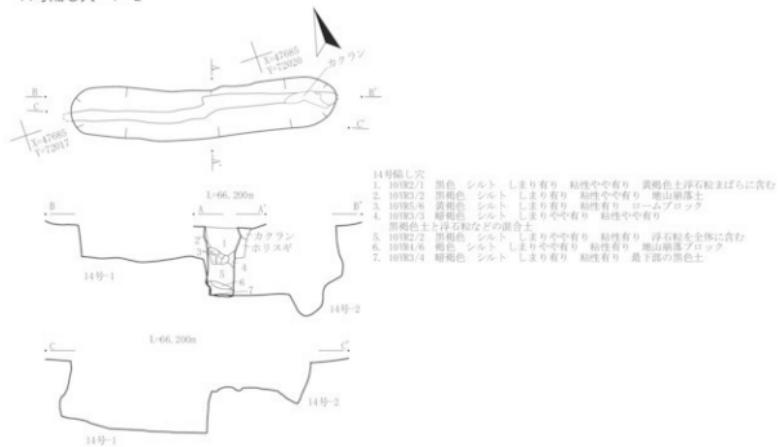
8. 10Y3/6 黄褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り
地山の堆積土 黄褐色土ワブロック含む

9. 10Y3/4 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
記載なし

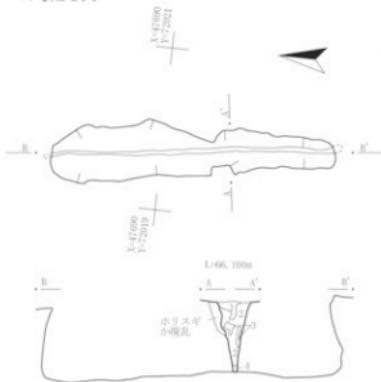
0 (1:60) 2m

第27図 11~13号陥し穴状遺構

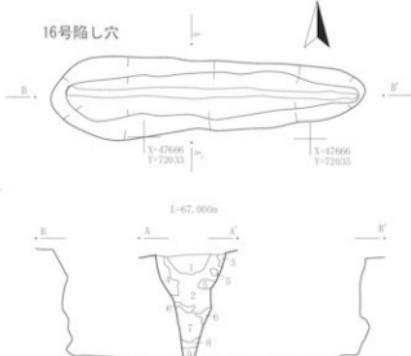
14号陥し穴-1・2



15号陥し穴



16号陥し穴



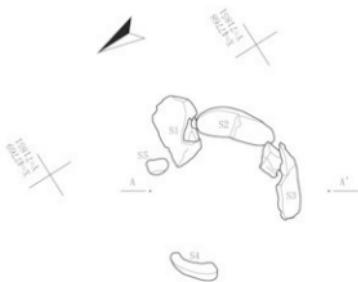
- 15号陥し穴
 1. 10YR2/1 黒色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 黄褐色浮石粒
 2. 10YR2/3 黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
 海山崩落フロック含む
 3. 10YR4/6 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
 フラット
 4. 10YR2/2 黑褐色 粘土質シルト しまりなし 粘性有り
 最下部の黒色土でしまりなくカクガ

- 16号陥し穴
 1. 10YR2/1 黒色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 黄褐色浮石粒をまばらに含む
 2. 10YR2/2 黑褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
 浮石粒の多く含む
 3. 10YR4/4 黒色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
 海山崩落
 4. 10YR2/3 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
 2段に分かれ
 5. 10YR5/3 黄褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
 海山崩落フロック
 6. 10YR2/4 黑褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
 フラットの黒褐色
 7. 10YR3/3 黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
 しまりのない黄褐色土と黒褐色土の混合土
 8. 10YR3/4 黄褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性有り
 浮石粒を多量含む海山崩落
 9. 10YR3/5 黄褐色 粘土質シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
 最下部の黒褐色のあらんだが堅脆は強くな

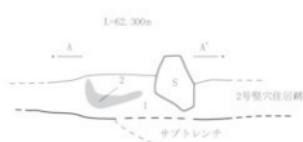
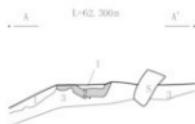
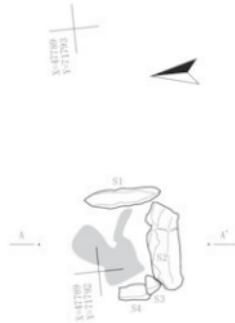
0 (1:60) 2m

第28図 14-1~16号陥し穴状遺構

1号炉跡



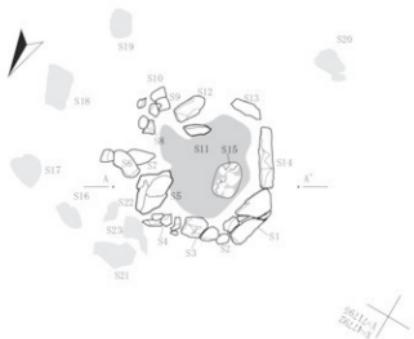
2号炉跡



1号炉跡

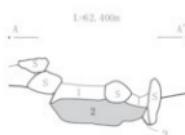
1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまり有り 黏性なし
燒土粒を多く含む
2. 7. 0YR6/4 明褐色 シルト しまり有り 黏性なし
明褐色燒土粒を全体に含む
3. 10YR3/3 黒褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り
黒褐色2層下層褐色土下層

3号炉跡



2号炉跡

1. 10YR3/2 黒褐色 シルト しまりや有り 黏性やや有り
炭化物(φ10mm大)を多く含む
2. 7. 0YR6/6 明褐色 シルト しまり有り 黏性やや有り
焼けのいい土土

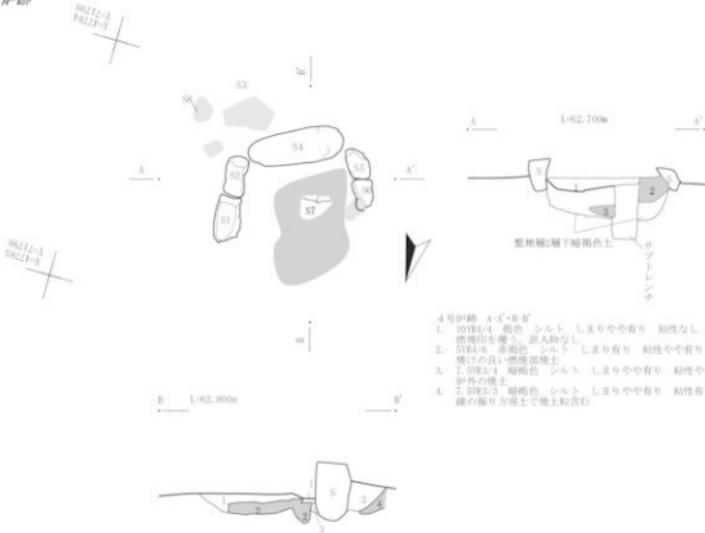


1. 10YR3/3 黒褐色 シルト しまり有り 黏性やや有り
白色粒子を全体に含む
2. 7. 0YR4/4 褐色 シルト しまり有り 黏性やや有り
褐色土粒を多く含む、カッコガラスの多い土
3. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりなし 黏性やや有り
緑の風化土

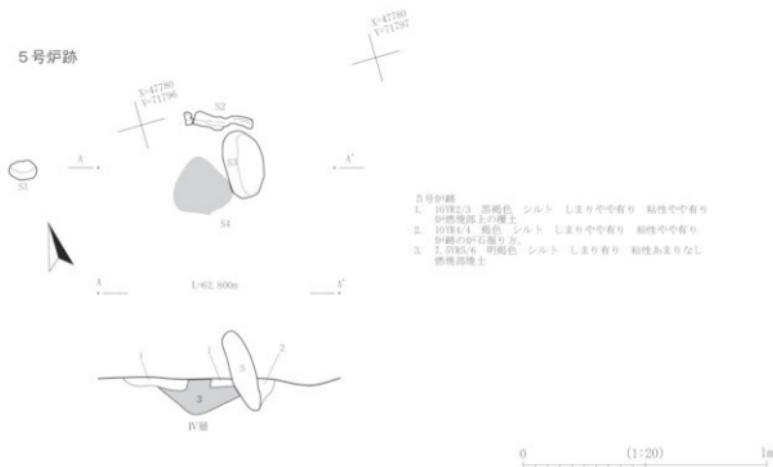
0 (1:20) 1m

第29図 1～3号炉跡

4号炉踪

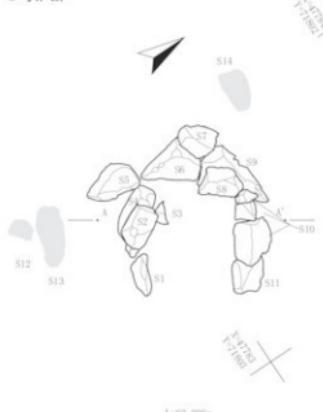


5是恒定

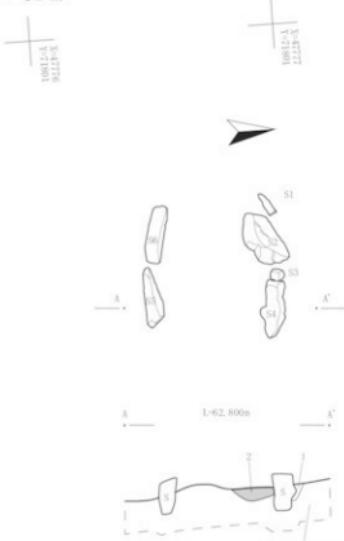


第30図 4・5号炉跡

6号炉跡



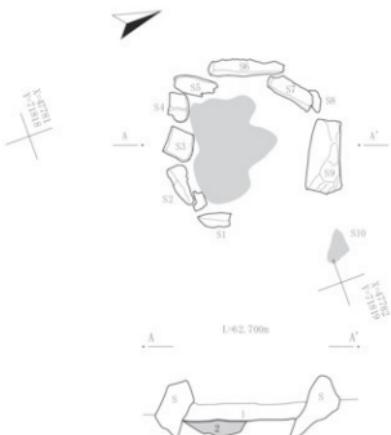
7号炉跡



6号炉跡
L-1093/2 黒褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
炭化物鉱。灰の粒をまばらに含む

7号炉跡
1. 1093/4 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性や有り
2. 5184/4 黒褐色 シルト しまり有り 粘性なし
燒土ブロックで燃焼部と思われるが規格は小さい

8号炉跡

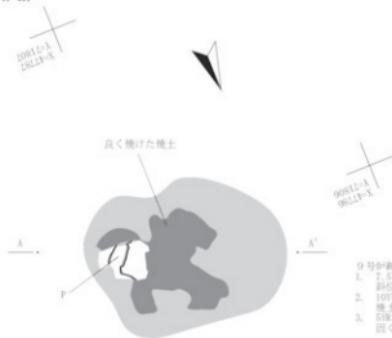


8号炉跡
1. 1093/4 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性有り
浮遊含み 灰の粒を含む
2. 5184/4 黑褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
燃焼部焼土で因く縮まり焼けはやや良好

0 (1:20) 1m

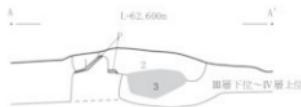
第31図 6~8号炉跡

9号炉跡

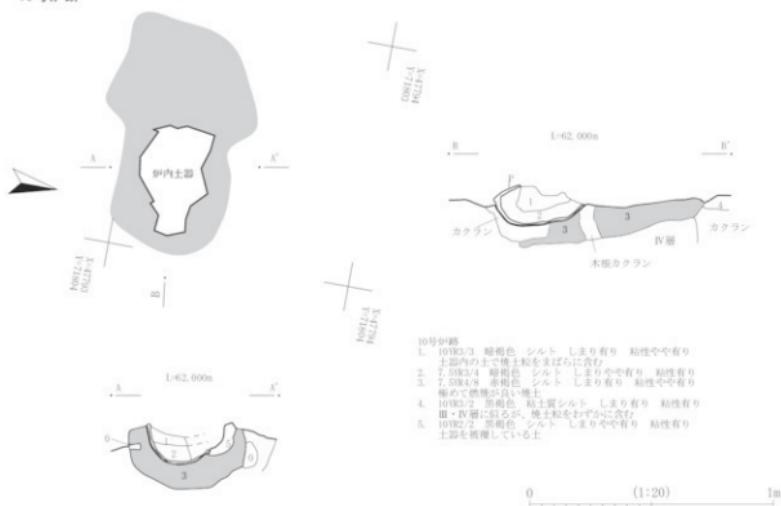


9号炉跡

1. 7. 5184.6 桐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
2. 7. 5184.6 桐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
焼土をまばらに含む
3. 5185.6 明赤褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性やや有り
固く焼けた良い焼土で厚みがある



10号炉跡



第32図 9・10号炉跡

1号焼土

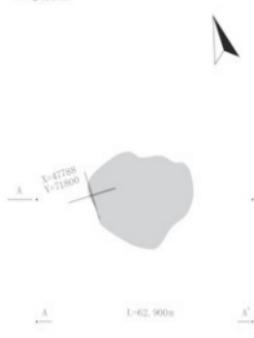


2号焼土

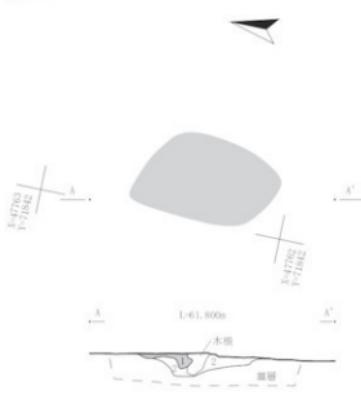
1号焼土
1. 7.5m5/6 明赤褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
後付けの薄い燃焼層地帯

2号焼土
1. 5m5/8 明赤褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
後付けは良好な燃焼層地帯
2. 7.5m4/5 褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
燃焼層の褐色土は被熱した状況 くすんだ色調

3号焼土



4号焼土

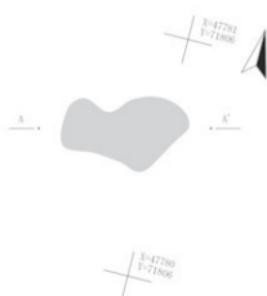
3号焼土
1. 7.5m4/4 褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
燃焼層が被熱 成化物質を多く含む 焼けは良好

4号焼土
1. 5m4/6 褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
比較的薄い部分の良好な性状
2. 10m3/3 褐色 シルト しまりやや有り 粘性有り
燃焼層が被熱した部分 1層に比べ焼け方が極めて弱い



第33図 1～4号焼土遺構

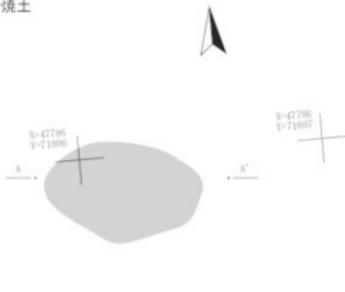
5号焼土



5号焼土
1-62,800m \rightarrow
基層相当

5号焼土
1. 7.5YR5/4 棕色 シルト しまりやや有り 粘性なし
部分的に粘土粒含むが少ない

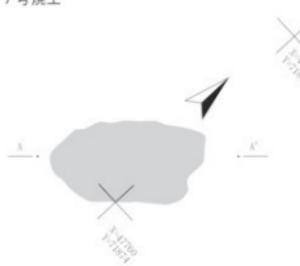
6号焼土



6号焼土
1-62,700m \rightarrow
基層相当

6号焼土
1. 7.5YR4/4 棕色 シルト しまりやや有り 粘性有り
僅けの高い焼土で部分的に緑色焼土粒含む

7号焼土



7号焼土
1-59,600m \rightarrow
基層
カクラン
2

7号焼土
1. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
浮石粒を僅かに含む
2. 10YR4/4 棕色 シルト しまり有り 粘性有り
3. 7.5YR5/6 明褐色 基土質シルト しまりやや有り 粘性有り

8号焼土



8号焼土
1-62,900m \rightarrow
基層
カクラン
2

8号焼土
1. 2. 7.5YR4/4 棕褐色 焼土 しまり有り 粘性なし
2. 基層部分が少々
3. 10YR3/4 鮮褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
木根によるカクランが

0 (1:20) 1m

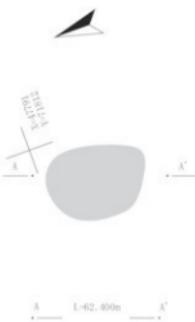
第34図 5～8号焼土遺構

9号焼土



9号焼土
1. 7.5R4/8 黄褐色 シルト しまり有り 粘性なし
2. 10YR4/4 嫩褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
木根による變化?

10号焼土



10号焼土
L. 7.5R5/4 に似る黄褐色 シルト しまりや有り 粘性なし
木根による焼土

11号焼土



11号焼土
1. 7.5R4/6 黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り 滑けの極めて良い焼土
2. 7.5R3/2 嫩褐色 シルト しまり有り 粘性あまりなし 粘性やや有り
黒色焼土板をわずかに含む

12号焼土

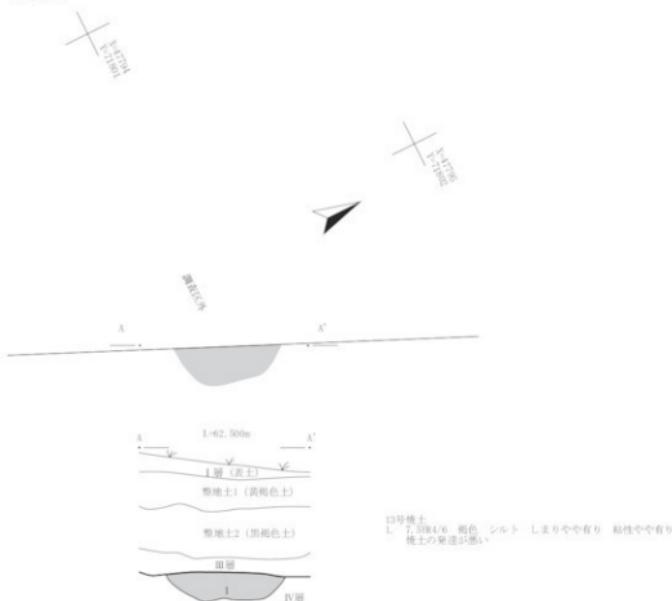


12号焼土
1. 7.5R5/6 明褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
プロック状の焼土
2. 10YR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
黒色焼土板をわずかに含む

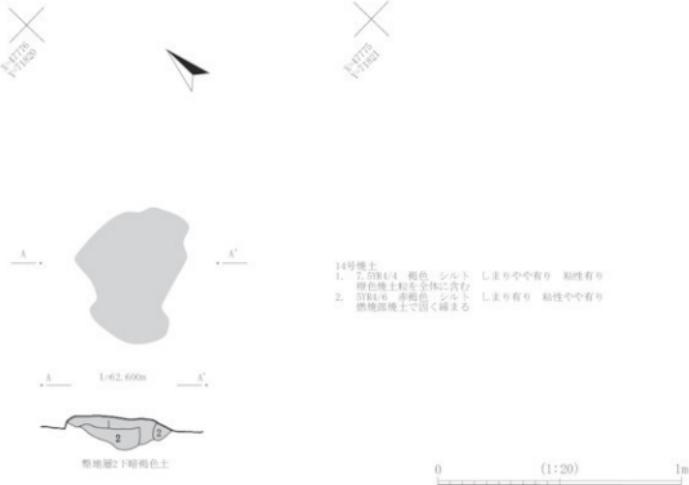
0 (1:20) 1m

第35図 9~12号焼土遺構

13号焼土

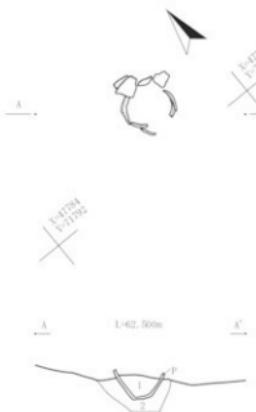


14号焼土



第36図 13・14号焼土遺構

1号埋設土器



1号埋設土器

1. 10YR4/3 に近い黄褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
上部の盛り土塊に砂質の小粒有る
2. 10YR4/4 黄色 シルト しまりあまりなし 粘性なし
掘り方埋土でカクカしている

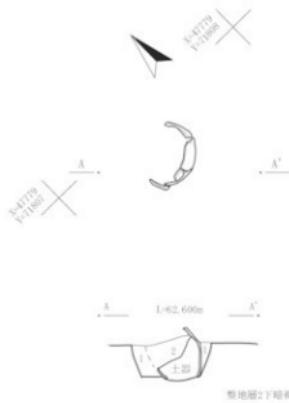
3号埋設土器



3号埋設土器

1. 7.5YR2/1 黄色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
黒色土に暗褐色土斑状に混入
2. 10YR2/2 墓地層 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
3. 10YR2/3 黑褐色 シルト 墓地層相当

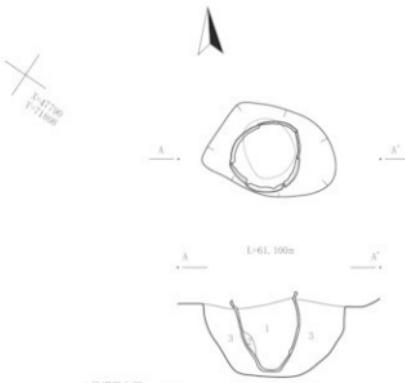
2号埋設土器



2号埋設土器

1. 黄褐色 シルト しまり有り 粘性なし
上部の盛り土塊に
2. 10YR3/2 黑褐色 シルト しまりあまりなし
土壌内の土塊

4号埋設土器



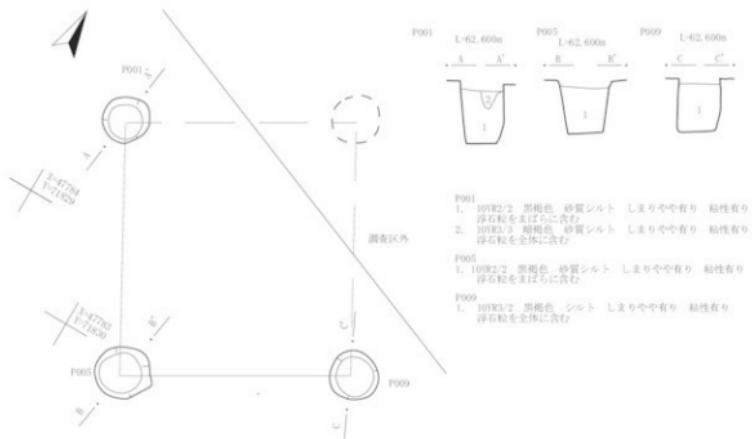
4号埋設土器

1. 10YR3/3 黑褐色土 しまりなし 粘性あまりなし
炭化物1%
2. 10YR4/3 に近い黄褐色土 しまりあまりなし 粘性あまりなし
上部の盛り土塊に
3. 10YR3/4 黑褐色土 しまりなし 粘性あまりなし

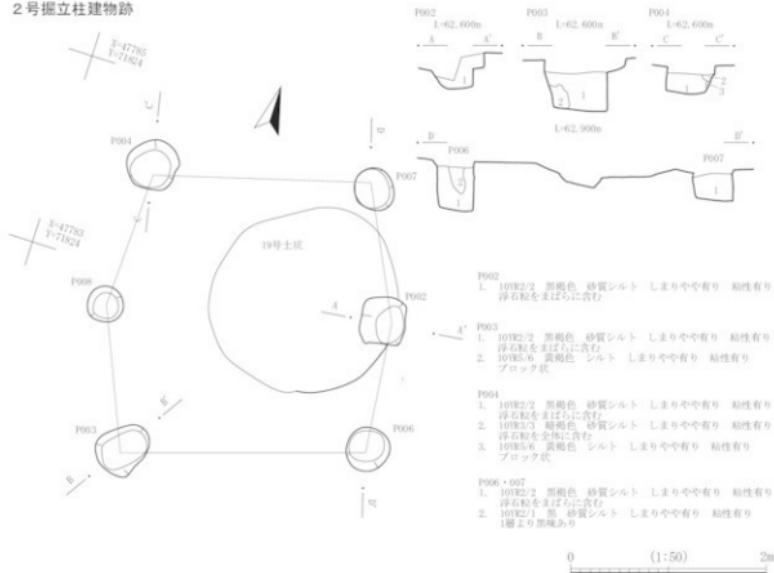
0 (1:20) 3m

第37図 1～4号埋設土器

1号掘立柱建物跡

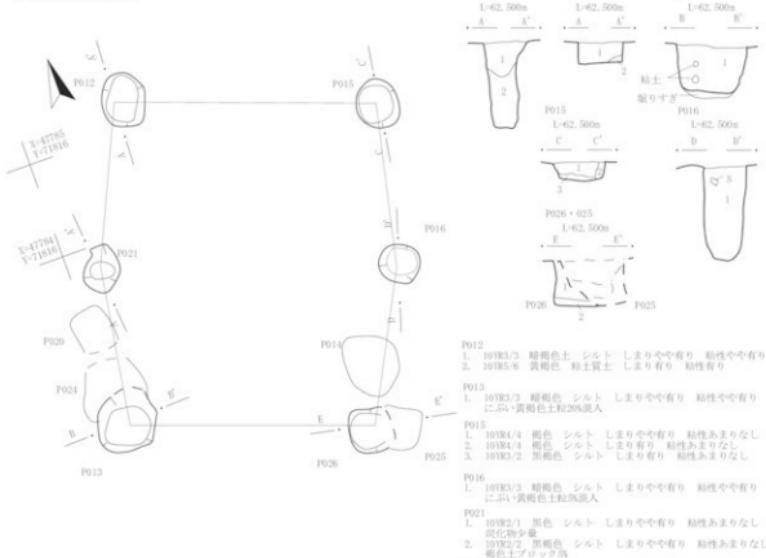


2号掘立柱建物跡

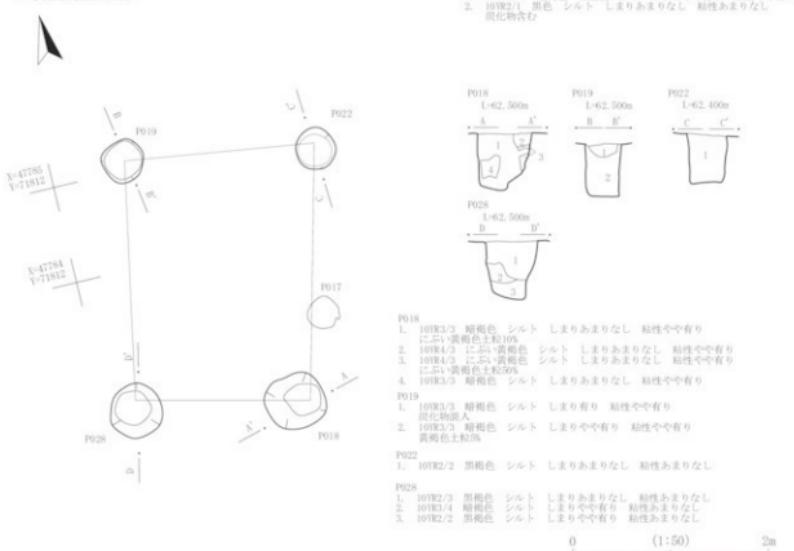


第38図 1・2号掘立柱建物跡

3号掘立柱建物跡



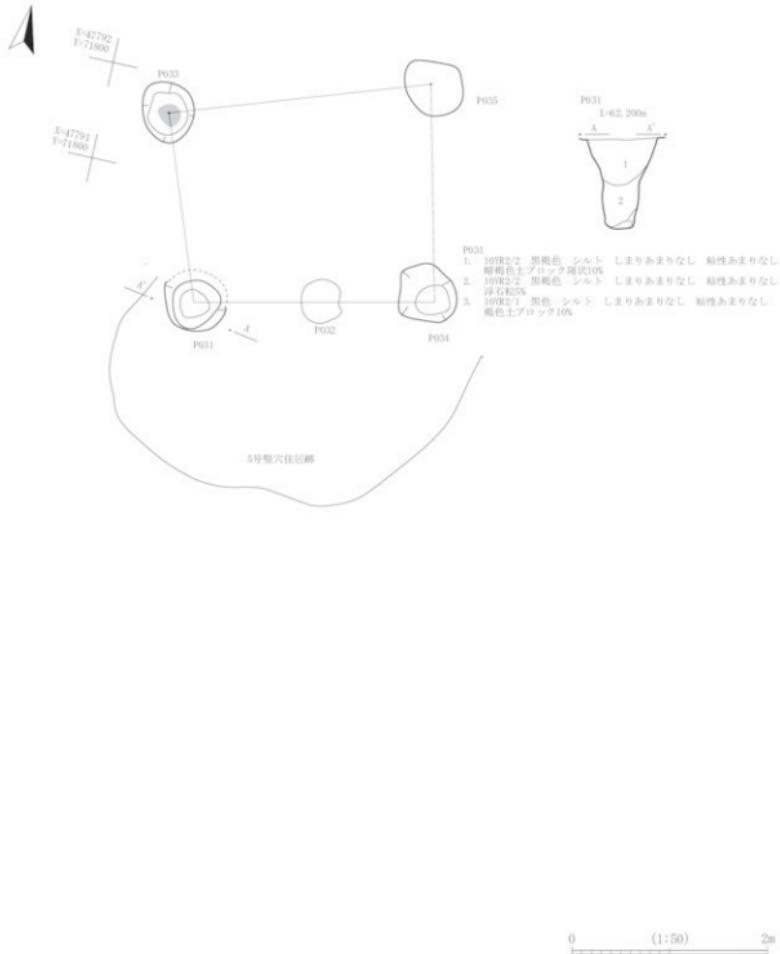
4号掘立柱建物跡



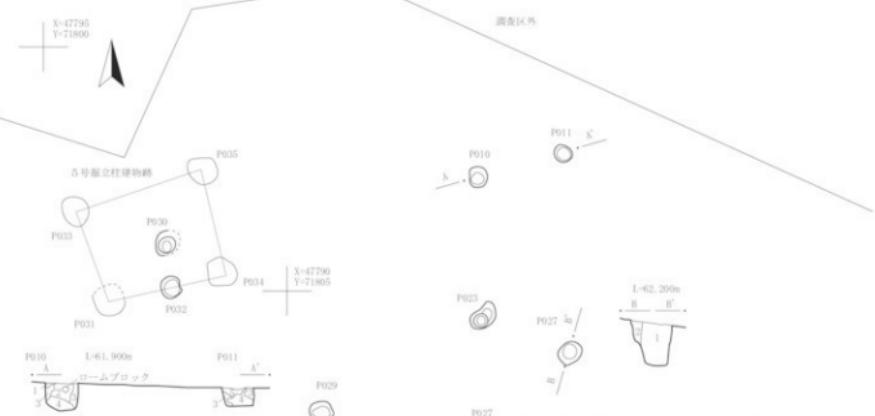
0 (1:50) 2m

第39図 3・4号掘立柱建物跡

5号掘立柱建物跡



第40図 5号掘立柱建物跡



P010・011

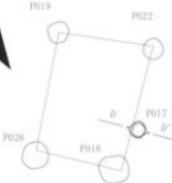
1. 10VR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り
根化物質を多く含む
2. 10VR2/1 黒色 砂質シルト しまり有り 粘性やや有り
根化物質を5%含む
3. 10VR2/2 黒褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
塊山砂質土
4. 10VR2/2 黑褐色 粘土質シルト しまり有り 粘性有り
根化物質を全体に含む
5. 10VR2/2 黑褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
浮石粒を全体に含む

- P027
1. 10VR2/2 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
粘土質ブロック3%
 2. 10VR2/2 黑褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
崩落ブロックの集合



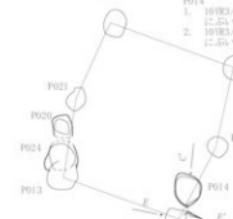
4号柱立柱建物跡

P019 P022



3号柱立柱建物跡

P012 P021

P014
X=47780
Y=71815
1m-62.500m
C C'P015
X=47780
Y=71815
1m-62.500m
E E'P025
X=47780
Y=71815
1m-62.500m
F F'P017
1. 10VR3/3 暗褐色 シルト しまりあまりなし 粘性やや有り

- P025
1. 10VR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
粘土質ブロック3%
2. 10VR2/2 黑褐色 シルト しまりやや有り 粘性あまりなし
粘土質ブロック20%
3. 1. 10VR3/3 暗褐色 粘土質シルト しまりやや有り 粘性あまりなし

0 (1:50) 2m
比例尺図(1:50)

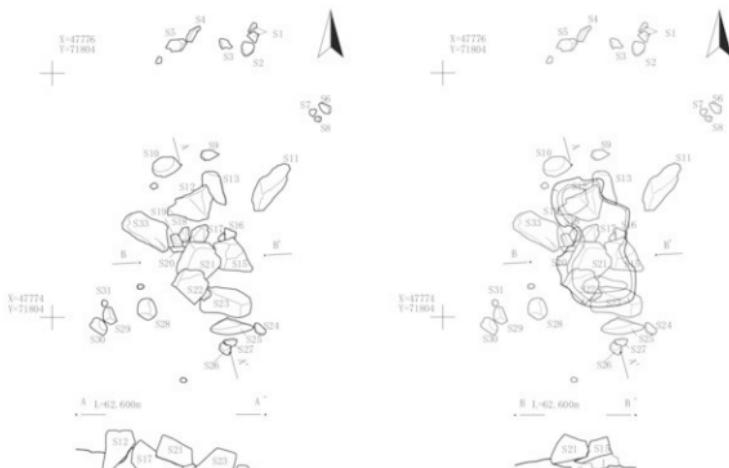
0 (1:100) 5m
比例尺図(1:100)

第41図 柱穴位置図 (建物構成柱穴以外)

1号集石



2号集石

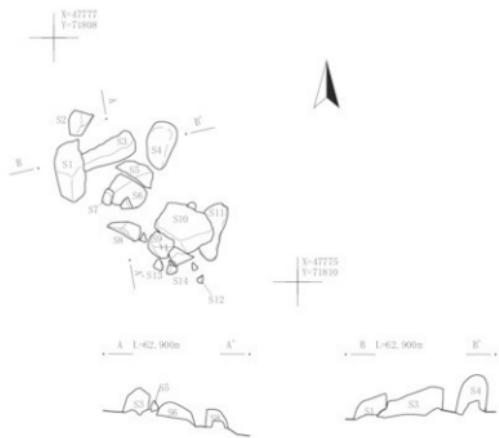


2号集石
1. 101E4/4 淡色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
2. 101E3/4 嫌褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り

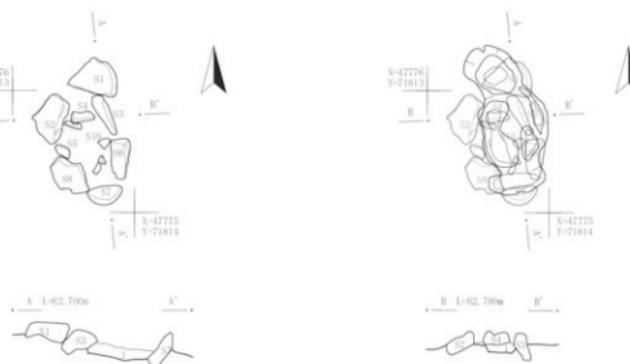
0 (1:40) 2m

第42図 1・2号集石

3号集石



4号集石

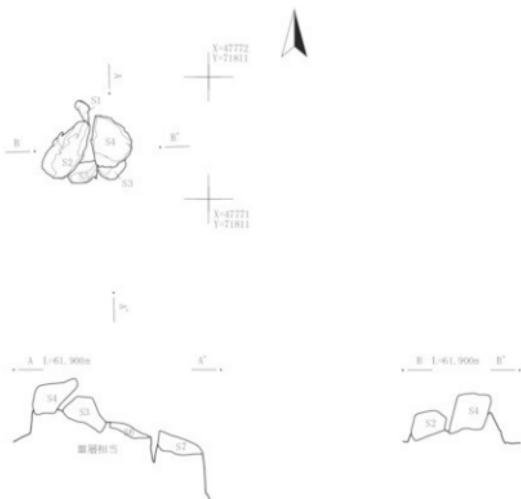


4号集石
1. 10W3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り フカフカやわらかい。

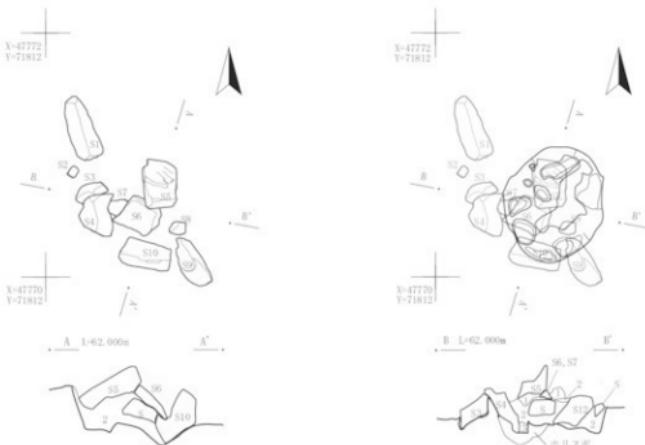
(1:40) 2m

第43図 3・4号集石

5号集石



6号集石



6号集石

1. 107K/4 に近い黄褐色 シルト しまりなし 粘性なし
2. 107K/4 暗褐色 シルト しまりや有り 粘性やや有り
3. 107K/3 に近い黄褐色 シルト しまり有り 粘性やや有り
基本土層面～A層(振り下ろし)

0 (1:40) 20

第44図 5・6号集石

7号集石

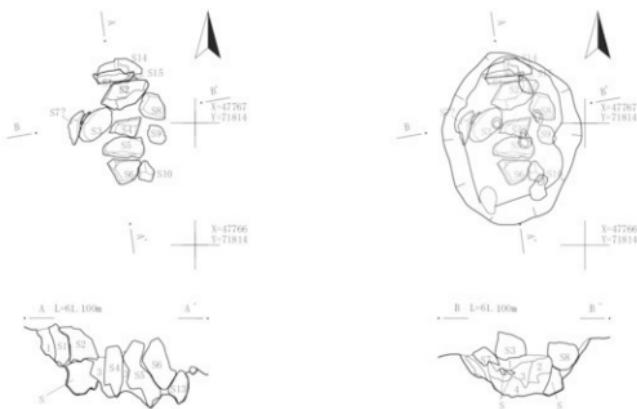


7号集石
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまり不明 粘性やや有り
木根によるカクラン大きい。

0 (1:40) 2m

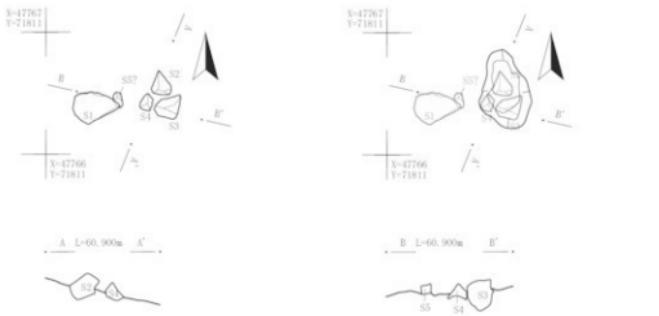
第45図 7号集石

8号集石



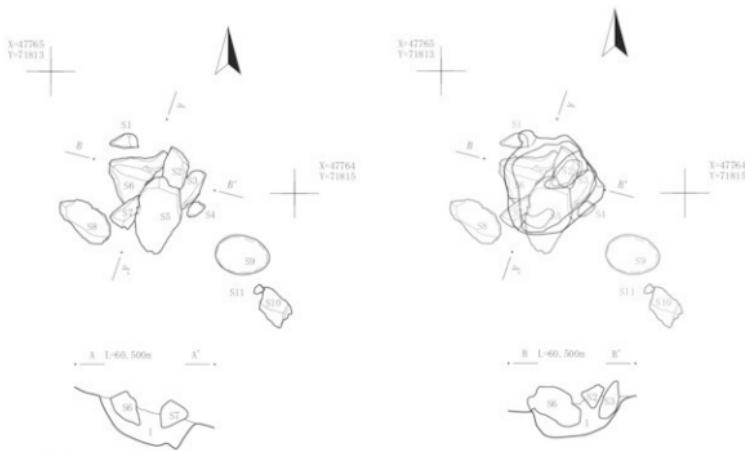
- 8号集石
1. 10Y3/3.4 緩衝色 シルト しまりやや有り 黏性なし
3.5% しまりしなくなくガラス
 2. 10Y3/3.2 緩衝色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り
黄褐色土粒をまばらに含む
 3. 10Y3/3.1 緩衝色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り
黄褐色土粒を含む 黏性なし
 4. 10Y4/4.6 棕色 粘土シルト しまり有り 黏性やや有り
■=IV番に似る

9号集石

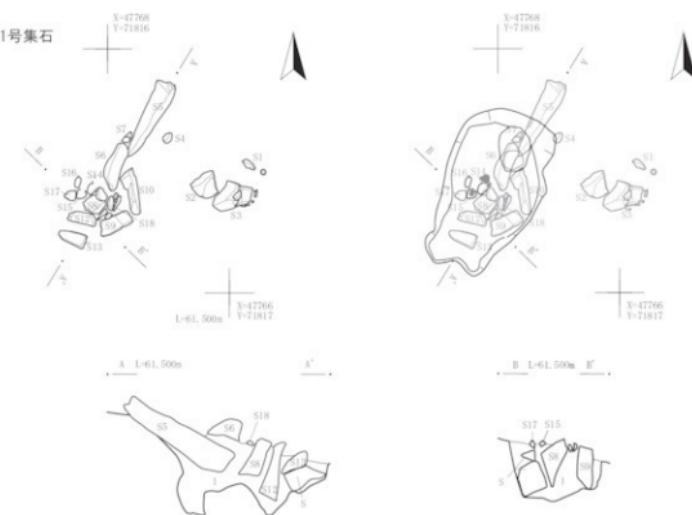


第46図 8・9号集石

10号集石



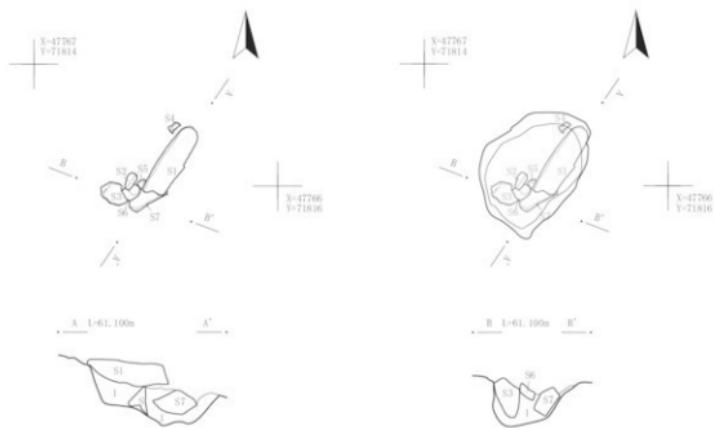
11号集石



0 (1:40) 2m

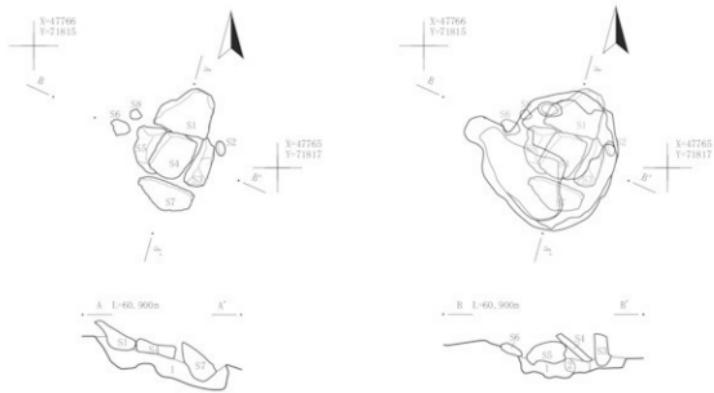
第47図 10・11号集石

12号集石



12号集石
1. 10103/3 嫩褐色 シルト しまりなし。粘性やや有り

13号集石



13号集石
1. 10103/2 黒褐色 シルト しまりなし。粘性なし。
φ1~3mmの浮遊粒食み。ツカツカしている
2. 10103/3 嫩褐色 シルト しまりあまりなし。粘性あまりなし

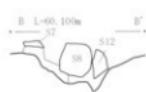
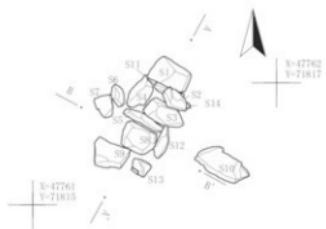
0 (1:40) 2m

第48図 12・13号集石

14号集石



15号集石

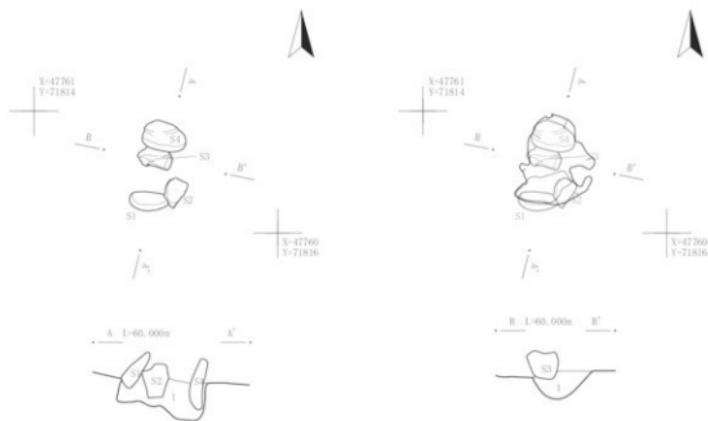


15号集石
1. 10YR5/2 黒褐色 砂質シルト しまりやや有り 粘性やや有り
滴入物なし

0 (1:40) 2m

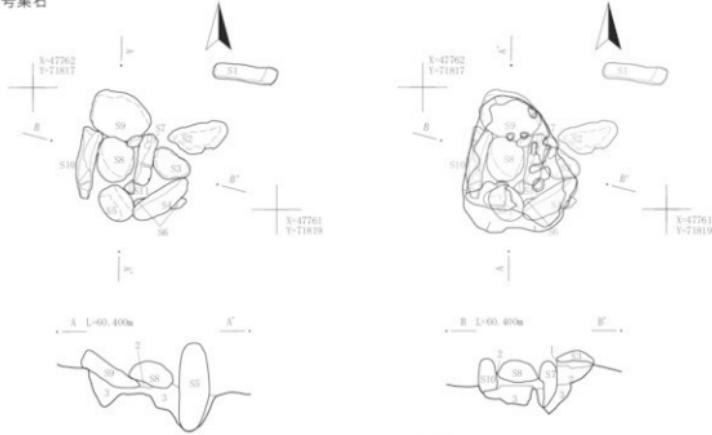
第49図 14・15号集石

16号集石



16号集石
1. 10YR2/3 黒褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り
フカフカやわらかみ

17号集石

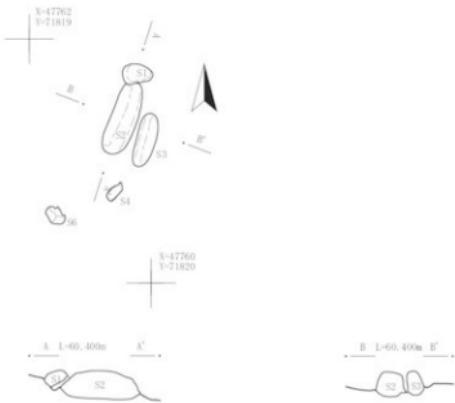


17号集石
1. 10YR3/4 暗褐色 しまりやや有り 粘性やや有り
2. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 粘性なし
褐色の浮石和六つ脚珊瑚に似る
3. 10YR3/3 暗褐色 シルト しまりなし 粘性やや有り

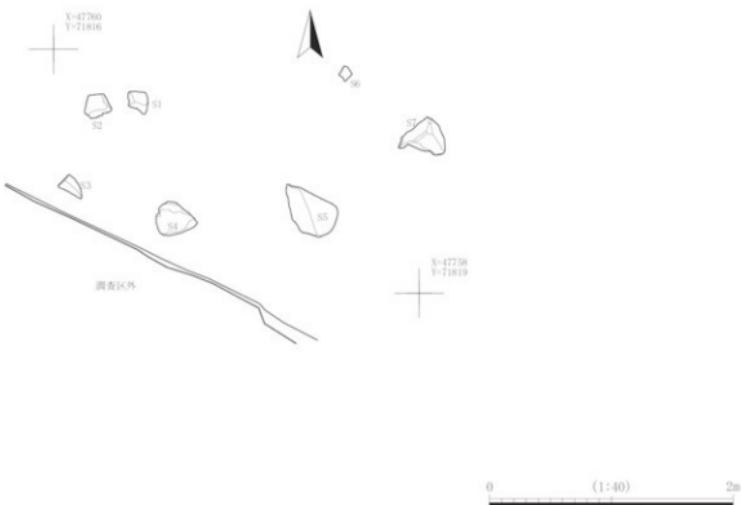
0 (1:40) 2m

第50図 16・17号集石

18号集石

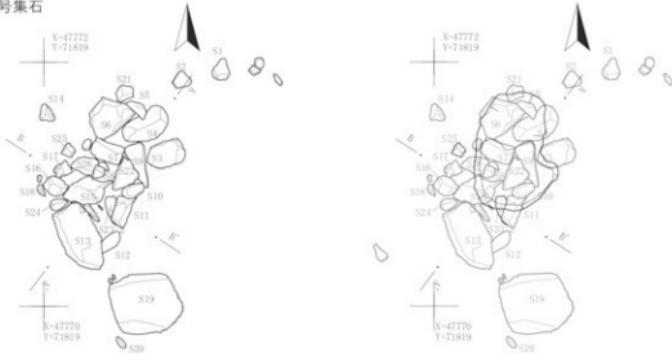


19号集石



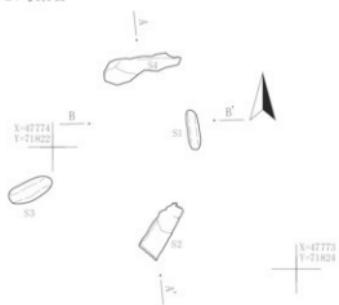
第51図 18・19号集石

20号集石



20号集石
1. 10703/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
ワカツカでなく若干しまった感触

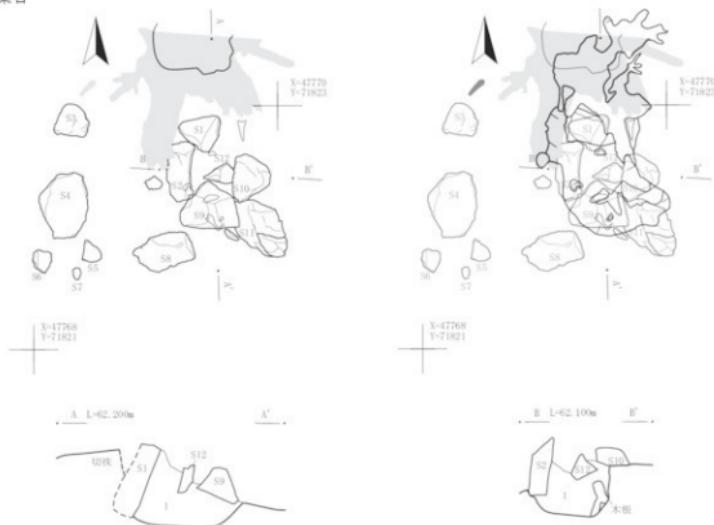
21号集石



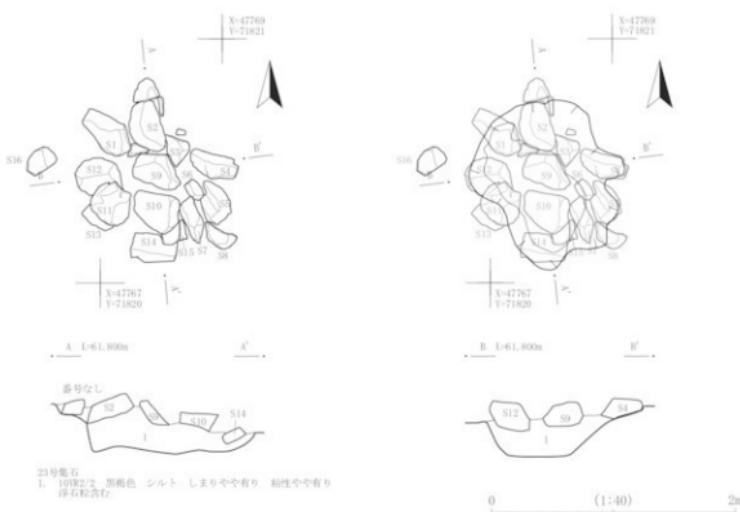
0 (1:40) 2m

第52図 20・21号集石

22号集石

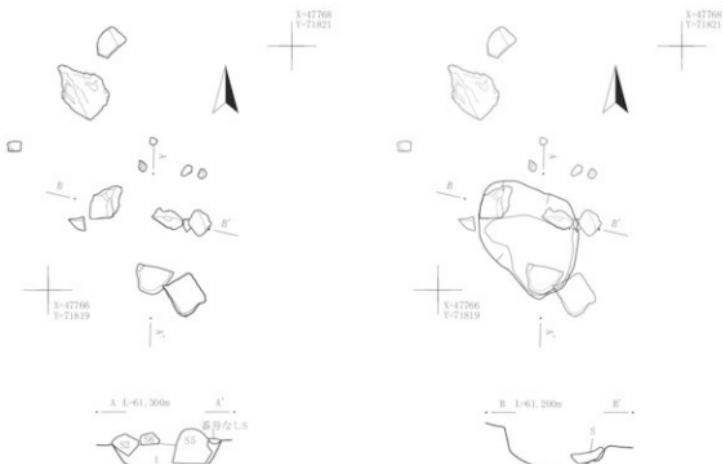


23号集石



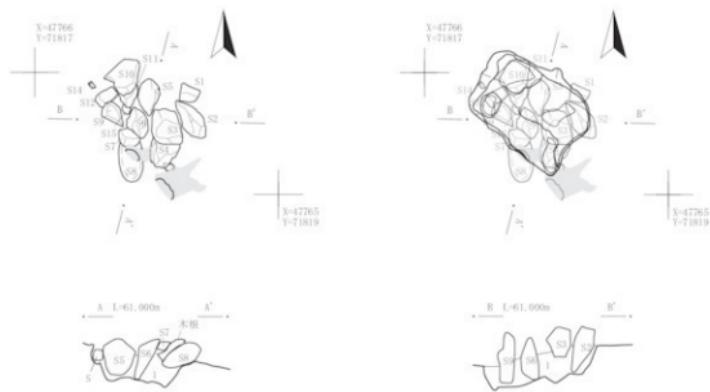
第53図 22・23号集石

24号集石



24号集石
L. 10'000/3 斜褐色 シルト しまりや空有り 黏性有り
浮石粒まばらに含む

25号集石

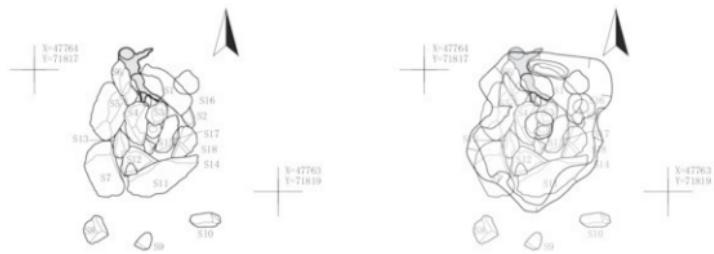


25号集石
L. 10'000/3 斜褐色 シルト しまりや空有り 黏性や有り
しまりなくフカフカ

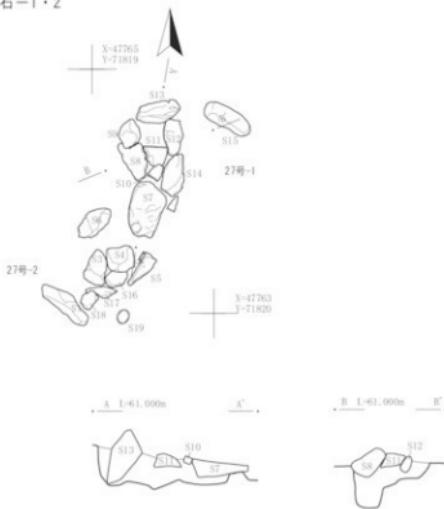
0 (1:40) 2m

第54図 24・25号集石

26号集石

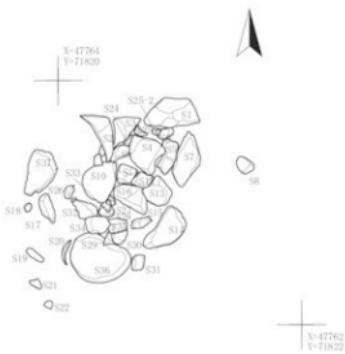


27号集石 - 1・2

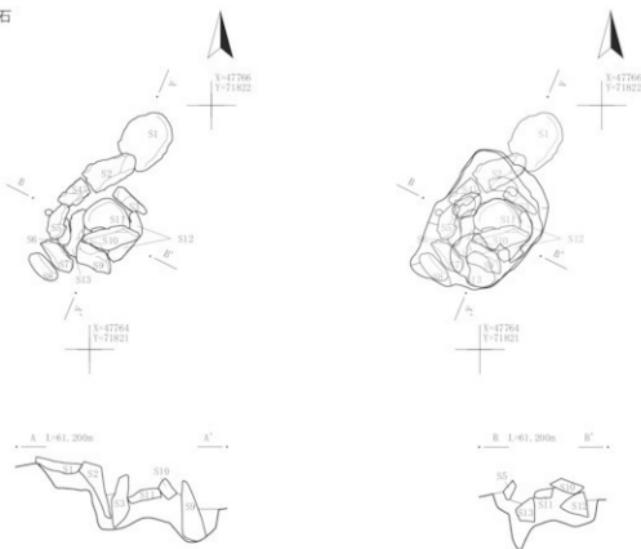


第55図 26・27-1・2号集石

28号集石

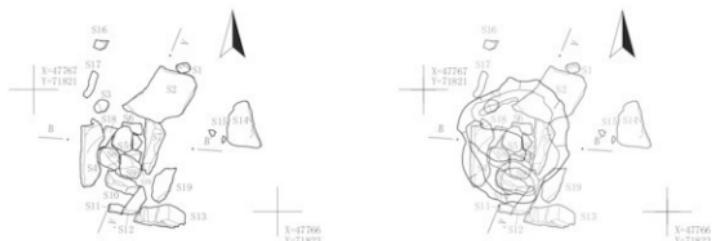


29号集石

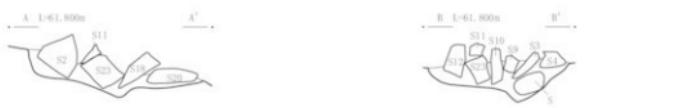
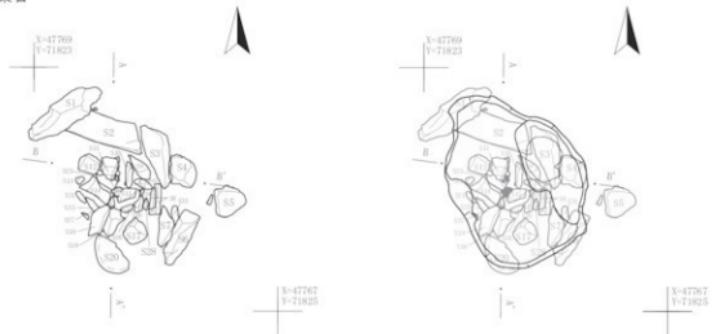


第56図 28・29号集石

30号集石



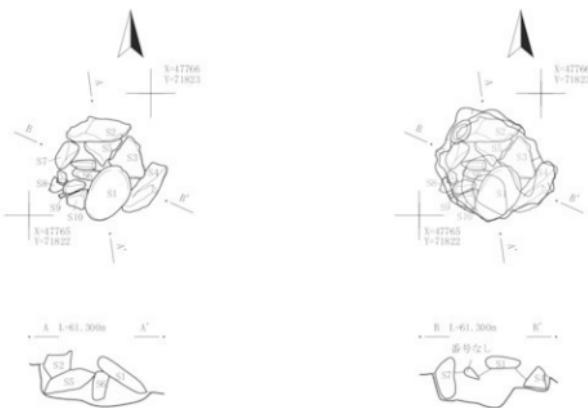
31号集石



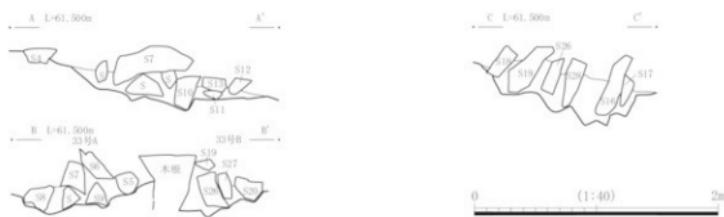
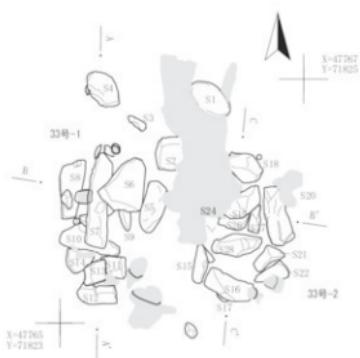
0 (1:40) 2m

第57図 30・31号集石

32号集石

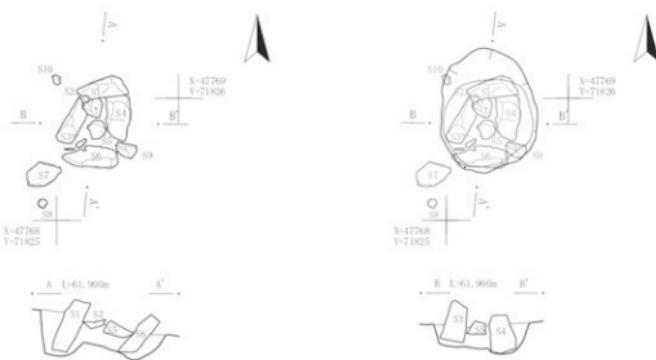


33号集石-1・2

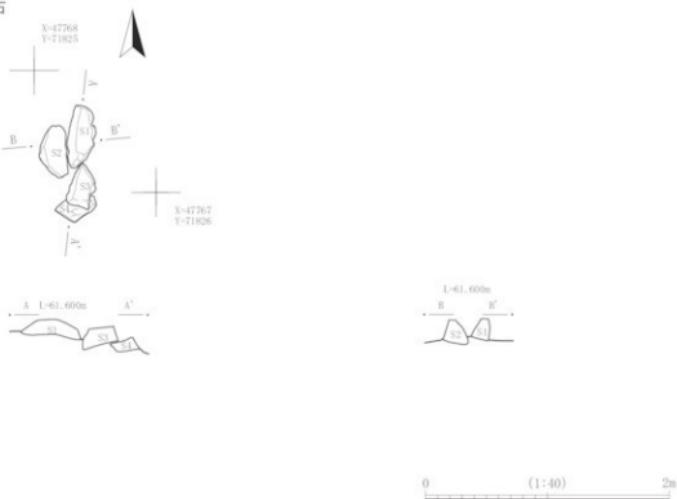


第58図 32・33-1・2号集石

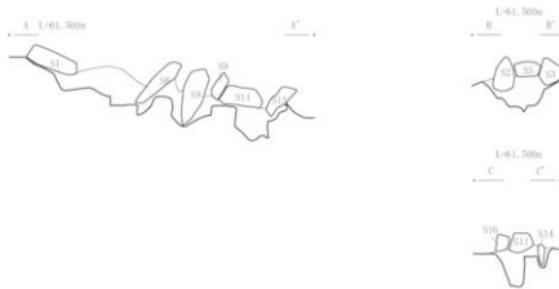
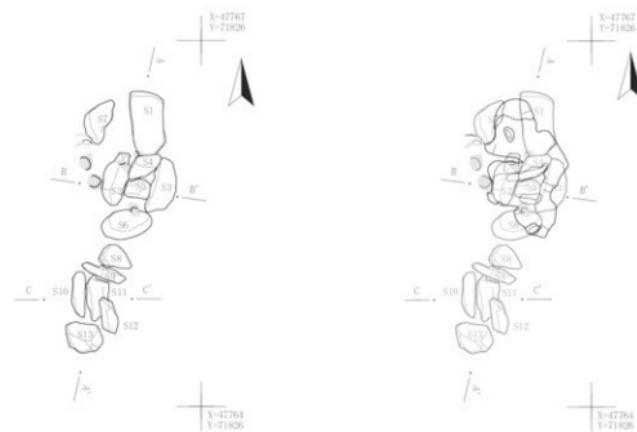
34号集石



35号集石



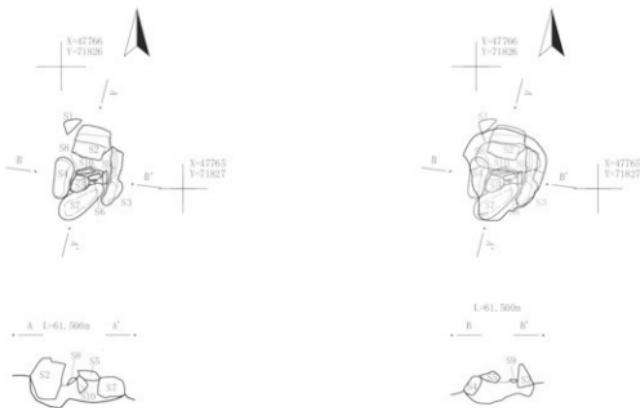
第59図 34・35号集石



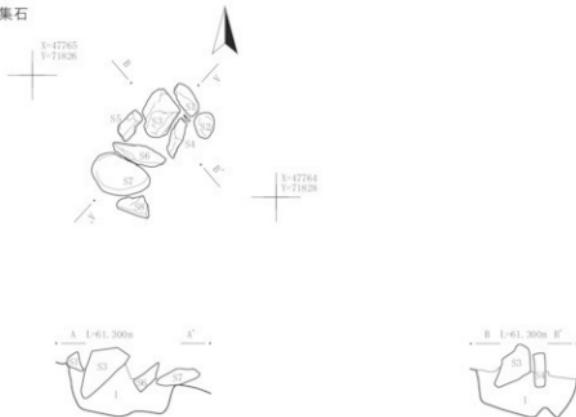
0 (1:40) 2m

第60図 36-1・2号集石

37号集石



38号集石

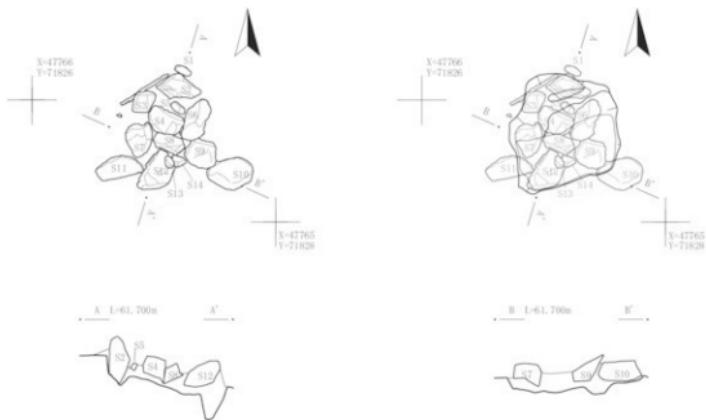


38号集石
L. 1092.2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り
フカフカ。少々くしゃくしゃ。

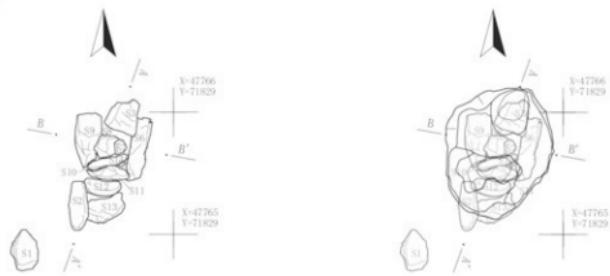
0 (1:40) 2m

第61図 37・38号集石

39号集石



40号集石



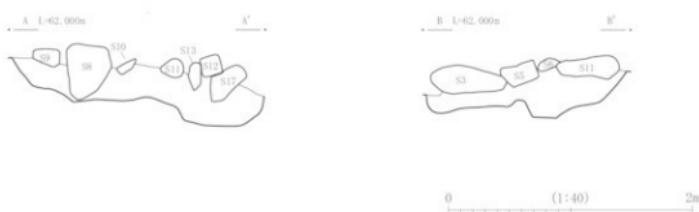
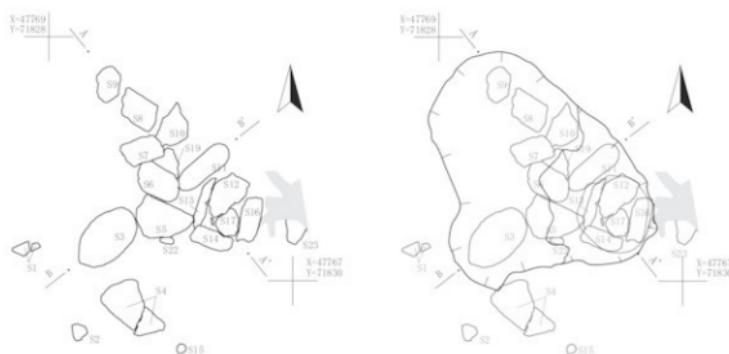
0 (1:40) 2m

第62図 39・40号集石

41号集石

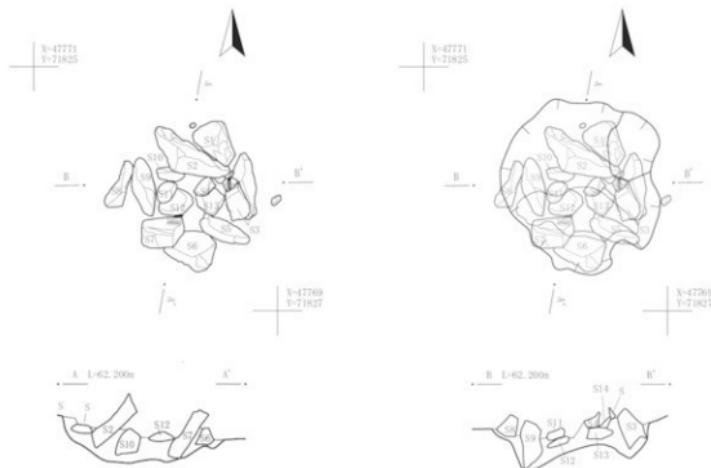


42号集石

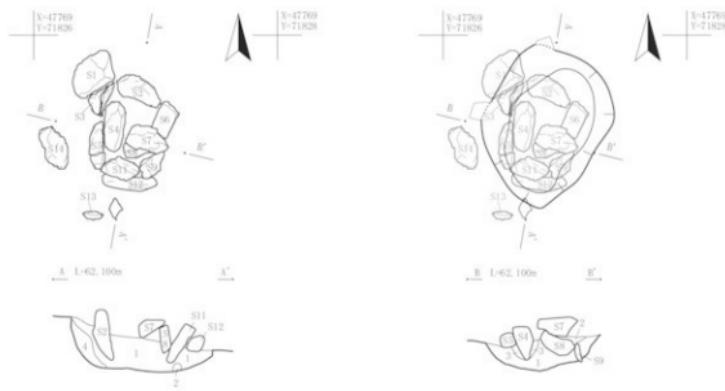


第63図 41・42号集石

43号集石



44号集石

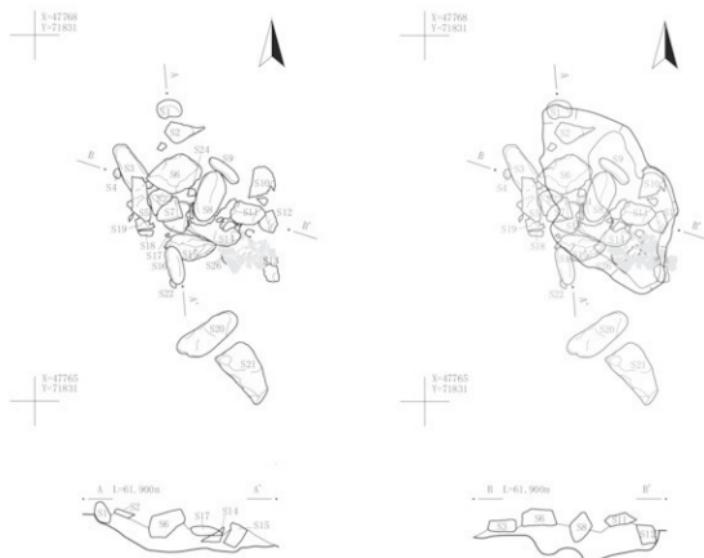


44号集石
 1. 107K3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り ごくわずかに炭化物粒を含む
 2. 107K3/4 暗褐色 シルト しまり有り 黏性あまりなし ブロック状
 3. 107K2/4 暗褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り 3-4mmの盛り方に多く
 4. 107K3/3 暗褐色 シルト しまりやや有り 黏性やや有り 地山(地盤)によく似る

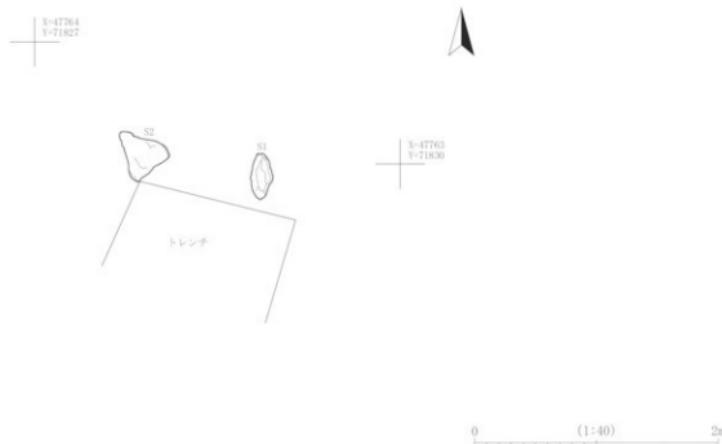
0 (1:40) 2m

第64図 43・44号集石

45号集石

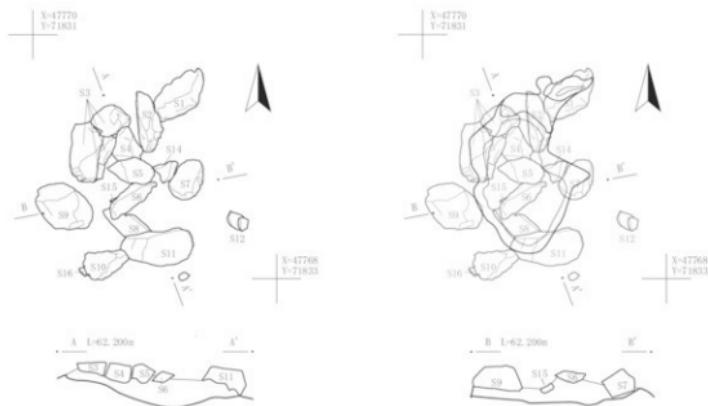


46号集石

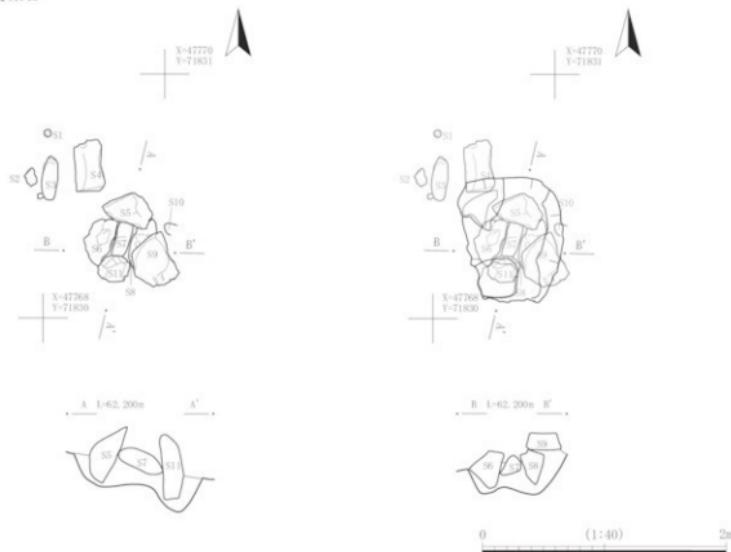


第65図 45・46号集石

47号集石

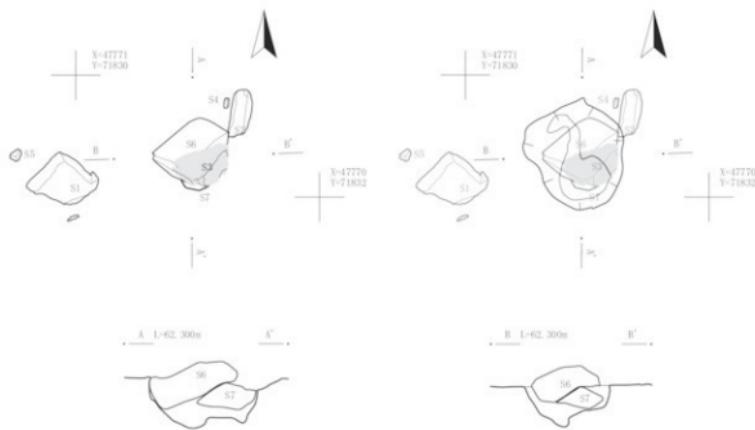


48号集石



第66図 47・48号集石

49号集石



50号集石

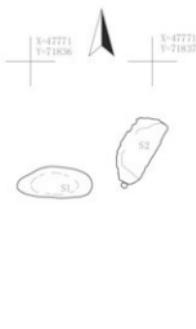


第67図 49・50号集石

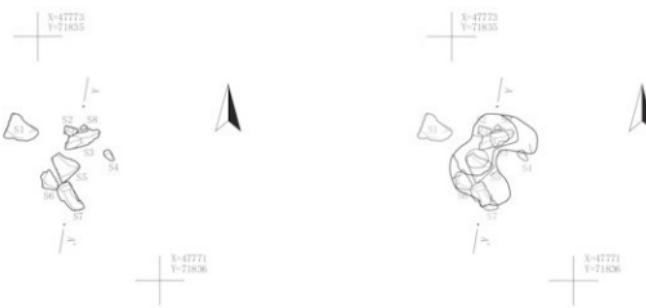
51号集石



52号集石



53号集石

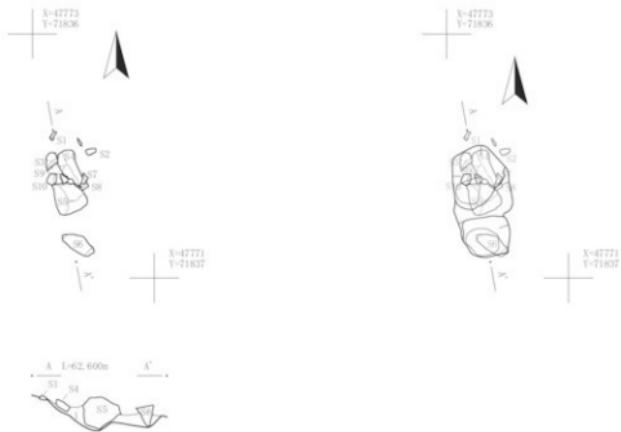


53号集石
1. 10TR2/2 黒褐色 シルト しまりやや有り 粘性やや有り フカフカやわらかい

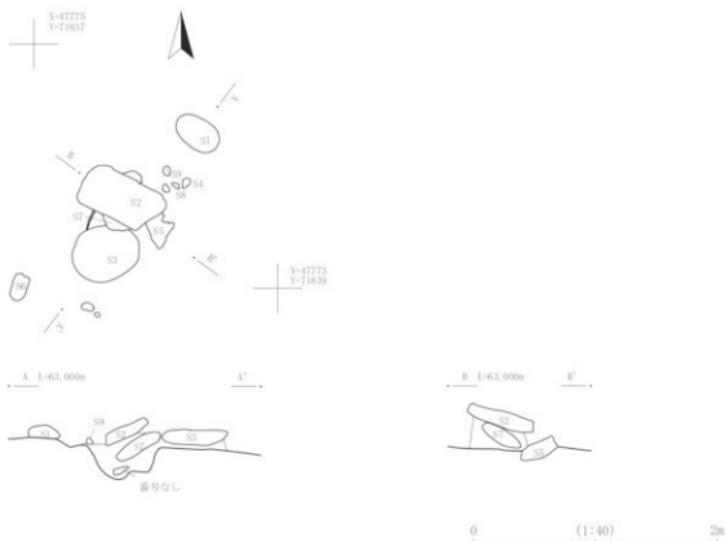


第68図 51~53号集石

54号集石



55号集石

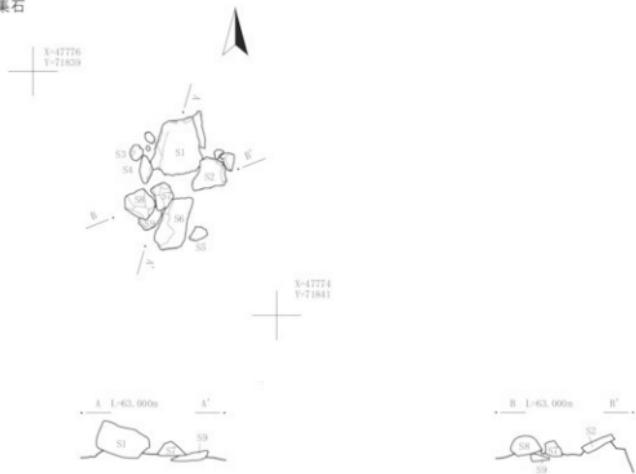


第69図 54・55号集石

56号集石

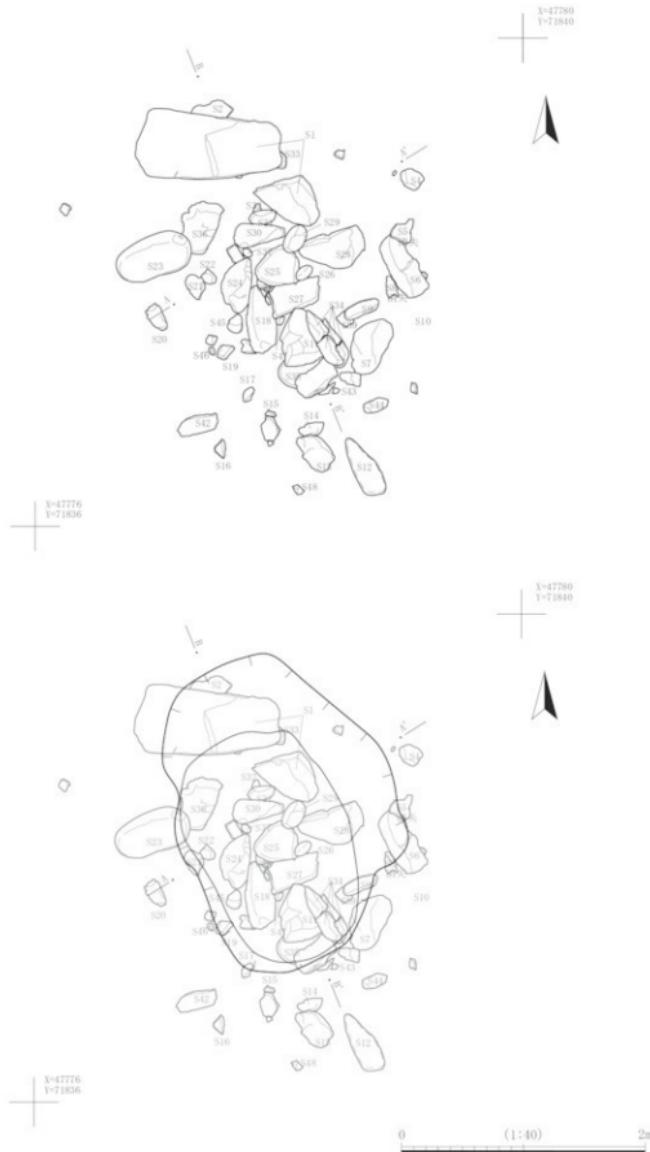


57号集石



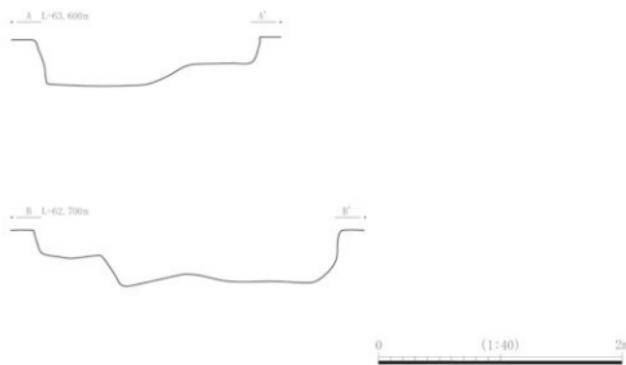
第70図 56・57号集石

58号集石

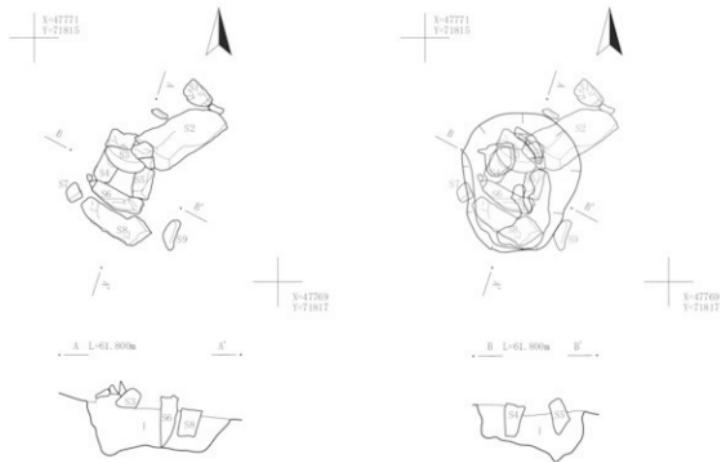


第71図 58号集石(1)

58号集石 A-A'・B-B' 断面

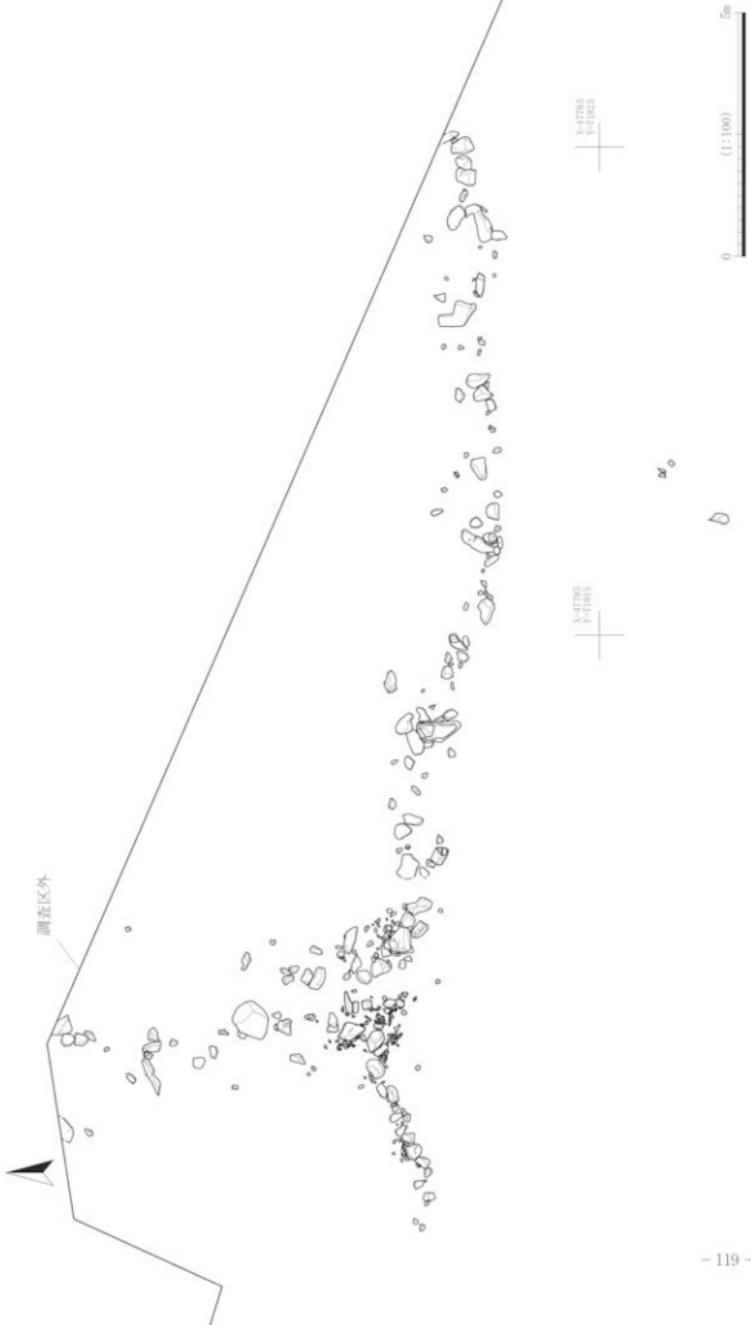


59号集石



59号集石
I. 101B2/3 黒褐色 シルト しまりあまりなし 粘性あまりなし
フカフカやわらかく土器片を若干含む

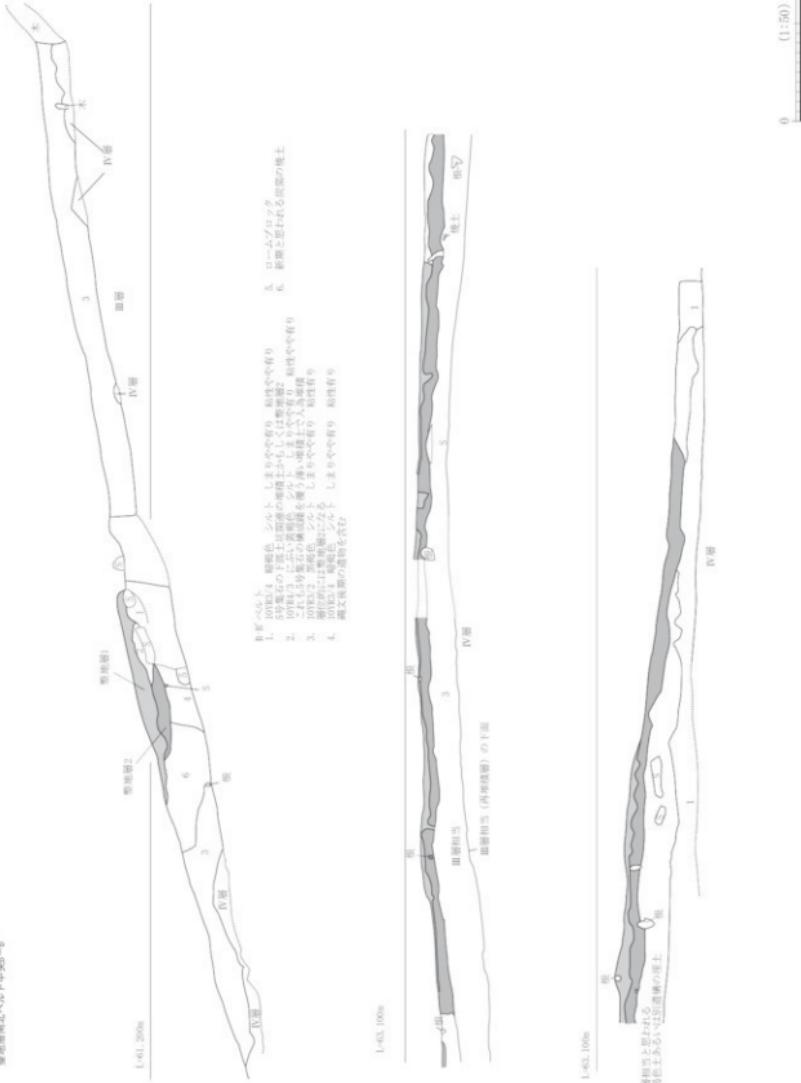
第72図 58号集石(2)・59号集石



第73図 内帯の石列



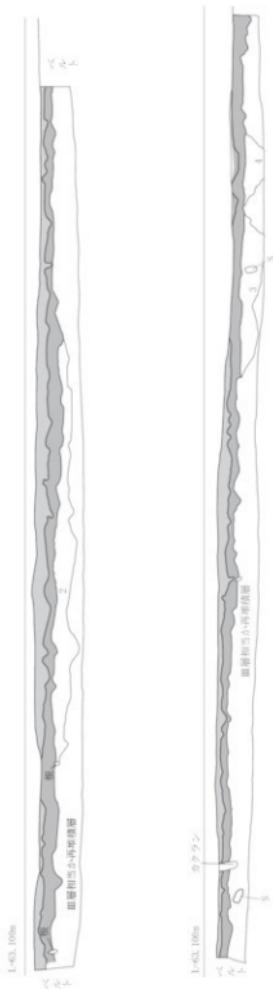
第74圖 整地層斷面圖 A·C



第75図 整地断面図 B

東海道西側断面

L.SL. 100m



- 地質図解
1. 100m : 細粒のシルト、上部より下へ砂利、粘性土。
2. 100m : 黒褐色のシルト、上部より下へ砂利、粘性土なり。
3. 100m : 黑褐色のシルト、上部より下へ砂利、粘性土なり。
4. 100m : 黑褐色のシルト、上部より下へ砂利、粘性土なり。

0 200
(1:50)

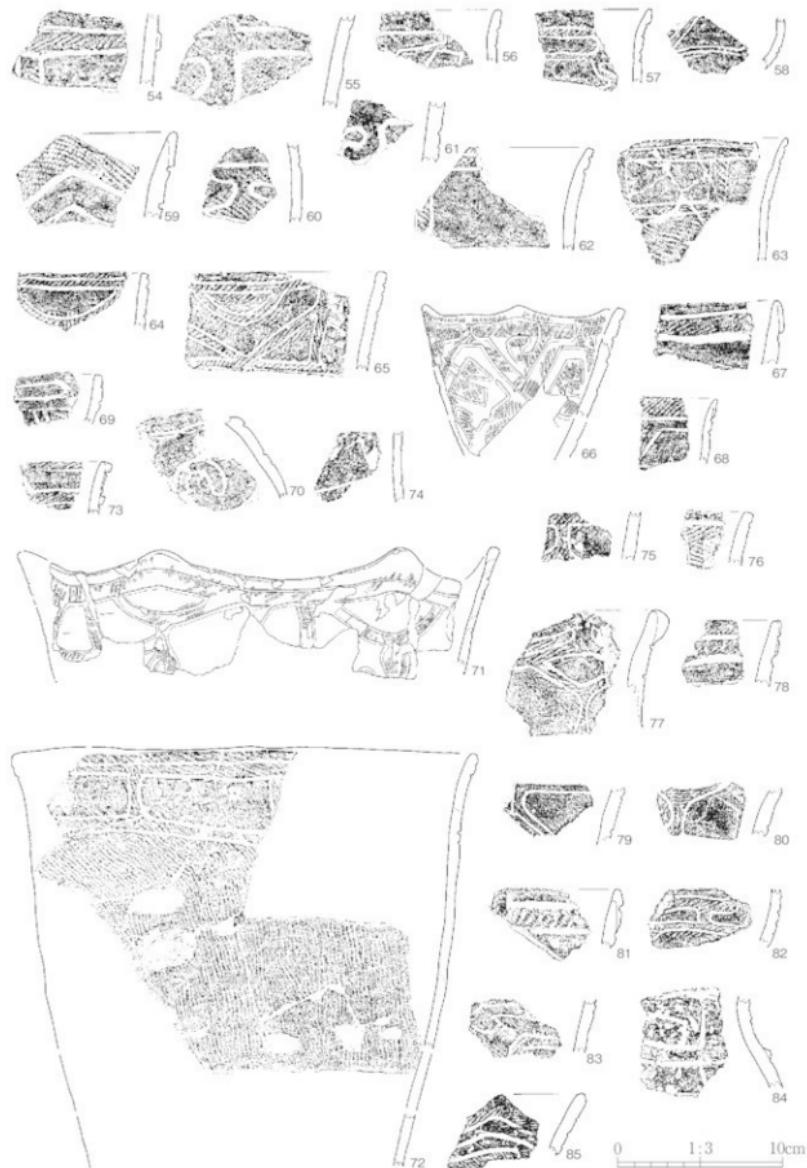
第76図 整地層断面図 D



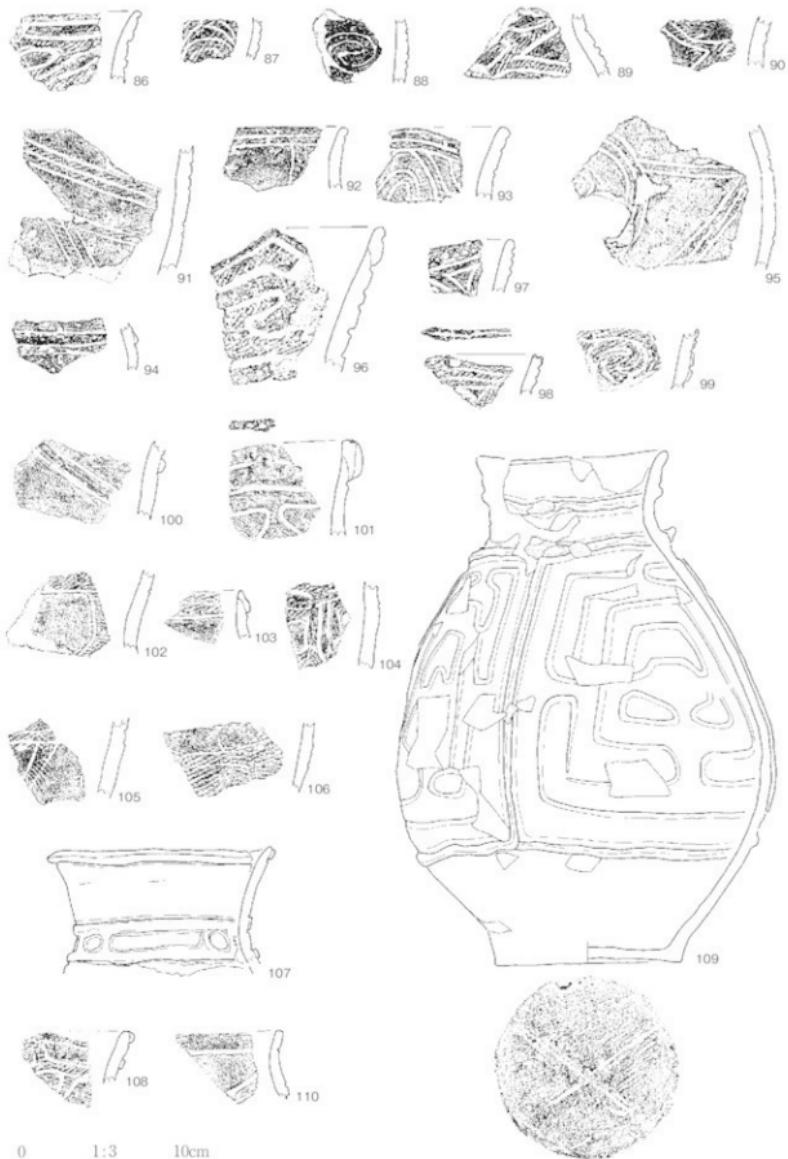
第77図 出土遺物(1)



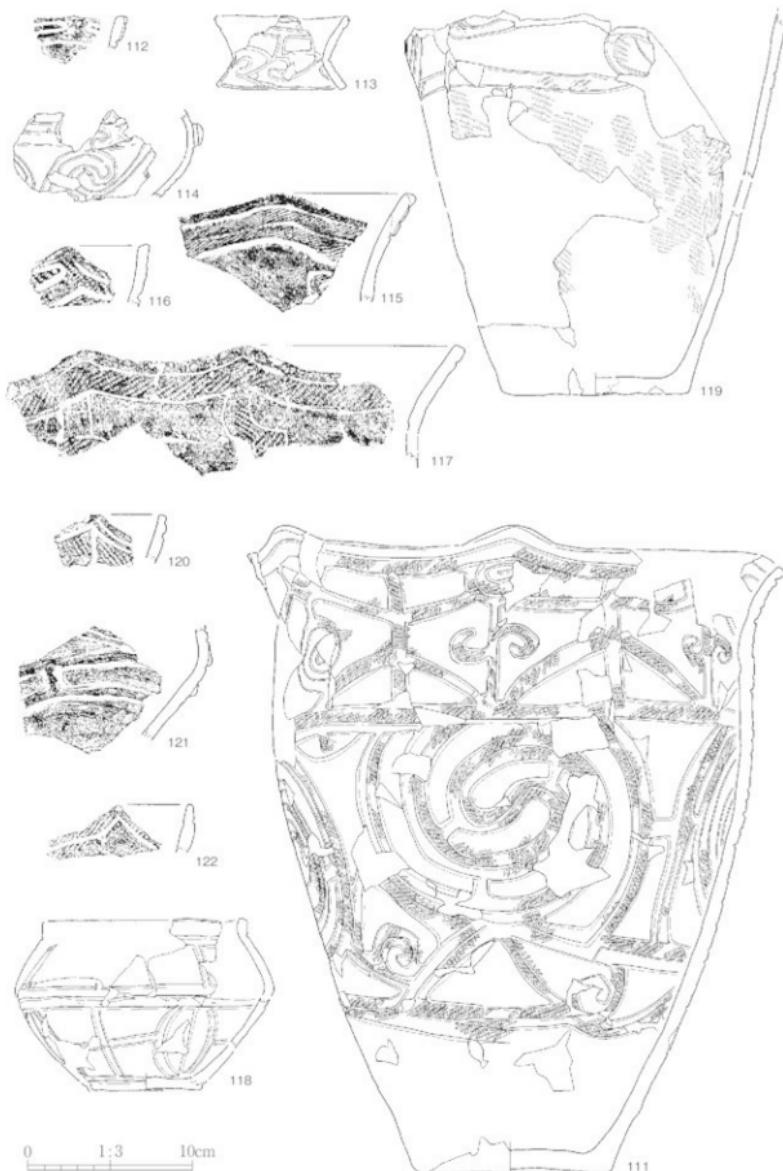
第78図 出土遺物(2)



第79図 出土遺物(3)



第80図 出土遺物(4)



第81図 出土遺物(5)



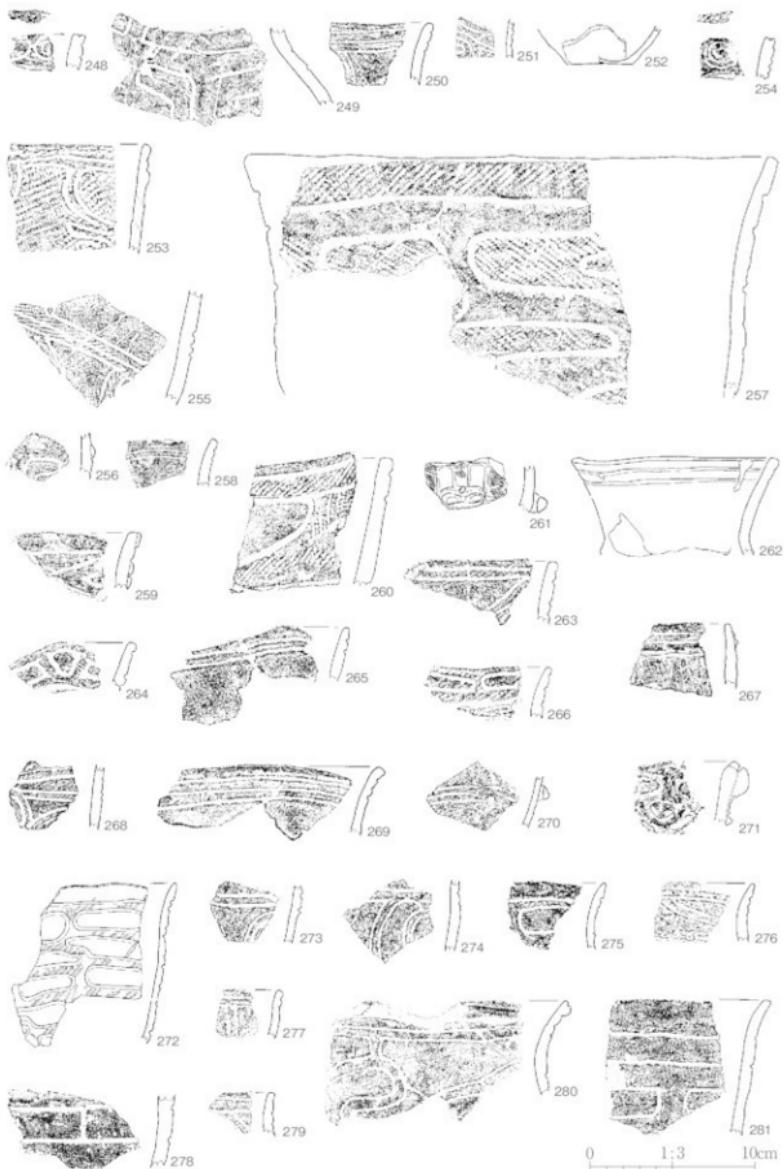
第82図 出土遺物(6)



第83図 出土遺物(7)



第84図 出土遺物(8)



第85図 出土遺物(9)



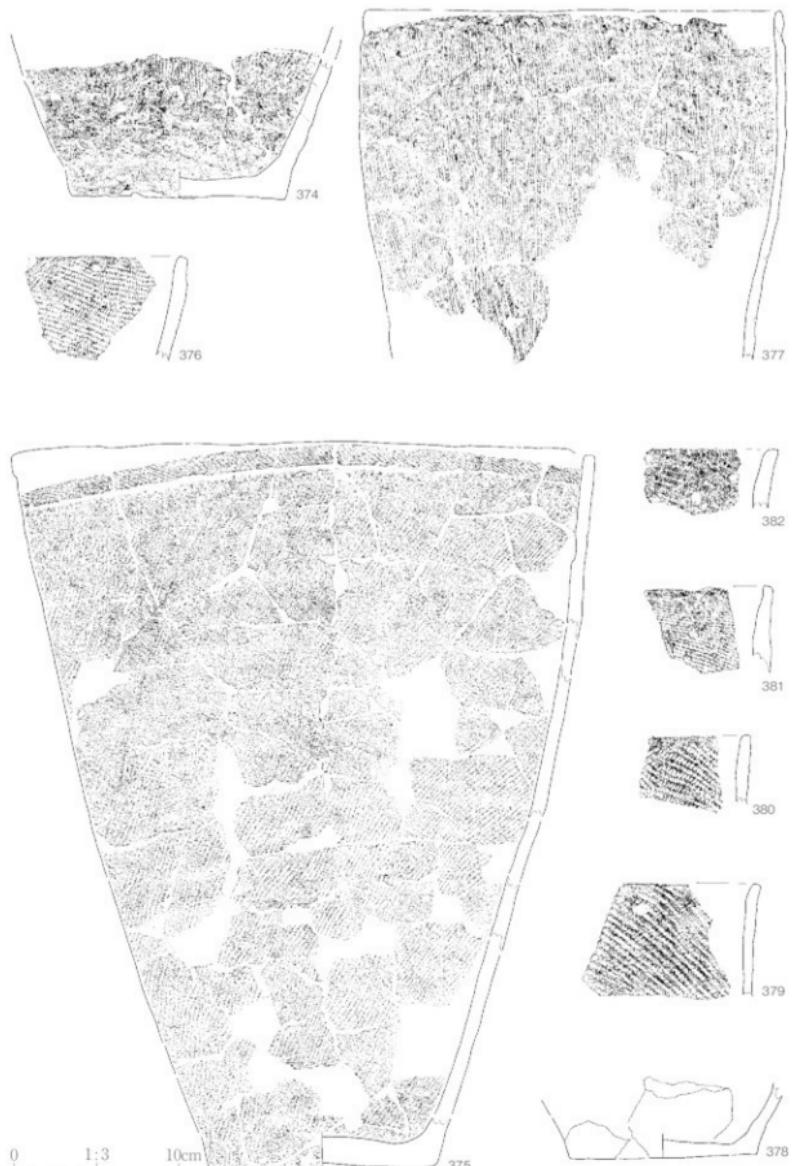
第86図 出土遺物(10)



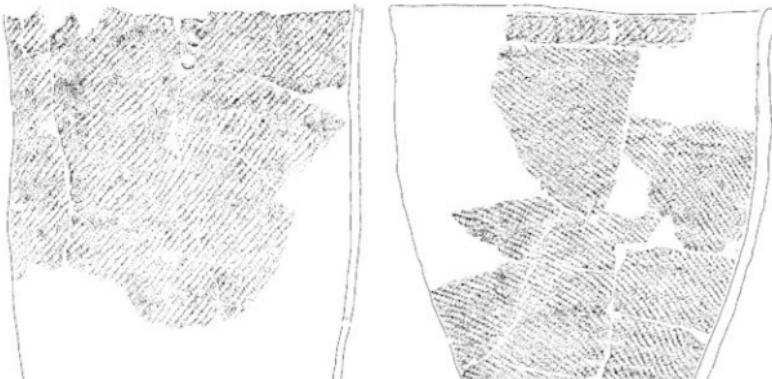
第87図 出土遺物(11)



第88図 出土遺物(12)



第89図 出土遺物(13)

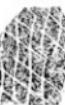


383

385



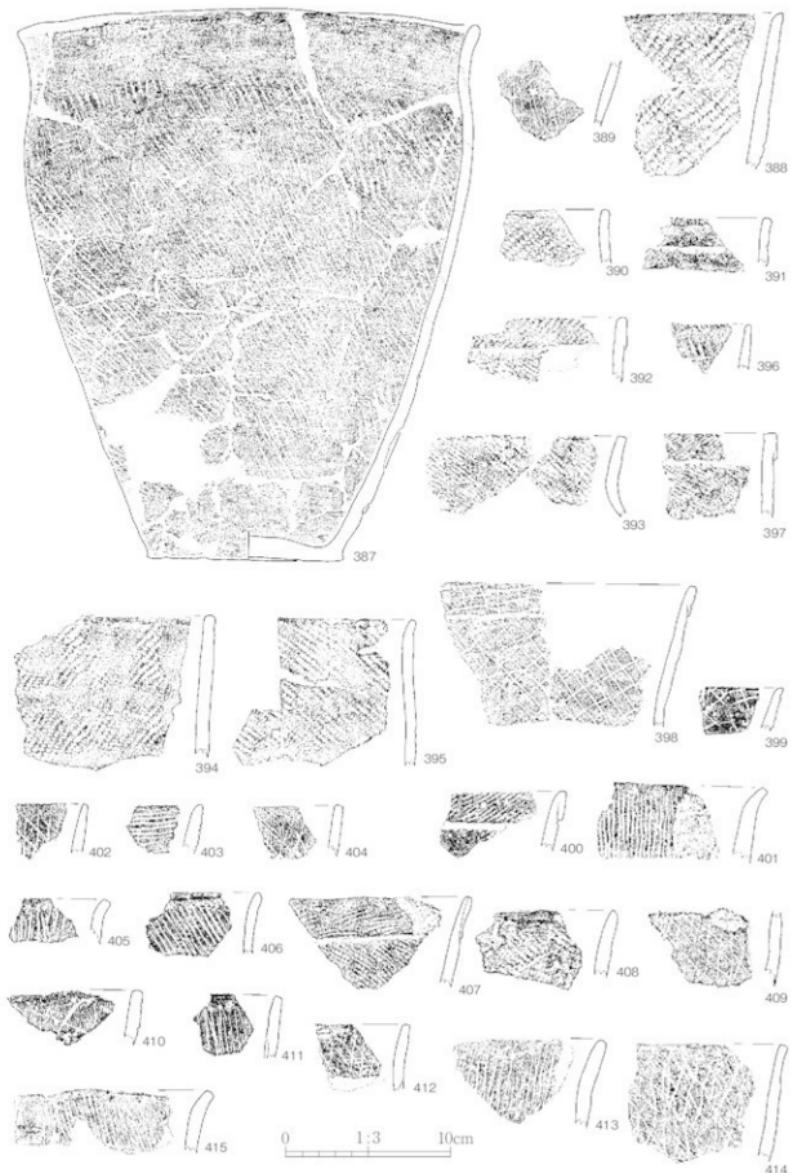
386



384

0 1:3 10cm

第90図 出土遺物(14)



第91図 出土遺物(15)



第92図 出土遺物(16)



第93図 出土遺物(17)

0 1:3 10cm



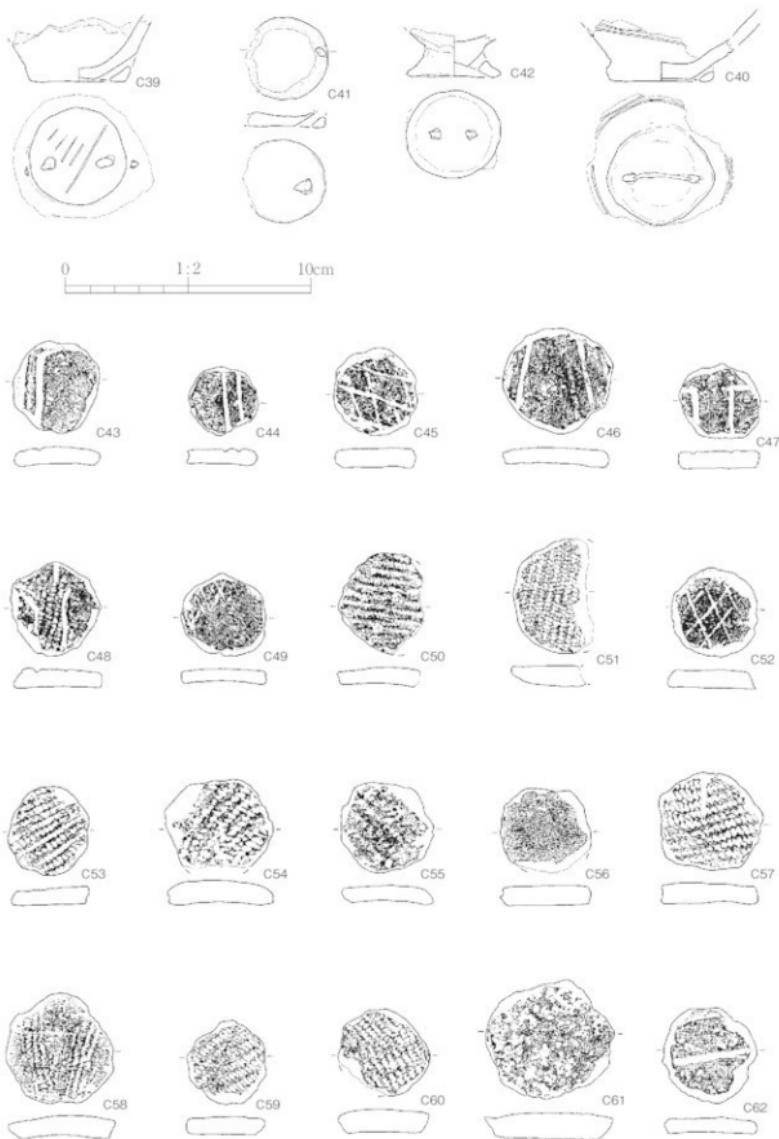
第94図 出土遺物(18)



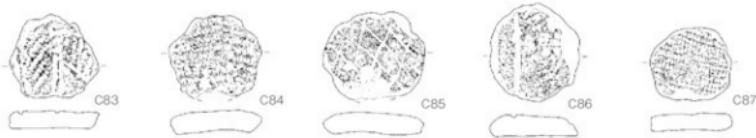
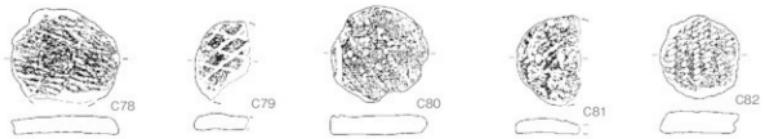
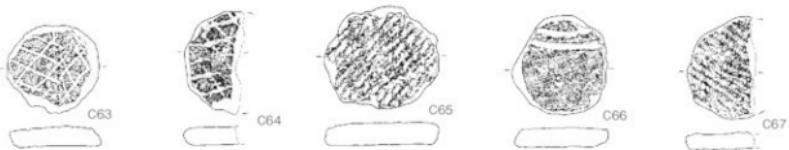
第95図 出土遺物(19)



第96図 出土遺物(20)



第97図 出土遺物(21)

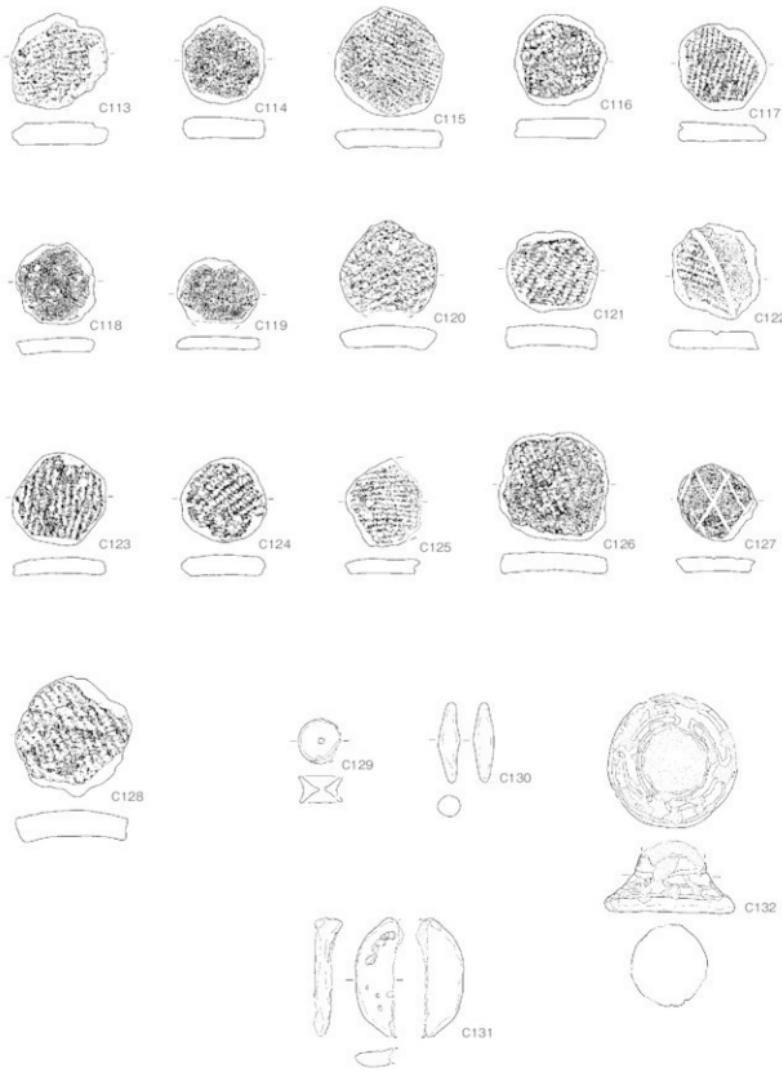


0 1:2 10cm

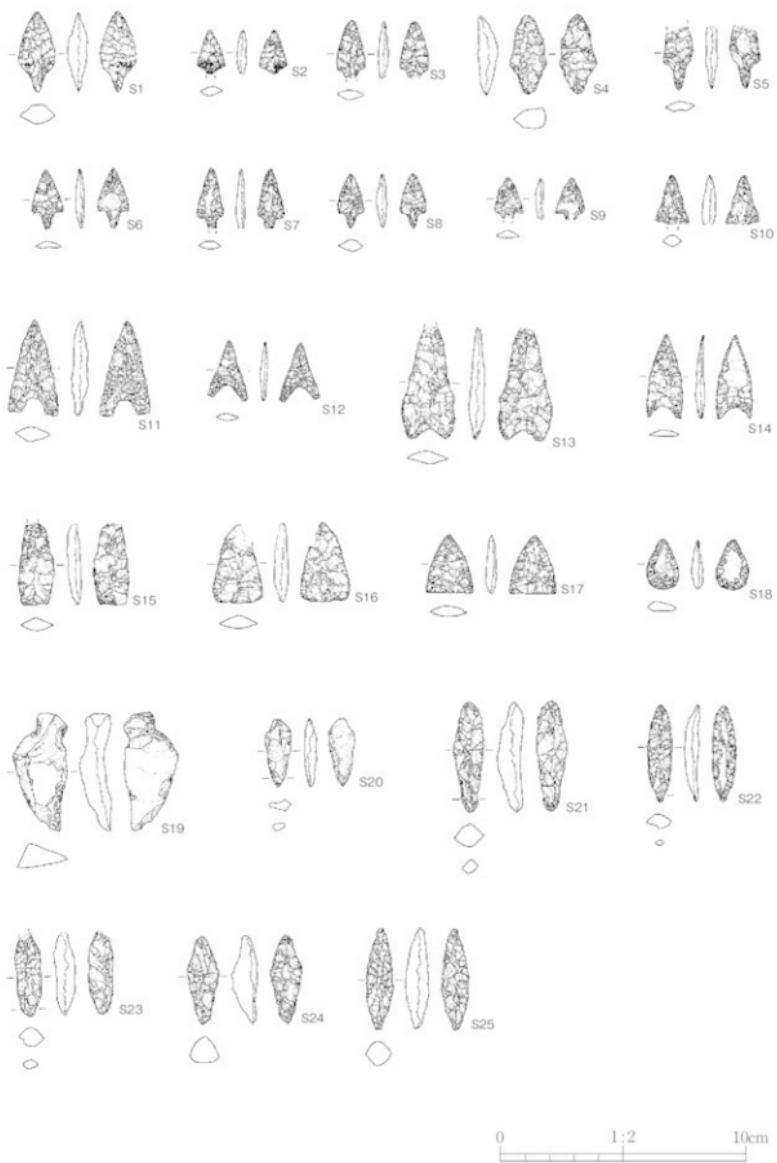
第98図 出土遺物(22)



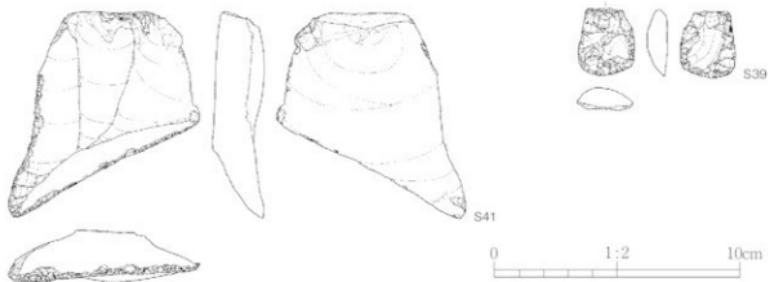
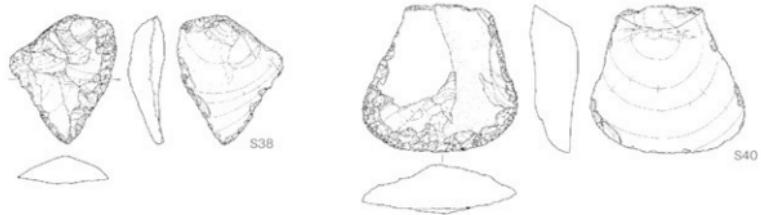
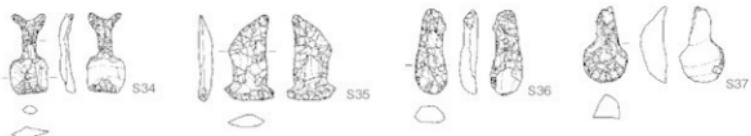
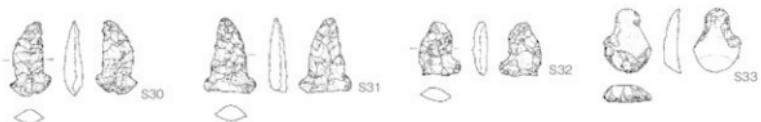
第99図 出土遺物(23)



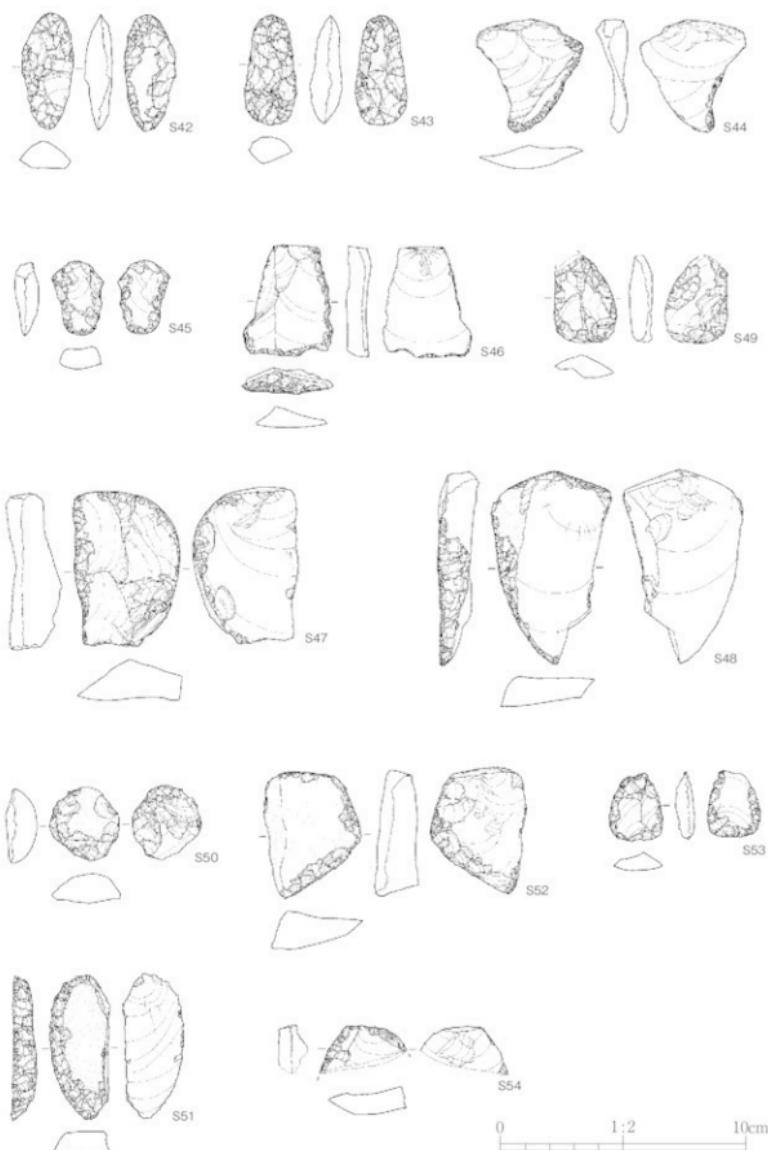
第100図 出土遺物(24)



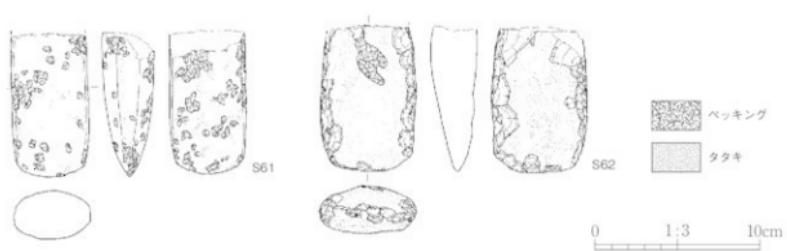
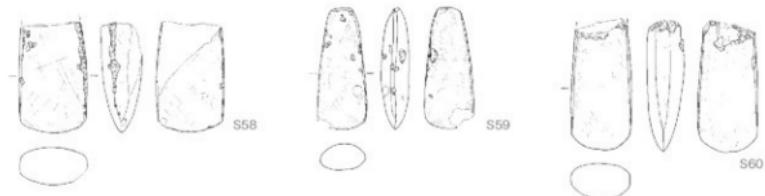
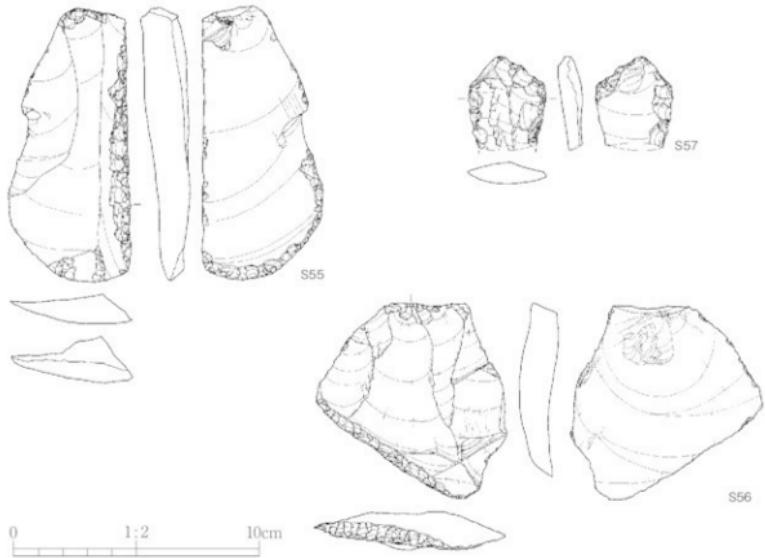
第101図 出土遺物(25)



第102図 出土遺物(26)



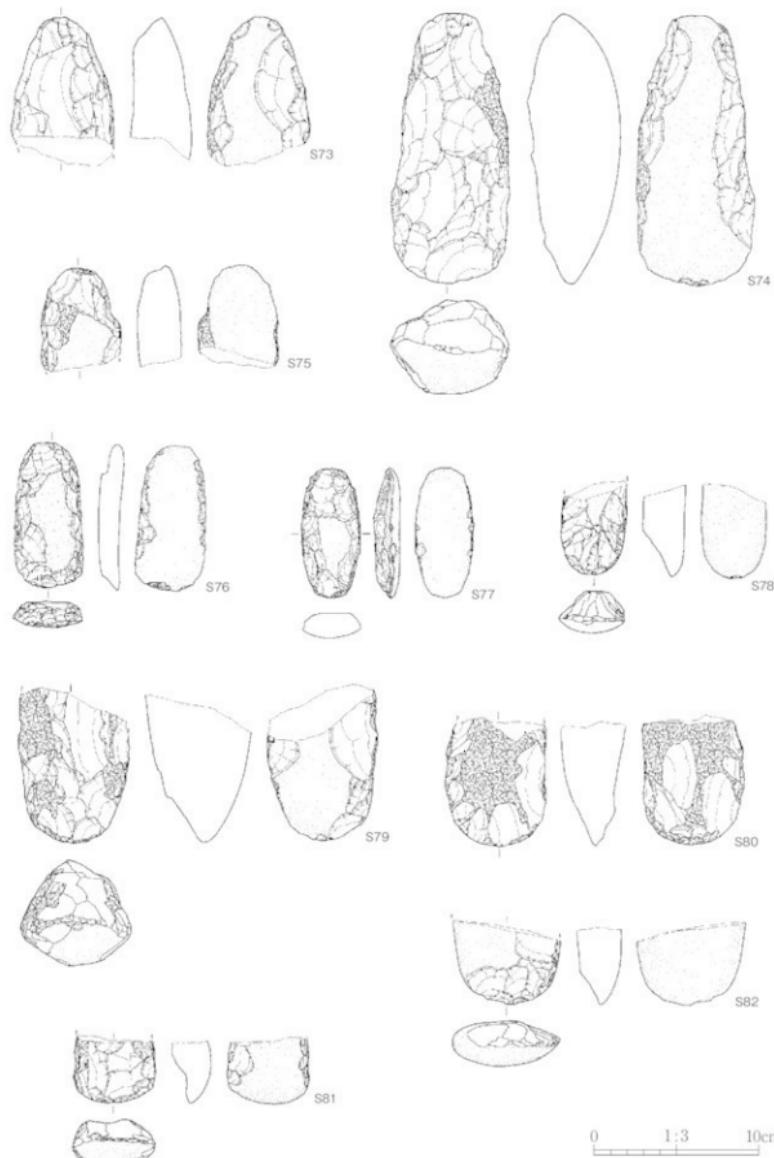
第103図 出土遺物(27)



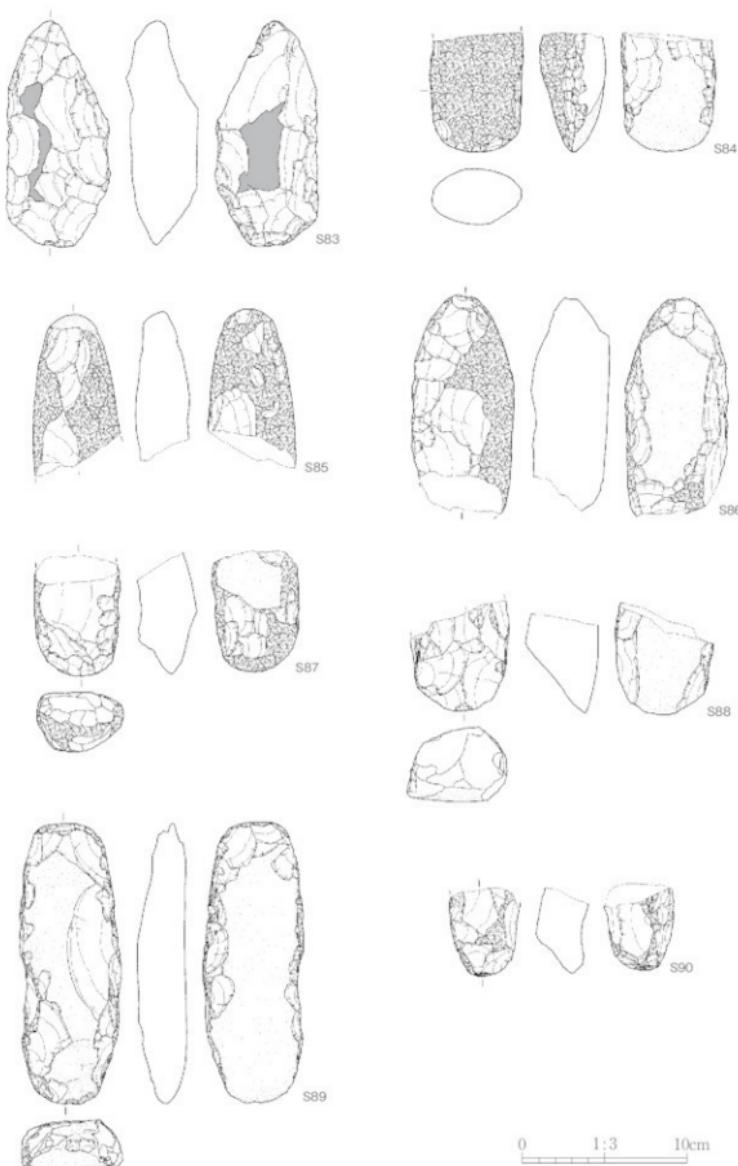
第104図 出土遺物(28)



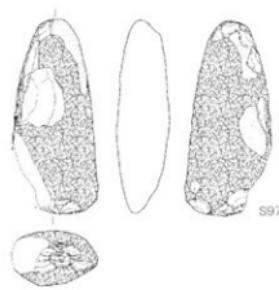
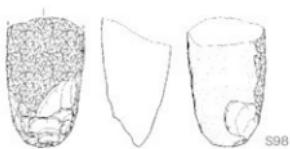
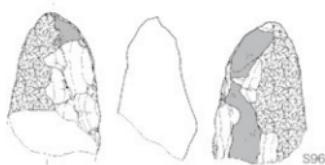
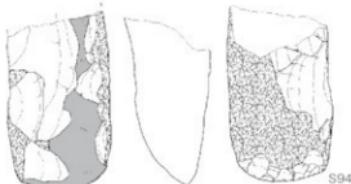
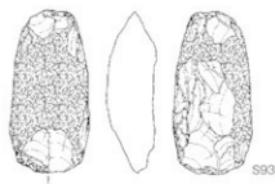
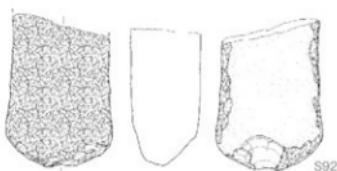
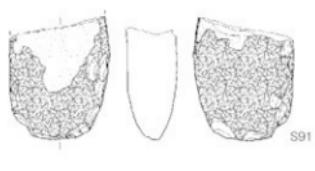
第105図 出土遺物(29)



第106図 出土遺物(30)

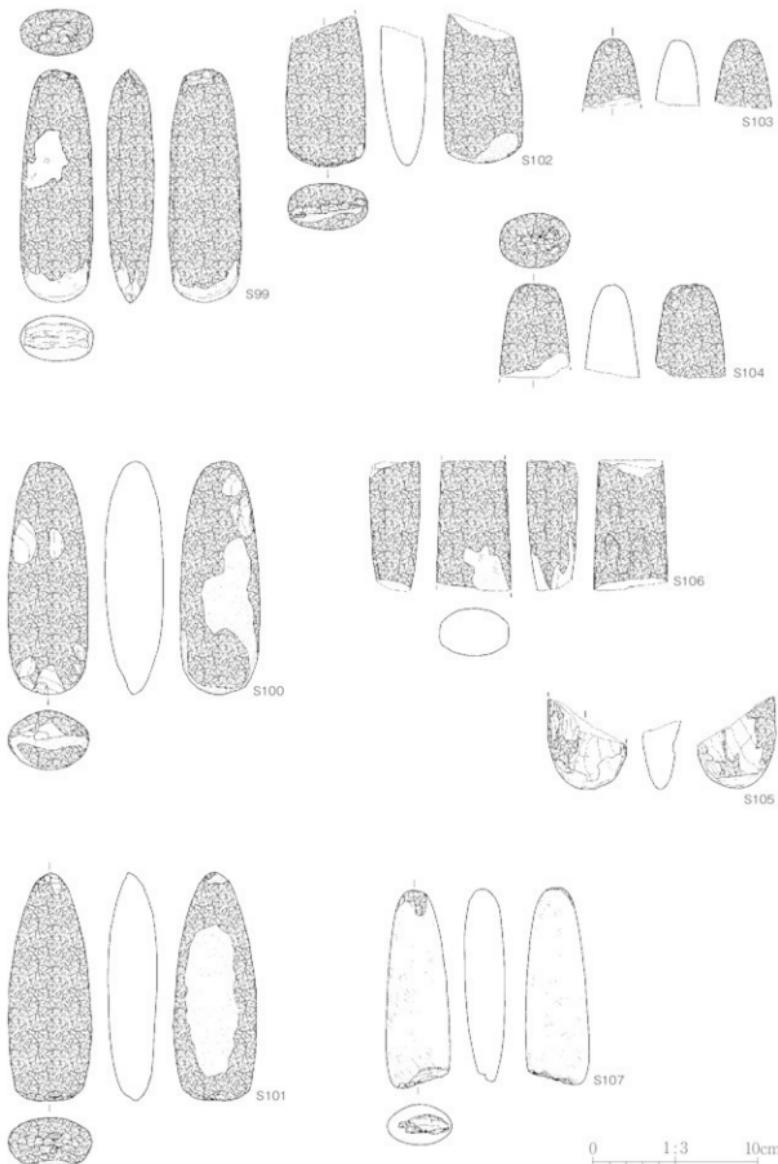


第107図 出土遺物(31)

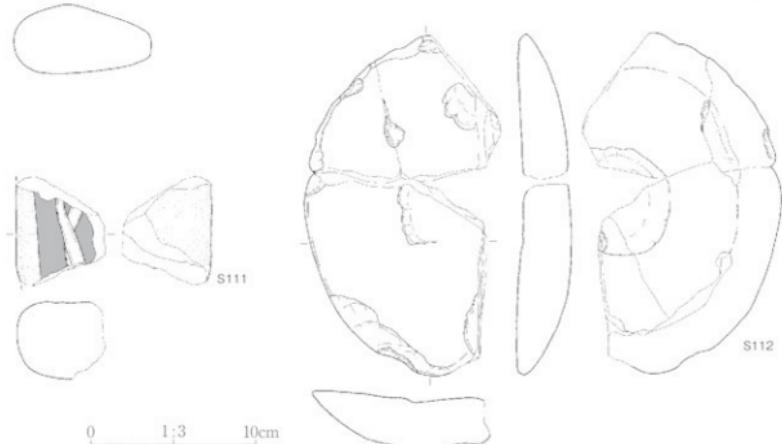
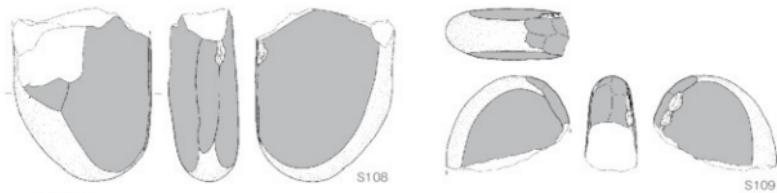


0 1:3 10cm

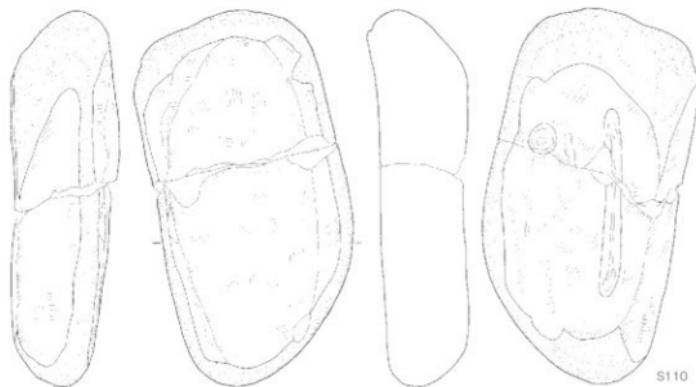
第108図 出土遺物(32)



第109図 出土遺物(33)

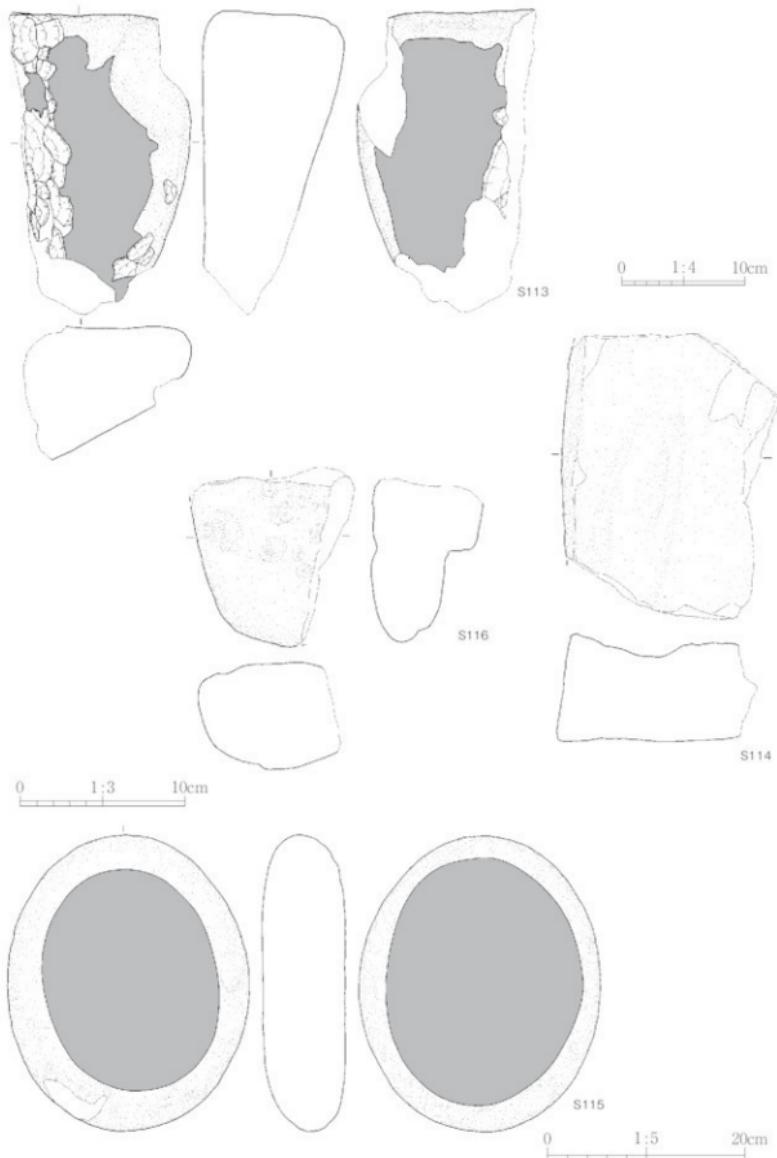


0 1:3 10cm

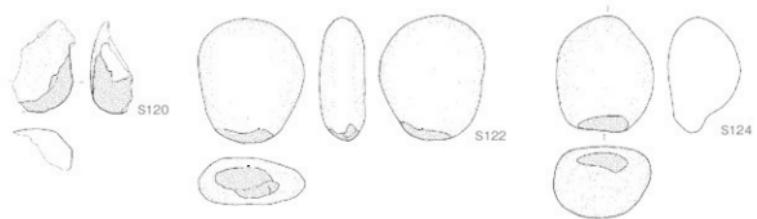
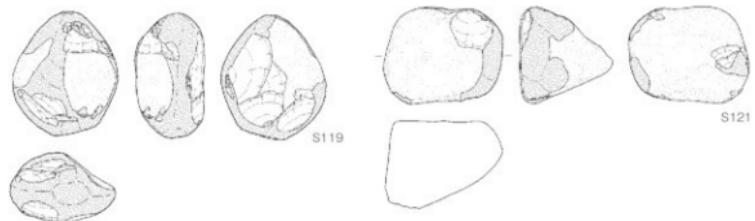
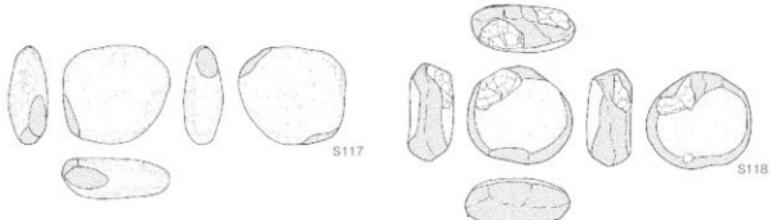


0 1:4 10cm

第110図 出土遺物(34)

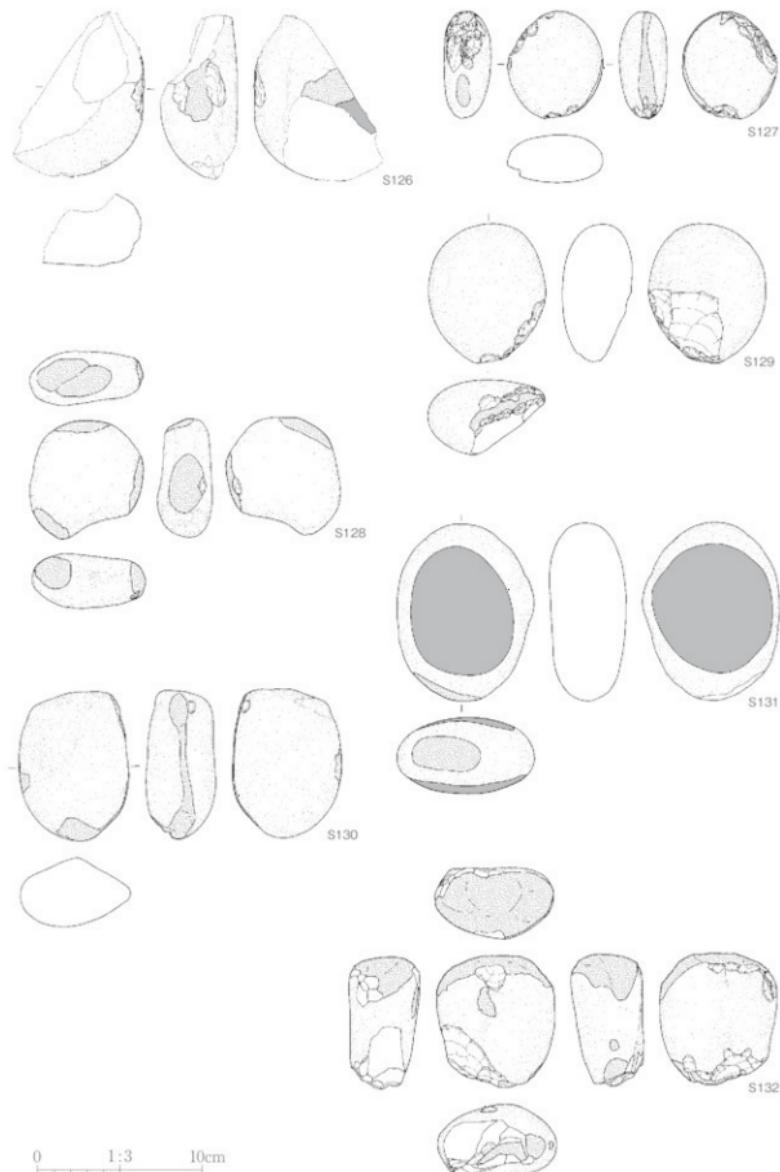


第111図 出土遺物(35)

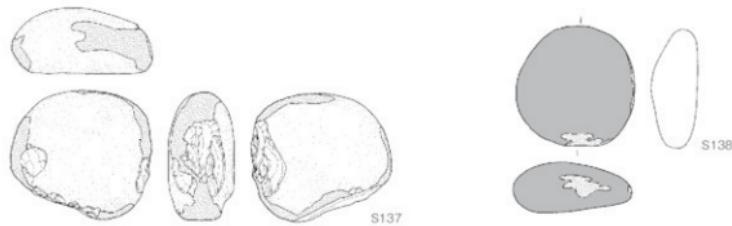
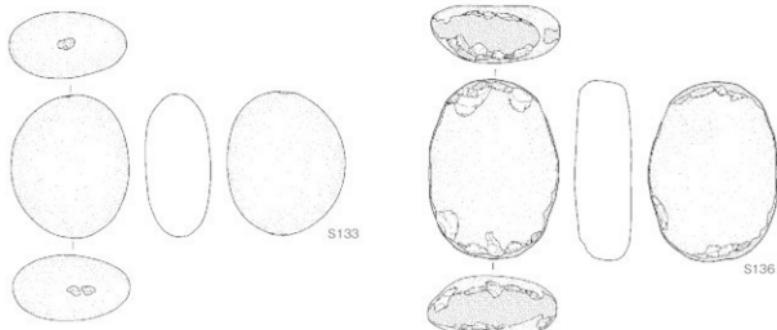


0 1:3 10cm

第112図 出土遺物(36)

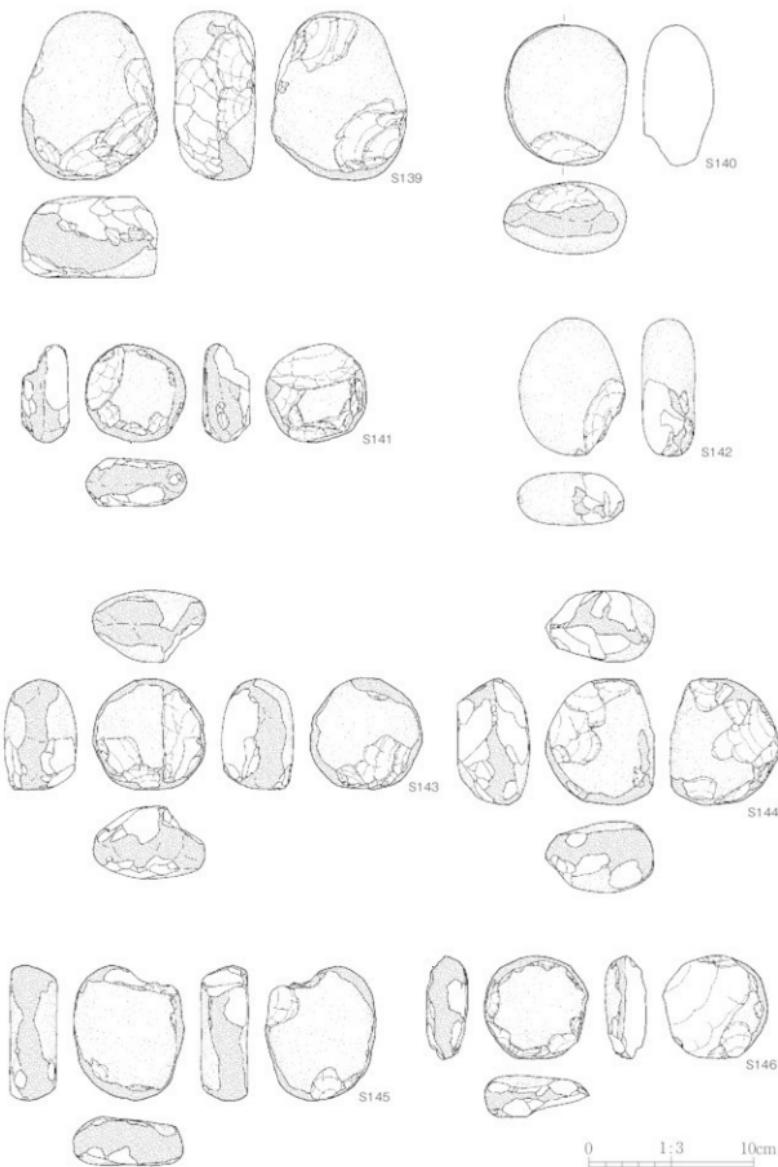


第113図 出土遺物(37)

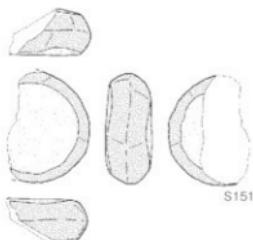
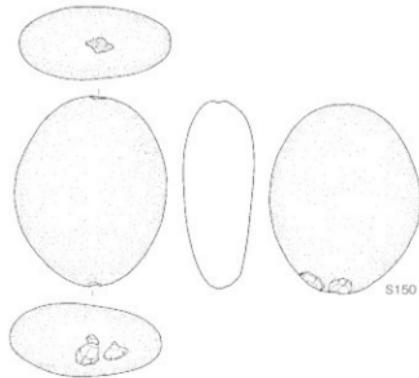
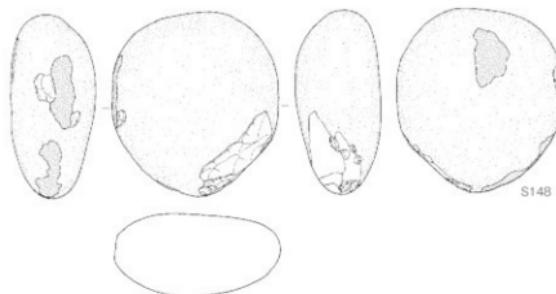
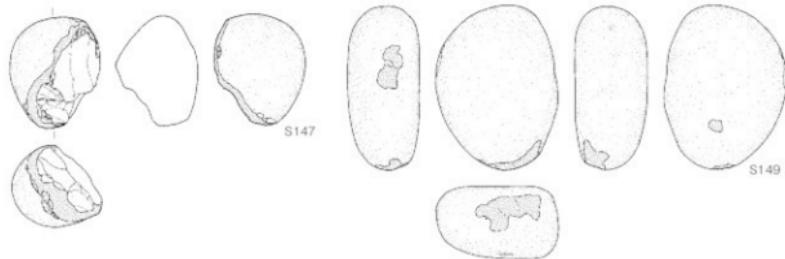


0 1:3 10cm

第114図 出土遺物(38)

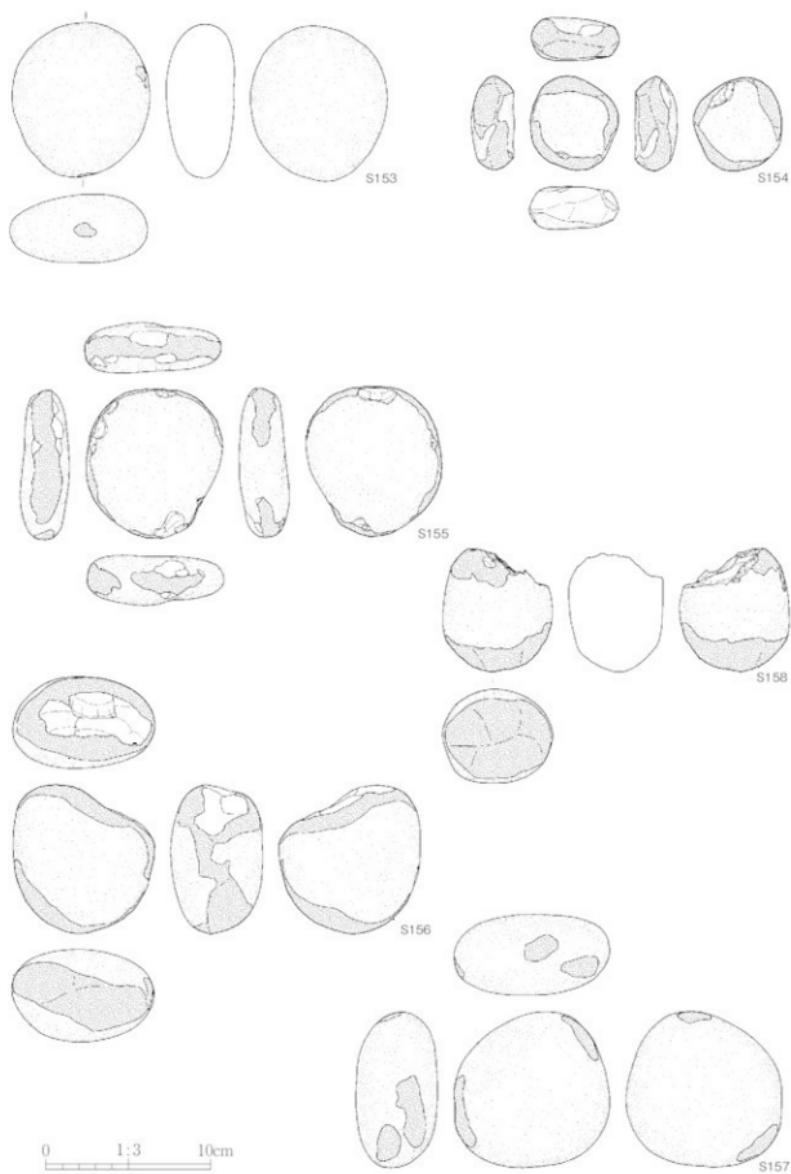


第115図 出土遺物(39)

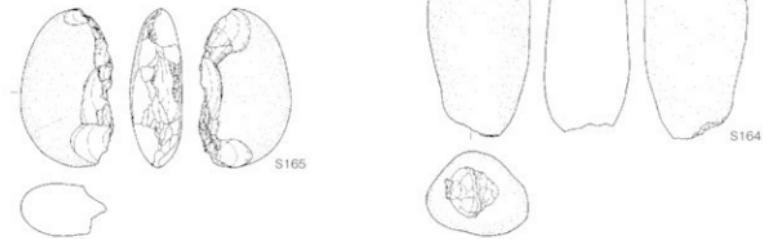
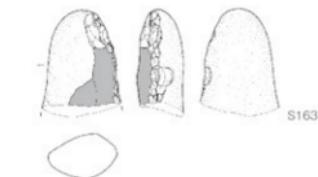
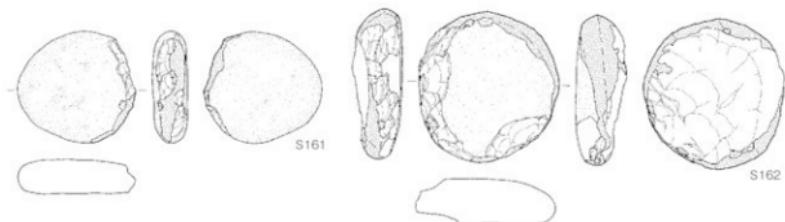
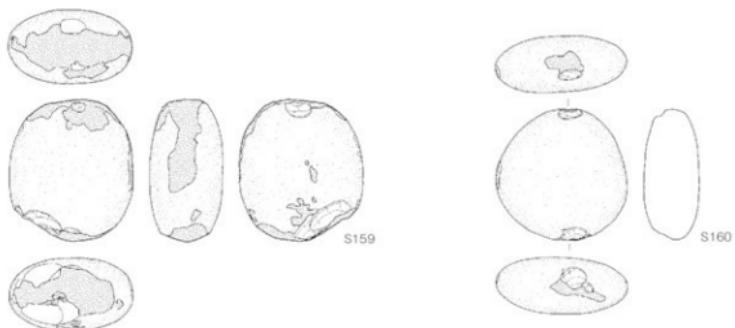


0 1:3 10cm

第116図 出土遺物(40)

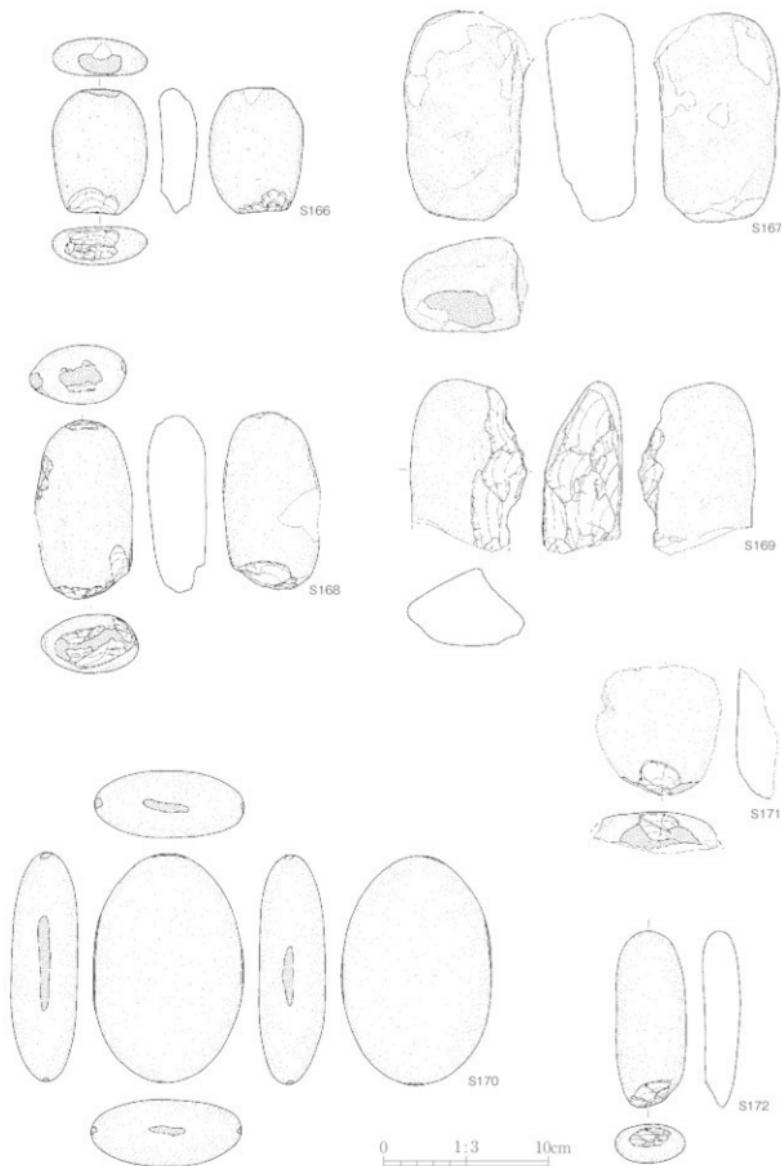


第117図 出土遺物(41)

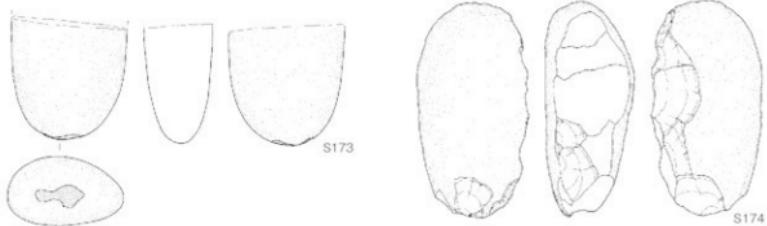


0 1:3 10cm

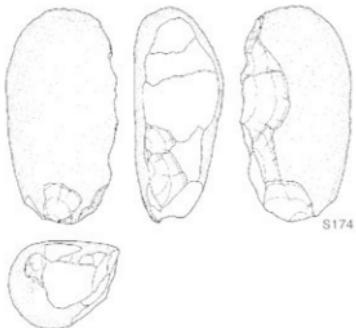
第118図 出土遺物(42)



第119図 出土遺物(43)



S173



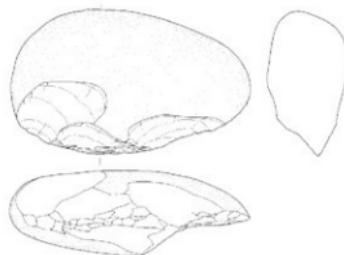
S174

S175

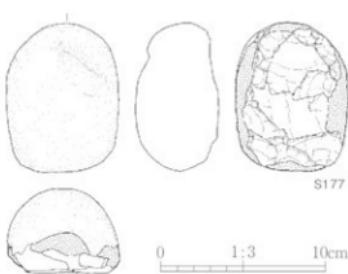


S176

S177

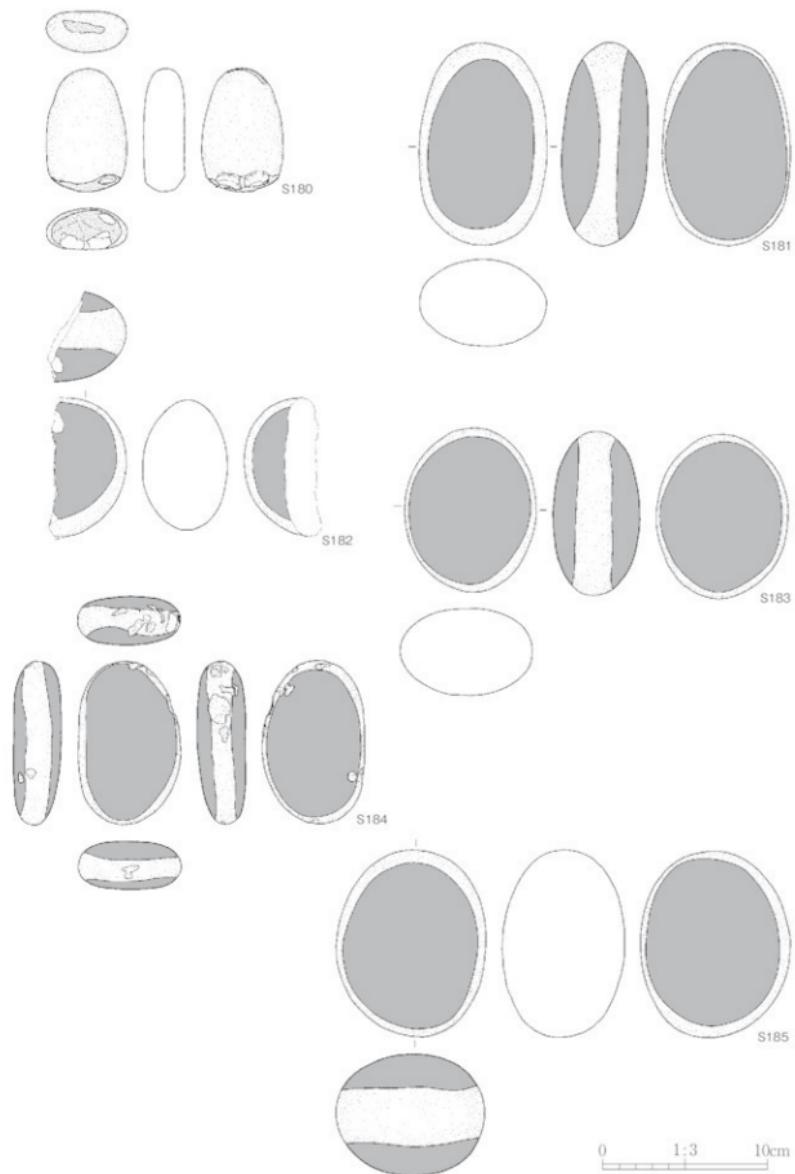


S179

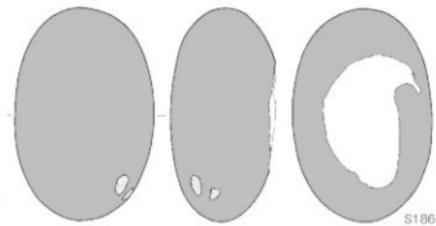


0 1:3 10cm

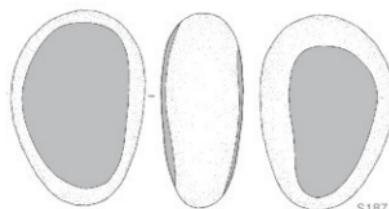
第120図 出土遺物(44)



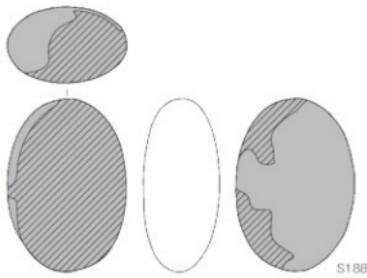
第121図 出土遺物(45)



S186



S187

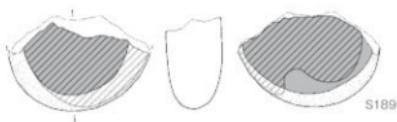


S188

スス付蓋

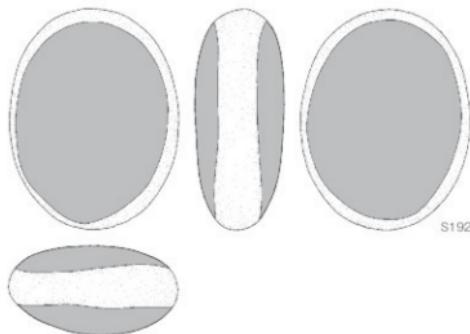
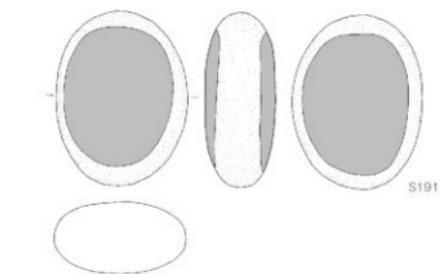
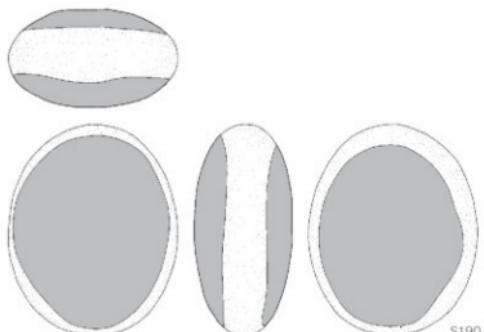


0 1:3 10cm



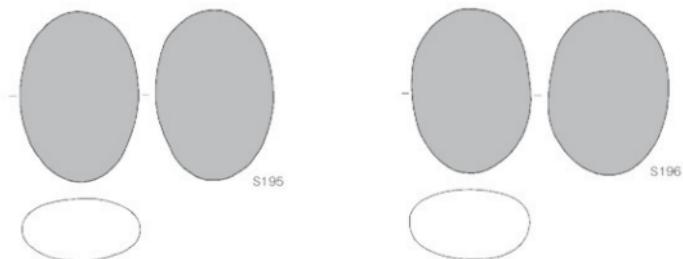
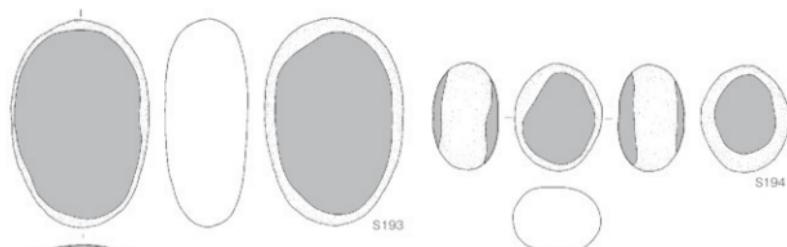
S189

第122図 出土遺物(46)

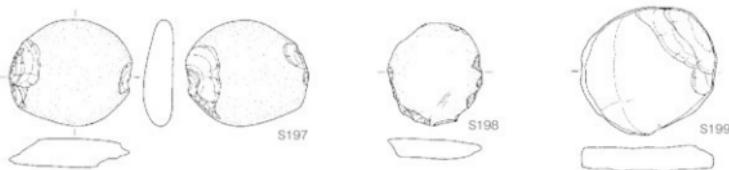


0 1:3 10cm

第123図 出土遺物(47)

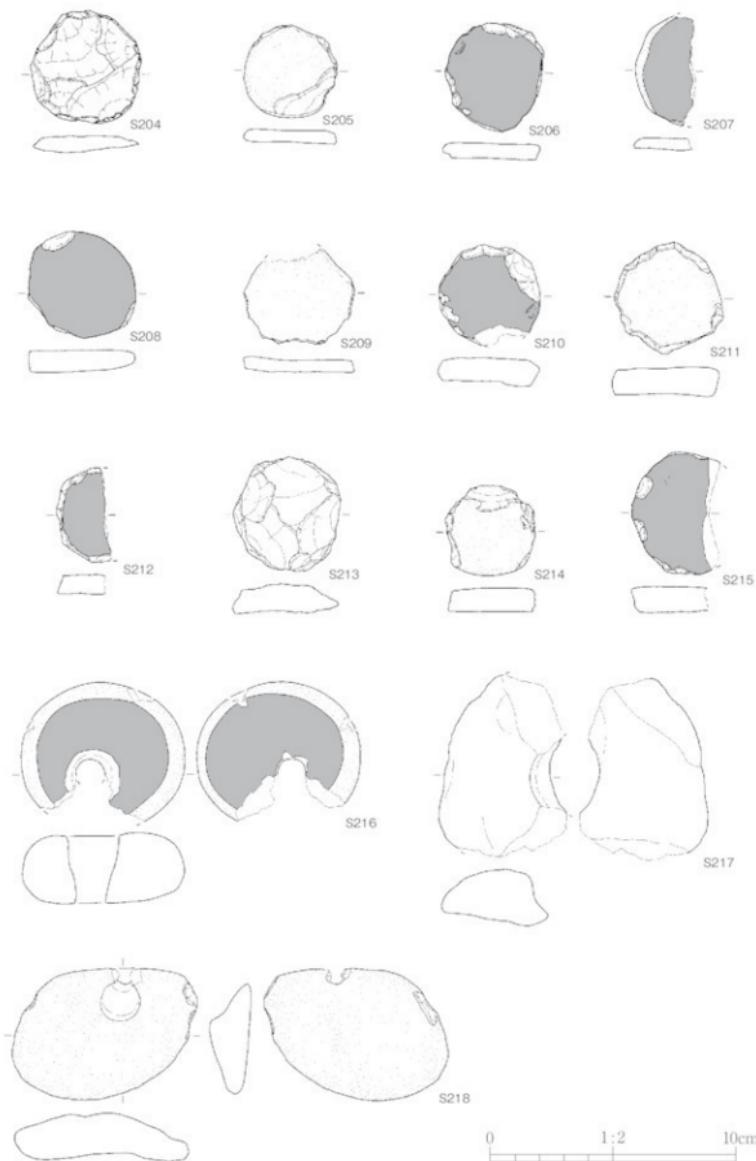


0 1:3 10cm

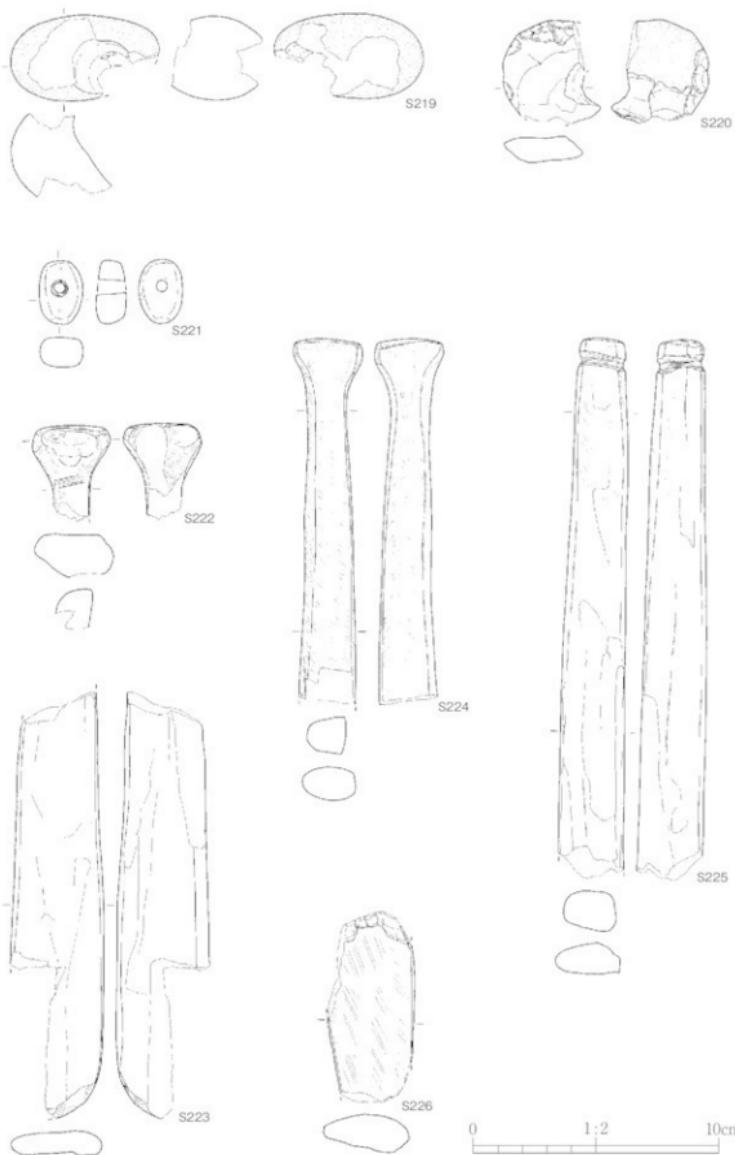


0 1:2 10cm

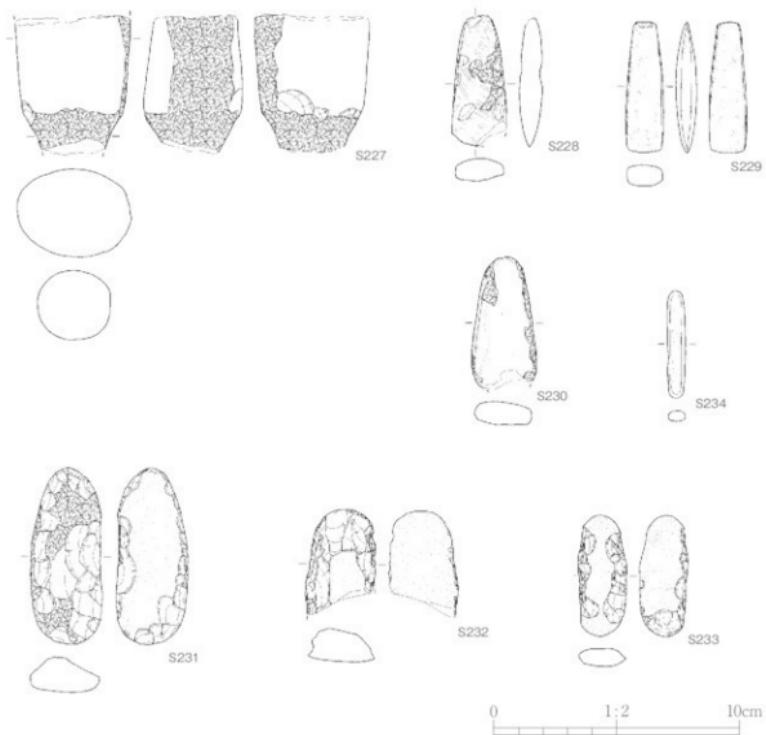
第124図 出土遺物(48)



第125図 出土遺物(49)



第126図 出土遺物(50)



第127図 出土遺物(51)

第3表 土器観察表

No	回版	等級	出土地点	形種	部位	文様の特徴ほか	地文・印文	分類	時期
1	77	54	2号集石, I-A12	深鉢	胸	貝殻模文		A	早期
2	77	54	9号集石, 檜田面	深鉢	口	渡爪口形沿口貝殻模文, 脚部斜削		A	早期
3	77	54	I-A11 横堀面-巨層	深鉢	胸	貝殻模文(腹に日本字羽衣などランダムな施文)		A	早期
4	77	54	I-A17p 日曜下	深鉢	口-側	貝殻模文		A	早期
5	77	54	I-A17p 日曜下	深鉢	脚子	貝殻模文		A	早期
6	77	54	I-A156 盆-巨層	深鉢	底	貝殻文大字文		A	早期
7	77	54	42号集石 檜田面	深鉢	口	貝殻模文(施文), 脚部切入	R.L.	B	前期
8	77	54	1-A14 穀地壁2下端褐色土	深鉢	胸	大字, 菱彌溝入, 手輪の各体	L.R.+R.L.B	早期末-西暦初	
9	77	54	6号集石	小型深鉢	手筋	単語-堅田村吉之助	L.R.	C	中期末-後期初
10	77	54	7号集石 檜田面	小型深鉢	手筋	単語-堅田村吉之助	L.R.	C	中期末-後期初
11	77	54	7号集石 檜田面	小型鉢	口	口縁と底を施文で内面	無記	C	後期
12	77	54	7号集石 クリーニング時	小号深鉢	口	小字横口, 平行丸足	胸ノ	C	後期末?
13	77	54	8号集石	小号鉢	手筋	単語-堅田村吉之助	L.R?	C	中期末-後期初?
14	77	54	26号集石 クリーニング時	台形鉢	胸-脚	側面に連続する平行形刻2列	無記?	C	中期末-後期?
15	77	54	30号集石 檜田面	深鉢	脚	単語-連続する平行形刻2列	L.R.	C	中期末-後期初
16	77	54	I-A10 横堀面-巨層上	深鉢	口	単語-「田原部」の塊に複数仕様	L.R.	C	中期末-後期初
17	77	54	I-A126 レンゲ? I-V層	深鉢	口-側	側面に平行丸足(内面), 内外面アバタ	無記?	C	中末-後期
18	77	54	牛糞文レンゲ? N-09	深鉢	脚	側面に平行丸足(内面), 内外面アバタ	L.R.	C	後期初
19	77	54	I-A11 穀地壁2下端褐色土	深鉢	底	側面に平行丸足(内面), 内外面アバタ	L.R.	C	後期初
20	77	54	I-A13 層位不明	呂士鉢	口	単語-「堅田村」人名, 丁目名, 売起に上から剥離	L.R.	C	後期初
21	77	54	1号住2-堆 球土	深鉢	口	山田山形, 单足, 北端区割, 北端に隆起	L.R?	C	中期末-後期初
22	77	54	1号住2-6号土 壁内	深鉢	口	山田山形, 隆起, 舌状上に施文-「堅田」の印形刻2列	無記?	C	中期末-後期初
23	77	54	6号土壁 壁上(19と同一)	深鉢	口	山田山形, 隆起, 上に施文-「堅田」の印形刻2列	無記?	C	中期末-後期初
24	77	54	17号土壁 壁上	鉢	口	単語-「竹原」の印形刻2列	L.R.	C	中期末-後期初
25	77	54	34号土壁	深鉢	口	山田山形, 隆起, 舌状上に施文-「堅田」の印形刻2列	L.R.	C	中期末-後期初
26	77	54	29号集石 檜田面	深鉢	口	前引音-山田山形, 例れあるアラシ状伏字, 北端区画文, 内外面アバタ	L.R.	C	中期末-後期初
27	77	54	20号集石 檜田面	深鉢	脚	山田山形, 隆起ハラ, 喜多の印形刻2列, 内外面アバタ	L.R.+R.L.	C	中期末-後期初
28	77	54	52号集石	深鉢	口	山田山形, 单足-底面の施文	L.R.	C	中期末-後期初
29	77	54	I-A7	深鉢	口	渡爪口形, 渡爪口形-舌状上に施文-「堅田」の印形刻2列	L.R.	C	後期初
30	28	54	1-A8g 穀地壁2下端褐色土	盆	口	平行丸足, 父母の印形刻2列, 坚田山形, 内外面アバタ	L.R.	C	中期末?
31	78	54	I-A11m 日曜	深鉢	口	口縁部肥厚(突起), 单足, 底面の縁取り	L.R?	C	後期初
32	78	54	1号住 実側壁上	深鉢	口	S字形施文	R.L.	C	後期初-前
33	78	54	1号住2-ルト内 壁上	小型鉢	口	小字横口, 单足, 「口」文	L.R.	C	後期初
34	78	54	1号住2-ルト内 壁上	深鉢	口	新引音-山田山形, 单足-「口」印形刻2列, 北端区画文	R.L.	C	後期初
35	78	54	4号集石 檜田面	大型壺	肩	施文, 底面, 内外面アバタ(多く)		C	後期初-前
36	78	54	10号集石 下部土坑 壁上	鉢	口	朱文字, 内外面アバタ		C	後期初-前
37	78	54	29号集石 下部土坑 壁上	深鉢	口-側	山田山形, 单足, 底面による施文	R.L.	C	後期初
38	78	54	26号集石 檜田面	深鉢	口	渡爪口形, 底面による施文	R.L.	C	後期初
39	78	54	25号集石 檜田面	深鉢	口	平行丸足, 底面による施文, 内外面アバタ	R.L.	C	後期初
40	78	54	42号集石 土坑 壁上	深鉢	口	渡爪口形, 施文による施文, 内外面アバタ	R.L.	C	後期初
41	78	54	I-A11 穀地壁2下端褐色土	深鉢	口	渡爪口形-角, 施文による施文, 北端区画文, 内外面アバタ	R.L.	C	後期初
42	78	54	I-A11 穀地壁2上端	深鉢	口	渡爪口形-角, 施文, 内外面アバタ	L.R?	C	後期初-前
43	78	54	I-A10 穀地壁2下端褐色土	鉢	口-底	平行丸足, 中央に「口」印形刻2列, 北端区画文	R.L.	C	後期初
44	78	54	I-A9 穀地壁2上端	大型壺	肩	渡爪口形による施文, 内外面アバタ		C	後期初
45	78	54	I-A9 穀地壁2下端褐色土	大型壺	肩	渡爪口形, 先端に「口」の字らし, 施文, 本色顔料有り, 1ガギ		C	後期初
46	78	54	2号集石 檜田面	深鉢	口	S字形施文, 内外面アバタ	R.L.	C	後期初-前
47	78	55	1-A8e 内嵌石付盆	呂士鉢	脚	单足形, 单足, 刷毛, 脚部有孔, 涼御千葉ケズリ	R.L.	C	後期初-前
48	78	55	6号集石 檜田面	深鉢	口	丸足3条, 内外面アバタ多い	R.L.	C	後期初-前
49	78	55	58号集石	小型鉢	口	平行丸足, 内外面アバタ	R.L.	C	後期初-前
50	78	55	59号集石 檜田面	盆	口	平行丸足	R.L.	C	後期初-前
51	78	55	1-A8f 1-直層	深鉢	口-側	山田山形, 渡爪口形-内面による区画文	L.R.	C	後期初
52	78	55	1-A8b 穀地壁2下端レンチ	深鉢	口	山田山形, 渡爪口形-内面による区画文	R.L.	C	後期初-前
53	78	55	1-A16 II-巨層	鉢	口	渡爪口形, 先端に「口」の字らし, 施文	R.L.	C	後期初-前
54	79	55	1号住 西側壁上	深鉢	脚	渡爪口形, 渡爪口形-舌状上, 方形区画文	R.L.	C	後期初-前
55	79	55	1号住 西側壁上	深鉢	脚	单足-方形容文	L.R.	C	後期初-前
56	79	55	1号住 西側壁上	小型鉢	口	丸足3条, 北端区画文	R.L.	C	後期初-前
57	79	55	15号土坑 壁上	鉢	口	単語-連続する組文	R.L.	C	後期初-前
58	79	55	24号土坑 壁上	盆	口	平行丸足-「口」文, 外面に「口」	R.L.	C	後期初-前
59	79	55	24号土坑	深鉢	口	山田山形, 单足, 底面による施文	L.R.	C	後期初-前
60	79	55	33号土坑 壁上	深鉢	脚	単語-「口」による区画文	R.L.	C	後期初-前
61	79	55	34号土坑	深鉢	脚	单足文	R.L.	C	後期初-前
62	79	55	35号土坑	深鉢	口	単語, 口縁部の單孔穿孔, 北端区画文	L.R.	C	後期初-前
63	79	55	4号集石 クリーニング時	深鉢	口-側	単語-方形容文, 底面による区画文?	R.L?	C	後期初-前
64	79	55	4号集石 檜田面	深鉢	脚	単語-平行丸足, 北端区画文	R.L.	C	後期初-前
65	79	55	4号集石 檜田面	深鉢	口	単語-平行丸足, 北端区画文	R.L.	C	後期初-前
66	79	55	4号集石 下部土坑 壁上, I-A16はか	小型鉢	口-側	口縁部と単足, 北端区画文	L.R.	C	後期初-前
67	79	55	5号集石	深鉢	口	平行丸足, 单足, 北端区画文	R.L.	C	後期初-前
68	79	55	6号集石 檜田面	鉢	口	単語-区画文	R.L.	C	後期初-前
69	79	55	7号集石 檜田面	呂士鉢	脚	上2列の單孔穿孔, 北端区画文	R.L.	C	後期初-前
70	79	55	7号集石 檜田面	深鉢	脚	平行丸足, 内外面アバタ	R.L.	C	後期初-前
71	79	55	7号集石 檜田面-クリーニング時	深鉢	口-側	平行丸足, 北端区画文, 内外面アバタ	R.L.	C	後期初-前
72	79	55	7号集石, I-A16-15 巨-巨層はか	深鉢	口-側	手筋条件, 内外面アバタ, 口縁部に曲脚文	R.L.	C	後期初-前
73	79	55	8号集石 檜田面	深鉢	口	渡爪口形-内面, 内外面アバタ	R.L?	C	後期初-前

No.	図版	写真	出土地点	形種	部位	文様の特徴ほか	地文・範体	分類	時期
74	29	55	8号集石下部土坑 墓土	深鉢	側	単周→区画文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
75	29	55	9号集石 檻前面	深鉢	側	人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
76	29	55	12号集石下部土坑 墓土	深鉢	口	単周→区画文(方形)	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
77	29	55	13号集石 檻前面	深鉢	口	山形紅線(山形部分に突出), 単周→三角文	L.R?	Ⅳ	後期初→晩
78	29	55	16号集石	深鉢	口	平行波線×2条	無印	Ⅳ	後期初→晩
79	29	55	18号集石	深鉢	側	人面文, 内界ミギホ	無印	Ⅳ	後期初→晩
80	29	55	19号集石 クリーニング時	深鉢	側	単周→人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
81	29	55	20号集石 檻前面	深鉢	口	単周→横文, 隔離帶上に单周, 单周から垂下する突起	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
82	29	55	20号集石 檻前面	小鉢	側	単周→人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
83	29	55	20号集石 檻前面	小鉢	側	無周→人面文	無印	Ⅳ	後期初→晩
84	29	55	20号集石 檻前面	対	肩	波状線による区画文, 内界アバタ	無印	Ⅳ	後期初→晩
85	29	55	23号集石下部土坑	深鉢	口	波状線による区画文, 内界アバタ	R.L.	Ⅳ	後期初→晩
86	80	55	24号集石	深鉢	口	山形紅線(その上に沿う平行波線, 単周→人面文)	L.R?	Ⅳ	後期初→晩
87	80	55	25号集石 檻前面	深鉢	側	単周?→透弧文	無印	Ⅳ	後期初→晩
88	80	55	25号集石 檻前面	鉢	側	己状人面文	無印	Ⅳ	後期初→晩
89	80	55	25号集石下部土坑 墓土	深鉢	側	単周→人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
90	80	55	24号集石下部土坑 墓土	深鉢	側	単周→人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
91	80	55	25号集石 檻前面	深鉢	側	単周→角文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
92	80	55	26号集石 檻前面	深鉢	口	単周→平行波線(区画文)	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
93	80	55	26号集石 檻前面	深鉢	口	波状線による区画文, 内界人面文	R.L?	Ⅳ	後期初→晩
94	80	55	27号集石 檻前面	小鉢	側	透弧線による区画文	無印	Ⅳ	後期初
95	80	55	29号集石 檻前面	深鉢	側	風呂人面文,赤色斜付背	無印	Ⅳ	後期初→晩
96	80	56	30号集石	深鉢	口	山形紅線, 单周→人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
97	80	56	40号集石	深鉢	口	単周→透弧文, 北端区画, 橙削	L.R.	Ⅳ	後期初
98	80	56	43号集石 檻前面	鉢	口	小斜線口口口, 单周上に透弧文, 平行波線	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
99	80	56	42号集石 檻前面	深鉢	側	単周→透弧文による透色文	L.R.	Ⅳ	後期初
100	80	56	45号集石	深鉢	側	透弧文	無印	Ⅳ	後期初→晩
101	80	56	45号集石 檻前面	深鉢	口	単周→透弧文, 卷曲部口上から斜削	無印	Ⅳ	後期初→晩
102	80	56	47号集石 檻前面	深鉢	側	単周→透弧文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
103	80	56	53号集石 檻前面	深鉢	口	透弧文, 单周上に透弧文	R.L.	Ⅳ	後期初→晩
104	80	56	53号集石 檻前面	深鉢	側	単周→透弧文, 方形区画	無印	Ⅳ	後期初→晩
105	80	56	55号集石 檻前面	深鉢	側	単周→人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
106	80	56	56号集石	深鉢	側	単周→方彌(区画文)	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
107	80	56	58号集石 檻前面はか	小鉢	口→側	透弧文による区画文, 内界透ミギホ	無印	Ⅳ	後期初→晩
108	80	56	59号集石下部土坑 墓土	深鉢	口	山形紅線, 单周→透弧文, 单周上に透弧文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
109	80	56	内番円 楽施地2下階褐色土-1層	対	口→底	窓の縁取り4分割の区画文, 方形区画文	無印	Ⅳ	後期初→晩
110	80	56	2号室2内	深鉢	口	角形区画文, 内面ミギホ	無印	Ⅳ	後期初→晩
111	81	56	10号2階梯段, L17号2階梯段2内はか	深鉢	口	己状人面文, 内面アバタ	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
112	81	56	1Ase II層	小鉢	口	平行波線の交差面間に開削, 外面ミギホ	無印	Ⅳ	後期初→晩
113	81	56	1Ase II層	切削部	口→側	己状人面文	無印	Ⅳ	後期初→晩
114	81	56	1Ase-5e	馬王土器	側	己状人面文	無印	Ⅳ	後期初→晩
115	81	56	1Ase-5e	深鉢	口	透弧線による区画文, 透弧文, 内界透ミギホ	R.L.	Ⅳ	後期初→晩
116	81	56	1Ase-5e	深鉢	口	単周→透弧文による区画文	R.L.	Ⅳ	後期初
117	81	57	1Ase-5eか 重-苦留上面	深鉢	口	透弧線による区画文	R.L.	Ⅳ	後期初→晩
118	81	57	1Ase 重留部上部-重留腰中	鉢	口→底	透弧線による区画文	無印	Ⅳ	後期初→晩
119	81	57	1Ase 重留部2下階褐色土	深鉢	側-底	透弧-深入人面文?	無印	Ⅳ	後期初→晩
120	81	57	1Ase 重留部2下階褐色土	小斜面深鉢	口	山形紅線, 波状線, 亂線→口周に沿う平行波線	無印	Ⅳ	後期初→晩
121	81	57	1Ase 重留部2下階褐色土	対	透弧線による区画文, 内面ミギホ	無印	Ⅳ	後期初→晩	
122	81	57	1Ase 重留部2下階褐色土	深鉢	口	山形紅線, 单周上に透弧文	L.P.	Ⅳ	後期初→晩
123	82	57	1Ase 重留部2下階褐色土	深鉢	口	透弧線, 己状人面文, 内面アバタ	L.R?	Ⅳ	後期初→晩
124	82	57	1Ase-2g 重留部2下階褐色土はか	馬王土器	口→底	透弧線, 单周上に透弧文, 内面アバタ, 口周部側面下半部に孔状要點	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
125	82	57	1Ase 重留部2中	深鉢	口	透弧線による区画文, 透弧文, 外面ミギホ	無印	Ⅳ	後期初→晩
126	82	57	1Ase 重留部2下階褐色土	小鉢	側	透弧-深入人面文?	無印	Ⅳ	後期初→晩
127	82	57	1Ase 重留部2下階褐色土	深鉢	口	透弧-深入人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
128	82	57	1Ase 重留部2下階褐色土	深鉢	口	透弧線による区画文	無印	Ⅳ	後期初→晩
129	82	57	1Ase 内番円 楽施地2内はか	鉢	口	小斜面口口口, 口周に沿う透弧文	無印	Ⅳ	後期初→晩
130	82	57	1Ase 楽施地2下階褐色土	深鉢	口	透弧線, 单周上に透弧文	R.L.	Ⅳ	後期初→晩
131	82	57	1Ase 内番円 楽施地2下階褐色土	馬王土器	口→側	奥に上から小孔, 单周, 单周, 波状線, 亂線上に単周横文	R.L.	Ⅳ	後期初→晩
132	82	57	1Ase 楽施地2下階褐色土はか	馬王土器	口	透弧-深入人面文, 奥に上から小孔, 单周	無印	Ⅳ	後期初→晩
133	82	57	1Ase 横渠面-苦留	深鉢	口	透弧-平行波線, 北端開削, 内面アバタ	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
134	82	57	1Ase 南北46° 楽施地1-2内	深鉢	口	小斜面口口, 波状線による区画, 波状帶上に单周横文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
135	82	57	1Ase 楽施地上面	深鉢	口	山形紅線, 亂線, 波状線上單周人面文	無印	Ⅳ	後期初→晩
136	82	57	1Ase-10e 楽施地内	大型盆	側	己状人面文, 細孔(3-4)回	無印	Ⅳ	後期初→晩
137	82	57	1Ase-10e 南北46° 楽施地2-1	大型盆	側	透弧-深入人面文	無印	Ⅳ	後期初→晩
138	82	57	1Ase-10e 横渠面-苦留	対	透弧-波状面上に单周?	L.R?	Ⅳ	後期初→晩	
139	82	57	1Ase-10e 横渠面-苦留	鉢	透弧-波状面上に单周, 内外面ミギホ	L.R.	Ⅳ	後期初→晩	
140	82	57	1Ase-10e 楽施地2内	深鉢	口	山形紅線と白の透弧-深入, 波状帶上に单周, 内外面ミギホ	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
141	82	58	1Ase-10e B層上 土剥片集中所	深鉢	口→底	己状人面文, 細孔(3-4)回の透弧状文, 内面ミギホ	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
142	82	58	1Ase-10e 楽施地2下階褐色土	深鉢	口	山形紅線, 亂線, 波状線, 波状面上單周人面文	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
143	82	58	1Ase-10e 横渠面-苦留	小斜面	口→側	透弧-深入人面文, 内面ミギホ	無印	Ⅳ	後期初→晩
144	83	58	1Ase-11 II層	深鉢	口	透弧-深入人面文, 波状-平行波線, 内面アバタ	無印	Ⅳ	後期初→晩
145	83	58	1Ase-11 II層	深鉢	口	単周-平行な透弧-波状, 波状上に单周, 内面アバタ	無印	Ⅳ	後期初→晩
146	83	58	1Ase-11 II層	深鉢	口	単周-平行する透弧-波状, 波状上に单周, 入人面	L.R.	Ⅳ	後期初→晩
147	83	58	1Ase-11 II層	深鉢	口	山形紅線, 单周, 波状-平行波線開削部残れ	R.L.	Ⅳ	後期初→晩
148	83	58	1Ase-10-58号集石冠	深鉢	口	[区画文, 波状面(透弧)]	L.R.	Ⅳ	後期初→晩

No.	図版	写真	出土地点	形種	部位	文様の特徴ほか	地文・範体	分類	時期
149	83	58	I A146 縦位不明	深鉢	口	山形口縁、单足→平行沈縁(波浪入組文)	L.R.	基	後期前
150	83	58	I A147	深鉢	脚	三角形区画文、内面アバタ	無脚L.	基	後期前→晩
151	83	58	I A151-161 Ⅱ層下	深鉢	口	山形口縁、内面文	基	後期前	
152	83	58	4号住往石 瓢箪面クリーニング時	深鉢	口→脚	弧状文	基	後期前	
153	83	58	49号集石 植出面	小鉢	脚→底	丸頭吹葉文	基	後期前→晩	
154	83	58	49号集石 植出面	深鉢	口	山形口縁、無足→口縁に沿う平行沈縁	無脚L.	基→晩	後期前→晩
155	83	58	I Ang 南東石臼内 繊維層2	足	解	幾式縫の万多区画文	基	後期前→晩	
156	83	58	I A94 集石植出面	馬蹄土器	口	山形口縁、人面文、内面に上手から穿孔	基	後期前	
157	83	58	I A156	深鉢	口	单足→平行沈縁(人面文)	L.R?	基→晩	後期前→晩
158	83	58	I A186 Ⅱ層上	深鉢	口	单足→平行沈縁(平行区画文)	R.L.	基→晩	後期前→晩
159	83	58	5号住 東側壁上	鉢	脚→底	平行区画文	R.L.	基	後期前→晩
160	83	58	5号住 西側壁上	小鉢	脚	沈縁で連続する組文	基	後期前→晩	
161	83	58	1号住 西側壁上	竪	解	平行沈縁、弧状文	基	後期前→晩	
162	83	58	1号住 西側壁上	小野深鉢	口	無足→平行区画文	無脚L.	基	後期前→晩
163	83	58	1号住 西側壁上	深鉢	脚	单足→平行区画文	R.L.	基	後期前→晩
164	83	58	3号住 墓土部-4、4号住	竪	口→底	2号の浅縁による三角文	基	後期前	
165	83	58	3号住 墓土下部	深鉢	脚	發帶、沈縁の連続	基	後期前→晩	
166	83	58	5号住Pn1	深鉢	脚	平行沈縁、外側赤色斜格付着	基	後期前→晩	
167	83	58	5号住横構上部 整地層2内	深鉢	脚	弧状文	基	後期前→晩	
168	83	58	17号土坑 墓土	小野鉢	脚	曲絵文	基	後期前→晩	
169	83	58	22号土坑 墓土下位	鉢	口	平行沈縁	基	後期	
170	83	58	26号土坑	鉢	口	平行沈縁	基	後期	
171	83	58	26号土坑	深鉢	口	山形口縁に沿う沈縁	基	後期	
172	83	58	34号土坑	小野鉢	口	平行沈縁区画、外側縫に低い突起	基	後期前→晩	
173	83	58	1号集石 植出面	深鉢	脚	人面文、内面アバタ	基	後期前→晩	
174	83	58	2号集石 植出面	小野深鉢	口	平行沈縁	R.L.	基	後期前→晩
175	83	58	3号集石 植出面	深鉢	口	双絵文	基	後期前→晩	
176	83	58	3号集石 植出面	小野鉢	口	平行沈縁	基	後期前→晩	
177	83	58	3号集石 植出面	深鉢	脚	区画文	基	後期前→晩	
178	83	58	3号集石	深鉢	脚	人面文	L.R.	基	後期前→晩
179	83	58	4号集石	鉢	脚	浅縁による区画文、内面アバタ	基	後期前→晩	
180	83	58	4号集石 植出面	鉢	口	平行沈縁、区画文、内外面アバタ	基	後期前→晩	
181	83	58	4号集石 下部土坑 墓土	深鉢	脚	平行沈縁、单足→平行沈縁	L.R.	基	後期前→晩
182	83	58	5号集石	小野鉢	脚	平行沈縁	基	後期前→晩	
183	83	58	5号集石 植出面	小野鉢	口	平行沈縁、人面文	基	後期前→晩	
184	83	58	5号集石 植出面	深鉢	脚	束縫区画、内外面アバタ多い	基	後期前→晩	
185	83	58	5号集石 クリーニング時	竪	脚	人相御文	基	後期前→晩	
186	83	58	6号集石 下部土坑	深鉢	脚	曲絵文	基	後期前→晩	
187	83	58	7号集石 植出面	馬蹄土器	口	上下方向の乳突型突起、沈縁	基	後期前→晩	
188	83	58	8号集石 下部土坑 墓土	鉢	脚	平行沈縁、人面文	基	後期前→晩	
189	83	58	8号集石 下部土坑 墓土	深鉢	脚	人面文	基	後期前→晩	
190	84	58	9号集石 植出面	深鉢	口	单足→平行沈縁	無脚L.	基	後期前→晩
191	84	58	9号集石 植出面	鉢	脚	平行沈縁	基	後期前→晩	
192	84	58	9号集石	鉢	脚	二角文	基	後期前→晩	
193	84	58	9号集石	深鉢	口	小野鉢、单足→平行沈縁	無脚L.	基	後期前→晩
194	84	58	10号集石 下部土坑 墓土	鉢	脚	平行沈縁、内外面アバタ多い	基	後期前→晩	
195	84	58	11号集石	小野鉢	口	平行沈縁と条文	基	後期前→晩	
196	84	59	13号集石 クリーニング時	深鉢	脚	平行沈縁、人面文	基	後期前→晩	
197	84	59	18号集石 I A30 瓢箪面一部崩	鉢	口	表裏吹葉、人面文→平行沈縁、人面文	無脚L.	基	後期前→晩
198	84	59	20号集石 植出面	鉢	口	小底吹葉、平行沈縁	基	後期前→晩	
199	84	59	20号集石 植出面	竪	口→脚	平行沈縁、人面文、内外面アバタ、胎土剥離	基	後期前→晩	
200	84	59	20号集石 植出面	深鉢	脚	浅縁3条人面文	基	後期前→晩	
201	84	59	20号集石 中縫	小野鉢	口	口縫に平行沈縁、人面文、内外面アバタ多い	内向脚	基	後期前→晩
202	84	59	20号集石 植出面	竪	解	楕円把手の内部に捺書き2条	基	後期前→晩	
203	84	59	22号集石 植出面	深鉢	脚	平行沈縁、单足→平行沈縁	基	後期前→晩	
204	84	59	22号集石 植出面	小野鉢	脚	浅縁と人面文、弧状文	基	後期前→晩	
205	84	59	25号集石 植出面(鷲)	深鉢	脚	弧状吹葉文	基	後期前→晩	
206	84	59	27号集石 下部土坑 墓土	竪	口→脚	平行沈縁、内面に芽字	基	後期前→晩	
207	84	59	35-39号集石	小野鉢	口→脚	单足→平行沈縁、ベンザビット着	L.R.	基	後期前→晩
208	84	59	33号集石	深鉢	脚	弧状吹葉文	基	後期前→晩	
209	84	59	36号集石	深鉢	脚	平行沈縁に2.5回文	基	後期前→晩	
210	84	59	40号集石 下部土坑 墓土	鉢	脚	单足→平行沈縁	R.L.	基	後期前→晩
211	84	59	41号集石 植出面	馬蹄土器	口	单足→平行沈縁、上下方向に穿孔のある突起	R.L.	基	後期前→晩
212	84	59	41号集石 上縫	小野鉢	口	平行沈縁3条、ペガサスガリ	内向脚	基	後期前→晩
213	84	59	42号集石 植出面	深鉢	脚	单足→弧状吹葉文	L.R.	基	後期前→晩
214	84	59	44号集石 植出面	深鉢	脚	山形口縁、单足→口縁に沿う平行沈縁	L.R.	基	後期前→晩
215	84	59	44号集石 下部土坑 墓土	小野鉢	口	平行沈縁	基	後期前→晩	
216	84	59	47号集石 植出面	深鉢	口	单足→平行沈縁	L.R.	基	後期前→晩
217	84	59	49号集石 植出面	鉢	口	平行沈縁、内面アバタ	基	後期前→晩	
218	84	59	50号集石 植出面	深鉢	脚	平行沈縁、内面アバタ	?	基	後期前→晩
219	84	59	50号集石 植出面	小野鉢	口	平行沈縁、内面アバタ	基	後期前→晩	
220	84	59	50号集石 植出面	深鉢	脚	浅沈縁、底部に单足、内面アバタ	L.R. (透多)	基	後期前→晩
221	84	59	50号集石 植出面	深鉢	脚	单足→平行沈縁	L.R.	基	後期前→晩
222	84	59	52号集石 植出面	鉢	脚	浅沈縁、底部に单足	L.R.?	基	後期前→晩
223	84	59	53号集石 植出面	深鉢	脚	单足→人面文	L.R.	基	後期前→晩

Nr.	図版	写真	出土地点	形種	部位	文様の特徴ほか	地文・範体	分類	時期
224	84	59	55号集石 檻前面	深鉢	側	単周・風呂区画文	L.R?	里小古	後期前～前
225	84	59	56号集石 檻前面	深鉢	側	単周・平行沈縁	無鉢	里小古	後期前～前
226	84	59	56号集石 檻前面	鉢	側	単周・風呂区画文	無鉢?	里小古	後期前～前
227	84	59	58号集石 檻前面	深鉢	口	山形口縁に斜刻、単周・口縁に沿う平行沈縁	L.R?	里小古	後期前～前
228	84	59	58号集石	鉢	側	単周・人面文、外面部ベンダ付垂	L.R	里小古	後期前～前
229	84	59	59号集石下部土壇 壁上	深鉢	側	単周・平行沈縁文	L.R	里小古	後期前
230	84	59	内番門 壁地盤2下階褐色土～苔壁	鉢	口	平行沈縁、内面アバタ	L.R?	里小古	後期前～前
231	84	59	1号少勝	深鉢	口	平行沈縁	無鉢	里小古	後期
232	84	59	1号少勝	鉢	口	平行沈縁	無鉢?	里小古	後期前～前
233	84	59	10号少勝	深鉢	側	人面文	L.R	里小古	後期前～前?
234	84	59	P203 地上	深鉢	側	人面文	無鉢?	里小古	後期前～前?
235	84	59	4号施 瓦面付柱	側土器	腰内部	食卓孔	無鉢	里小古	後期
236	84	59	6号施 地土	深鉢	側	区画文	L.R	里小古	後期前～前
237	84	59	6号施 地上	深鉢	口	平行沈縁	R.L	里小古	後期
238	84	59	6号施 地上	深鉢	側	風呂文	無鉢	里小古	後期前～前
239	84	59	11号施 壁土上位	深鉢	側	平行沈縁	無鉢?	里小古	後期前～前
240	84	59	1A3e II層	亞	側	平行沈縁、外面部アバタ	無鉢?	里小古	後期前～前
241	84	59	1A3e 斜面部 II層相当	深鉢	口	平行沈縁・風呂区画文	無鉢	里小古	後期前～前
242	84	59	1A3e 1号施正面 鋼附不不明?	鉢	口	浅底式、平行沈縁、内面シザギ	無鉢	里小古	後期前～前
243	84	59	1A3e 1号施上面 鋼附不不明?	小型鉢	側	平行沈縁、内面シザギ、ニチニア?	無鉢	里小古	後期前～前
244	84	59	1A3e 1号施上面 鋼附不不明?	小型鉢	側	風呂文	無鉢?	里小古	後期前～前
245	84	59	1A4I 並置槽2下階	小型鉢	口	風呂区画(丸)	無鉢	里小古	後期前～前
246	84	59	1A4I 並置槽2下階褐色土	深鉢	口	唐草文(平)風呂区画	R.L	里小古	後期前～前
247	84	59	1A4I 並置槽2下階褐色土	鉢	口	単周・平行沈縁(風呂区画)	L.R	里小古	後期前～前
248	85	59	1A5 並置槽2下階褐色土	鉢	口	(壁上部)平行斜刻、深縫に沿う渦状文	無鉢	里小古	後期前～前
249	85	59	1A5 並置槽中	亞	側	方(風呂区画)	無鉢	里小古	後期前～前
250	85	59	1A5g 畠地盤2下階褐色土	面	口	平行沈縁、風呂文、内面アバタ	無鉢	里小古	後期前～前
251	85	59	1A5g 畠地盤2下階褐色土	小型鉢	側	風呂文、内面シザギ	無鉢	里小古	後期前～前
252	85	59	1A7I 变熱變2下階褐色土 II層	小型鉢	側	無・内面シザギ? 仕事	無鉢	里小古	後期前～前
253	85	59	1A7I 二重唇	深鉢	口	単周・深底入瓶文?、内面アバタ	R.L	里小古	後期前～前
254	85	59	1A7g 伎附不明	深鉢	口	渦状文	無鉢	里小古	後期前～前
255	85	59	1A7k 畠地盤2下階褐色土	深鉢	側	人面文(波状)	L.R	里小古	後期前～前
256	85	59	1A8c-9b 畠地盤2下階褐色土はか	鉢	口	単周→口縁のあわる要匙、深縫、内外面ベンダ付垂	L.R	里小古	後期前～前
257	85	59	1A8c-9b 畠地盤2下階褐色土はか	深鉢	口・側	口縁区画文	L.R	里小古	後期前～前
258	85	59	1A8g 畠地盤2下階褐色土	小型鉢	口	平行沈縁、内面シザギ	無鉢	里小古	後期
259	85	59	1A9j 槽渠前 IV層	亞	側	跳躍文、内面外面部ベンダ付垂	無鉢	里小古	後期前～前
260	85	59	1A9j 内番 槽渠前2下階褐色土～苔壁	深鉢	口	単周・平行沈縁(風呂区画)、内面シザギ	L.R	里小古	後期前
261	85	59	1A9jg 内番 槽渠前2下階褐色土～苔壁	手土器	側	単周・平行沈縁、上口の平行斜刻	L.R	里小古	後期前
262	85	59	1A10 槽渠前～苔壁	亞	側	平行沈縁、内面シザギ	無鉢	里小古	後期前～前
263	85	59	1A10 1-並唇	深鉢	口	単周・平行沈縁、区画文、内面シザギ	R.L	里小古	後期前～前
264	85	59	1A10 槽渠前～苔壁	深鉢	口	山形口縁(左)は風呂区画(右)に単周	L.R?	里小古	後期前
265	85	59	1A10 槽渠前～苔壁	亞	側	小窓開口、平行沈縁(左)、内面シザギ	無鉢	里小古	後期前
266	85	59	1A10 槽渠前～苔壁	深鉢	口	窓開口、平行沈縁(左)、内面人面文、隣接壁上に無跡残る	無鉢	里小古	後期前～前
267	85	59	1A12 II層	深鉢	側	跳躍文、半袖輪各2(一部網目)、内面アバタ	無鉢	里小古	後期
268	85	59	1A12 I 層	鉢	側	單周・人面文(風呂文)	L.R	里小古	後期前～前
269	85	60	1A13c II層	亞	側	平行沈縁、内面シザギ	無鉢	里小古	後期前～前
270	85	60	1A13c 吊子土器	吊子土器	口	耳孔開口、平行沈縁3条、内面ベンダ付垂、内面シザギ	無鉢	里小古	後期前～前
271	85	60	6号集石 クリーニング時	深鉢	口	袋足、口縁上部から穿孔	無鉢	里小古	後期前
272	85	60	6号集石 I.A8 槽渠前2下階褐色土はか	小型深鉢	口・側	無・溝を走らせる人面文	無鉢?	里小古	後期前
273	85	60	14号土坑 地上	深鉢	側	風呂文	無鉢	里小古	後期前
274	85	60	14号土坑 地上	鉢	側	風呂文(風呂文)	無鉢	里小古	後期前
275	85	60	17号土坑 地上	小型鉢	口	跳躍文による方切回文	無鉢	里小古	後期前
276	85	60	17号土坑 地上	鉢	口	平行沈縁、人面文、内面シザギ	無鉢	里小古	後期前
277	85	60	29号土坑	小型鉢	口	平行沈縁、人面文、内面ベンダ付垂	無鉢	里小古	後期前
278	85	60	30号土坑	大型深鉢	口	方(風呂区画)、赤色細颗粒土(355同)→	無鉢	里小古	後期前
279	85	60	4号集石 土坑クリーニング時	小型鉢	口	平行沈縁、人面文、内面外面部ベンダ付垂	無鉢	里小古	後期前
280	85	60	4-7号集石 I.A8	鉢	口	溝を走らせる人面文、深縫	無鉢	里小古	後期前
281	85	60	7号集石 槽渠前	深鉢	口	平行沈縁、内面アバタ	無鉢	里小古	後期前～前
282	85	60	22号集石 槽渠前	小型鉢	口・側	漏出する人面文	無鉢	里小古	後期前
283	85	60	9号集石	鉢	口	平行沈縁、人面文	無鉢	里小古	後期前
284	85	60	13号集石 槽渠前	亞	側	漏出する人面文	無鉢	里小古	後期前
285	85	60	17号集石 I.A10 苔壁	深鉢	口	渡河口縁(左)に沿う平行沈縁	無鉢	里小古	後期前
286	85	60	19号集石 槽渠前	小型鉢	口・側	風呂文、人面文、内面人面文、蛇口直窓	無鉢	里小古	後期前
287	85	60	23号集石 下部土坑	鉢	口	平行沈縁、漏出人面文	無鉢	里小古	後期前
288	85	60	26号集石 槽渠前	深鉢	側	平行沈縁(左)・角形文?	無鉢	里小古	後期前
289	85	60	27号集石 槽渠前	深鉢	口	平行沈縁(左)・風呂文?	無鉢	里小古	後期前
290	85	60	22号集石 槽渠前	小型鉢	口	漏出する人面文	無鉢	里小古	後期前
291	85	60	28号集石 槽渠前	深鉢	口	平行沈縁(左)・角形文?	無鉢	里小古	後期前
292	85	60	39号集石 槽渠前	深鉢	側	風呂文人面文	無鉢	里小古	後期前
293	85	60	43号集石 槽渠前	小型鉢	口	人面文、内面文、内面ベンダ付垂	無鉢	里小古	後期前
294	85	60	43号集石 槽渠前	深鉢	口	渡河口縁、平行沈縁	無鉢	里小古	後期前
295	85	60	45号集石	小型鉢	側	平行沈縁、人面文、内面ベンダ付垂	無鉢	里小古	後期前
296	85	60	45号集石	鉢	口	平行沈縁、風呂文、尖底鉢、内面ベンダ付垂	無鉢	里小古	後期前
297	85	60	46号集石 槽渠前	深鉢	側	人面文(左)、内面アバタ	無鉢	里小古	後期前
298	85	60	47号集石 槽渠前	亞	側	漏出する人面文	無鉢	里小古	後期前

Nr.	固有	写真	出土地点	形種	部位	文様の特徴ほか	地文・範体	分類	時期
299	86	60	48号集石 楠田面	深鉢	脚	單足→人相文,内面アバタ	ガ	後期前→晩	
300	86	60	55号集石 楠田面	深鉢	脚	風呂文	ガ	後期前	
301	86	60	57号集石 楠田面	(深鉢)	口	山口紋に沿う波瀬,底部から下がる突起,区画文	L.R	後期前	
302	86	60	57号集石 楠田面	小型深鉢	口	風呂文(横)	ガ	後期前	
303	86	60	59号集石下部土坑 理上	小笠面	脚	方形区画文,赤色顔料付着?(縞と同?)	ガ	後期前	
304	86	60	内帶 壁地層2下階鶴色土+吉賀	深鉢	脚	赤色する人相文,内面アバタ	ガ	後期前	
305	86	60	10号下部土坑	深鉢	口	波状人相文	ガ	後期前	
306	86	60	1 A4e-1 1号壁上端 壁位不明	深鉢	口	山口紋,单足→風呂文	L.S.背景色	後期前	
307	86	60	1 A4e-5e	対	口	内面面シカタ,人相文	ガ	後期前	
308	86	60	1 A4e-5e	吊手土器	口	夷面上下方向の乳孔,沈窓区画文	ガ	後期前	
309	86	60	1 A4e-5e	対	脚	波瀬縦,連続する人相文,赤色顔料付着	ガ	後期前	
310	86	60	1 A4e II -壁層	深鉢小笠	脚	溝通する人相文	ガ	後期前	
311	86	60	1 A4e-7g 楠田面2下階鶴色土はか	鉢	口→底	平行(彫)波,平行(彫)波,内面人相文,内底尖突起	ガ	後期前	
312	86	60	1 A4e-7gはか 壁地層2下階鶴色土はか	対	口→脚	彫留区画の風呂文,内面面シカタ	ガ	後期前→晩	
313	86	60	1 A7t 壁地層2下階鶴色土	小型深鉢	口→脚	赤色する人相文	ガ	後期前	
314	87	61	1 A7t 壁地層2内側	吊手土器	口→脚	赤色する人相文,口部に銅鋲に穴尖刺起	ガ	後期前	
315	87	61	1 A7t 壁地層2上層	対	脚	風呂文(横)	ガ	後期前	
316	87	61	1 A7t 壁地層2下階鶴色土	対	口→脚	彫留,内面アバタ	ガ	後期前	
317	87	61	1 A7k 壁地層2下階鶴色土	対	口?	方形容文,外面ペザラ付着	ガ	後期前	
318	87	61	1 A7k 壁地層2下階鶴色土	深鉢	口	山口紋,口部に穿孔,口縁に凹溝,内面外モキ	ガ	後期前→晩	
319	87	61	1 A7k 田舎中	対?	脚	平行(彫)風呂文,内面面シカタ,外側アバタ	ガ	後期前→晩	
320	87	61	1 A7k 田舎中	対	脚	巴字人相文,内面面シカタ	ガ	後期前→晩	
321	87	61	1 A8t 内面側面黒色土	深鉢	口	波紋(彫),風呂文	ガ	後期前	
322	87	61	1 A8b 壁地層2下階鶴色土	深鉢	口	波紋(彫),風呂文(縞)	ガ	後期前	
323	87	61	1 A8j I -壁層	小型深鉢	口→脚	平行(彫),風呂文?	ガ	後期前→晩	
324	87	61	1 A8j 吉賀クリーニング時	深鉢	口	小笠面,風呂文(縞)	ガ	後期前	
325	87	61	1 A8c 葛尾屋上縞鶴色土内	休止印	脚	巴字人相文	ガ	後期前→晩	
326	87	61	1 A8g 内面キ模造面	小笠鉢	口→脚	内面面シカタ,人相文	ガ	後期前	
327	87	61	1 A8g-10n 壁地層2下階鶴色土はか	吊手土器	口→脚	赤色する人相文,尖起に上下穿孔	ガ	後期前	
328	87	61	1 A8g 壁地層2下階鶴色土	吊手土器	口	平行(彫)穿孔,内面人相文	ガ	後期前	
329	87	61	1 A8g 横渠面IV層	深鉢	口	山口紋,波紋(彫)による人相文,内面モキ	ガ	後期前→晩	
330	87	61	1 A8g 壁地層2下階鶴色土	小笠鉢	口	平行(彫)2条,外面ペザラ付着	ガ	後期前	
331	87	61	1 A8g 横渠面V層	小笠対	脚	波紋(彫)2条,外面ペザラ付着	ガ	後期前	
332	87	61	1 A8g 横渠面V層上回	深鉢	口	平(彫)2条,外面ペザラ付着	ガ	後期前	
333	87	61	1 A8g 横渠面V層上回	口	平(彫)2条,外面人相文	L.R	後期前→晩		
334	87	61	1 A9b 田舎中	台付鉢	脚	人相文?	ガ	後期前	
335	87	61	1 A9b-10n 壁地層2内はか	鉢	口→底	波紋(彫),銅鋲に手折起,口底人相文	ガ	後期前	
336	87	61	1 A10g 壁地層2	対	脚	赤色する人相文,内面ハングラ付着	ガ	後期前	
337	87	61	1 A10h レンガ裏西方向 壁地層之下	対	口→脚	赤色する人相文	無記?	後期前	
338	87	61	1 A10k 横渠面V層	小笠鉢	脚	風呂文(縞),内面ハングラ付着	ガ	後期前	
339	87	61	1 A11i 異解屋上縞鶴色土	小笠鉢	脚	赤色する人相文	ガ	後期前	
340	87	61	1 A11k 20-22-23号石 異解	深鉢	口	山口紋,人相文	ガ	後期前	
341	87	61	1 A11k 横渠面V層	深鉢	口	山口紋,平行(彫)2角?	ガ	後期前	
342	87	61	1 A11l 横渠面V層	深鉢	口	山口紋と古文(彫)波瀬文3条,区画文	ガ	後期前	
343	87	61	1 A11m II層	大笠対	脚	風呂文(縞),外面モキ	ガ	後期前	
344	87	61	1 A12i 横渠面V層	深鉢	口	平行(彫)2条,人相文	ガ	後期前	
345	87	61	1 A12s 裏+脚上	鉢	口	波紋(彫),平行(彫)2条,内面アバタ	ガ	後期前	
346	87	61	1 A13c 壁地層2下階鶴色土	対?	脚	平行(彫)2条,人相文,外面ペザラ付着,内面アバタ	ガ	後期前	
347	87	61	1 A13m II層	深鉢	口	山口紋,平行(彫)2角	ガ	後期前	
348	88	61	底点不明	深鉢	脚	風呂文(縞)	ガ	後期前	
349	88	61	22号集石 楠田面	深鉢	脚	3条の光綱による人相文,内面面アバタ	V	後期前	
350	88	61	24号集石下部土坑 理上	深鉢	脚	光綱による3条の光綱文,内面面アバタ	V	後期前	
351	88	61	1 A13c II層中位	深鉢	脚	平行(彫)2条,内面アバタ	V	後期前	
352	88	61	1 A13m II層	深鉢	脚→底	唐草文(縞),曲文,附代機	L.R	V	後期前
353	88	61	1 A13s 横渠面V層	台付鉢	脚	平行(彫)2条,平行(彫)2角,412号一個小	L.R	ガ	後期前
354	88	61	1 A14k 横渠面V層	鉢	脚→底	波瀬の光綱状文,内面ナド	M	後期前	
355	88	61	1 A14s 横渠面V層	深鉢	脚	波瀬の光綱状文,内面ナド	R.L?	後期前	
356	88	61	1 A15? II層	深鉢	脚	波瀬の光綱状文,内面ナド	R.L	E	後生前?
357	88	61	1 A17-22号集石	深鉢	脚	波瀬の光綱状文,内面ナド	R.L	E	後生前?
358	88	61	1 A16s 壁地層2	対	口	手折起+2~3段階に支承突起,内面ナド	R.L-E	後生前	
359	88	61	1 A17g 壁地層2下階鶴色土	対	口	手折起+2~3段階に支承突起,内面ナド	R.L-E	後生前	
360	88	61	1 A7t	対	口	手折起+2~3段階に支承突起,内面ナド	R.L-E	後生前	
361	88	61	1 A8g 内帶脚 壁地層2下階鶴色土,小笠要	口	小底付脚,交互刺突起	R.L	E	後生前	
362	88	61	1 A8g-10n 壁地層1~2	対	脚	平行(彫)面に交互刺突起	R.L	E	後生前
363	88	61	1 A8s 壁地層2	深鉢	口	山口紋上部も要留溝文,平行(彫)面に交互刺突起(2列)	L.R	後生前	
364	88	61	1 A8g 壁地層2	対	脚	手折+交互刺突起,脚口2条単頭文	R.L	E	後生前
365	88	61	1 A8g 壁地層2	小笠要	口	山口紋,手折+交互刺突起,交互刺突起2列	R.L	E	後生前
366	88	61	1 A8g 壁地層2	対	脚	交互刺突起,手折上2条単頭文	R.L	E	後生前
367	88	61	1 A8g 壁地層2下階鶴色土はか	対	脚	波紋(彫)2角,手折突起,手折突起2角,手折突起上に手折突起2角,脚部付近の手折突起	R.L-E	E	後生前
368	88	61	1 月往 東側壁上	鉢	口	手折り底付脚	F	後期	
369	88	62	22号土坑 下部, L.17t 裏+V層	深鉢	口	無文,内面ナド	F	後期前	
370	88	62	6号集石 楠田面	鉢	口	無文,内面モキ	F	後期	
371	88	62	8号集石, 1 A8c 横渠面-V層	小笠深鉢	口→脚	小底,無文	F	後期前	
372	88	62	25号集石 楠田面(北側)	小笠鉢	口	無文,小底起	F	後期	

No.	図版	写真	出土地点	形種	部位	文様の特徴ほか	地文・範体	分類	時期	
373	88	62	28号集石 檻前面	小型鉢	口一側	無文		F	後期	
374	89	62	1号住 西側壁上-P3	深鉢	底-底	留字、内面アバタ	R.L.	G	後期	
375	89	62	1号住-14-32号下塙埋土ほか	深鉢	口一底	人あさじしては縦の長い折り返し口縁、单節	R.L.	G	後期	
376	89	62	1号住P2 壁上	深鉢	口一底		L.R.	G	後期	
377	89	62	1号住P2-14号土坑 墓土	深鉢	口一側	半輪鉢条体、内面ナデ	無印L	G	後期	
378	89	62	2号住 底面	深鉢	底	不明		G	後期?	
379	89	62	3号住 東側壁上	深鉢	口	單語	L.F. (留字)	G	後期	
380	89	62	5号住 西側壁上	深鉢	口	單語	L.R.	G	後期	
381	89	62	6号土坑 墓土	深鉢	口	单語	無印L	G	後期	
382	89	62	19号土坑 墓土	深鉢	口	单語?、内面アバタ	R.L?	G	後期	
383	90	63	23号土坑 墓土-底面直	深鉢	胸	單語	L.R.+R.L.	G	後期	
384	90	63	29号土坑	深鉢	胸	单語	半輪鉢条体(留口状然文)、内面アバタ	無印L	G	後期
385	90	63	1号理石上器	深鉢	口一底	折り返し口縁、單語、内面アバタ	L.R.	G	後期	
386	90	63	2号理石上器	深鉢	口一胸	半輪鉢条体、内面ナデ、輪模みぞ	無印L	G	後期	
387	91	63	4号理石上器	深鉢	口一底	半輪鉢条体、上半部にスス付唇、内面ナデ	無印L	G	後期	
388	91	63	8号骨器	深鉢	口	單語	單語	G	後期	
389	91	63	9号石 墓土上-中段	深鉢	胸	半輪鉢条体、内面ナデ	無印L	G	後期	
390	91	63	1号集石 クリーニング時	深鉢	口	17号馬蹄形、单語	單語	G	後期	
391	91	63	1号集石 桧原面	深鉢	口	折り返し口縁	G	後期		
392	91	63	2号集石 桧原面	深鉢	口	折り返し口縁、内面アバタ	L.R.	G	後期	
393	91	64	2号集石 内面留字	深鉢	口	單語、内面アバタ	L.R.	G	後期	
394	91	64	2号集石 桧原面	深鉢	口	單語、内面アバタ	R.L.	G	後期	
395	91	64	3号集石 下土部 墓土	深鉢	口	單語、内面アバタ	L.R.	G	後期	
396	91	64	3号集石	小型鉢	口	半輪鉢条体、内面ナデ	L.R.	G	後期	
397	91	64	3号集石 クリーニング時	深鉢	胸	折り返し口縁	L.R.	G	後期	
398	91	64	4号集石 檻原面-TA9	深鉢	口一側	折り返し口縁、半輪鉢条体(留口状然文)、内面アバタ	無印L	G	後期	
399	91	64	6号集石 桧原面	深鉢	口	半輪鉢条体(留口状然文)、内面アバタ	無印L	G	後期	
400	91	64	7号集石 桧原面	深鉢	口	折り返し口縁、單語	L.R.	G	後期	
401	91	64	11号集石 下土部 墓土	深鉢	口	半輪鉢条体	無印L	G	後期	
402	91	64	11号集石 下土部 墓土 墓土	小型深鉢	口	半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
403	91	64	11号集石 下土部 墓土 墓土	小深鉢	口	半輪鉢条体	L.R.	G	後期	
404	91	64	13号集石 クリーニング時	深鉢	口	半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
405	91	64	19号集石 クリーニング時	鉢	口	單語、半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
406	91	64	23号集石 下土部 墓土	小型深鉢	口	半輪鉢条体(留口)	無印L	G	後期	
407	91	64	23号集石 下土部 墓土	深鉢	口	折り返し口縁、無印(留口部と側部は別方向施文)	無印L	G	後期	
408	91	64	25号集石	深鉢	口	單語	L.R.	G	後期	
409	91	64	25号集石 桧原面(北側)	深鉢	胸	半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
410	91	64	29号集石	深鉢	口	半輪鉢条体(留口状然文)、内面アバタ	無印L	G	後期	
411	91	64	41号集石 桧原面	小型鉢	口	半輪鉢条体	無印L	G	後期	
412	91	64	45号集石 桧原面	小型深鉢	口	半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
413	91	64	45号集石 桧原面	深鉢	口	半輪鉢条体、内面アバタ	無印L	G	後期	
414	91	64	48号集石 桧原面	深鉢	口	半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
415	91	64	50号集石 桧原面	深鉢	口	半輪鉢条体、内面アバタ	L.R.	G	後期	
416	91	64	53号集石 桧原面	深鉢	口	折り返し口縁、單語	L.R.	G	後期	
417	92	64	54号集石	小型深鉢	口	半輪鉢条体、内面ナデ	無印L	G	後期	
418	92	64	58号集石	小型深鉢	口	單語	無印L	G	後期	
419	92	64	59号集石 桧原面	小型鉢	口	半輪鉢条体、内面アバタ	無印L	G	後期	
420	92	64	59号集石 下土部 墓土	深鉢	口	單語、内面アバタ	L.R.	G	後期	
421	92	64	P01. 墓土	小型深鉢	胸	半輪鉢条体、内面ナデ	無印L	G	後期	
422	92	64	1A3e-3e-II層相当	鉢	胸-底	半輪鉢条体、内面アバタ	無印L	G	後期	
423	92	64	1A3e-3e-II層相当	小型鉢	口	半輪鉢条体、内面ナデ	無印L	G	後期	
424	92	64	1A3e-3e-II層相当	小型深鉢	胸-底	半輪鉢条体、内面アバタ	R.L.	G	後期	
425	92	64	1A3e-II 層見土層面 不明?	深鉢	口一側	半輪鉢条体(留口状然文)、内面アバタ	無印L	G	後期	
426	92	64	1A3e-1号焼土層面 不明?	深鉢	口	折り返し口縁、半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
427	92	64	1A4e-5e	深鉢	口一側	半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
428	92	64	1A4e-5e	小型深鉢	口	半輪鉢条体、口沿部面部二角形(ミガキ)	無印L	G	後期	
429	92	64	1A4e-5か	深鉢	口一側	折り返し口縁、半輪鉢条体(口沿部と脚部が内凹)	無印L	G	後期	
430	92	64	1A4f	深鉢	口	折り返し口縁、半輪鉢条体	無印L	G	後期	
431	92	65	1A4g-II-Ⅲ層	深鉢	口一胸	單語、内面ナデ	L.R.	G	後期	
432	92	65	1A6g-1a 豊地層2下層褐色土	深鉢	口	半輪鉢条体(留口状然文)	R.L?	G	後期	
433	92	65	1A7-8-I-8g 豊地層2下層褐色土	小型鉢	口	半輪鉢条体→平行沈澱2条	無印L	G	後期	
434	93	65	1A8g	小型深鉢	口	單語、单語、单輪鉢条体	L.R.	G	後期	
435	93	65	1A8g 豊地層2下層褐色土ほか	小型深鉢	口	單語、单語、单輪鉢条体4単位	L.R.	G	後期	
436	93	65	1A8g 豊地層2下層褐色土ほか	深鉢	口一側	單語、单語、单輪鉢条体5	R.L.	G	後期	
437	93	65	1A8g 豊地層2内はか	深鉢	口-底	單語、内面アバタ	R.L.	G	後期	
438	93	65	1A8g-1b 石門頭出雲山	深鉢	口一側	單語	L.R.	G	後期	
439	93	65	1A13c 横葉面-互層	鉢	口一側	半輪鉢条体(留口状然文)	無印L	G	後期	
440	93	65	1A13c-14a 横葉面-互層	深鉢	口一側	半輪鉢条体(留口状然文)、内面アバタ	無印L	G	後期	
441	93	65	1A14	深鉢	口	小深鉢2口縁、半輪鉢条体	無印L	G	後期	
442	93	65	1A15-16g Ⅲ-IV層	小深鉢	口	小深鉢2口縁、单語	L.R.	G	後期	
443	93	65	1A19c-1b Ⅲ-IV層	深鉢	口	平行2口縁、半輪鉢条体、内面ナデ	無印L	G	後期	
444	94	66	EB1m Ⅲ層	深鉢	口一側	半輪鉢条体	無印L	G	後期	
445	94	66	EB19付近 豊-Ⅲ層上	深鉢	口一底	上半輪頭2口縁、单語	R.L.+L.R.	G	後期	
446	94	66	EB19付近 豊-Ⅲ層上	深鉢	口一底	折り返し口縁、单語、内面アバタ	L.R.	G	後期	
447	94	66	EB19付近 豊-Ⅲ層上	深鉢	口一底	单語、内面アバタ	R.L.	G	後期	

第4表 土製品観察表

No.	10cm	写真	出土地点	種類	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	文様等
C1	95	67	I ASg 内帶地層 2下層褐色土	土器	板状	(44)	585	135	2212	
C2	95	67	I AM 内帶地層 2下層褐色土	土器	板状	(630)	(525)	22	5330	
C3	95	67	I ASbg 内帶地層褐色土	土器	板状	(560)	(250)	12	1718	
C4	95	67	I ASbg 内帶地層褐色土 2下層褐色土	土器	板状	(420)	(410)	16	2500	
C5	95	67	I AM II 黒褐色土	土器?		(425)	(280)	165	1100	
C6	95	67	5号集石	碎骨土製品		299	(240)	-	775	
C7	95	67	1号柱 P1	碎骨土製品		(430)	205	-	1054	
C8	95	67	I AM	碎骨土製品		(520)	470	-	2268	
C9	95	67	I AMf	碎骨土製品		549	410	-	3544	
C10	95	67	I AS-4e II 相当	碎骨土製品		(290)	(230)	-	368	
C11	95	67	I AMf	碎骨土製品	変形品	340	260	-	964	
C12	95	67	I ASg 整地層 2下層褐色土上面	碎骨土製品	変形品	500	380	-	2675	
C13	95	67	I AMf 整地層 2下層褐色土 II層	碎骨土製品		(275)	(210)	-	321	
C14	95	67	I ASb 1号柱上付石	碎骨土製品		(380)	(220)	-	916	
C15	95	67	I ASg 内帶地層 2内	碎骨土製品		(240)	(240)	-	360	
C16	95	67	I AM 整地層 1上面	碎骨土製品		(300)	(230)	-	639	
C17	96	67	I ASg 渠頭層 II層	碎骨土製品		(535)	240	-	2534	
C18	96	67	I ASg 渠頭層 ~ II層	碎骨土製品	変形品	560	370	-	3660	
C19	96	67	I ASg II 層	碎骨土製品		(410)	(280)	-	618	
C20	96	67	8号柱 整地層褐色土層	碎骨土製品		545	(320)	-	1821	
C21	96	67	2号柱石	[ニコア]	部	器高260	-	-	48.34	切削面のニコア
C22	96	67	2号柱石クリーニング時	[ニコア]	口~側	器高235	口径42	-	4.60	パンガラ付着
C23	96	67	3号柱石 整地層 II層褐色土	[ニコア]	側~底	器高240	-	-	19.43	
C24	96	67	3号柱石	[ニコア]	側~底	器高250	-	-	4.92	
C25	96	67	6号柱石	[ニコア]	底	器高190	底径290	-	8.40	
C26	96	67	7号柱 G 整地層 2下層褐色土	[ニコア]	口~底	器高220	口径580	底径260	1914	
C27	96	67	9号帶 整地層 II層	[ニコア]	口	器高240	-	-	15.00	
C28	96	67	24号集石	[ニコア]	側~底	器高195	底径195	-	14.60	
C29	96	67	24号柱 理土上段	[ニコア]	側~底	器高400	底径270	-	20.29	
C30	96	68	I AS-S	[ニコア]	変形品	器高450	口径500	底径260	48.31	
C31	96	68	I ASg	[ニコア]	側~底	器高450	口径500	底径400	2410	
C32	96	68	I ASg II 相当	[ニコア]	口~側	器高335	-	-	6.41	
C33	96	68	I AM	[ニコア]	底部	器高230	底径350	-	19.36	
C34	96	68	II AS-II ASg	[ニコア]	側~底	器高500	底径50	-	35.97	
C35	96	68	I ASf 整地層 2内	[ニコア]	側~底	器高130	底径150	-	3.05	無小點 脚部欠損
C36	96	68	I ASb 整地層 2下層褐色土下層	[ニコア]	側~底	器高110	-	-	44.16	
C37	96	68	II AS 内帶地層	[ニコア]	側~底	器高130	-	-	3.35	
C38	96	68	I ASg Ⅱ~Ⅲ層上面	[ニコア]	口~側	器高280	口徑260	-	8.50	
C39	97	68	I ASfk Ⅱ~Ⅲ層	[ニコア]	側~底	器高270	底径400	-	36.19	底部に穿孔 2つ、底部外面に2つ
C40	97	68	I ASg II ASg 2下層褐色土	[ニコア]	側~底	器高290	底径420	-	60.70	底部に穿孔 4つ
C41	97	68	I ASg II 層	[ニコア]	底部	器高60	底径34	-	6.69	底部に穿孔 1つ
C42	97	68	底~層部不明	[ニコア]	底部	器高200	底径390	-	16.10	底部に穿孔 2つ、底部外面に2つ
C43	97	68	2号柱石	上輪円盤	変形	340	380	0.75	19.80	変形
C44	97	68	6号柱石	上輪円盤	変形	280	285	0.60	5.70	変形
C45	97	68	II号集石下部上段 土塊	上輪円盤	変形	340	355	0.7	11.80	変形
C46	97	68	23号柱下部II段~底部 土塊	上輪円盤	変形	430	440	0.65	15.52	変形
C47	97	68	27号集石	上輪円盤	変形	300	320	0.65	9.20	変形
C48	97	68	50号集石	上輪円盤	変形	360	380	0.65	9.94	変形
C49	97	68	69号集石	上輪円盤	変形	325	350	0.5	8.48	変形
C50	97	68	1号柱 トレンチ西側壁上	上輪円盤	欠	410	-	0.6	10.98	欠
C51	97	68	1号柱 理工	上輪円盤	欠	465	-	0.8	15.22	欠
C52	97	68	5号柱 棟の間	上輪円盤	変形	340	360	0.70	11.20	変形
C53	97	68	16号柱 理工	上輪円盤	変形	320	360	0.70	10.57	変形
C54	97	68	18号柱 理工	上輪円盤	欠	440	-	0.9	16.85	欠
C55	97	68	25号柱 理工	上輪円盤	変形	370	380	0.6	10.47	変形
C56	97	68	3号柱 理工上中段	上輪円盤	変形	340	370	0.80	12.66	変形
C57	97	68	内帶地層 1ASg 整地層 2下層褐色土	上輪円盤	変形	390	410	0.70	13.99	変形
C58	97	68	内帶地層 1ASg 整地層 2内	上輪円盤	変形	440	440	0.80	16.86	変形
C59	97	68	I ASg II 層相当	上輪円盤	変形	320	340	0.70	8.99	変形
C60	97	68	I ASg II 層	上輪円盤	変形	360	380	0.65	13.62	変形
C61	97	68	I ASg II 層	上輪円盤	変形	320	450	1.10	31.54	変形
C62	97	68	I ASg II 層	上輪円盤	変形	380	390	0.60	14.09	変形
C63	98	68	I ASg II 層	上輪円盤	変形	335	370	0.80	11.93	変形
C64	98	68	I ASg 整地層 2下層褐色土	上輪円盤	欠	420	-	0.7	8.29	欠
C65	98	68	I ASg 整地層 2下層褐色土	上輪円盤	変形	415	470	0.85	20.20	変形
C66	98	68	I ASg 層部不明	上輪円盤	変形	375	405	0.80	14.75	変形
C67	98	68	I ASg 整地層 2下層褐色土	上輪円盤	欠	410	-	0.60	9.40	欠
C68	98	69	I ASg 整地層 1	上輪円盤	欠	340	-	0.75	4.70	欠
C69	98	69	I ASg 整地層 2下段	上輪円盤	変形	400	410	0.6	13.80	変形
C70	98	69	I ASg 整地層 2下層褐色土	上輪円盤	欠	450	-	0.65	20.05	欠
C71	98	69	I ASg II 層~II層上	上輪円盤	変形	290	340	0.70	8.50	変形
C72	98	69	I ASg 整地層 2下層褐色土	上輪円盤	変形	370	390	0.75	12.40	変形
C73	98	69	I ASg II 層~II層上	上輪円盤	変形	260	315	0.5	6.60	変形

No.	100%	写真	出土地点	種類	部位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	文様等	
C74	98	69	I A2f 整地層 2	上輪円盤	丸	Ø29	—	0.20	7.30	丸	
C75	98	69	I A2g 整地層 2	上輪円盤	丸	Ø20	330	0.25	13.40	丸形	
C76	98	69	I A2g 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø20	—	0.20	7.41	丸	
C77	98	69	I A2g 整地層 2 下端褐色土下層	上輪円盤	丸	Ø20	465	0.06	21.20	丸形	
C78	98	69	I A2h 整地層 2 下端褐色土下層	上輪円盤	丸	Ø25	440	0.20	12.07	丸形	
C79	98	69	I A2j	上輪円盤	丸	Ø30	—	0.30	5.25	丸	
C80	98	69	I A2k 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø25	400	0.25	15.00	丸形	
C81	98	69	I A2k 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø25	—	0.30	6.50	丸	
C82	98	69	I A3g 整地層 2 下端褐色土 - 斧層	上輪円盤	丸	Ø20	335	0.25	16.88	丸形	
C83	98	69	I A3h 整地層 2 内	上輪円盤	丸	Ø20	340	0.60	9.60	丸形	
C84	98	69	I A3h 3号集石周辺 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø28	—	0.80	11.97	丸	
C85	98	69	I A3h 9号集石周辺 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø20	415	0.80	12.31	丸形	
C86	98	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø25	400	0.90	13.04	丸形	
C87	98	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø20	330	0.5	10.00	丸形	
C88	99	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土 クリーニング跡	上輪円盤	丸	Ø20	—	0.50	9.03	丸	
C89	99	69	I A3h B層クリーニング跡	上輪円盤	丸	Ø25	380	0.80	12.94	丸形	
C90	99	69	I A3h 整地層 1 合2	上輪円盤	丸	Ø25	440	0.60	18.28	丸形	
C92	99	69	I A3h 整地層 2	上輪円盤	丸	Ø20	335	0.6	11.05	丸形	
C93	99	69	I A3h 整地層 2	上輪円盤	丸	Ø25	330	0.35	10.00	丸形	
C94	99	69	I A3h 直面相当	上輪円盤	丸	Ø25	470	1.00	16.56	丸形	
C95	99	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø10	415	0.90	19.90	丸形	
C96	99	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø25	—	0.90	14.04	丸	
C97	99	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø25	450	0.96	18.84	丸形	
C98	99	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø25	—	0.70	11.54	丸形	
C99	99	69	I A3h 拂拭面 - 斧層	上輪円盤	丸	Ø25	380	0.2	10.62	丸形	
C100	99	69	I A3h 拂拭面 - 斧層	上輪円盤	丸	Ø25	—	0.60	7.42	丸	
C101	99	69	I A3h 拂拭面 - B層	上輪円盤	丸	Ø25	—	0.55	9.15	丸	
C102	99	69	I A3h 拂拭面 - B層	上輪円盤	丸	Ø20	—	0.60	6.72	丸	
C103	99	69	I A3h 拂拭面 - B層	上輪円盤	丸	Ø20	400	0.60	12.80	丸形	
C104	99	69	I A3h 拂拭面 - B層	上輪円盤	丸	Ø20	320	0.80	8.18	丸形	
C105	99	69	I A3h 拂拭面暗褐色土 - 斧層	上輪円盤	丸	Ø20	320	0.75	7.92	丸形	
C106	99	69	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø20	—	0.50	10.88	丸	
C107	99	69	I A3h 整地層 1 内	上輪円盤	丸	Ø20	330	0.70	10.99	丸形	
C108	99	70	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø20	375	0.85	17.53	丸形	
C109	99	70	I A3h 整地層 2 下端褐色土 - ベルト	上輪円盤	丸	Ø10	—	0.80	12.10	丸	
C110	99	70	I A3h 整地層 2	上輪円盤	丸	Ø25	295	0.5	6.15	丸形	
C111	99	70	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø20	395	0.85	15.24	丸形	
C112	99	70	I A3h 整地層 2 下端褐色土	上輪円盤	丸	Ø20	—	0.55	9.90	丸	
C113	100	70	I A3h E - 直面上面	上輪円盤	丸	Ø25	400	0.85	15.16	丸形	
C114	100	70	I A3h 拂拭面 - B層	上輪円盤	丸	Ø20	335	0.80	12.27	丸形	
C115	100	70	I A3h 拂拭面 - B層	上輪円盤	丸	Ø20	445	0.70	15.74	丸形	
C116	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	370	0.75	12.42	丸形	
C117	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	360	0.70	11.75	丸形	
C118	100	70	I A3h 拂拭面 - B層	上輪円盤	丸	Ø20	315	0.50	6.67	丸形	
C119	100	70	I A3h E - B層	上輪円盤	丸	Ø20	—	0.45	5.55	丸	
C120	100	70	I A3h E - B層クリーニング跡	上輪円盤	丸	Ø20	395	0.85	12.89	丸形	
C121	100	70	I A3h E - B層上面	上輪円盤	丸	Ø20	375	0.70	11.06	丸形	
C122	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	370	0.7	12.50	丸形	
C123	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	380	0.50	11.10	丸形	
C124	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	350	0.8	11.43	丸形	
C125	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	—	0.60	7.84	丸形	
C126	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	440	0.75	20.98	丸形	
C127	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	320	0.50	6.60	丸形	
C128	100	70	I A3h E 層	上輪円盤	丸	Ø20	500	1.05	26.83	丸形	
C129	100	70	I A3h E 層	直面	丸	Ø20	18	1.17	1.81	動形	
C130	100	70	I A3h E 層	拂拭面	丸	Ø20	325	0.9	0.85	1.58	丸形
C131	100	70	2号集石	不規則盤	丸	Ø20	200	—	11.09	中丸	
C132	100	70	I A3h E 層	拂拭面	丸	Ø20	290	Ø5.30	52.79	中丸	

第5表 石器・石製品觀察表

No.	回数	年号	出土地点	部位	鉢種	石質	有無	長S(cm)	幅(cm)	厚S(cm)	重量(g)	備考	
S1	101	71	15号集石	石頭	頁岩	中生代	北上山地	330	150	0.80	277	凸基有無	
S2	101	71	14号工具	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(180)	115	0.40	682	凸基有無	
S3	101	71	16号工具	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(230)	115	0.40	688	凸基有無	
S4	101	71	14A~le	地上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	325	150	0.80	331	凸基有無
S5	101	71	14B	地面上下層	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(230)	125	0.60	106	凸基有無
S6	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	330	130	0.70	960	凸基有無
S7	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(240)	130	0.70	985	凸基有無
S8	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	120	105	0.60	670	凸基有無
S9	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(170)	115	0.60	652	凸基有無
S10	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(200)	135	0.50	102	凸基有無
S11	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	390	200	0.75	310	凸基有無
S12	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	245	165	0.60	670	凸基有無
S13	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	460	220	0.65	487	凸基有無
S14	101	71	14B	E端中	石頭	頁岩	中生代	北上山地	350	150	0.40	140	凸基有無
S15	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(330)	145	0.60	248	凸基有無
S16	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(325)	200	0.60	309	凸基有無
S17	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	240	190	0.45	190	凸基有無
S18	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	300	135	0.50	150	凸基有無
S19	101	71	14B	E端	石頭	頁岩	中生代	北上山地	480	220	1.00	919	堅韌
S20	101	71	14B	石頭	石頭	頁岩	中生代	北上山地	275	140	0.60	106	
S21	101	71	6号集石	石頭	頁岩	中生代	北上山地	450	130	1.00	480		
S22	101	71	11号集石	地上中	石頭	頁岩	中生代	北上山地	400	100	0.60	214	
S23	101	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	(340)	105	0.95	287	
S24	101	71	14B	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	360	130	1.00	370	
S25	101	71	14B	地點不明	石頭	頁岩	中生代	北上山地	410	110	0.90	360	
S26	101	71	56号集石	石頭	頁岩	中生代	北上山地	390	180	1.00	610		
S27	101	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	390	180	1.00	547	
S28	101	71	35号集石	地面上部	石頭	頁岩	中生代	北上山地	275	125	0.95	213	美形
S29	101	71	14B	地面上集石類似物	石頭	頁岩	中生代	北上山地	310	190	0.80	310	美形
S30	102	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	300	175	0.80	280	美形
S31	102	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	310	240	0.80	320	美形
S32	102	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	220	150	0.60	174	美形
S33	102	71	5号集石	地面上(使用後)	石頭	頁岩	中生代	北上山地	265	195	0.70	319	美形
S34	102	71	49号集石	圓孔	石頭	頁岩	中生代	北上山地	330	155	0.60	156	美形
S35	102	71	14B	地面上2端褐色上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	350	200	0.50	309	美形
S36	102	71	14B	地面上2端褐色上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	350	130	0.70	337	美形
S37	102	71	14B	E端中	石頭	頁岩	中生代	北上山地	310	185	1.10	428	美形
S38	102	71	7号集石	斜面	石頭	頁岩	中生代	北上山地	530	435	1.50	2530	
S39	102	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	275	230	0.90	654	
S40	102	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	610	635	2.00	6650	
S41	102	71	14B	地面上黑色上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	840	785	0.90	9270	
S42	102	71	14B	地面上黑色上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	680	230	1.00	3010	
S43	102	71	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	450	239	1.00	1449	
S44	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	460	440	1.30	1350	
S45	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	300	220	1.00	552	
S46	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	450	370	1.05	1550	
S47	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	640	435	2.20	5490	
S48	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	790	500	1.70	3240	
S49	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	360	260	1.00	891	
S50	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	305	280	1.30	1020	
S51	103	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	590	250	1.05	1910	
S52	103	72	14B	1~2層	石頭	頁岩	中生代	北上山地	515	400	1.80	3430	
S53	103	72	14B	1~2層	石頭	頁岩	中生代	北上山地	520	230	0.90	827	
S54	103	72	14B	1~2層	石頭	頁岩	中生代	北上山地	500	200	0.90	614	
S55	104	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	1110	500	1.00	950	
S56	104	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	400	75	1.60	8510	
S57	104	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	385	320	1.00	2200	
S58	104	72	14B	地面上	石頭	頁岩	中生代	北上山地	675	410	2.30	10629	51類似
S59	104	72	14B	S1	石斧	石斧	中生代	北上山地	745	305	1.60	51類似	
S60	104	72	2号住	S2	石斧	礫石	中生代	北上山地	(800)	360	2.25	11415	51類似
S61	104	72	2号住	來雕	石斧	礫石	中生代	北上山地	(880)	470	2.90	21660	51類似
S62	104	72	50号集石	石斧	石斧	礫石	中生代	北上山地	(890)	590	285	21385	1~2段階
S63	105	72	22号集石	床面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	765	325	1.25	31241	51類似
S64	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	995	295	1.70	36870	51類似
S65	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	995	295	1.70	36870	51類似
S66	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	740	230	1.35	5145	51類似
S67	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	705	(415)	(335)	13233	1~2段階
S68	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	750	465	3.10	66550	1~2段階
S69	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	320	635	4.20	33060	1~2段階
S70	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	(890)	(880)	(5.70)	44460	1~2段階
S71	105	72	9号集石	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	910	630	3.90	27080	1~2段階
S72	105	72	9号集石	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	1645	725	5.75	79960	1~2段階
S73	105	72	50号集石	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	(480)	(460)	(2.65)	68800	1~2段階
S74	105	72	14B	地面上上層	石斧	石斧	古時代	北上山地	740	230	1.35	5145	51類似
S75	105	72	14B	地面上上層	石斧	石斧	古時代	北上山地	630	(495)	(2.80)	12820	1~2段階
S76	105	72	14B	地面上上層	石斧	石斧	古時代	北上山地	890	430	1.50	7720	1~2段階
S77	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	790	360	1.65	6783	1~2段階
S78	105	72	14B	地面上上層	石斧	石斧	古時代	北上山地	(580)	(410)	(2.50)	7110	1~2段階
S79	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	955	680	6.50	45070	1~2段階
S80	105	72	14B	地面上	石斧	石斧	古時代	北上山地	900	620	3.95	24750	1~2段階
S81	106	73	20号集石	地面上下層	石斧	石斧	古時代	北上山地	(550)	(415)	(2.60)	7000	1~2段階
S82	106	73	14B	S1~上層	石斧	石斧	古時代	北上山地	(660)	(510)	(2.75)	12280	1~2段階
S83	107	74	14B	S1~上層	石斧	石斧	古時代	北上山地	1380	630	4.35	43070	1~2段階
S84	107	74	14B	E端下	石斧	石斧	古時代	北上山地	(720)	(575)	(4.00)	22150	1~2段階
S85	107	74	14B	E端上面	石斧	石斧	古時代	北上山地	(980)	(540)	(3.35)	22010	1~2段階

No.	周囲	写真	出土地点	層位	器種	性質・産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
S86	107	74	1A17k	E層	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(33.35)	6.20	4.80	62070	1~2段階
S87	107	74	1A18k	E層中	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	(7.40)	5.30	(3.65)	194.00	1~2段階
S88	107	74	不明	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	(6.80)	6.00	3.60	195.40	1~2段階	
S89	107	74	1A19k	整地層下黒褐色土	石斧未製品	ホシノフタキ 中生代白堊紀 北上山地	171.0	6.15	3.05	53220	1~2段階
S90	107	74	1号石	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	(5.40)	4.30	3.40	92.70	2段階	
S91	108	74	1A19	E層下	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(7.55)	6.15	3.20	214.60	2段階
S92	108	74	1A18g	E層下	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(9.40)	6.55	4.50	67.50	2段階
S93	108	74	1A19k	壁状不明	石斧未製品	デイサイト 中生代白堊紀 市原山層	9.55	4.90	3.05	196.70	2段階
S94	108	74	1A13m	E層	石斧未製品	デイサイト 中生代白堊紀 足利山層	(10.85)	6.25	5.60	47.70	2段階
S95	108	74	1A13n	壁状不明	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	12.50	6.10	4.40	205.60	2段階
S96	108	74	1A15p	E層	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	(8.70)	5.70	8.45	265.90	2段階
S97	108	75	1A19n	E層黑色土	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	11.90	5.75	3.40	277.70	2段階
S98	108	75	1E底	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	(7.90)	4.80	4.35	284.40	2段階	
S99	109	75	1A14	E層下	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	14.30	4.40	2.80	287.70	3段階
S100	109	75	1A16h	黒褐色土	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	14.20	4.90	3.60	353.50	3段階
S101	109	75	1A19gh	整地層下黒褐色土	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	13.95	5.10	3.00	233.60	3段階
S102	109	75	1A13n	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	(9.20)	4.85	(2.80)	187.70	3段階	
S103	109	75	不明	石斧未製品	花崗岩 中生代白堊紀 北上山地	(4.20)	3.50	2.60	49.00	3段階	
S104	109	75	不明	石斧未製品	花崗岩 中生代白堊紀 北上山地	(5.70)	4.25	(3.30)	116.80	3段階	
S105	109	75	4号石	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(5.60)	4.80	(2.60)	65.46	3~4段階	
S106	109	75	1A6g	E層下	石斧未製品	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(6.00)	4.55	(3.00)	206.70	4段階
S107	109	75	1A9g	整地層下黒褐色土	石斧未製品	ヒン岩 中生代白堊紀 北上山地	12.10	3.90	2.45	17.80	4段階
S108	110	75	1A13b	E層	手印扁平斜打器	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(10.50)	8.60	4.35	62.90	
S109	110	75	1A19m	手印扁平斜打器	花崗岩 中生代白堊紀 北上山地	(7.50)	5.80	3.15	197.50		
S110	110	75	2号石	砾石	手印扁平斜打器	手印扁平斜打器 大久保大穴 久慈郡野瀬村	30.70	17.90	9.00	525.13	
S111	110	75	50号集石	砾石	手印扁平斜打器	手印扁平斜打器 大久保大穴 久慈郡野瀬村	(6.70)	5.45	4.70	185.80	
S112	110	75	50件	石	手印	手印 手印斜打器 大久保大穴 久慈郡野瀬村	27.80	16.20	4.40	249.07	
S113	111	76	30号集石	石	手印	手印 手印斜打器 大久保大穴 久慈郡野瀬村	(24.70)	14.80	1.10	436.00	
S114	111	76	1A11m	1~1層	石	花崗岩 中生代白堊紀 北上山地	(17.40)	12.20	9.10	243.90	
S115	111	76	1A7f	1~1層	石	花崗岩 中生代白堊紀 北上山地	30.20	24.70	8.80	1000.50	
S116	111	76	1A16e	四面石	花崗岩 中生代白堊紀 大久保大穴 久慈郡野瀬村	(10.90)	10.00	(6.00)	66.80		
S117	112	76	3号住	西薙半分	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	6.00	6.50	2.45	177.51	鈍刃
S118	112	76	3号住	西薙半分	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	5.90	6.35	2.65	183.35	鈍刃
S119	112	76	7号石	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.65	6.45	4.30	211.10	鈍刃	
S120	112	76	19号石	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(5.65)	3.80	(2.55)	47.80	鈍刃	
S121	112	76	25号集石	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.25	5.90	5.70	362.30	鈍刃	
S122	112	77	30号集石	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.60	6.40	2.80	295.35	鈍刃	
S123	112	77	30号集石	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	5.90	5.10	2.90	168.10	鈍刃	
S124	112	77	50号石	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.00	5.90	4.35	307.43	鈍刃	
S125	112	77	内帶	整地層下場面~新層	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	6.10	6.30	2.60	184.81	鈍刃
S126	113	77	6号土地	土	手印	はんのい岩 中生代白堊紀 北上山地	(10.10)	7.95	(4.70)	388.00	鈍刃
S127	113	77	9号土地	木植付	砾石	岩質 中生代白堊紀 北上山地	6.55	5.80	2.90	156.20	鈍刃
S128	113	77	25号土地	埋土下部	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.00	6.85	3.30	273.94	鈍刃
S129	113	77	7A2e	E層	砾石	砂岩 中生代白堊紀 北上山地	8.55	7.20	4.60	337.00	鈍刃
S130	113	77	7A1k	E層	砾石	砂岩 中生代白堊紀 北上山地	9.10	6.70	4.30	346.60	鈍刃
S131	113	77	1A5f	整地層下黒褐色土	砾石	花崗岩 中生代白堊紀 北上山地	19.90	8.35	4.65	576.30	鈍刃
S132	113	77	1A6g	整地層2%	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	8.05	7.25	4.35	426.70	鈍刃
S133	114	77	1A6b	黒褐色土	砾石	花崗岩 中生代白堊紀 北上山地	8.80	7.20	4.95	366.90	鈍刃
S134	114	78	1A7k	整地層下黒褐色土	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	8.10	6.35	2.70	250.40	鈍刃
S135	114	78	1A7f	1~1層	砾石	砂岩 中生代白堊紀 北上山地	12.85	9.35	5.50	96.80	鈍刃
S136	114	78	1A8b	整地層下黒褐色土	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	11.00	7.90	3.50	60.90	鈍刃
S137	114	78	1A8b	整地層下黒褐色土	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	8.65	7.90	4.05	43.60	鈍刃
S138	114	78	1A9g	整地層下黒褐色土	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.40	7.30	3.10	24.00	鈍刃
S139	115	78	1A9b	黒褐色土	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	10.25	8.25	4.95	79.20	鈍刃
S140	115	79	1A10k	1~1層	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	8.60	7.50	4.40	407.00	鈍刃
S141	115	79	1A18k	正規横切面	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	6.10	6.00	2.90	163.70	鈍刃
S142	115	79	1A18m	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	8.40	6.35	3.25	326.60	鈍刃	
S143	115	79	1A18m	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	6.90	6.80	4.40	334.60	鈍刃	
S144	115	79	1A18b	E層上	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.75	6.65	4.40	367.10	鈍刃
S145	115	79	1A18b	E層上	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	8.25	6.80	2.95	321.00	鈍刃
S146	115	79	1A18b	E層	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	6.40	6.30	2.50	148.40	鈍刃
S147	115	79	1A18b	E層下	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	6.80	5.55	5.00	256.50	鈍刃
S148	116	79	1A18n	E層上	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	11.25	10.30	5.20	103.47	鈍刃
S149	116	80	1A18k	E層	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	10.05	7.50	4.45	654.10	鈍刃
S150	116	80	1A18m	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	11.60	9.25	4.50	894.50	鈍刃	
S151	116	80	1A18m	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	(6.80)	(5.00)	(2.80)	138.20	鈍刃	
S152	116	80	1A18m	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.95	7.80	5.70	580.70	鈍刃	
S153	117	80	1A18b	E層	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	9.50	8.40	4.20	597.10	鈍刃
S154	117	80	1A18b	E層	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	5.75	5.40	2.60	140.40	鈍刃
S155	117	80	1A18b	E層下	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	9.15	8.35	3.05	385.40	鈍刃
S156	117	80	1A18p	E層(黒色)	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	9.15	8.20	5.60	740.50	鈍刃
S157	117	81	1A18b	E層	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	9.55	9.50	5.00	814.70	鈍刃
S158	117	81	1A18b	E層(黒色)	砾石	織田門跡岩 中生代白堊紀 北上山地	7.50	6.70	5.75	483.90	鈍刃
S159	118	81	2A1m	E層(黒色)~中位	砾石	砂岩 中生代白堊紀 北上山地	8.70	7.60	4.50	449.40	鈍刃

No.	国名	等級	出土地点	層位	器種	石質・産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
S160	118	81	1A15m		磨石・磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	8.00	8.00	3.45	3690	円錐
S161	118	81	1B14		磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	7.20	6.80	2.15	20270	円錐
S162	118	81	1A23付近		磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	9.25	8.65	3.10	40250	円錐
S163	118	81	19号集石		磨石	ヒン吉・中生代白堊紀 北上山地	(665)	(485)	(285)	11780	扇形
S164	118	81	22号集石		磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	11.80	6.25	5.70	68020	扇形
S165	118	81	9号土城跡山	E層中位	磨石	青石・中生代 北上山地	9.65	5.60	3.20	23440	扇形
S166	119	81	28号土城	堆上中位	磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	7.70	5.25	2.30	58895	扇形
S167	119	82	1A3e	E層裏鳥	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	12.20	7.60	(5.80)	79440	扇形
S168	119	82	1A3e~4e		磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	10.90	5.90	3.60	40580	扇形
S169	119	82	1A3e~4e		磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	10.60	7.15	4.80	50300	扇形
S170	119	82	1A3e	E層・黒褐色土	磨石・磨石	砂岩・中生代 北上山地	13.95	9.15	4.10	77100	扇形
S171	119	82	1A5	1~2層	磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	(600)	(760)	(2.55)	21170	扇形
S172	119	82	1A12	E層上	磨石	ヒン吉・中生代白堊紀 北上山地	19.75	4.25	2.35	17460	扇形
S173	120	82	1A14	E層上	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	(750)	(720)	(4.20)	33410	扇形
S174	120	82	1A15	E層	磨石	織紋・中生代 北上山地	13.20	6.80	5.45	67210	扇形
S175	120	82	1A15k		磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	8.00	5.50	3.95	32390	扇形
S176	120	83	1A15m		磨石	安山岩・新生代第四紀 静岡山脈	8.50	7.90	(4.95)	38620	扇形
S177	120	83	1A15n	E層	磨石	安山岩・新生代第四紀 静岡山脈	9.10	6.90	3.20	47550	扇形
S178	120	83	1A18n	E層・2層上	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	14.70	8.85	5.20	96300	扇形
S179	120	83	1A18	E層・2層上	磨石・磨石	織紋はいれ・岩・中生代白堊紀 北上山地	(790)	(565)	(3.45)	17930	扇形
S180	121	83	EB8付近	板状山	磨石	ヒン吉・中生代白堊紀 北上山地	7.50	5.00	2.30	35870	扇形
S181	121	83	1号柱	裏塗	磨石	デイオイド・中生代白堊紀 静岡山脈	12.20	7.80	5.30	59603	扇形
S182	121	83	7号柱石	裏塗	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	(850)	(480)	(5.50)	21580	扇形	
S183	121	83	9号・北西隅	木根付岩	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	10.05	8.10	5.20	61005	扇形
S184	121	83	1A4e	裏塗色	磨石(被熱)	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	10.00	6.30	2.95	28540	扇形
S185	121	83	1A8	裏塗類下黒色土上	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	11.40	9.95	7.00	111010	扇形
S186	122	84	1A5f	整地層下黒色土上	磨石・磨石	砂岩・中生代 北上山地	13.00	8.55	6.50	106670	扇形
S187	122	84	1A6g	整地層2位	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	11.95	8.20	5.00	69400	扇形
S188	122	84	1A8	E層	磨石(スス付着)	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	10.55	7.30	4.65	50590	扇形
S189	122	84	1A8n	E層上	磨石(スス付着)	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	(870)	(580)	3.30	23280	扇形
S190	123	84	1A8	E~1層	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	12.90	10.30	6.00	116100	扇形
S191	123	84	1A9	暗褐色土上層	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	10.60	8.05	4.45	54530	扇形
S192	123	84	1A13	E層上	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	13.45	10.35	5.45	133940	扇形
S193	123	84	1A18	E~2層上	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	12.65	8.50	5.10	80130	扇形
S194	123	84	1A18n	E層	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	6.50	5.35	4.05	20170	扇形
S195	124	85	1A14	E層	磨石	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	19.40	7.25	3.85	41260	扇形
S196	124	85	1A1m	E層下	磨石	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	10.05	7.35	4.30	46700	扇形
S197	124	85	1号柱	前面	石碑	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	5.05	4.85	1.20	3546	定形
S198	125	85	1号柱石	石頭内側	石頭内側	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	4.20	3.90	0.80	2040	定形
S199	125	85	1号柱石+33号土坑	石頭内側	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	5.55	5.25	1.10	1795	定形
S200	125	85	12号集石	石頭内側	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	3.30	3.30	0.70	740	定形
S201	125	85	13号集石	石頭内側	石頭内側	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	4.10	4.10	0.90	1990	定形
S202	125	85	19号集石	石頭内側	石頭内側	砂岩・中生代 北上山地	4.90	4.60	1.00	2893	定形
S203	125	85	1A3e~4e	石頭内側	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	3.50	3.30	1.20	1880	定形
S204	125	85	1A5f	整地層~E層	石頭内側	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	4.70	4.50	0.70	2610	定形
S205	125	85	1A5f	整地層下暗褐色土上	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	3.80	3.80	0.60	983	定形
S206	125	85	1A6f	整地層2層褐色土上	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	4.45	4.05	0.75	165	定形
S207	125	85	1A6g	整地層	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	(450)	(230)	(0.90)	562	1/2%
S208	125	85	1A7k	整地層2層褐色土上	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	4.40	4.35	0.95	1882	定形
S209	125	85	1A7k	整地層2層褐色土上	石頭内側	デイオイド・中生代白堊紀 北上山地	4.55	(380)	0.65	1465	石頭?
S210	125	85	1A8	前面背	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	4.20	(410)	1.10	1349	定形
S211	125	85	1A8	整地層2層褐色土上	石頭内側	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	4.60	4.50	1.20	2686	定形
S212	125	85	1A8k	楕圓形	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	(390)	(230)	0.80	784	1/2%
S213	125	85	1A18	楕圓形	石頭内側	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	4.70	4.90	1.25	2522	定形
S214	125	85	1A18	楕圓形	石頭内側	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	3.70	3.20	1.00	1170	定形
S215	125	85	1A18	楕圓形	石頭内側	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	4.50	4.50	1.10	413	7/3%
S216	125	85	13号集石	石頭内側	石頭内側	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	6.75	5.20	1.00	11270	5/1.6%
S217	125	85	1号柱石	堆土	石頭内側	花崗岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	(745)	(525)	(2.45)	4757	1/3%
S218	125	86	50号集石	石頭内側	石頭内側	ヒン吉・中生代白堊紀 北上山地	7.60	5.40	2.20	11992	定形
S219	126	86	1A7g	整地層	石頭内側	ヒン吉・中生代白堊紀 北上山地	(610)	(350)	(4.50)	6902	1.5%
S220	126	86	1A1m	整地層2層褐色土上	石頭内側	織紋岩・中生代白堊紀 北上山地	4.20	(380)	(1.15)	3212	2.3%
S221	126	86	1A11	7号4月16日	石頭内側	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡縣足利川	2.60	1.80	1.25	1083	定形
S222	126	86	1A9	楕圓形	石刀	黄鐵矿・中生代 北上山地	(390)	(320)	(1.85)	2534	先端部
S223	126	86	1A9k	楕圓形~E層	石刀	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	(1740)	(380)	(1.35)	9962	下欠欠
S224	126	86	1A10k	楕圓形~E層	石刀	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	(1495)	(285)	(1.35)	9017	一部欠損
S225	126	86	15号集石	石刀	セシルチャ・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	(2210)	(220)	1.60	2559	一部欠損	
S226	126	86	1A10	整地層	織紋岩	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	7.00	5.00	1.00	6483	3.7%
S227	126	86	1A7g	不規則	織紋岩	織紋岩・中生代或成山代(?) 静岡山脈北上山地	4.75	4.75	0.65	1826	定形
S228	127	86	1A7g	6号10月	織紋岩	織紋岩・古代或中生代(?) 早瀬神山開拓	(540)	(225)	(0.95)	1416	5/1%欠品
S229	127	86	1A17p	1号1層	石頭(ニコラド)	花崗岩・中生代白堊紀 北上山地	5.35	1.55	0.85	1160	5/1%欠品
S230	127	86	6号10月	下层・整理小	石頭(ニコラド)	ヒン吉・中生代白堊紀 北上山地	(540)	(229)	0.95	2619	1~2段階
S231	127	86	1A8k	整地層	石頭(ニコラド)	織紋岩・中生代白堊紀 北上山地	7.25	2.95	1.45	4650	1~2段階
S232	127	86	1A12b	E層	石頭(ニコラド)	花崗岩・中生代 北上山地	4.35	(285)	1.40	2010	1~2段階
S233	127	86	1A12b	整地層2層上	石頭(ニコラド)	花崗岩・中生代 北上山地	4.95	2.00	0.80	1082	1~2段階
S234	127	86	1A12	堆土	石頭(ニコラド)	織紋岩・中生代 北上山地	4.40	0.70	0.50	246	定形

V 自然科学分析

1 平成26年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

（1）測定対象試料

西平内 I 遺跡は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内（北緯40°25'38"、東経141°40'45"）に所在する。測定対象試料は、焼土や土坑、整地層等から出土した炭化物10点である（表1）。

試料の時期は、いずれも縄文時代後期初頭から前葉及びそれ以前と推定されている。ただし、試料1、2については、表土下10~20cmから出土し、上位からの混入の可能性も指摘される。また、試料8~10は、整地層1の中（8と10は上面から5cm下、9は上面から7cm下）より採取された。

（2）測定の意義

遺構の年代を把握する。

（3）化学処理工程

- 1) メス・ビンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- 2) 酸-アルカリ-酸 (AAA : Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/l (1M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- 3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO₂) を発生させる。
- 4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- 6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

（4）測定方法

加速器をベースとした¹⁴C-AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、¹⁴Cの計数、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C)、¹⁴C濃度 (¹⁴C/¹²C) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- 1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- 2) ^{14}C 年代 (Libby Age : yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0yrBP) として測る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- 3) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- 4) 暴年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暴年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暴年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暴年較正年代を表す。暴年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暴年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暴年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暴年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」という単位で表される)。

(6) 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

10点の測定結果には、明らかな年代差が認められる。このため、以下では推定される時期より新しい年代を示し、一部は上位から混入した可能性も指摘される試料1～3、8～10と、推定される時期に整合する結果となった試料4～7の2つに分けて記述する。

1) 試料1～3、8～10の年代

試料1の ^{14}C 年代は $80 \pm 20\text{yrBP}$ 、2は $180 \pm 20\text{yrBP}$ である。暴年較正年代 (1σ) は、1が1700～1916cal AD、2が1668～1950cal ADの間に各々複数の範囲で示され、さらに新しい年代となる可能性がある (表2下の注参照)。近世以降に相当し (佐原2005)、繩文時代後期初頭から前葉及びそれ以前とする推定よりも大幅に新しい年代となった。このため、調査所見として指摘されているように、

上位から新しい炭化物が混入した可能性を考慮する必要がある。

試料3の¹⁴C年代は 870 ± 20 yrBP、曆年較正年代（ 1σ ）は1156～1215cal ADの範囲で示され、古代末から中世初頭頃に相当し（佐原2005）、これも推定より新しい年代が示された。

試料8～10は整地層1内から採取された試料で、¹⁴C年代は8が 1640 ± 20 yrBP、9が 990 ± 20 yrBP、10が 2790 ± 30 yrBPである。曆年較正年代（ 1σ ）は、8が386～426cal ADの範囲、9が999～1118cal ADの間に3つの範囲、10が976～904cal BCの範囲で示され、8は古墳時代中期頃、9は平安時代後半頃、10は縄文時代晚期中葉頃に相当する（小林編2008、佐原2005）。同じ層内から出土したにも関わらず、3点の間には大きな年代差があり、整地層1の表土下から浅い箇所で採取され、上位からの混入の可能性が指摘される試料も合わせれば、さらに大きな年代の変異が認められることになる。整地層1の年代については、これらの年代値を手がかりにしながら、周辺の状況も考慮して層の形成過程を吟味し、判断する必要がある。

2) 試料4～7の年代

試料4～7の¹⁴C年代は、 3640 ± 30 yrBP（試料7）から 3610 ± 30 yrBP（試料6）の間にあり、すべて誤差（ $\pm 1\sigma$ ）の範囲で一致する。曆年較正年代（ 1σ ）は、最も古い7が2031～1956cal ADの範囲、最も新しい6が2020～1933cal ADの間に2つの範囲で示される。いずれも縄文時代後期前葉頃に相当し（小林編2008）、推定される時期の範囲内である。

以上、試料10点の測定結果を検討した。これらの試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon 51(1), 337-360
 小林達雄編 2008 縄文土器、縄文土器刊行委員会、アム・プロモーション
 Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP. Radiocarbon 55(4), 1869-1887
 佐原眞 2005 日本考古学・日本歴史学の時代区分、ウェルナー・シュタインハウス監修、奈良文化財研究所編集、日本の考古学上　ドイツ展記念概説、学生社、14-19
 Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ¹⁴C data. Radiocarbon 19(3), 355-363

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正値)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C} (\text{‰})$ (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-141005	1	3号焼土 整地層1内	炭化物	AAA	-27.63 ± 0.56	80 ± 20	98.99 ± 0.28
IAAA-141006	2	2号焼土内	炭化物	AAA	-24.13 ± 0.25	180 ± 20	97.78 ± 0.28
IAAA-141007	3	5号焼土付近 整地層2上面	炭化物	AAA	-28.34 ± 0.52	870 ± 20	89.69 ± 0.28
IAAA-141008	4	6号焼土 整地層2上面	炭化物	AAA	-24.70 ± 0.60	3,630 ± 30	63.66 ± 0.22
IAAA-141009	5	内帶SI4付近 遺構埋土	炭化物	AAA	-24.19 ± 0.40	3,630 ± 30	63.61 ± 0.22
IAAA-141010	6	2号焼土下鉢基 燃土内	炭化物	Aaa	-25.20 ± 0.53	3,610 ± 30	63.80 ± 0.21
IAAA-141011	7	7号土坑 埋土中位	炭化物	Aaa	-26.70 ± 0.52	3,640 ± 30	63.58 ± 0.21
IAAA-141386	8	整地層1内 上面から5cm F	炭化物	Aaa	-26.14 ± 0.55	1,640 ± 20	81.54 ± 0.25
IAAA-141387	9	整地層1内 上面から7cm F	炭化物	Aaa	-24.63 ± 0.49	990 ± 20	88.37 ± 0.26
IAAA-141388	10	整地層1内 上面から5cm F	炭化物	AAA	-25.06 ± 0.62	2,790 ± 30	70.67 ± 0.23

[#6764,6849]

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-141005	120 ± 20	98.46 ± 0.26	81 ± 22	1700calAD - 1720calAD (18.5%)* 1818calAD - 1833calAD (13.0%)* 1880calAD - 1916calAD (36.7%)**	1694calAD - 1728calAD (24.8%)* 1812calAD - 1919calAD (70.6%)**
IAAA-141006	170 ± 20	97.96 ± 0.28	180 ± 22	1668calAD - 1681calAD (4.1%)* 1738calAD - 1755calAD (15.4%)* 1762calAD - 1782calAD (21.3%)* 1798calAD - 1803calAD (4.3%)* 1997calAD - 1950calAD (13.1%)*	1661calAD - 1690calAD (18.4%)* 1728calAD - 1810calAD (66.0%)* 1925calAD - ... (20.9%)*
IAAA-141007	990 ± 20	89.08 ± 0.26	874 ± 24	1156calAD - 1215calAD (68.2%)	1047calAD - 1088calAD (16.0%) 1122calAD - 1139calAD (3.7%) 1148calAD - 1222calAD (75.8%)
IAAA-141008	3,620 ± 30	63.70 ± 0.21	3,627 ± 27	2026calBC - 1951calBC (68.2%)	2121calBC - 2094calBC (5.3%) 2042calBC - 1907calBC (90.1%)
IAAA-141009	3,620 ± 30	63.72 ± 0.21	3,633 ± 27	2029calBC - 1954calBC (68.2%)	2127calBC - 2090calBC (9.0%) 2045calBC - 1917calBC (86.4%)
IAAA-141010	3,610 ± 20	63.77 ± 0.20	3,610 ± 26	2020calBC - 1993calBC (22.8%) 1983calBC - 1933calBC (45.4%)	2031calBC - 1896calBC (95.4%)
IAAA-141011	3,670 ± 20	63.36 ± 0.20	3,637 ± 26	2031calBC - 1956calBC (68.2%)	2129calBC - 2089calBC (10.9%) 2046calBC - 1923calBC (84.5%)
IAAA-141386	1,660 ± 20	81.35 ± 0.23	1,639 ± 24	386calAD - 426calAD (68.2%)	342calAD - 433calAD (84.1%) 490calAD - 532calAD (11.3%)
IAAA-141387	990 ± 20	88.43 ± 0.25	993 ± 23	999calAD - 1002calAD (1.9%) 1012calAD - 1043calAD (67.5%) 1106calAD - 1118calAD (8.8%)	990calAD - 1049calAD (71.7%) 1085calAD - 1125calAD (19.2%) 1137calAD - 1150calAD (4.5%)
IAAA-141388	2,790 ± 20	70.66 ± 0.21	2,788 ± 26	976calBC - 904calBC (68.2%)	1008calBC - 892calBC (88.9%) 878calBC - 848calBC (6.5%)

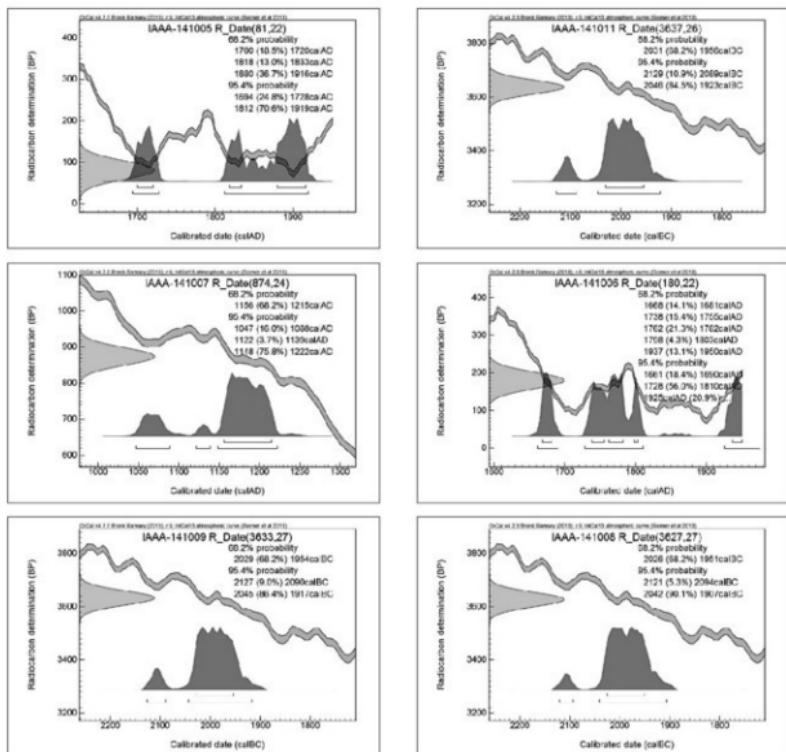
[参考値]

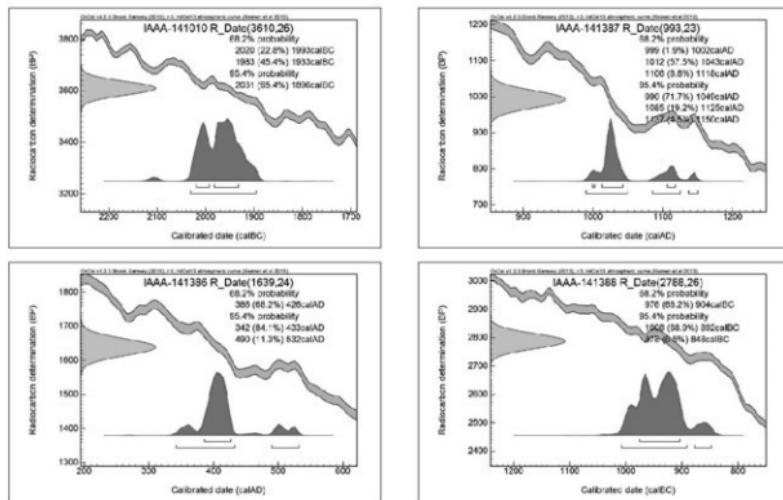
*Warning! Date may extend out of range

Warning! Date probably out of range

**Warning! Date probably out of range

(これらの警告は較正プログラムOxCalが発するもので、試料の¹⁴C年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。*、**の順にその可能性が高くなる。)





〔図版〕 历年校正年代グラフ（参考）

2 平成27年度 西平内 I 遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

(株) 加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

西平内 I 遺跡は、岩手県九戸郡洋野町種市第37地割(北緯40°25'38"、東経141°40'45")に所在する。測定対象試料は、堅穴状遺構、柱穴、土坑から出土した炭化物10点である（表1）。いずれも縄文時代後期前葉頃と推定されている。

2～5、文献は省略

(6) 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料10点のうち⑤を除く9点の¹⁴C年代は、3930±30yrBP（試料⑥）から3670±30yrBP（試料⑦）の間にまとまる。暦年較正年代（1σ）は、最も古い⑥が2473～2349cal BCの間に3つの範囲、最も新しい⑦が2129～1981cal BCの間に3つの範囲で示され、全体として縄文時代後期初頭から前葉頃に相当する（小林編2008）。推定される時期におおむね一致するか、若干古いと見られる。

試料⑤の¹⁴C年代は900±20yrBP、暦年較正年代（1σ）は1046～1167cal ADの間に3つの範囲で示され、推定される時期より大幅に新しい値となっている。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果（δ¹³C補正值）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ ¹³ C (‰)	δ ¹³ C補正あり	
					(AMS)	Libby Age(yrBP)	pMC (‰)
IAAA-151922	①	1号堅穴状遺構 琉土	炭化物	AAA	-26.48 ± 0.25	3770 ± 30	6253 ± 0.22
IAAA-151923	②	P007(柱穴) 琉土中位	炭化物	AAA	-28.20 ± 0.26	3720 ± 30	6293 ± 0.23
IAAA-151924	③	14号土坑 琉土中位	炭化物	AAA	-27.36 ± 0.29	3800 ± 30	6229 ± 0.23
IAAA-151925	④	15号土坑 琉土	炭化物	AAA	-26.38 ± 0.24	3780 ± 30	6247 ± 0.22
IAAA-151926	⑤	18号土坑 琉土中位	炭化物	AAA	-26.92 ± 0.28	900 ± 20	89.36 ± 0.28
IAAA-151927	⑥	21号土坑 琉土	炭化物	Aaa	-29.74 ± 0.29	3900 ± 30	6134 ± 0.21
IAAA-151928	⑦	24号土坑 底面直上	炭化物	AAA	-27.51 ± 0.25	3670 ± 30	63.35 ± 0.21
IAAA-151929	⑧	25号土坑 琉土底面近く	炭化物	AAA	-29.51 ± 0.26	3730 ± 30	6286 ± 0.21
IAAA-151930	⑨	26号土坑 琉土上位	炭化物	AAA	-25.56 ± 0.30	3700 ± 30	63.10 ± 0.20
IAAA-151931	⑩	34号土坑	炭化物	AAA	-25.42 ± 0.28	3730 ± 30	6283 ± 0.22

[#7665]

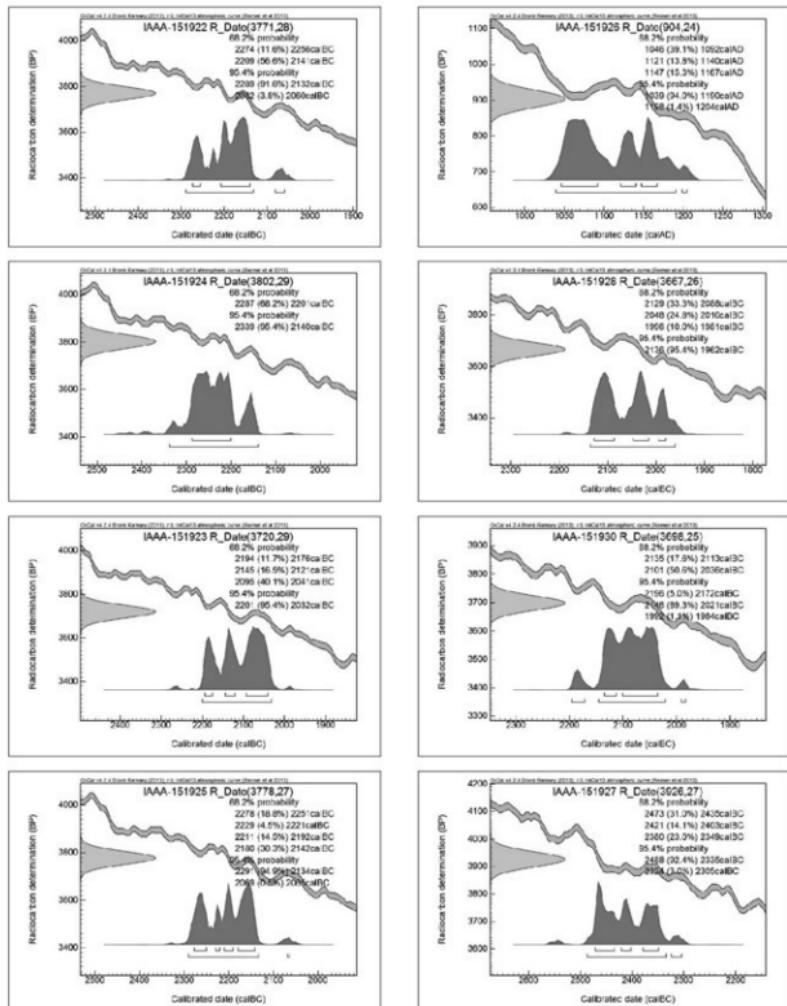
表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (1)

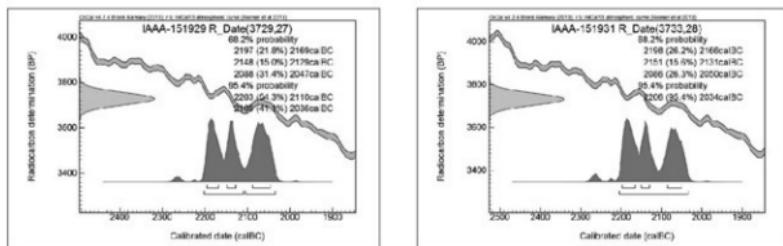
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-151922	3,800 ± 30	62.35 ± 0.22	3,771 ± 28	2274calBC - 2256calBC (11.6%) 2209calBC - 2141calBC (56.6%)	2289calBC - 2132calBC (91.6%) 2082calBC - 2060calBC (3.8%)
IAAA-151923	3,770 ± 30	62.52 ± 0.23	3,720 ± 29	2194calBC - 2176calBC (11.7%) 2145calBC - 2121calBC (16.5%) 2095calBC - 2041calBC (40.1%)	2201calBC - 2032calBC (95.4%)
IAAA-151924	3,840 ± 30	61.99 ± 0.22	3,802 ± 29	2287calBC - 2201calBC (68.2%)	2339calBC - 2140calBC (95.4%)
IAAA-151925	3,800 ± 30	62.30 ± 0.21	3,778 ± 27	2278calBC - 2251calBC (18.8%) 2229calBC - 2221calBC (4.5%) 2211calBC - 2192calBC (14.5%) 2180calBC - 2142calBC (30.3%)	2291calBC - 2134calBC (94.9%) 2069calBC - 2065calBC (0.5%)
IAAA-151926	940 ± 20	89.01 ± 0.27	904 ± 24	1046calAD - 1092calAD (39.1%) 1121calAD - 1140calAD (13.8%) 1147calAD - 1167calAD (15.3%)	1039calAD - 1190calAD (94.0%) 1198calAD - 1204calAD (1.4%)
IAAA-151927	4,000 ± 30	60.74 ± 0.20	3,926 ± 27	2473calBC - 2435calBC (31.0%) 2421calBC - 2403calBC (14.1%) 2380calBC - 2394calBC (23.0%)	2488calBC - 2335calBC (92.4%) 2324calBC - 2305calBC (3.0%)
IAAA-151928	3,710 ± 30	63.02 ± 0.20	3,667 ± 26	2129calBC - 2088calBC (33.3%) 2048calBC - 2016calBC (24.8%) 1996calBC - 1981calBC (10.0%)	2136calBC - 1962calBC (95.4%)

表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代) (2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-151929	3,800 ± 30	62.28 ± 0.21	3,729 ± 27	2197calBC - 2169calBC (21.8%) 2148calBC - 2129calBC (15.0%) 2088calBC - 2047calBC (31.4%)	2203calBC - 2110calBC (54.3%) 2105calBC - 2036calBC (41.1%)
IAAA-151930	3,710 ± 20	63.03 ± 0.19	3,698 ± 25	2135calBC - 2113calBC (17.6%) 2101calBC - 2036calBC (50.6%)	2196calBC - 2172calBC (5.0%) 2146calBC - 2021calBC (89.3%) 1992calBC - 1984calBC (1.1%)
IAAA-151931	3,740 ± 30	62.78 ± 0.22	3,733 ± 28	2198calBC - 2166calBC (26.2%) 2151calBC - 2131calBC (15.6%) 2086calBC - 2050calBC (26.3%)	2206calBC - 2034calBC (95.4%)

[参考値]





〔図版〕暦年較正年代グラフ（参考）

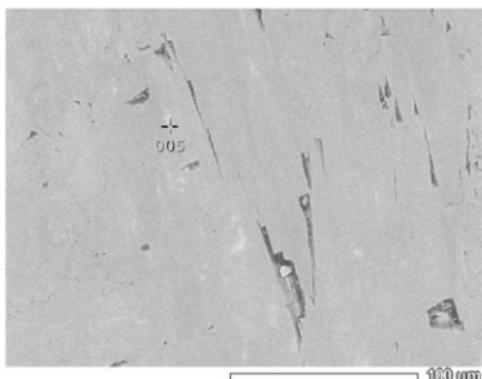
3 ヒスイ製垂飾品の鑑定結果

資料の半定量化学分析について

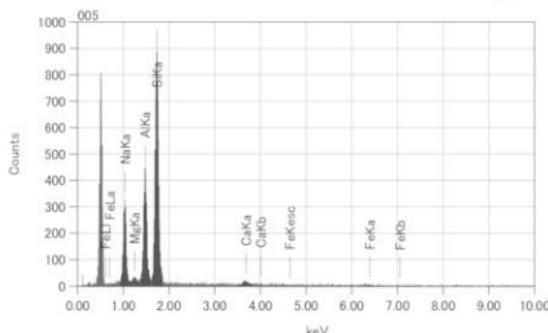
使用した機械	分析走査電子顕微鏡(SEM-EDS)に日本電子製 エネルギー分散型エックス線スペクトロメーターを付けた走査型電子顕微鏡 JSM-6510LV
分析条件	低真空モード
炭素蒸着	なし
加速電圧	15 kV
分析時間(リアルタイム)	120秒
ワーキングディスタンス	10mm
分析範囲	面分析 0.25mm×0.2mm
施設名	糸魚川市フォッサマグナミュージアム
分析年月日	2015年12月13日
分析者	宮島 宏(館長補佐)

視野010

1/1



タイトル	: IMG1
装置	: 6510 (LA)
加速電圧	: 15.00 kV
倍率	: 500
測定日時	: 2014/02/08
画素数	: 1024 x 768



測定条件	:	6510 (LA)
装置	:	15.0 kV
照射電流	:	0.18625 nA
PHAモード	:	T4
経過時間	:	54.41 sec
有効時間	:	35.61 sec
デッドタイム	:	34 %
計数率	:	4602 cps
エネルギー範囲	:	0 - 20 keV

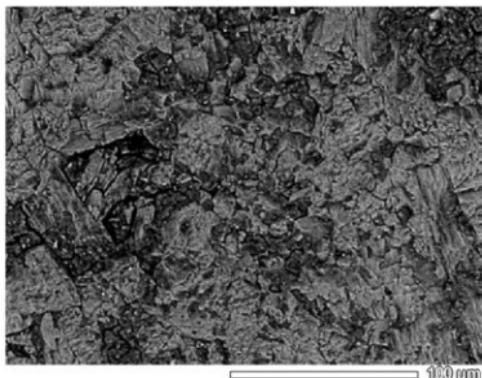
元素	(keV)	質量%		モル%	化合物	質量%		カチオン数	K	
		0	47.51		Na	K	Mg	Al	Si	Ca
Na	K	1.041	10.44	0.77	Na2O	14.08	0.92	20.3306		
Mg	K	1.253	0.43	0.91	1.18	MgO	0.72	0.04	0.6967	
Al	K	1.486	12.00	1.04	14.74	Al2O3	22.67	0.90	22.1682	
Si	K	1.739	28.55	1.37	67.39	SiO2	61.07	2.05	54.3012	
Ca	K*	3.690	0.76	1.77	1.26	CaO	1.07	0.04	1.8598	
Fe	K	6.395	0.31	4.65	0.37	FeO	0.40	0.01	0.6434	
合計			100.00			100.00		3.96		

JED-2300 AnalysisStation

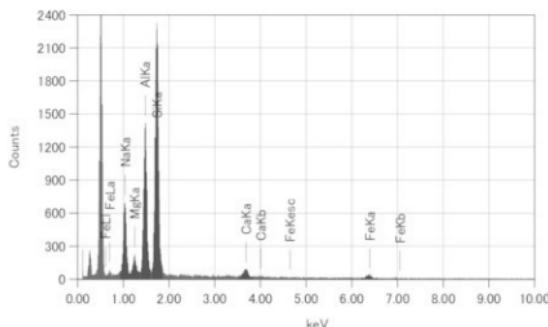
JEOL

西平内I遺跡石製品

1/1



タイトル	: IMG1
装置	: 6510 (LA)
加速電圧	: 15.00 kV
倍率	: 500
測定日時	: 2015/12/13
画素数	: 1024 x 768



測定条件	: 6510 (LA)
装置	: 6510 (LA)
加速電圧	: 15.0 kV
照射電流	: 0.18625 nA
PHAモード	: T4
経過時間	: 257.47 sec
有効時間	: 120.00 sec
デッドタイム	: 53 %
計数率	: 7837 cps
エネルギー範囲	: 0 - 20 keV

元素	(keV)	質量%		モル%	化合物	質量%		カチオン数	K
		量	誤差%			量	誤差%		
O		46.83							
Na K	1.041	8.02	0.87	11.66	Na2O	10.81	0.72	15.0964	
Mg K	1.253	1.52	0.99	4.17	MgO	2.52	0.13	2.4598	
Al K	1.486	13.66	1.14	16.91	Al2O3	25.81	1.04	25.0499	
Si K	1.739	25.96	1.52	61.74	SiO2	55.53	1.89	48.4986	
Ca K	3.690	1.54	1.92	2.57	CaO	2.16	0.08	3.7751	
Fe K	6.395	2.47	5.06	2.95	FeO	3.18	0.09	5.1202	
合計		100.00		100.00		100.00		3.94	

JED-2300 AnalysisStation

JEOL

VI 総括

1 調査経過のまとめ

野外調査1年目、縄文時代後期初頭から前葉の配石遺構群とそれに囲まれたように存在する2枚の整地層を確認し、当初は「配石遺構に囲まれた整地された広場」と報告した。この中央広場と思われた整地層を除去したところ、弧を描く石の列が現れはじめ、周辺の状況から直径25m前後の弧状をなすものと想定した。このことにより検出された配石遺構群は、石の集合体からなる外側のもの(外帯)と、整地層下から見つかった内側の石列(内帯)という二重構造をなすことが明らかとなった。出土遺物には、当該期の土器や土偶、鐸形・土製円盤、ミニチュア土器、焼けた粘土塊など、祭祀に関わるものが目立ち、石器では未製品を含む石斧の出土点数が多いという特徴が見られた。

2年目は、墓と考えた外帯の配石遺構毎の精査と、その内側に弧状に巡る内帯の性格を明らかにすべく調査を実施した。前者では、配石遺構の下部に埋葬施設とも思われる土坑を伴うものと、それを伴わずに礫が据えられた凹みが複数認められるだけの二種が存在することが判明したが、墓とする根拠は得られなかった。一方、内帯の内側からは柱穴状の小土坑が2つ見つかっただけで、これもその性格に関わるものは得られなかった。この調査では、内帯の石列よりも確実に古い堅穴住居が複数棟検出され、配石遺構構築以前から構築時、それ以降の整地造成作業という一連の動きを追うことが出来た。

2 各種遺物の出土状況

調査で出土した土器の時期は、古い方から縄文時代早期中葉の貝殻文土器、縄文中期末～後期、主体となる後期初頭～前葉のいわゆる十腰内I式前後、弥生時代後期赤穴式だけである。既述のとおり、配石遺構群の時期である後期初頭から前葉期のものが大半を占める。その器種には深鉢形、壺形、浅鉢形などがあり、浅鉢や壺形土器には釣手(昂手)がつくものが比較的多く見受けられる。

土器以外の遺物の出土分布は第128～130図に示したとおりである。土偶をはじめ、鐸形土製品・土製円盤、ミニチュア土器、焼けた粘土塊などが、石製品では、石刀や石剣類、石製円盤などが出土した。中でも、ミニチュア土器には、胴部下端から底部外面にかけて小さな孔が通されているものがあり、特殊な用途が想定される。また、調査終盤には遺構外からではあったが、ヒスイ製の有孔垂飾品も1点出土し、これが副葬品であった可能性もある。このように、祭祀に関連すると言われる遺物が目立つ一方で、石斧や製作途中と思われる未製品、さらにその製作工具であろう敲石の出土点数が多くかったことも特徴の一つであった。未製品には、石斧製作工程の各段階のものが見られることから、一連の石斧製作に関わる場であったと考えられよう。近年この地区に増加した発掘調査により、県境を跨いでこの周辺の縄文時代後期の遺跡にも石斧製作を思わせる遺跡が存在することが分かってきている。

また、調査開始当初は余り気にかけていなかったが、おはじき程度の大きさの小礫が多く出土していた。いかにも海水で入念に洗われたこれらの石は、調査1年目の途中から意識され、2年目の調査では小判形をした土坑中から大量に発見されるに至った。形状は墓とも思える遺構である。このことに関連して、焼けた粘土の塊も出土した。大きさは先述の小石に近い。粘土の質がきめ細かく、触る

と柔らかめの感触を持つものとかりかりに固いものがある（写真図版70）。小砾ほど多くの出土を見ないが、これらも祭祀に関連した遺物と考えている。

ここで、祭祀関連遺物の特徴を他の同種の遺跡と比較して述べる。土製円盤が多いことは上述した通りだが、三角状土製品は見られない。土偶も数えるほどで、岩偶は出土していない。赤色顔料が付着する土器片も多数あったが、外帯の配石遺構群からの出土が特別多いというわけではない、などが挙げられる。

3 配石遺構群構成礫の石質

平成26・27年度調査とも、配石遺構群の内帯・外帯すべての礫について、野外調査時に外部機間にによる石質鑑定を行った。構成礫の総数は845個、うち内帯の構成礫は180個、外帯は665個で、石質は下記に記載したA～Sの19種がある。

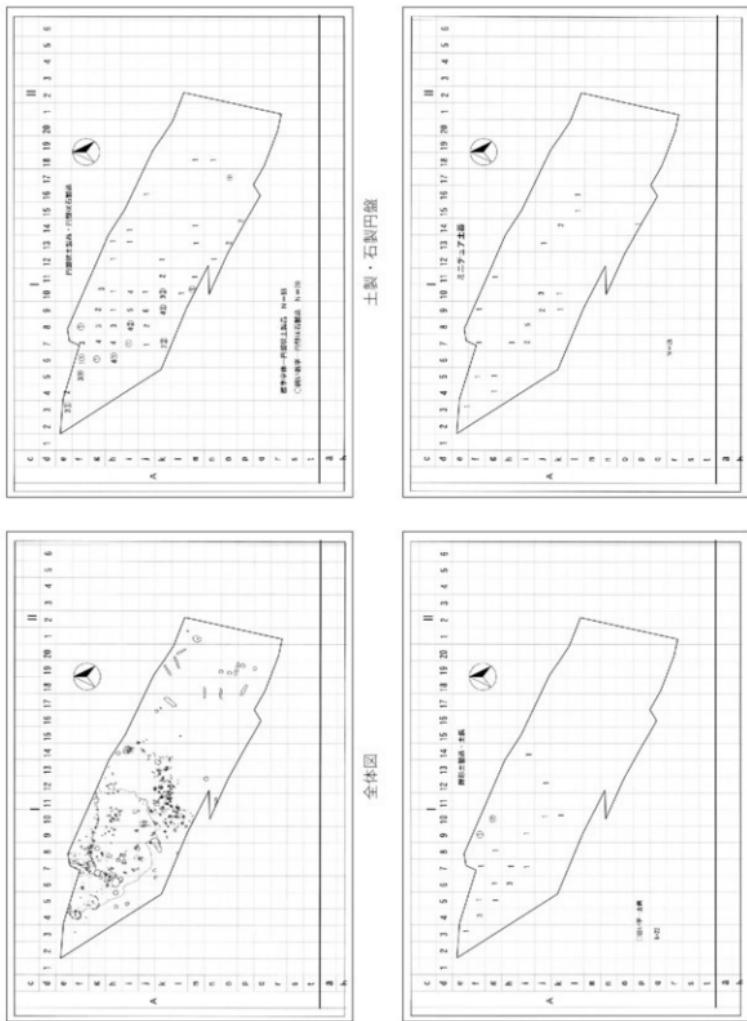
- A 砂岩
- B 花崗岩
- C 花崗閃綠岩
- D 閃綠岩
- E 粉岩（ひんがん）
- F デイサイト
- G 斑鰐岩（はんれいがん）
- H ホルンフェルス
- I チャート類
- J 角閃石玢岩
- K 凝灰岩
- L 貝岩類
- M ベグマタイト
- N アブライト
- O 石英斑岩
- P 花崗斑岩
- Q 蛇紋岩
- R 斑岩
- S 溶結凝灰岩

外帯→665個中不明33個 対象632個17種

A : 233個 B : 106個 C : 150個 D : 7個 E : 7個 F : 29個 G : 17個 H : 8個
 I : 2個 J : 2個 K : 4個 L : 8個 M : 1個 N : 52個 O : 4個 P : 1個
 Q : 1個 R : 0個 S : 0個

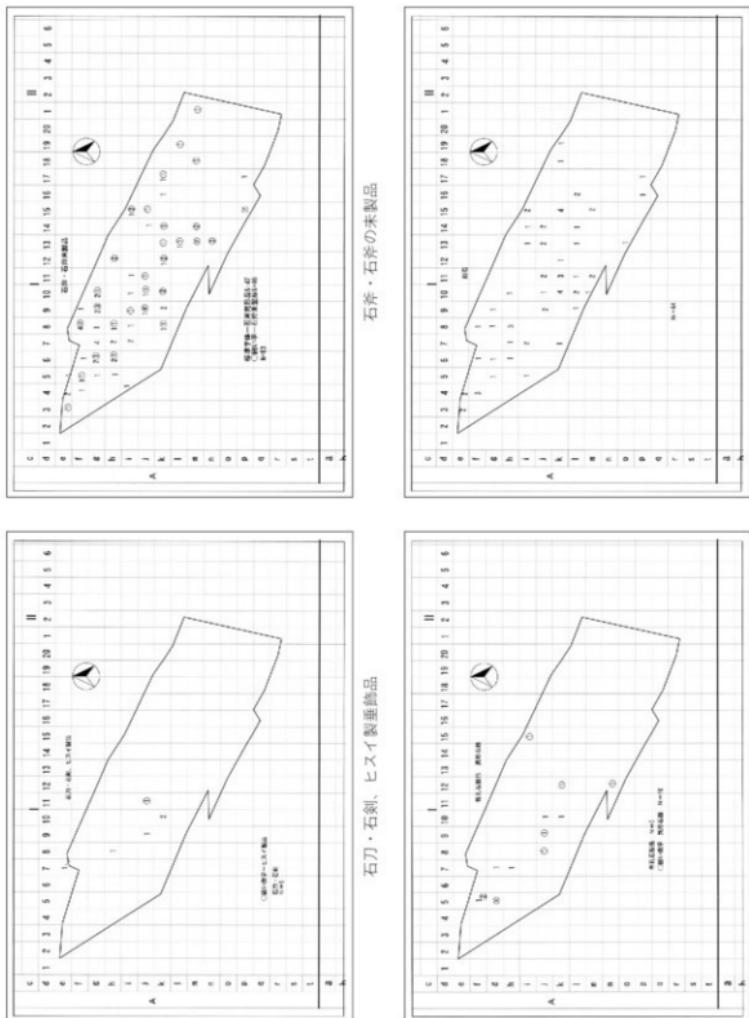
内帯→180個中不明11個 対象169個17種

A : 2個 B : 118個 C : 16個 D : 1個 E : 5個 F : 7個 G : 2個 H : 2個
 I : 2個 J : 1個 K : 0個 L : 1個 M : 3個 N : 0個 O : 1個 P : 6個
 Q : 0個 R : 1個 S : 1個



ミニチュア土器

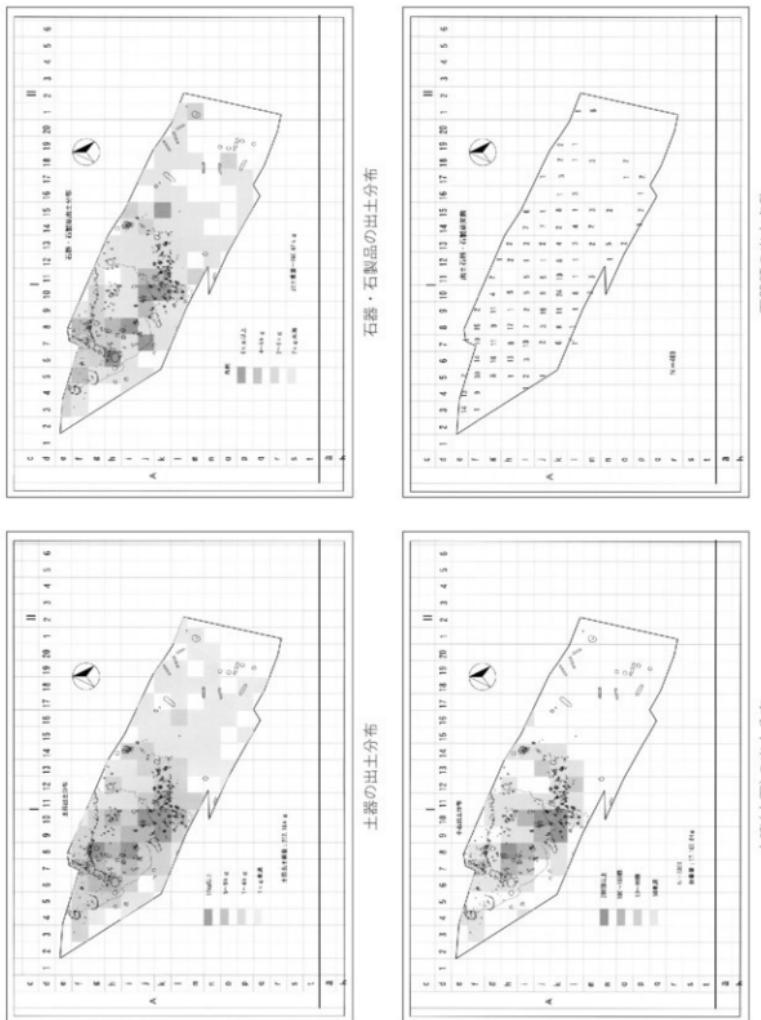
錐形土製品・土偶



第129図 遺物毎の出土分布(2)

有孔石製品

鉄石



第130図 遺物毎の出土分布(3)

まとめると、砂岩・花崗岩・花崗閃緑岩の3種で625個、全体の78%を占め、構成礫のほとんどは海岸を含むこの周辺地域から調達した石が使われていたことが判明した。外帯では、礫の集合体の中に円錐ないし亜円錐が全体の1~2割程度混ぜ込まれるような傾向が見られ、特に海岸付近から持ち込まれたと思われる小礫が目立つ。内帯ではそれがあまり見当たらず花崗岩が主となるが、その割合は全体の65%と高い。

4 遺構の重複関係とその内容

卷末の附図に遺構配置図を掲載した。地形的に見ると調査区の中央部はほぼ平坦で、南側に向けて緩やかな傾斜を持つが、配石遺構の外帯はこの平坦部から斜面地にかけて広がり、南東部に集中している。一方、内帯は調査区北側の整地層2枚の下から検出され、その内帯と外帯との空間には、堅穴住居や掘立柱建物、土坑、炉跡などが2年目の調査で確認された。中には、内帯よりも確実に古い堅穴住居（5号住居）が存在するなど、注目される重複関係も見られる。これらの遺構群のうち、いくつかをよく観察すると、全体の配置としては、弧状ないし環状をなす可能性が有ることが分かる。内帯とした石列の描く曲線、外帯の集石群の広がり、整地層の残る範囲、掘立柱建物の軸方向とそれらが向く方向。いずれをとっても「環」が意識され、まだ北側の調査区域外にそれぞれの遺構の広がりがあることが予想される。これにあたらない遺構としては、陥れ穴状遺構と土坑群がある。前者は、調査区東側の埋没沢側に位置するものが大半で、配石遺構群のあるこの空間とは一線を画する。後者は不規則に配置されるように見えるが、部分的に見れば直線状に見えない部分がないわけではない。

ここで、調査で認識できた遺構群の重複事例についてまとめておく。あくまでも、遺構の間での切り合いを見るものであり、ここでは年代測定の結果はこれに反映させていない。初年度の調査開始当初、表土掘削を行っていた際に黄色土が表土直下に現れたが、これが整地層1であった。もっと下から出てくるはずの土であったためとりあえずこの面を残したが、本遺跡ではこれが2番目に新しい遺構となる。最も新しい遺構は、この上面で検出した焼土遺構2基である。よって、この整地層1の下から見つかった遺構のすべてはこれよりも確実に古い。整地層1が各種遺構を覆う範囲は、尾根状の平坦部とそこから西側ないし南側の肩部を廻り、最も標高の高い場所にある58号集石付近まで広がる。この整地層1に被覆されるか否かは、新旧を判断するひとつの目安となろうが、これに覆われる集石と覆われない集石があることについては、それが施された時期の差を示すものとはならない。

さて、ここに既述以外の直接切り合いがあって重複関係が判明している遺構について挙げてみる。

- ① 5号住居は内帯の石列よりも古い。
- ② 1号住居に重複する14号土坑群は住居より新しい。
- ③ 3号掘立柱建物は8号炉跡（周溝を伴う住居の炉とみて）より新しい。

上記①から③について、①は住居が内帯に付属するトゲ状の石列下にあることから、②は重複する箇所の断面観察から、③は住居の周溝と掘立柱建物を構成する柱穴との断面観察から判断した。これらをまとめてみると、概ね(1)~(4)のような大まかな流れが掴めるのではないか。

- (1) 堅穴住居跡の構築・廃棄
 - (2) 土坑群の構築
 - (3) 配石遺構の構築・掘立柱建物の構築
 - (4) 整地土で被覆する造成工事

これに、測定した¹⁴C実年代を当てはめてみる。

- ・竪穴住居跡構築と廃棄→縄文時代後期初頭
- ・土坑群の構築→縄文時代後期初頭から前葉
- ・配石遺構の構築・掘立柱建物の構築→縄文時代後期初頭から前葉
- ・整地土で被覆する造成工事→縄文時代晚期中葉か古墳時代中期か平安時代後半あるいは現代ということになろう。このような新旧関係と年代観からも、突如としてこの地に配石遺構がつくられる訳ではなく、それ以前にベースとなる集落が存在していたことが窺える。

繰り返しになるが、石斧とその未製品、製作工具であるハンマーが數多く見つかっている。剥離・整形→敲打→研磨という製作工程それぞれに属する段階のものが見られ、ここに石器製作工房が存在した可能性は高い。単純に、配石遺構が構築される以前の集落が石器製作に関わっていたと考えたが、根拠はない。また、單独の遺構として精査した炉跡が複数あったが、配石遺構群と同時期のものと考えるべきか、あるいはそれ以前の集落の竪穴住居に付属する炉なのかの判断できなかった。住居の何らかの痕跡との組み合わせ、例えば、前述した8号炉跡と住居跡の周溝という明確なパターンがこの他には認められなかった。

最後に、内帶の石列と外帶の集石群についてであるが、これらが同時存在するかしないかは遺跡の内容を語る上で重要な問題である。

- ① 多くの人々の手によって、まず内帶の石列が環状に出来上がる。
- ② この目標物を目指し、周辺に石の集合体をつくる。これは一斉に出来るわけではなく、徐々に増えしていく。あたかも寺院の墓地区画がそうなるかのよう。
- ③ 内帶である環状の石列周辺には、だんだんと外側の輪、外帯ができる。自然発生的な増え方であり、きちんとした環状はなさない。
- ④ 最後は役割を終わらせるためか、あるいは人々の目につかないようにするために、これを覆いつくす必要が生じ、大土木工事を再度行った。但し、いつ誰が行ったかはわからない。

といった、①～④のような経過を辿ったものと考えたい。

本遺跡が「太平洋側の大規模配石遺構群」であることはほぼ確かであろうし、「配石遺構を覆う整地層」についても事例の少ない新たな成果であった。北東北に突如起ったであろう縄文時代後期初頭から前葉にかけての大きな出来事は、人々の生活に大きな変化をもたらしたことは想像に難くない。単純に「冷涼な気候」であったこともその要因の一つと考えられようが、実際はもっと複雑な状況ではなかつたのか。

今回確認された配石遺構のうち、内帶のすべてと外帶の代表的な集石5基については、将来の移設・復元に備えるべく最新の三次元計測を行って、詳細な図面の作製およびデータの保管をしている。また、これらを構成した礫については旧角の浜小学校に保管し、洋野町教育委員会が管理していることを付け加えて、報告を締めくくりたい。

参考・引用文献

- 青森市教育委員会 1996 「小牧野遺跡発掘調査報告書」 青森市埋蔵文化財調査報告書 第30集
- 青森県教育委員会 1984 「一ノ瀬道路発掘調査報告書」 青森県埋蔵文化財調査報告書 第79集
- 青森県教育委員会 2016 「下天摩遺跡・大草里庄遺跡発掘調査報告書」 青森県埋蔵文化財調査報告書 第572集
- 秋田県教育委員会 1990 「西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書VI 高屋館跡」 秋田県埋蔵文化財調査報告書 第198集
- 一戸町教育委員会 1993 「御所野遺跡1-縄文時代中期の大集落跡」 一戸町埋蔵文化財調査報告書第32集
- 岩手県文化振興事業団 2001 「ゴッソー遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
- 岩手県文化振興事業団 2011 「大平野II遺跡発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第576集
- 岩手県文化振興事業団 2013 「李田沢田IV道路発掘調査報告書」 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第604集
- 鹿角市教育委員会 2010 「特別史跡 大湯環状列石ガイドブック」
- 北秋田市教育委員会 2011 「史跡伊勢堂岱遺跡発掘調査報告書」 北秋田市埋蔵文化財調査報告書 第13集
- 北上市教育委員会 1969 「北上市福島町柳山道路緊急調査報告書」 北上市文化財調査報告書 第7集
- 五所川原市教育委員会 2014 「五月葦遺跡の発掘調査成果について」『平成25年度五所川原市文化財講演会レジュメ』
五所川原市教育委員会文化スポーツ課十三湊発掘調査室
- 浦沢村教育委員会 1991 「湯舟沢II遺跡-ストーンサークルの調査概要」
- 平川市教育委員会 2007 「大師森遺跡発掘調査報告書」 平川市埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 田野畠村教育委員会 2001 「館石野II遺跡-縄文時代後期の列石遺構の調査」 田野畠村文化財調査報告書 第14集
- 種市町教育委員会 2005 「種吉町内遺跡詳細分布調査報告書1 <角浜・伝吉・平内・妻沢(蛇沢)地区>」 種市町埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 種市町教育委員会 2004 「種市町立歴史民俗資料館収蔵資料図録I 考古編」 種市町立歴史民俗資料館
- 東和町教育委員会 2004 「清水屋敷II遺跡発掘調査報告書-縄文編」 東和町文化財調査報告書 第34集
- 平川市教育委員会 2007 「大師森遺跡発掘調査報告書」 平川市埋蔵文化財調査報告書 第2集
- 森町教育委員会 2008 「鰐ノ木遺跡」 森町埋蔵文化財調査報告書 第14集
- 洋野町教育委員会 2013 「平内II遺跡発掘調査報告書」 洋野町埋蔵文化財調査報告書第1集
- 陸前高田市教育委員会 1992 「門前貝塚」 陸前高田市文化財調査報告書 第16集
- 秋元信夫 1990 「環状列石と建物跡」「よねしろ考古」第6号 よねしろ考古学研究会
- 阿部昭典 2008 「縄文後期集落の形成と環状列石」「縄文時代の社会変動論」未完成考古学叢書6 (株)UM Promotion
- 阿部昭典 2008 「文化変化と縄文社会の変容-縄文時代中期から後期への変動-」「縄文時代の社会変動論」
- 未完成考古学叢書6 (株)UM Promotion
- 阿部昭典 2014 「東北北部の環状列石と縄文後期社会」『平成26年度春季特別展 縄文! 岩手10000年のたび』 大阪府立弥生文化博物館
- 榎本剛治 2005 「秋田県における湯舟沢A式土器の検討」「北奥の考古学」 葛西勲先生還暦記念論文集刊行会
- 榎本剛治 2008 「十腰内I式土器」「総覧縄文土器」 小林達雄編 (株)UM Promotion
- 鈴木克彦 1998 「東北地方北部における十腰内式土器様式の層年学的研究・4」「縄文時代」9号
- 鈴木克彦 2001 「北日本の縄文後期土器編年の研究」 蕿山閣
- 鈴木克彦ほか 2008 「日本のストーンサークル」「季刊考古学第101号」 蕅山閣
- 葛西勲ほか 2003 「切断壺形土器(切断土器)の研究」「市史研究青森」第6号
- 加納 博 1998 「環状列石に見る縄文人の美学(1997)-大湯型と小牧野型-」「石にひかれて-噴火・地震から「どじょっここの頃」まで」 秋田文化出版
- 熊谷常正 2004 「岩手県北部の配石遺構」「岩手考古学会第31回大会レジュメ」

- 児玉大成 2013 「小牧野遺跡-円形劇場を思わせる環状列石の広場」『別冊太陽』212 平凡社
- 小林 克 2014 「東北北部绳文時代祭祀・儀礼遺構のシンボリズムとその変遷:「性的原理」と「擬似的住居」」『古代 第133号』P1~38 早稲田大学考古学会
- 鈴木克彦ほか 2008 「日本のストーンサークル」『季刊考古学第101号』 雄山閣
- 淹本学 2005 「青森県における縄文時代の組石石棺墓について」『北奥の考古学』 葛西勲先生還暦記念論文集刊行会
- 千田政弘 2013 「平内Ⅱ発掘調査報告書-町有地整備に伴う遺跡発掘調査』 洋野町埋蔵文化財調査報告書 第1集 洋野町教育委員会
- 成田滋彦 1989 「入江・十勝内式土器様式」『縄文土器大観4 後期・晚期・続縄文』 小学館
- 古屋敷則雄 2005 「環状列石の設計図を求めて」『北奥の考古学』 葛西勲先生還暦記念論文集刊行会
- 三浦孝一ほか 1999 「北日本における縄文時代の墓制資料集」 南北海道考古学情報交換会・第20回記念シンポジウム実行委員会
- 山口義伸 2005 「大師森遺跡の立地環境について」『北奥の考古学』 葛西勲先生還暦記念論文集刊行会

写 真 図 版



遺跡遠景（南上空から）



遺跡近景（直上から）



配石墓群全景 (南東から)



調査区全景 (南東から)

写真図版2 調査区近景



基本層序



整地層の堆積



整地層南北西 A - A' (西から)

写真図版3 基本層序・整地層の堆積(1)



整地層東西ベルトD-D「西側」（南から）



整地層東西ベルトD-D「中央部」（南から）



整地層南北ベルト中央B-B'（西から）



整地層東西ベルト東C-C'（東から）



整地層東西ベルトD-D「北面」（西から）



木根下の整地層堆積状況（西から）

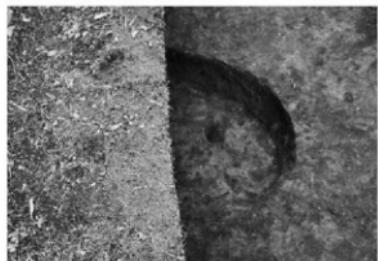


5号集石を覆う整地層（東から）



内帶にかかる整地層の堆積（西から）

写真図版4 整地層の堆積(2)



1号土坑 全景 (西から)



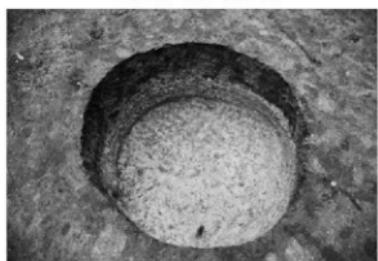
2号土坑 全景 (南西から)



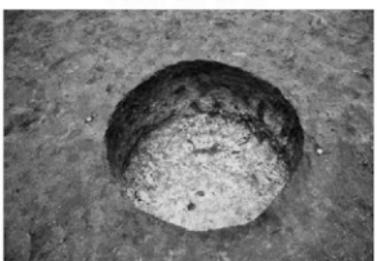
1号土坑 埋土 (北から)



2号土坑 埋土 (西から)



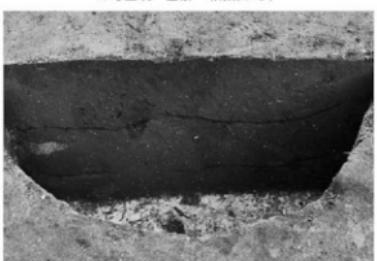
3号土坑 全景 (南東から)



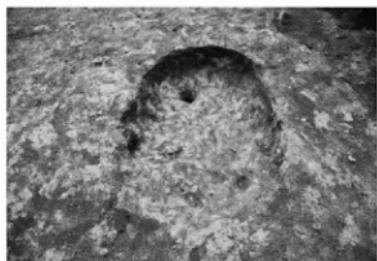
4号土坑 全景 (南東から)



3号土坑 埋土 (東から)



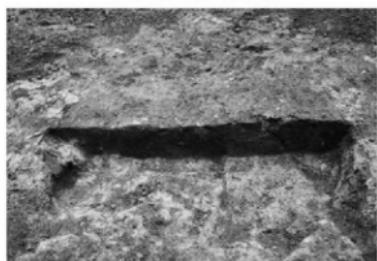
4号土坑 埋土 (東から)



5号土坑 全景 (南から)



6号土坑 全景 (南西から)



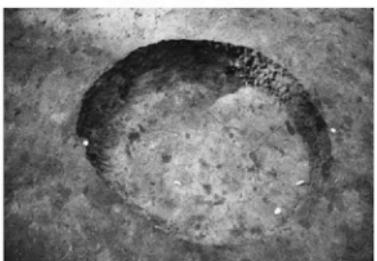
5号土坑 埋土 (南から)



6号土坑 埋土 (南から)



7号土坑 全景 (西から)



8号土坑 全景 (南東から)

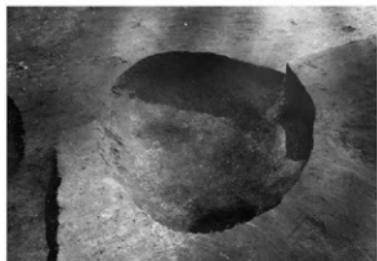


7号土坑 埋土 (西から)



8号土坑 埋土 (東から)

写真図版6 5～8号土坑



9号土坑 全景（北西から）



10号土坑 全景（南東から）



9号土坑 埋土（南から）



10号土坑 埋土（東から）



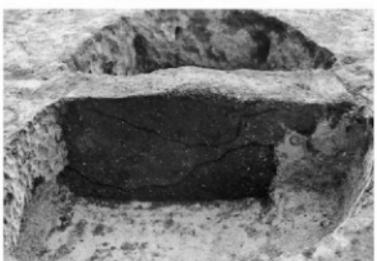
11号土坑 全景（東から）



12号土坑 全景（北から）



11号土坑 埋土（北から）



12号土坑 埋土（北から）



1号陷し穴 全景 (西から)



2号陷し穴 全景 (西から)



1号陷し穴 埋土 (南西から)



2号陷し穴 埋土 (東から)



3号陷し穴 全景 (東から)



4号陷し穴 全景 (北西から)



3号陷し穴 埋土 (東から)



4号陷し穴 埋土 (南東から)

写真図版8 1～4号陷し穴状遺構



5号陥し穴 全景 (南西から)



6号陥し穴 全景 (西から)



5号陥し穴 埋土 (東から)



6号陥し穴 埋土 (南西から)



7号陥し穴 全景 (西から)



8号陥し穴 全景 (東から)



7号陥し穴 埋土 (東から)



8号陥し穴 検出 (南西から)

写真図版9 5～8号陥し穴状遺構



9号陥し穴 全景 (東から)



10号陥し穴 全景 (北から)



9号陥し穴 埋土 (北東から)



10号陥し穴 埋土 (南東から)



11号陥し穴 全景 (東から)



12号陥し穴 全景 (南西から)



11号陥し穴 埋土 (南西から)



12号陥し穴 埋土 (南西から)

写真図版10 9~12号陥し穴状遺構



13号陥し穴 全景 (東から)



14号陥し穴 全景 (東から)



13号陥し穴 埋土 (西から)



14号陥し穴 埋土 (西から)



15号陥し穴 全景 (北から)



16号陥し穴 全景 (南東から)



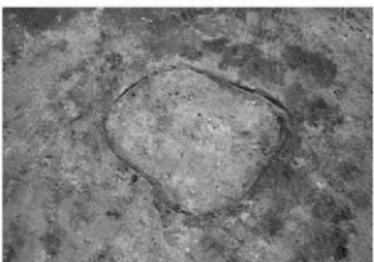
15号陥し穴 埋土 (南から)



16号陥し穴 埋土 (東から)



1号埋設土器 検出 (西から)



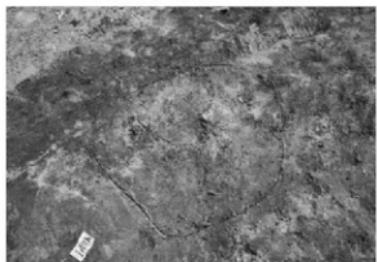
1号焼土遺構 検出 (西から)



1号埋設土器 断ち割り (南西から)



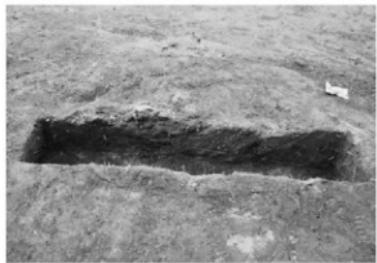
1号焼土遺構 断ち割り (西から)



2号焼土遺構 検出 (西から)



3号焼土遺構 検出 (北西から)

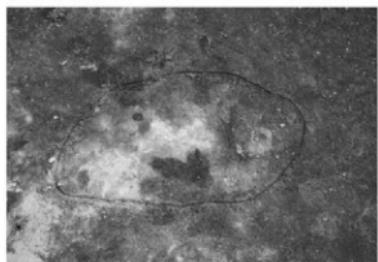


2号焼土遺構 断ち割り (東から)

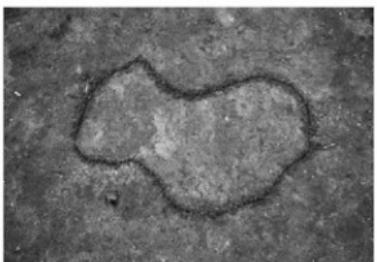


3号焼土遺構 断ち割り (北東から)

写真図版12 1号埋設土器、1～3号焼土遺構



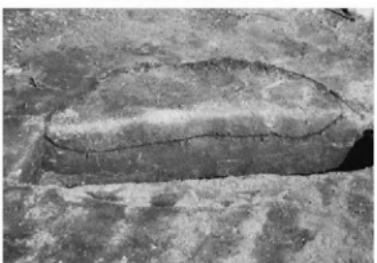
4号焼土遺構 棲出（南西から）



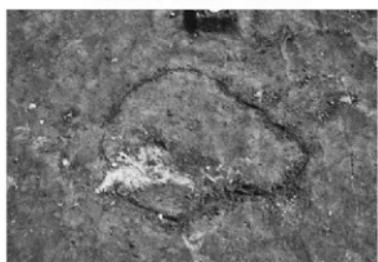
5号焼土遺構 棲出（南から）



4号焼土遺構 断ち割り（北西から）



5号焼土遺構 断ち割り（南から）



6号焼土遺構 棲出（北から）



7号焼土遺構 棲出（東から）



6号焼土遺構 断ち割り（南から）



7号焼土遺構 断ち割り（東から）

写真図版13 4～7号焼土遺構



調査区近景（東上空から）※左上は陽上岳（種市岳）



内蔵全景（東から）

写真図版14 平成27年度調査 調査区近景



内帯全景（東から）



外帯の確認状況1（東から）



平成27年度 現地公開の様子



同 検出状況2（西から）



岩手・青森県境付近の海岸

写真図版15 内帯全景・外帯の状況ほか



1号竪穴住居跡 全景 (南から)



1号竪穴住居跡 埋土 (北から)



炉跡 全景 (南西から)



炉跡 断ち割り (西から)

写真図版16 1号竪穴住居跡



2号竖穴住居跡 全景 (北から)



2号竖穴住居跡 埋土 (西から)



炉跡 全景 (北から)



炉跡 断ち割り (西から)



3号竖穴住居跡 全景 (南から)



3号竖穴住居跡 埋土 (南西から)



炉跡 全景 (南東から)



炉跡 断ち割り (南東から)

写真図版18 3号竖穴住居跡



4号竪穴住居跡 全景 (南東から)



4号竪穴住居跡 埋土 (南から)



遺物出土状況 1 (壺形土器)



遺物出土状況 2 (石斧)



5号竖穴住居跡 全景 (南西から)



5号竖穴住居跡 埋土 (東から)



炉跡 斷ち割り (南西から)



作業風景 1

写真図版20 5号竖穴住居跡・作業風景



1号竖穴状遺構 全景 (南から)



1号竖穴状遺構 埋土 (西から)

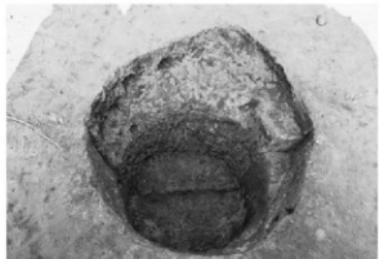


作業風景2



作業風景3

写真図版21 1号竖穴状遺構・作業風景



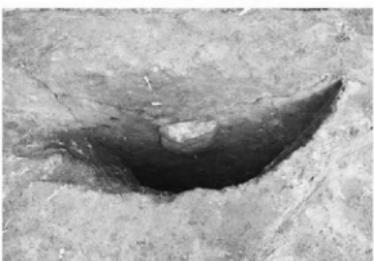
13号土坑 全景 (西から)



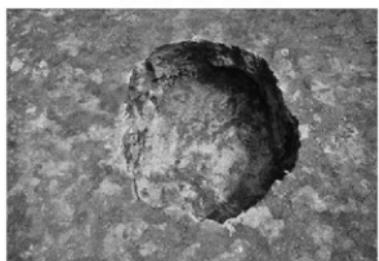
14号土坑 全景 (南西から)



13号土坑 埋土 (西から)



14号土坑 埋土 (西から)



15号土坑 全景 (南から)



16号土坑 全景 (東から)



15号土坑 埋土 (東から)



16号土坑 埋土 (東から)

写真図版22 13~16号土坑



17号土坑 全景（東から）



18号土坑 全景（南東から）



17号土坑 埋土（東から）



18号土坑 埋土（東から）



19号土坑 全景（東から）



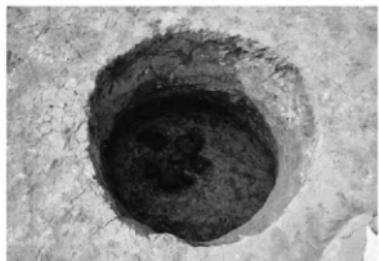
20号土坑 全景（東から）



19号土坑 埋土（北東から）



20号土坑 埋土（東から）



21号土坑 全景 (南から)



21号土坑 遺物出土状況



21号土坑 埋土 (南から)



作業風景 4



22号土坑 全景 (南から)



22号土坑 遺物(石斧)出土状況

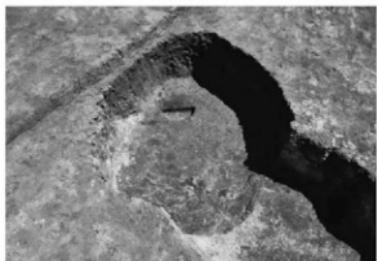


22号土坑 埋土 (西から)



作業風景 5

写真図版24 21・22号土坑、作業風景



23号土坑 全景（南西から）



24号土坑 全景（西から）



23号土坑 埋土（西から）



24号土坑 埋土下位（西から）



25号土坑 全景（北から）



26号土坑 全景（東から）



25号土坑 埋土（東から）



26号土坑 埋土（東から）



27号土坑 全景 (南から)



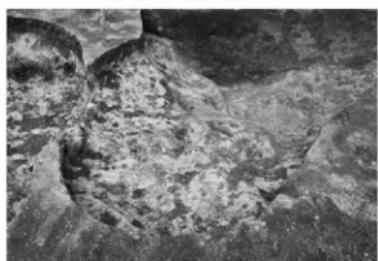
28号土坑 全景 (東から)



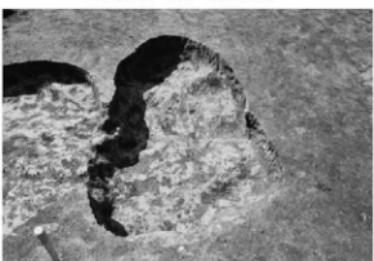
27号土坑 埋土 (東から)



28号土坑 埋土 (北東から)



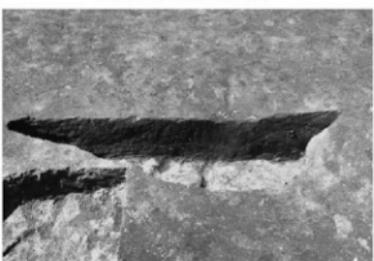
29号土坑 全景 (南から)



30号土坑 全景 (北から)



29号土坑 埋土 (南から)



30号土坑 埋土 (東から)

写真図版26 27~30号土坑



31号土坑 全景 (北から)



32号土坑 全景 (北から)



31号土坑 埋土 (西から)



32号土坑 埋土 (東から)



33号土坑 全景 (北から)



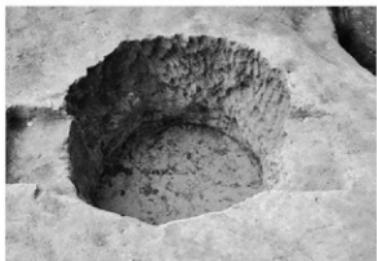
34号土坑 全景 (南から)



33号土坑 埋土 (東から)



34号土坑 埋土 (南東から)



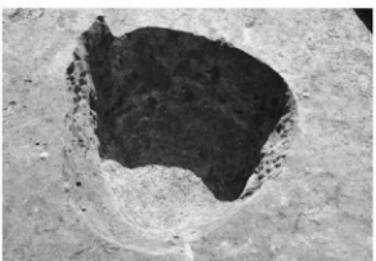
35号土坑 全景 (東から)



36号土坑 埋土 (南東から)



35号土坑 埋土 (東から)



37号土坑 全景 (北西)



1号炉跡 棲出 (南から)



2号炉跡 棲出 (北から)



1号炉跡 断ち割り (西から)



2号炉跡 断ち割り (西から)

写真図版28 35~37号土坑、1・2号炉跡



3号炉跡 棲出（北西から）



4号炉跡 棲出（北西から）



3号炉跡 斷ち割り（北西から）



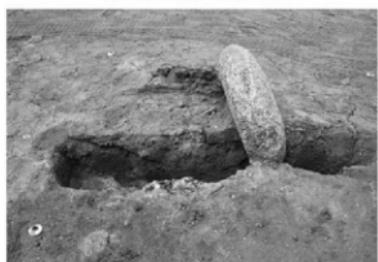
4号炉跡 斷ち割り（南西から）



5号炉跡 棲出（南西から）



6号炉跡 棲出（北から）



5号炉跡 斷ち割り（南から）



6号炉跡 断ち割り（東から）



7号炉跡 斷ち割り (東から)



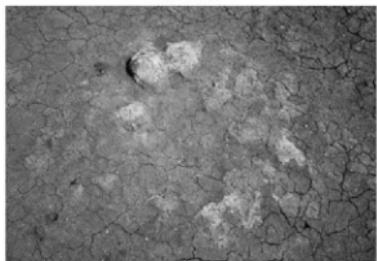
8号炉跡 梠出 (東から)



作業風景⑦



8号炉跡 断ち割り (西から)



9号炉跡 梠出 (北西から)



10号炉跡 梠出 (北東から)

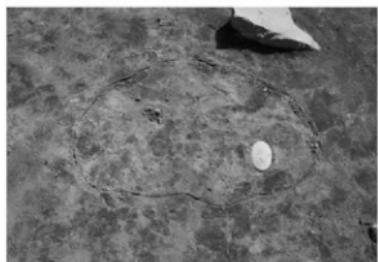


9号炉跡 斷ち割り (北から)

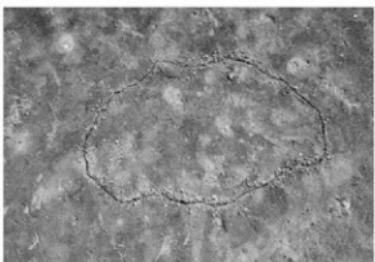


10号炉跡 断ち割り (北から)

写真図版30 7~10号炉跡・作業風景



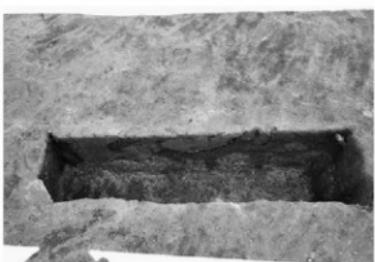
8号焼土遺構 棲出 (南から)



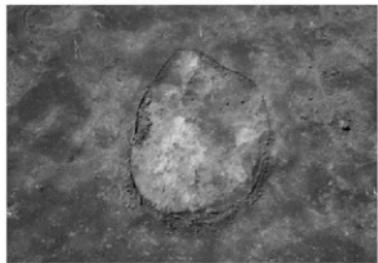
9号焼土遺構 棲出 (北から)



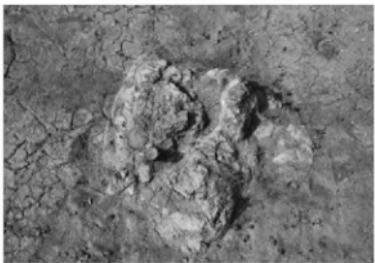
8号焼土遺構 断ち割り (南から)



9号焼土遺構 断ち割り (南から)



10号焼土遺構 棲出 (北から)



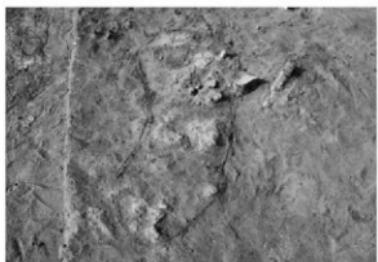
11号焼土遺構 棲出 (南から)



10号焼土遺構 断ち割り (西から)



11号焼土遺構 断ち割り (北から)



12号焼土遺構 棲出 〔南から〕



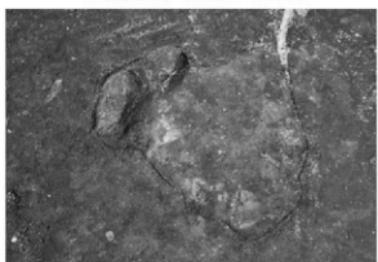
13号焼土遺構 棲出 〔東から〕



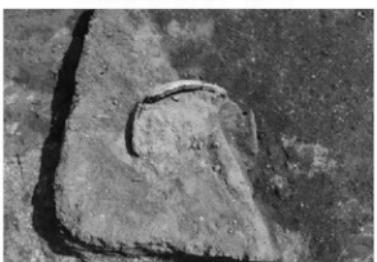
12号焼土遺構 断ち割り 〔西から〕



13号焼土遺構 断ち割り 〔東から〕



14号焼土遺構 棲出 〔東から〕



2号埋設土器 棲出 〔上から〕



14号焼土 断ち割り 〔南西から〕

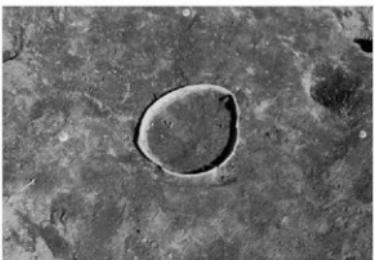


2号埋設土器 断ち割り 〔南西から〕

写真図版32 12~14号焼土遺構、2号埋設土器



3号埋設土器 棘出 (南から)



4号埋設土器 棘出 (南から)



3号埋設土器 断ち割り (南東から)

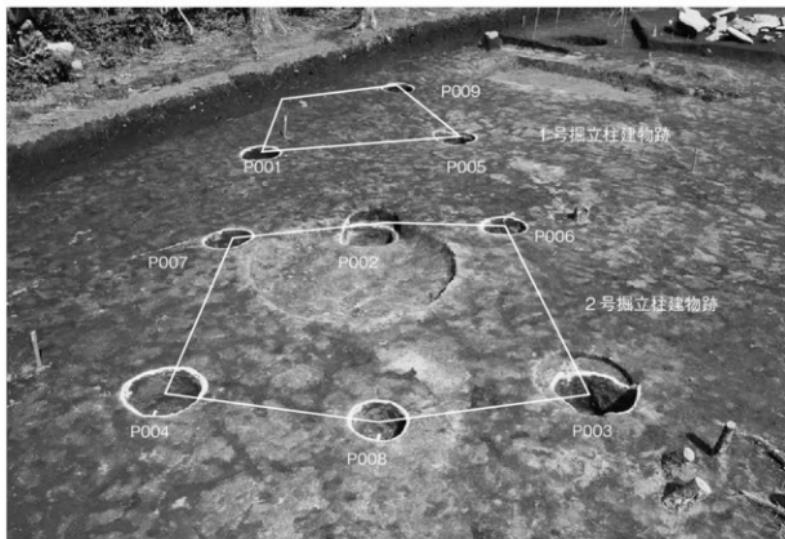


4号埋設土器 断ち割り (南から)



西遠方に階上岳・折爪岳を望む (北東から)

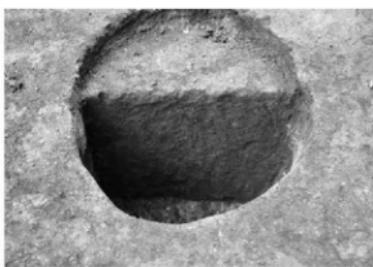
写真図版33 3・4号埋設土器、調査区からの眺望



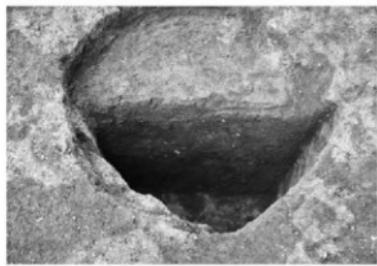
1・2号掘立柱建物跡 全景 (西から)



P001埋土 (東から)



P005埋土 (東から)

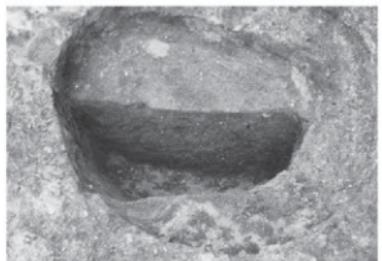


P009埋土 (東から)



P002埋土 (南から)

写真図版34 1・2号掘立柱建物跡



P003埋土 〔南東から〕



P006埋土 〔東から〕



P004埋土 〔南から〕



P007埋土 〔東から〕



現地公開の様子



3号掘立柱建物跡 全景 (南から)



P012埋土 (東から)



P016埋土 (東から)

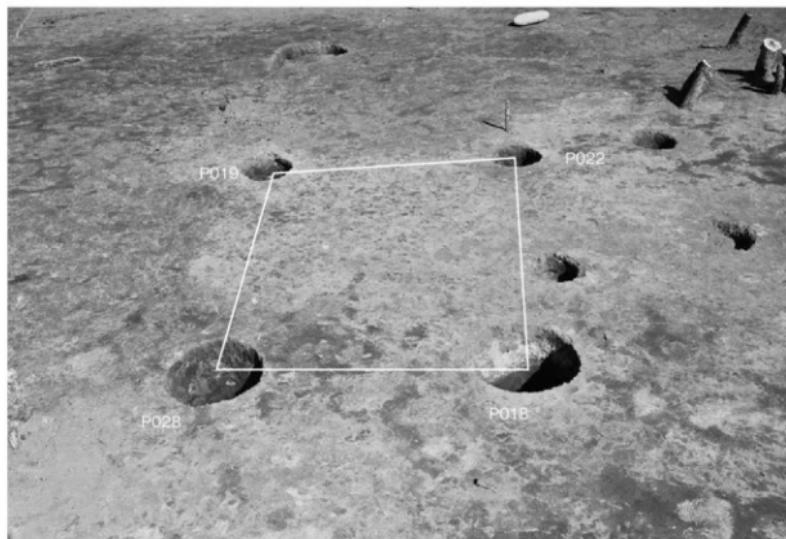


P013埋土 (南から)



P026埋土 (南から)

写真図版36 3号掘立建物跡



4号掘立柱建物跡 全景 (南から)



P018埋土 (北から)



P022埋土 (東から)



P019埋土 (西から)



P028埋土 (東から)



1号集石 検出 (南から)



2号集石 検出 (南から)



2号集石 碓の掘り方 (南から)



2号集石 断ち割り (南から)



3号集石 検出 (南から)



4号集石 検出 (南から)



3号集石 碓の掘り方 (南から)



4号集石 断ち割り (西から)



5号集石 検出 (南から)



6号集石 検出 (南から)



5号集石 断ち割り (東から)



6号集石 断ち割り (南から)



6号集石下部土坑 埋土 (南から)



7号集石 検出 (南から)



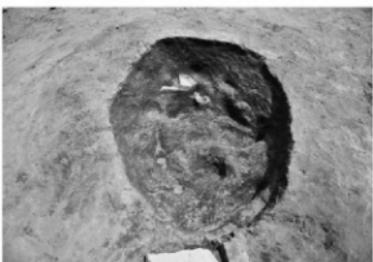
6号集石下部土坑 全景 (南から)



7号集石下部土坑 全景 (南から)



8号集石 検出 (南から)



8号集石下部土坑 全景 (南から)



8号集石 斷ち割り (南から)



作業風景 8



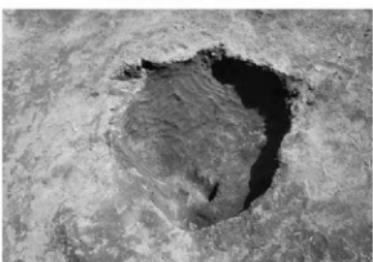
9号集石 検出 (南から)



10号集石 検出 (南から)



9号集石 碓除去後掘り方 (南から)



10号集石下部土坑 全景 (南東から)

写真図版40 8~10号集石・作業風景



11号集石 检出 (南から)



12号集石 检出 (南から)



11号集石下部土坑 全景 (西から)



12号集石下部土坑内の権 (東から)



12号集石下部土坑 全景 (南から)



13号集石 检出 (南から)



13号集石下部土坑 全景 (南から)



13号集石下部土坑 埋土 (西から)



14号集石 検出 (南から)



15号集石 検出 (南から)



15号集石下部土坑 全景 (南から)



17号集石 検出 (南から)



16号集石 検出 (南から)



17号集石 断ち割り (南から)



16号集石下部土坑 全景 (南から)



17号集石下部土坑 全景 (南から)

写真図版42 14~17号集石



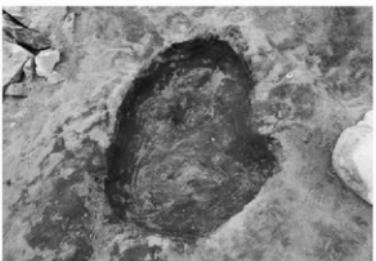
18号集石 検出 (南から)



20号集石 検出 (南から)



19号集石 検出 (南から)



20号集石下部土坑 全景 (南から)



21号集石 検出 (南から)



22号集石 検出 (南から)



作業風景9



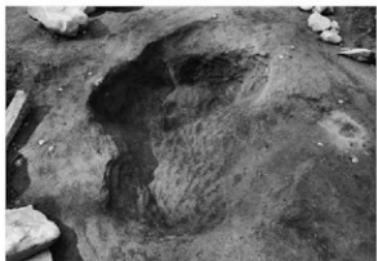
22号集石下部土坑 全景 (南から)



23号集石 棟出 (南から)



24号集石 棟出 (南から)



23号集石下部土坑 全景 (南から)



24号集石下部土坑 全景 (南から)



25号集石 棟出 (南から)



26号集石 棟出 (南から)



25号集石下部土坑 全景 (南東から)



作業風景10

写真図版44 23~26号集石・作業風景



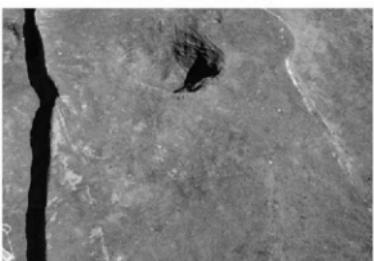
27号集石 -1・2 検出 (南から)



28号集石 検出 (南から)



27号集石下部土坑 全景 (南から)



28号集石下部土坑 全景 (南から)



29号集石 検出 (南から)



30号集石 検出 (南から)



29号集石下部土坑 全景 (南から)



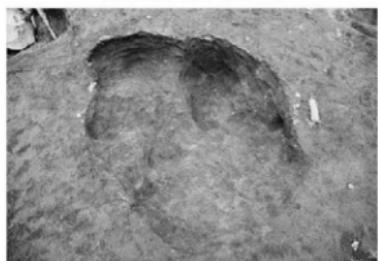
30号集石下部土坑 全景 (南から)



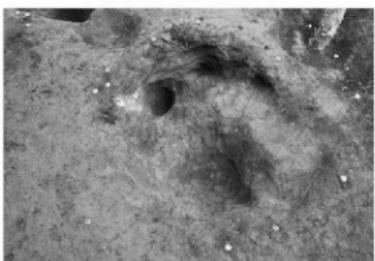
31号集石 棟出 (南から)



32号集石 棟出 (南から)



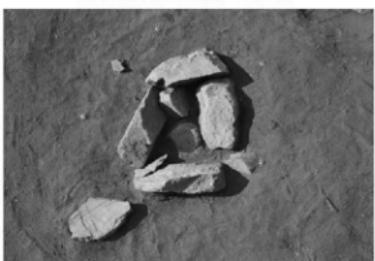
31号集石下部土坑 全景 (南から)



32号集石下部土坑 全景 (南から)



33号集石 -1・2 棟出 (南から)



34号集石 棟出 (南から)



33号集石 -1・2下部土坑 全景 (南から)



34号集石下部土坑 全景 (南から)

写真図版46 31~34号集石



35号集石 梢出 (南から)



36号集石 -1・2 梢出 (南から)



作業風景11



36号集石 -1・2下部土坑 全景 (南から)



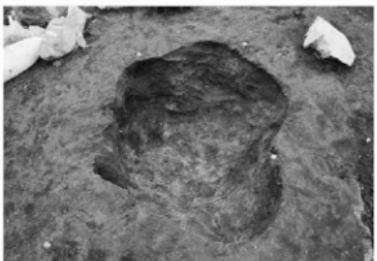
37号集石 梢出 (南から)



38号集石 梢出 (南から)



37号集石下部土坑 全景 (南から)



38号集石下部土坑 全景 (南から)

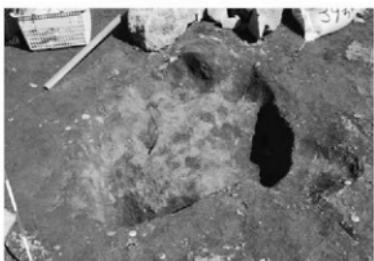
写真図版47 35~38号集石・作業風景



39号集石 検出 (南から)



40号集石 検出 (南から)



39号集石下部土坑 全景 (南から)



40号集石下部土坑 全景 (南から)



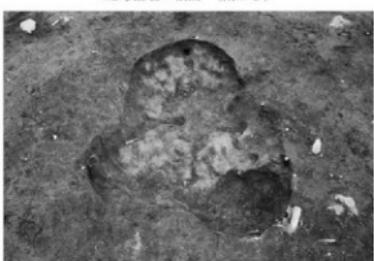
41号集石 検出 (南から)



42号集石 検出 (南から)



実測作業



42号集石下部土坑 全景 (南から)

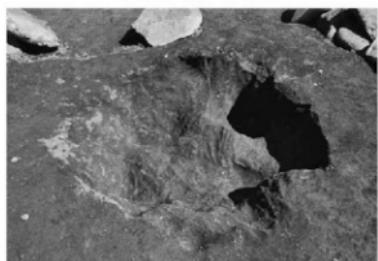
写真図版48 39~42号集石・実測作業



43号集石 検出 (南から)



44号集石 検出 (南から)



43号集石下部土坑 全景 (南から)



44号集石 断ち割り (南から)



44号集石 断ち割り (西から)



45号集石 検出 (南から)



44号集石下部土坑 全景 (南から)



45号集石下部土坑 全景 (南から)



46号集石 検出 (西から)



47号集石下部土坑 全景(南から)



47号集石 検出 (南から)



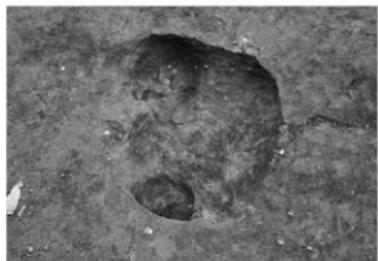
49号集石 検出 (南から)



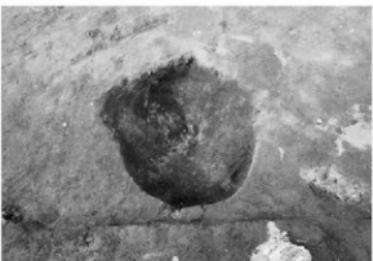
48号集石 検出 (南から)



49号集石 断ち割り (南から)



48号集石下部土坑 全景 (南から)



49号集石下部土坑 全景 (南から)

写真図版50 46~49号集石



50号集石 検出 (南から)



52号集石 検出 (南から)



51号集石 検出 (南から)



平成26年度の現地説明会の様子



53号集石 検出 (南から)



54号集石 検出 (南から)



53号集石 碓の掘り方 (南から)



54号集石下部土坑 全景 (南から)



55号集石 検出 (南から)



56号集石 検出 (南から)



55号集石下部土坑 全景 (南から)



57号集石 検出 (南から)



58号集石 検出 (南から)



58号集石下部土坑 埋土 (南東から)



58号集石 確の掘り方 (南から)



58号集石下部土坑 全景 (南から)

写真図版52 55~58号集石



59号集石 全景（南西から）



59号集石下部土坑 全景（南から）



59号集石 斷ち割り（南から）



石劍出土状況 1



石劍出土状況 2



土器出土状況 1



土器出土状況 2（1号住居跡床面出土）



土器出土状況 3



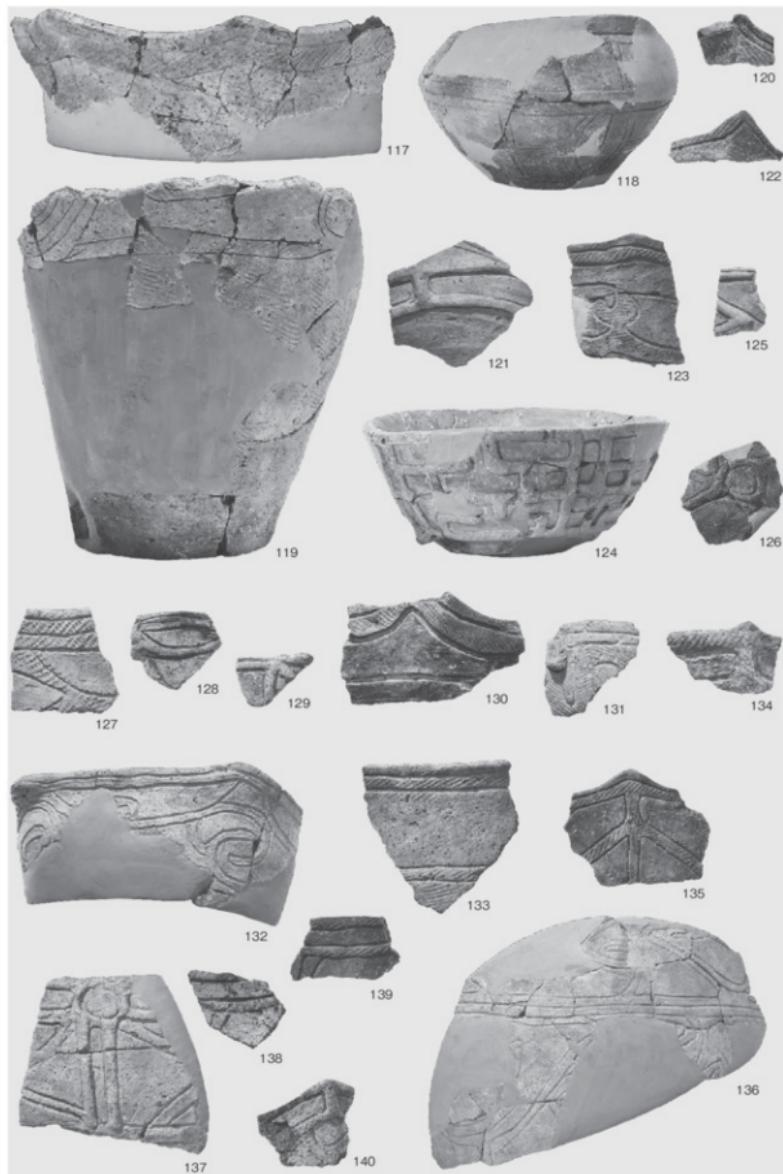
写真図版54 出土遺物(1)



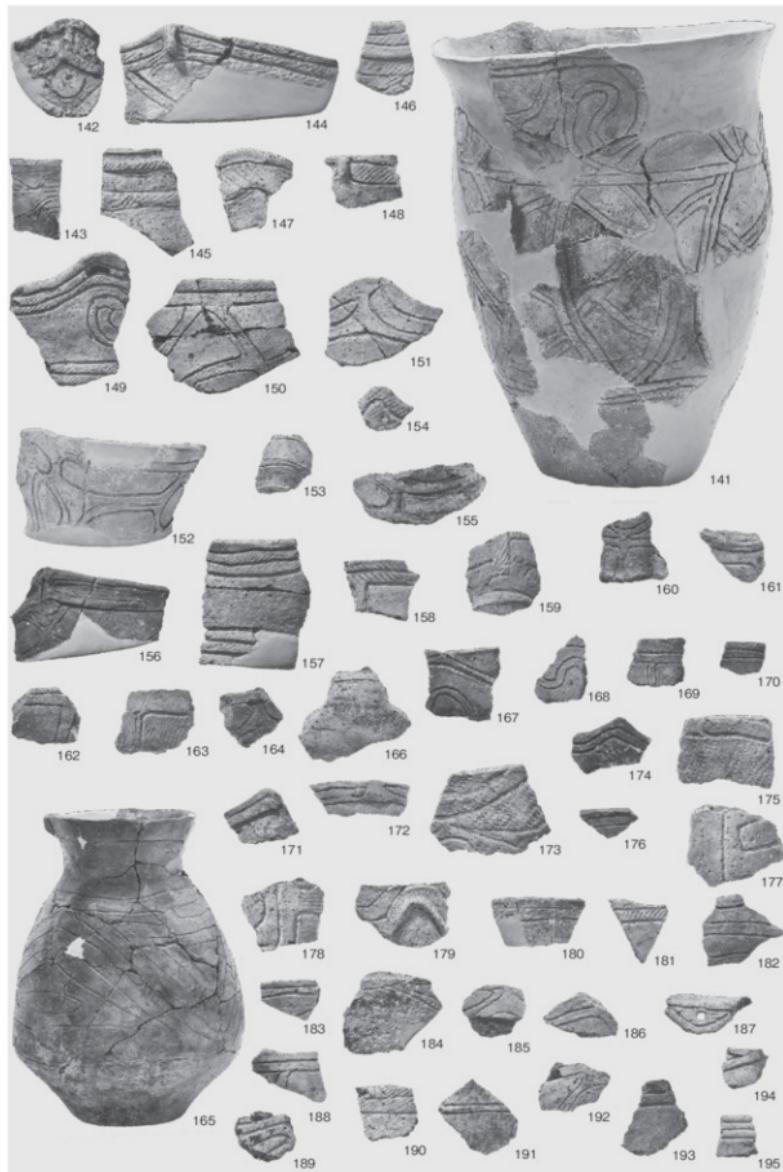
写真図版55 出土遺物(2)



写真図版56 出土遺物(3)



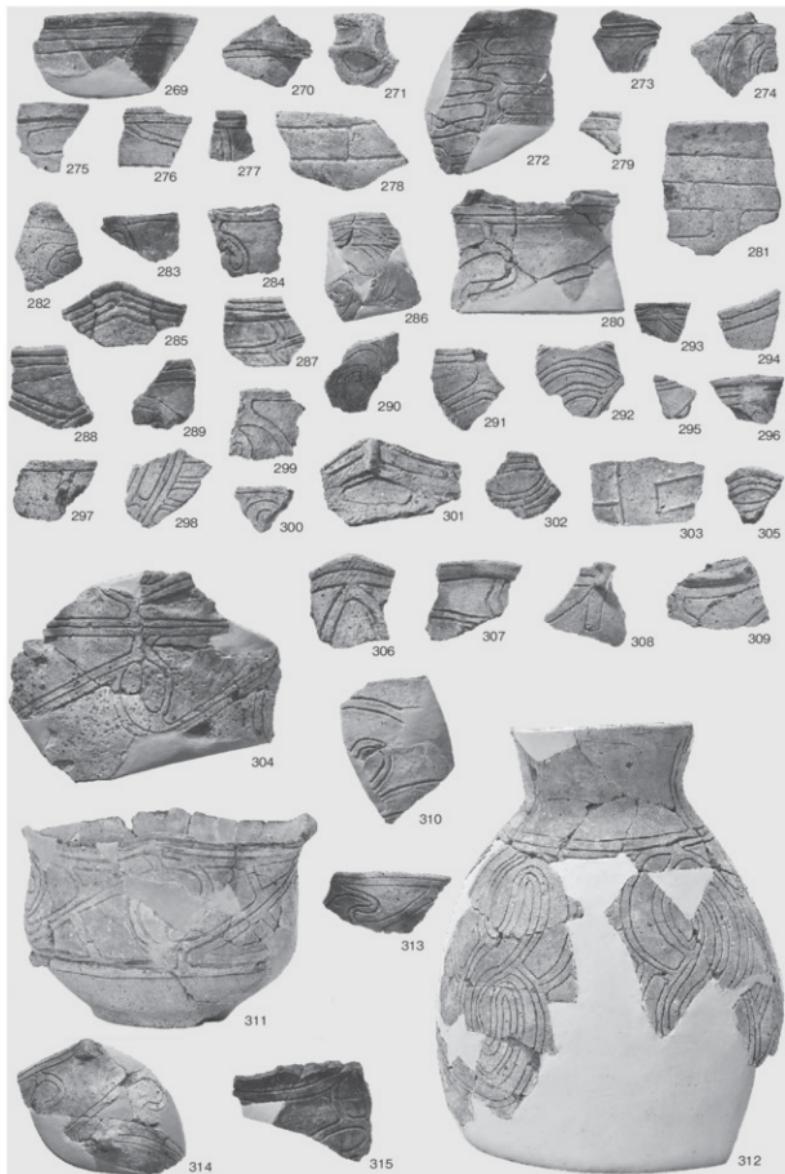
写真図版57 出土遺物(4)



写真図版58 出土遺物(5)



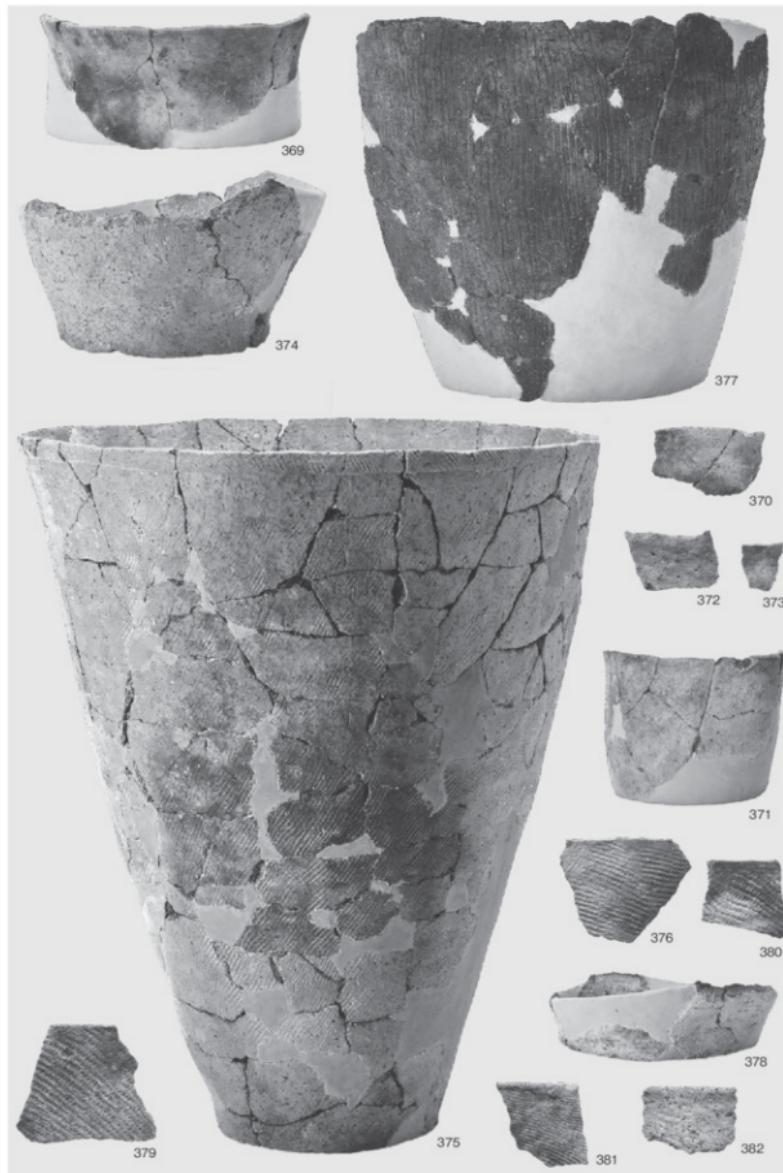
写真図版59 出土遺物(6)



写真図版60 出土遺物(7)



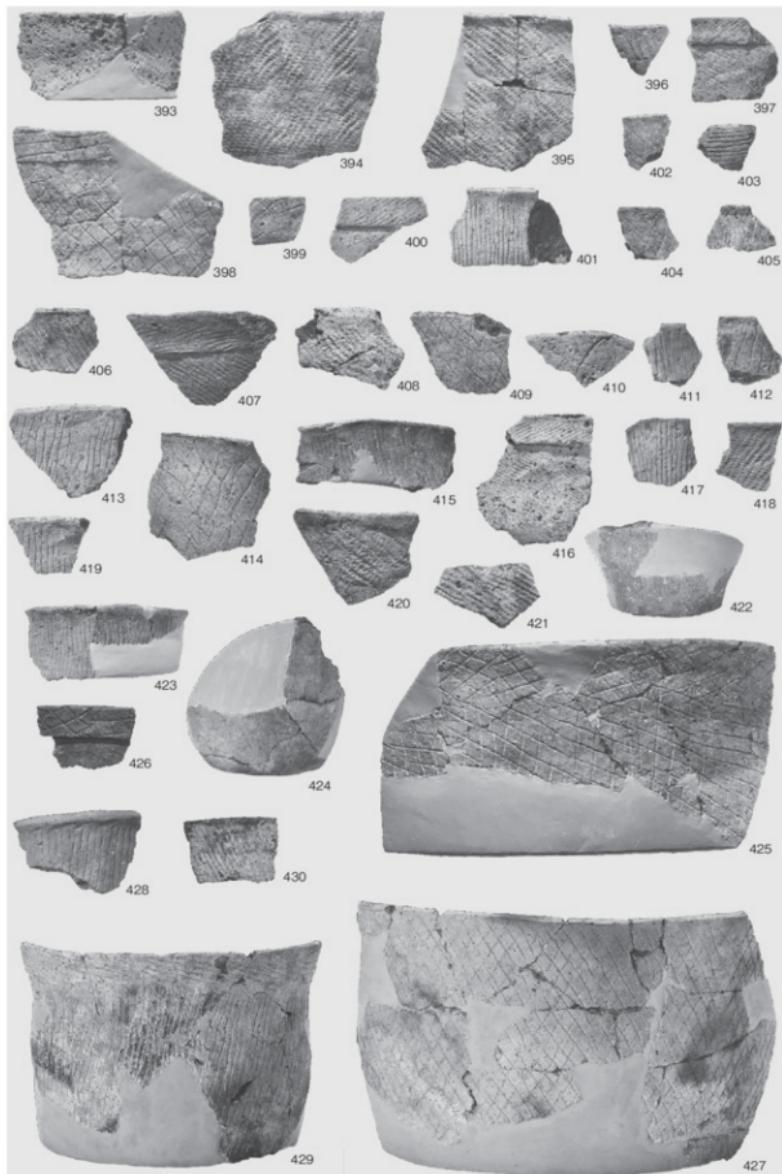
写真図版61 出土遺物(8)



写真図版62 出土遺物(9)



写真図版63 出土遺物(10)



写真図版64 出土遺物(11)



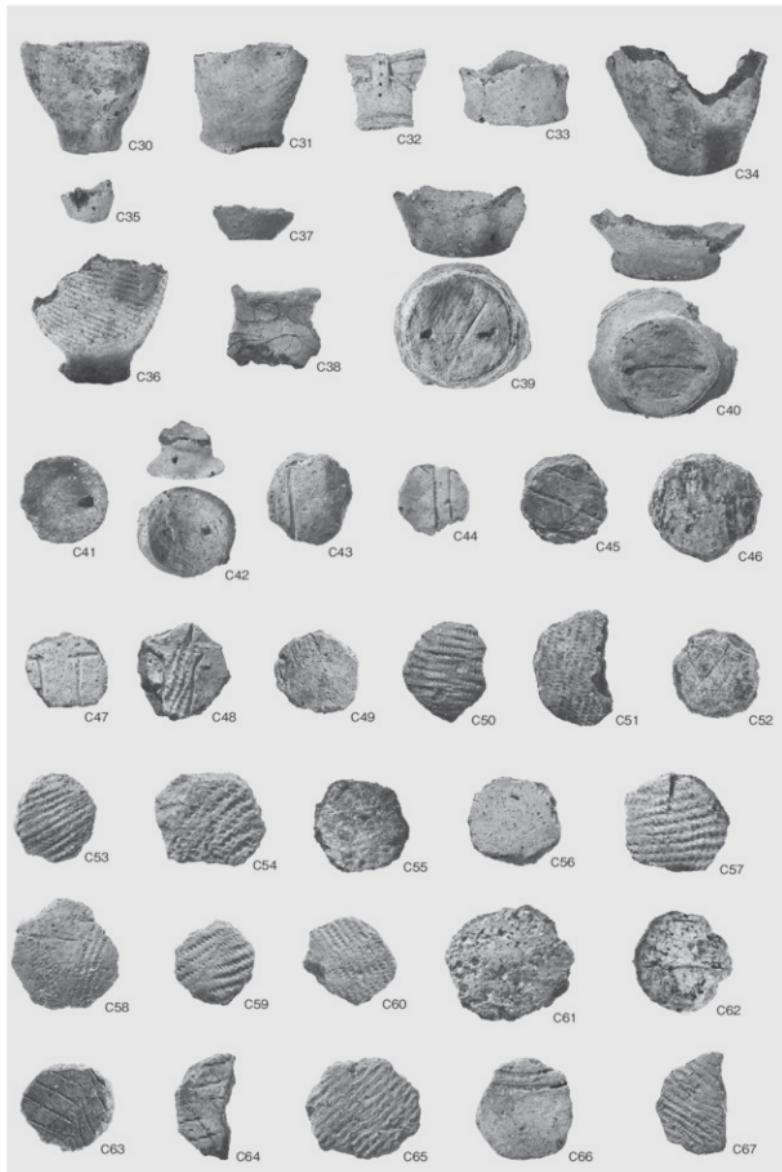
写真図版65 出土遺物(12)



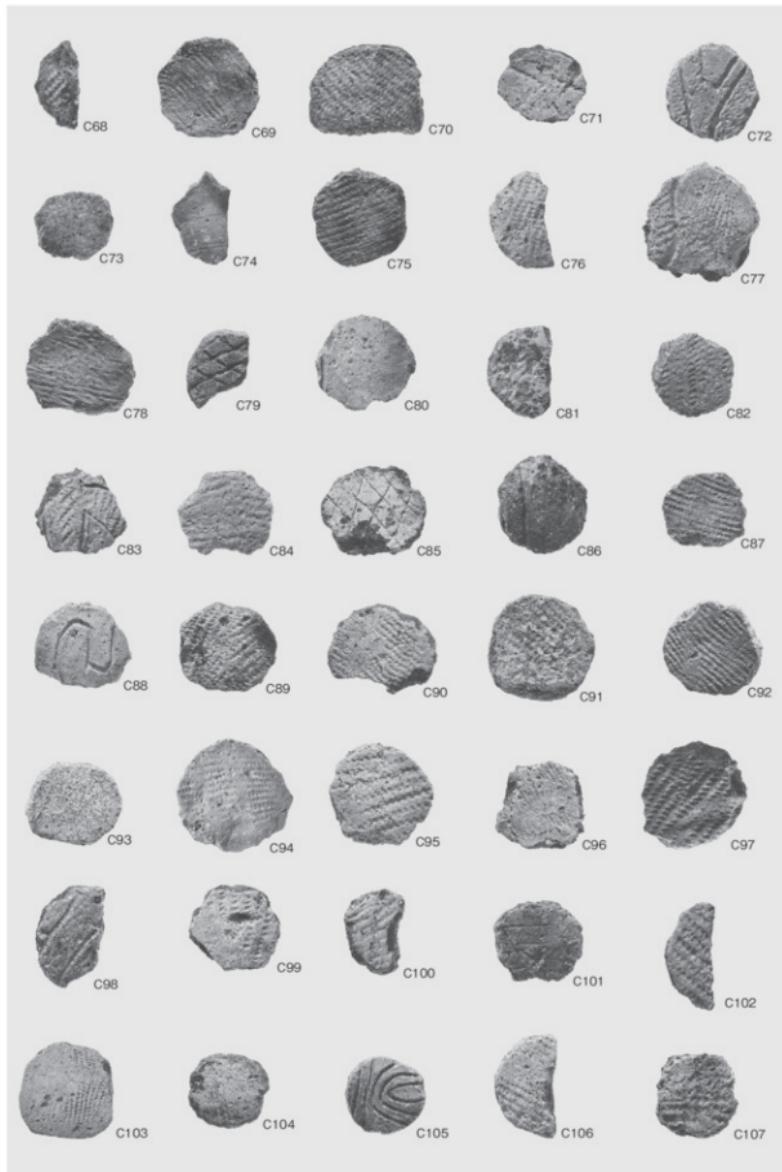
写真図版66 出土遺物(13)



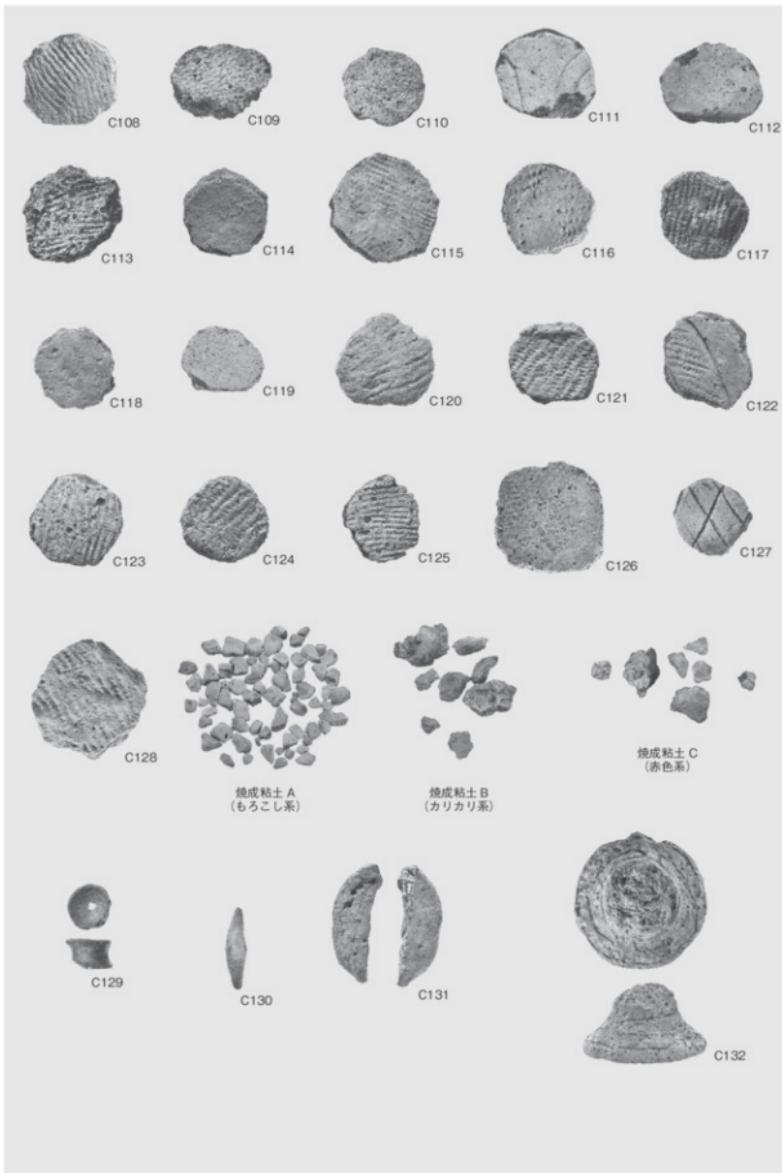
写真図版67 出土遺物(14)



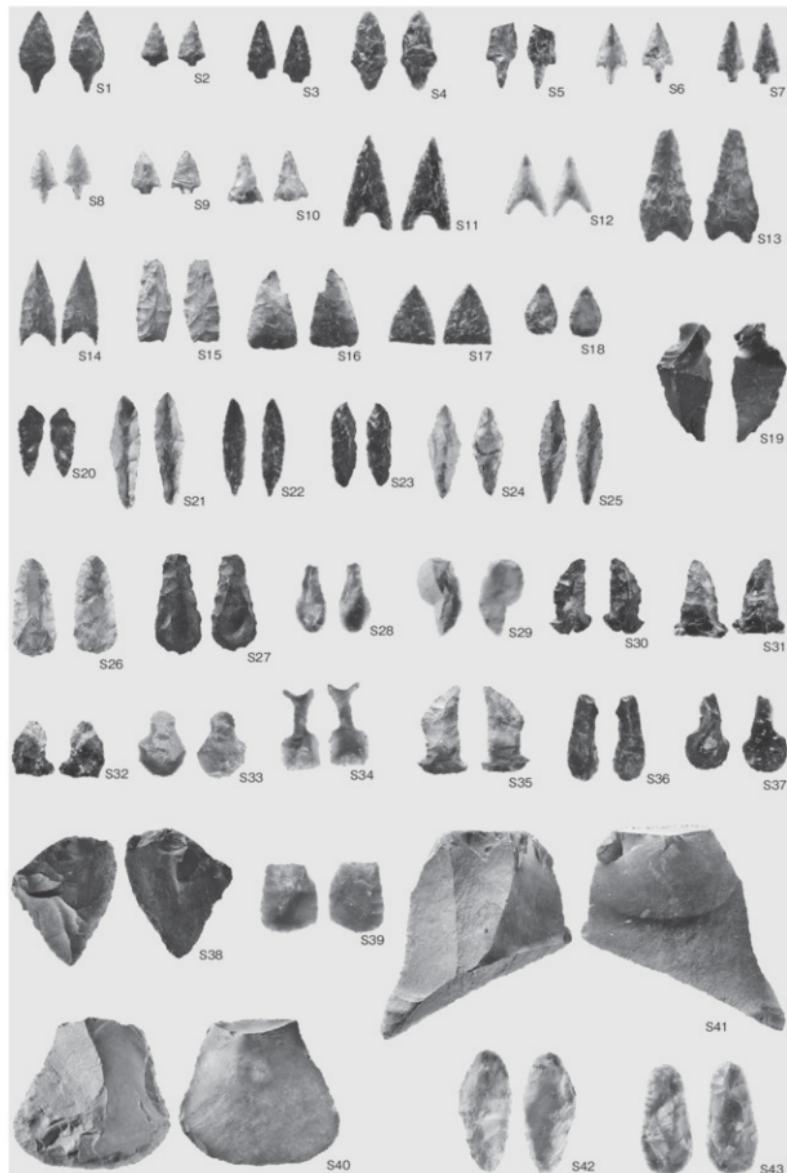
写真図版68 出土遺物(15)



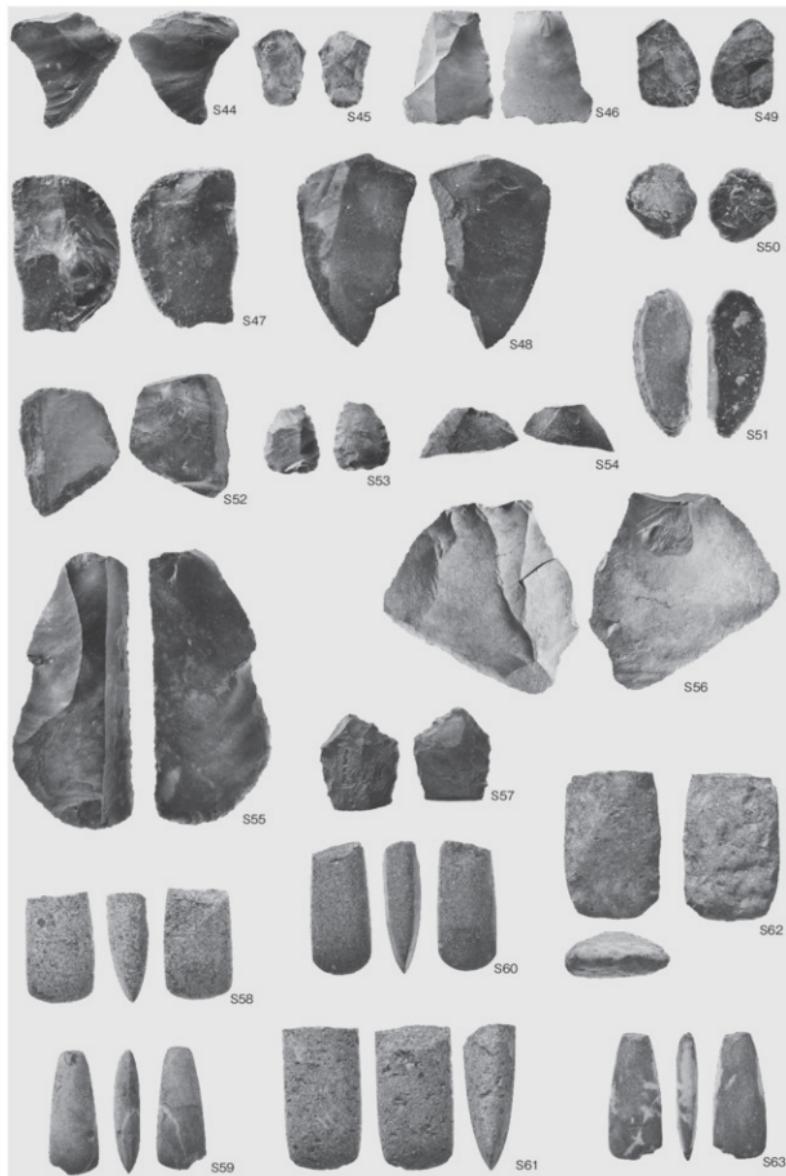
写真図版69 出土遺物(16)



写真図版70 出土遺物(17)



写真図版71 出土遺物(18)



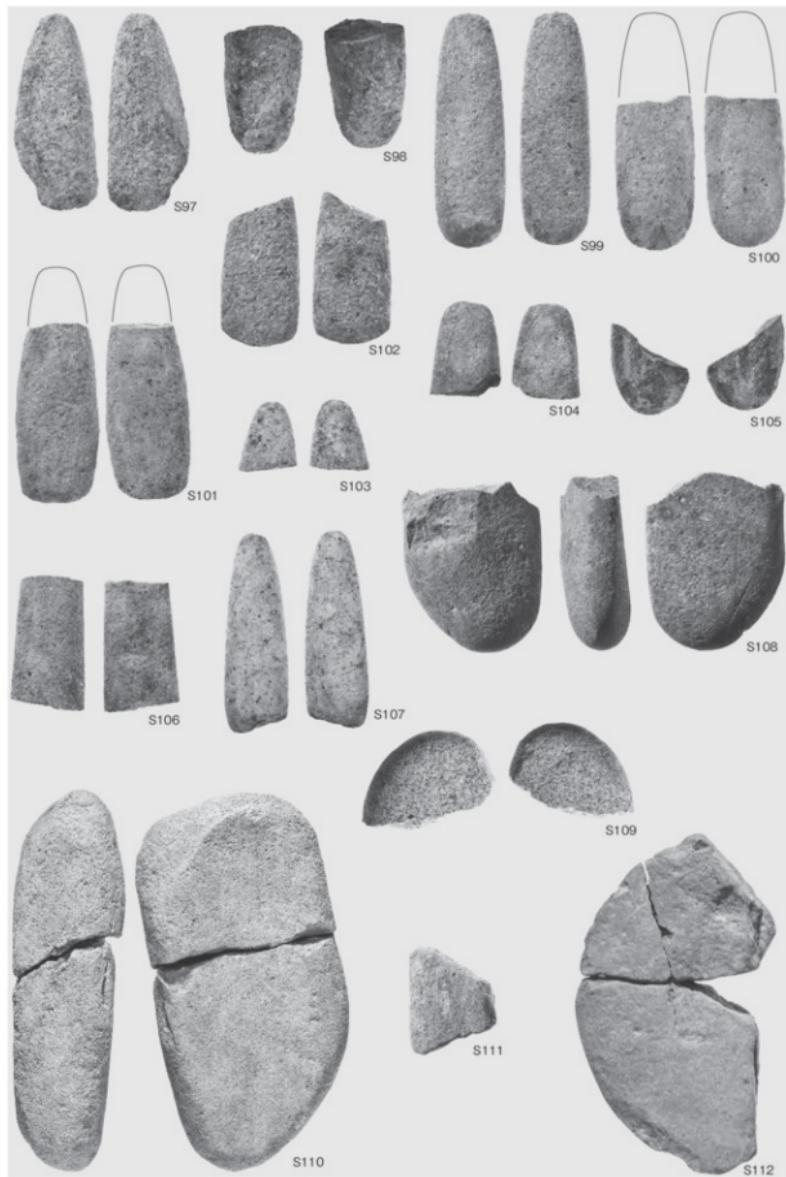
写真図版72 出土遺物(19)



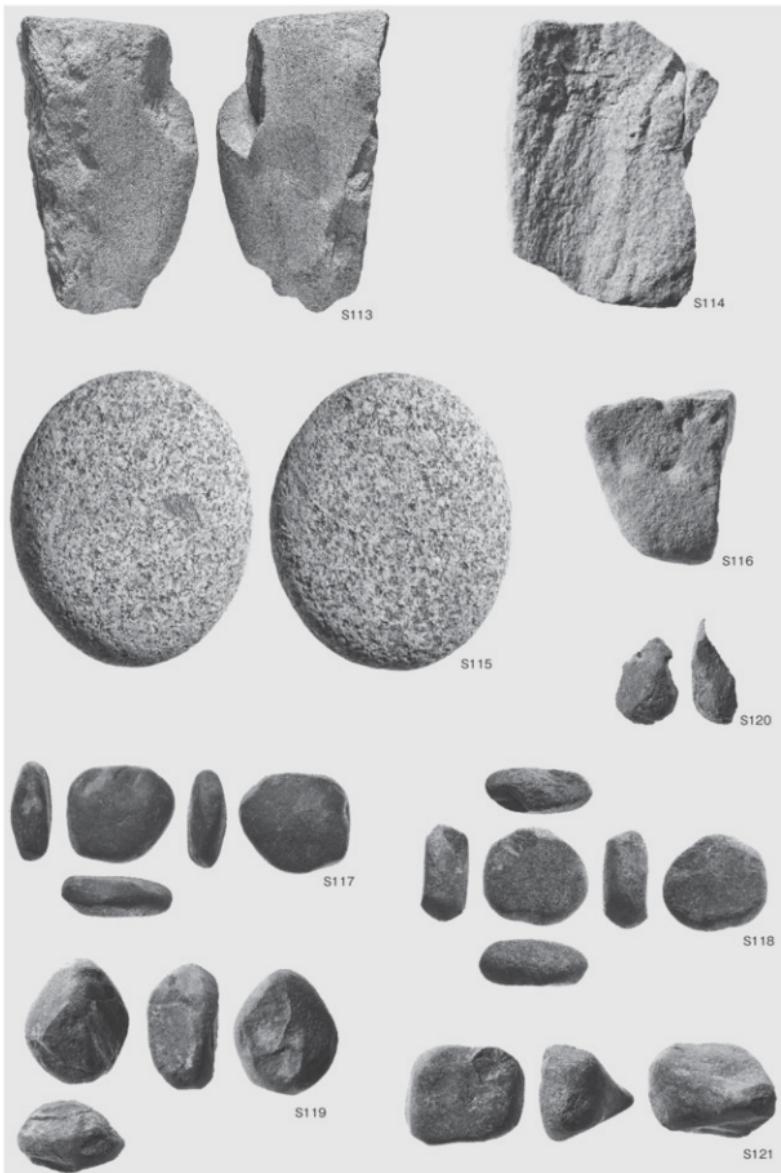
写真図版73 出土遺物(20)



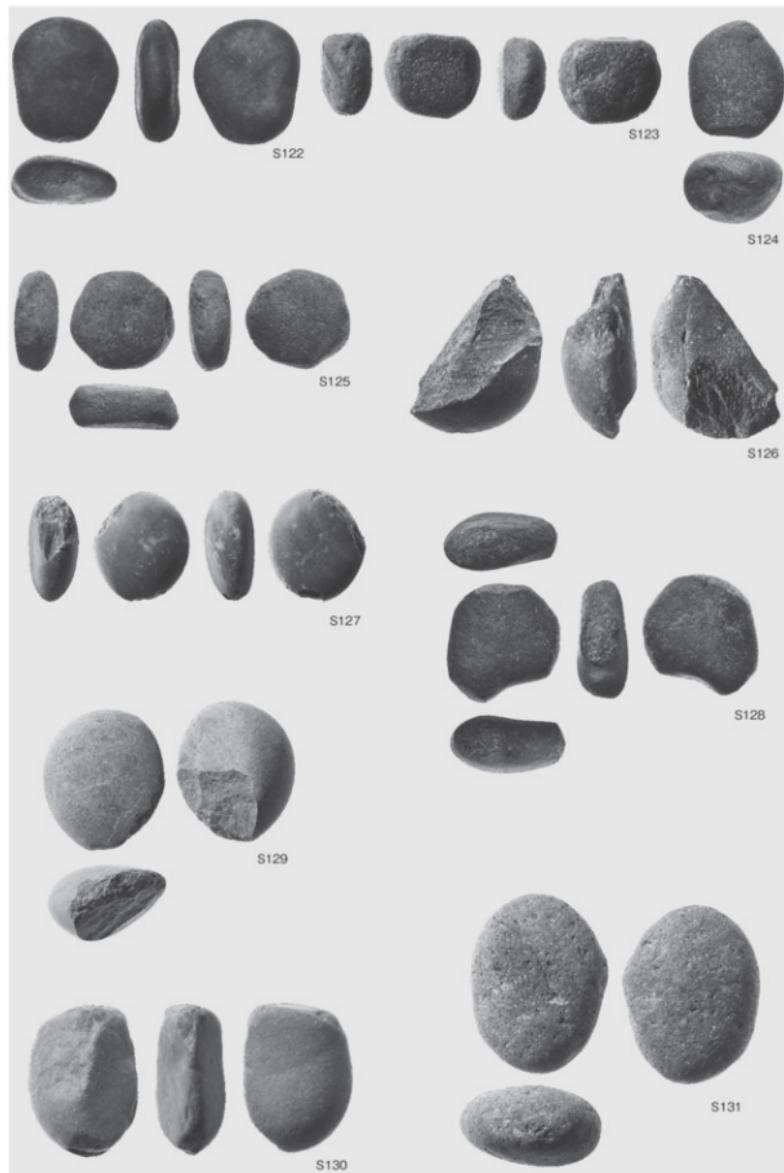
写真図版74 出土遺物(21)



写真図版75 出土遺物(22)



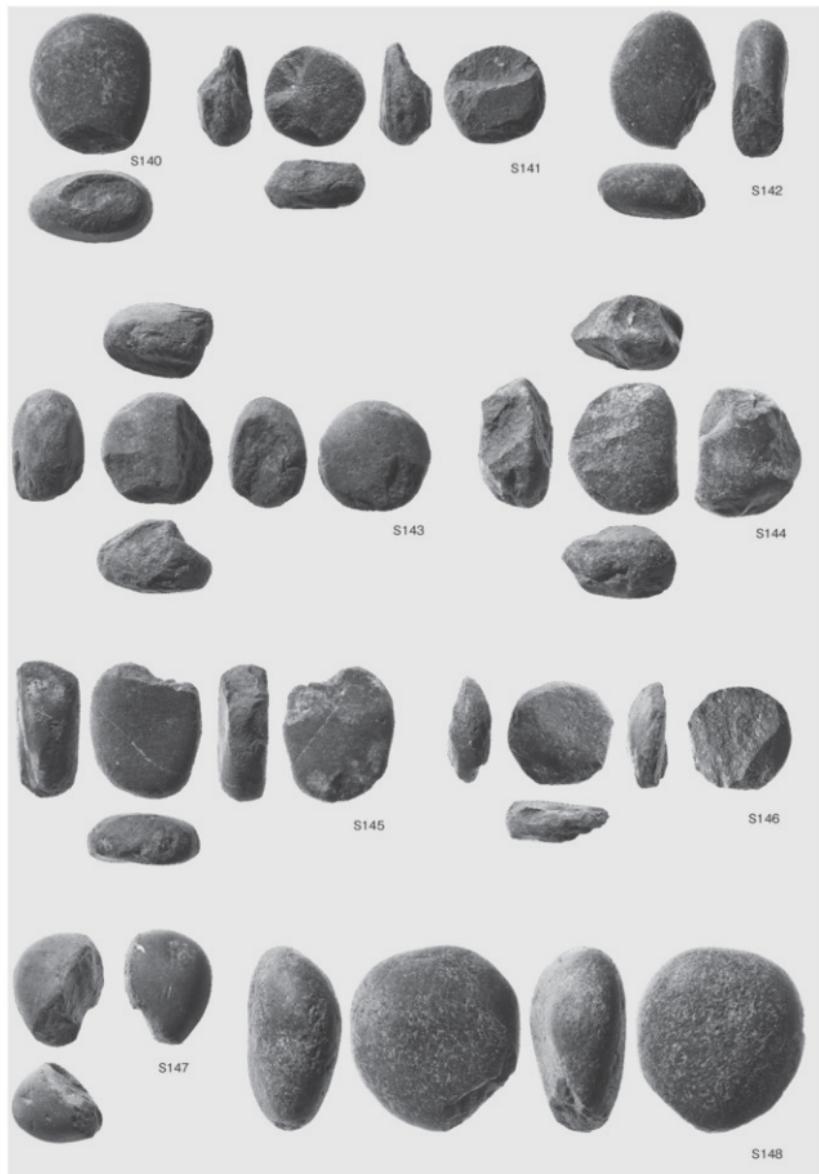
写真図版76 出土遺物(23)



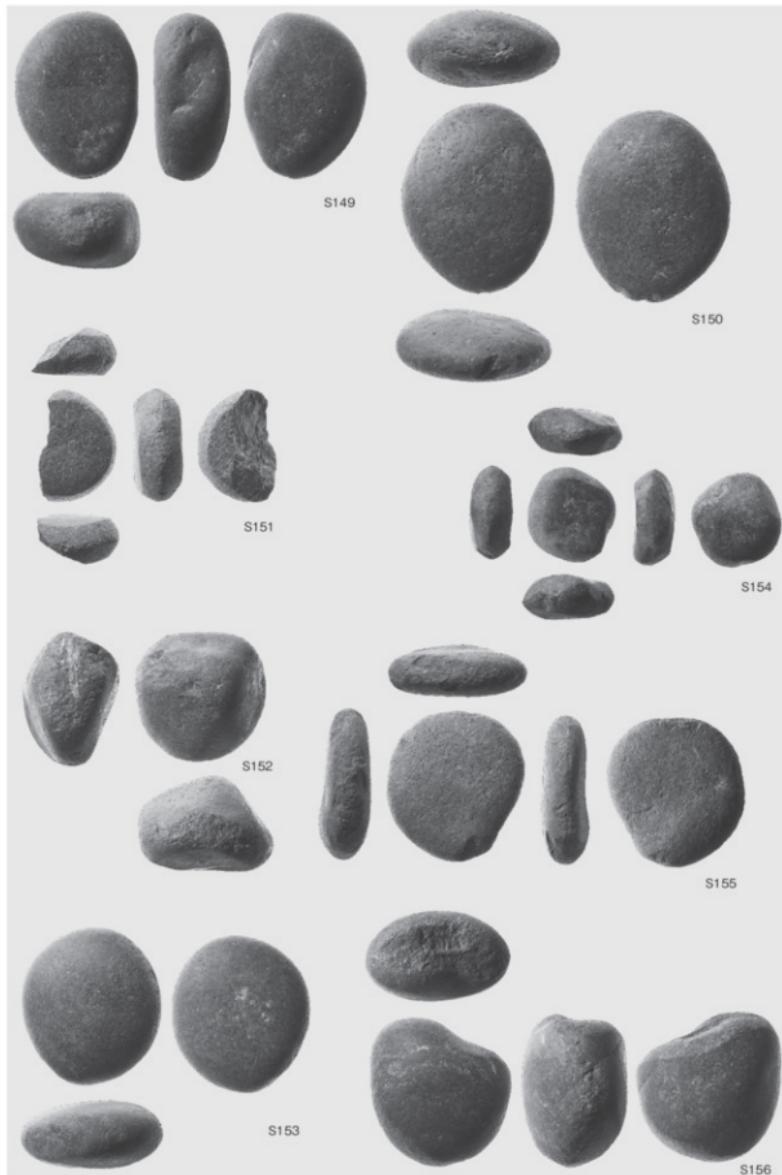
写真図版77 出土遺物(24)



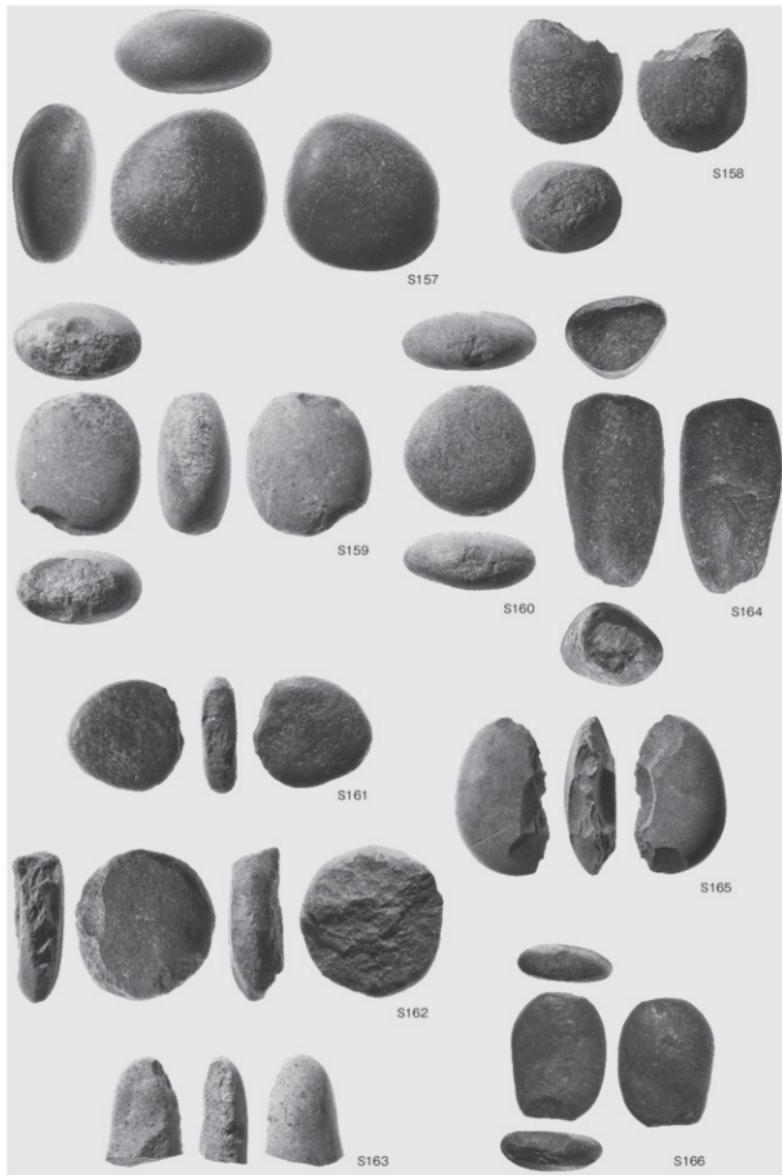
写真図版78 出土遺物(25)



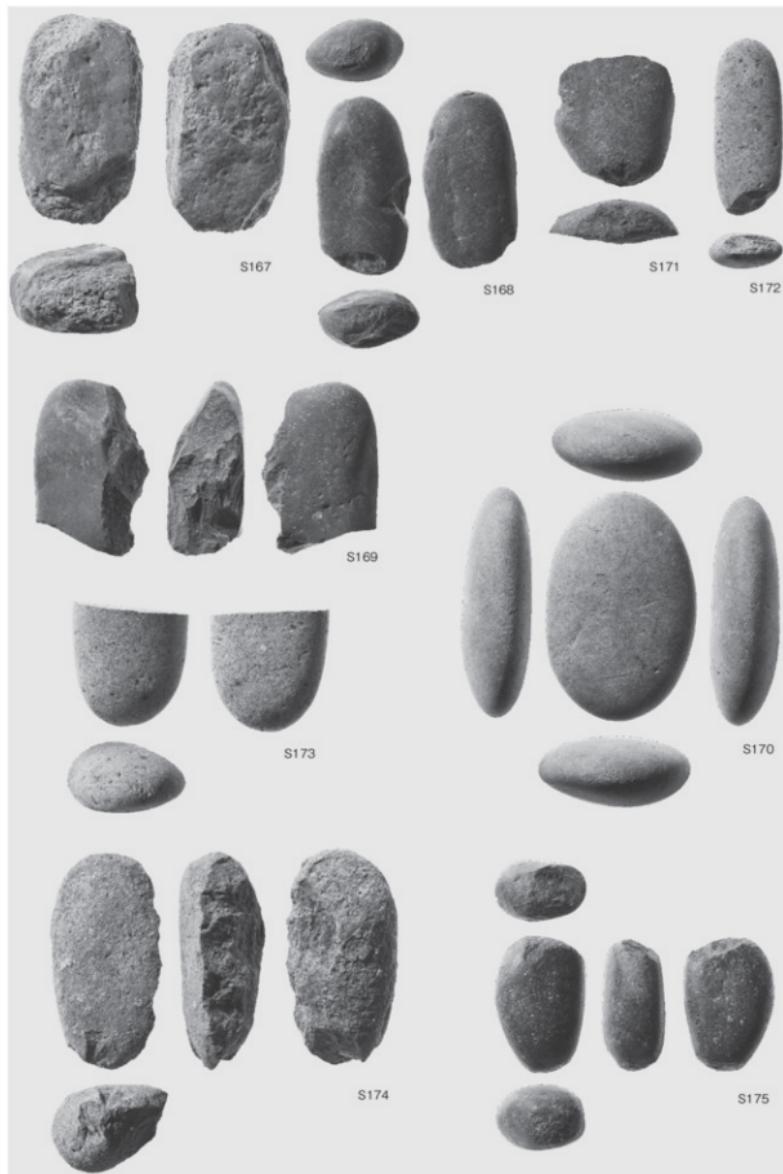
写真図版79 出土遺物(26)



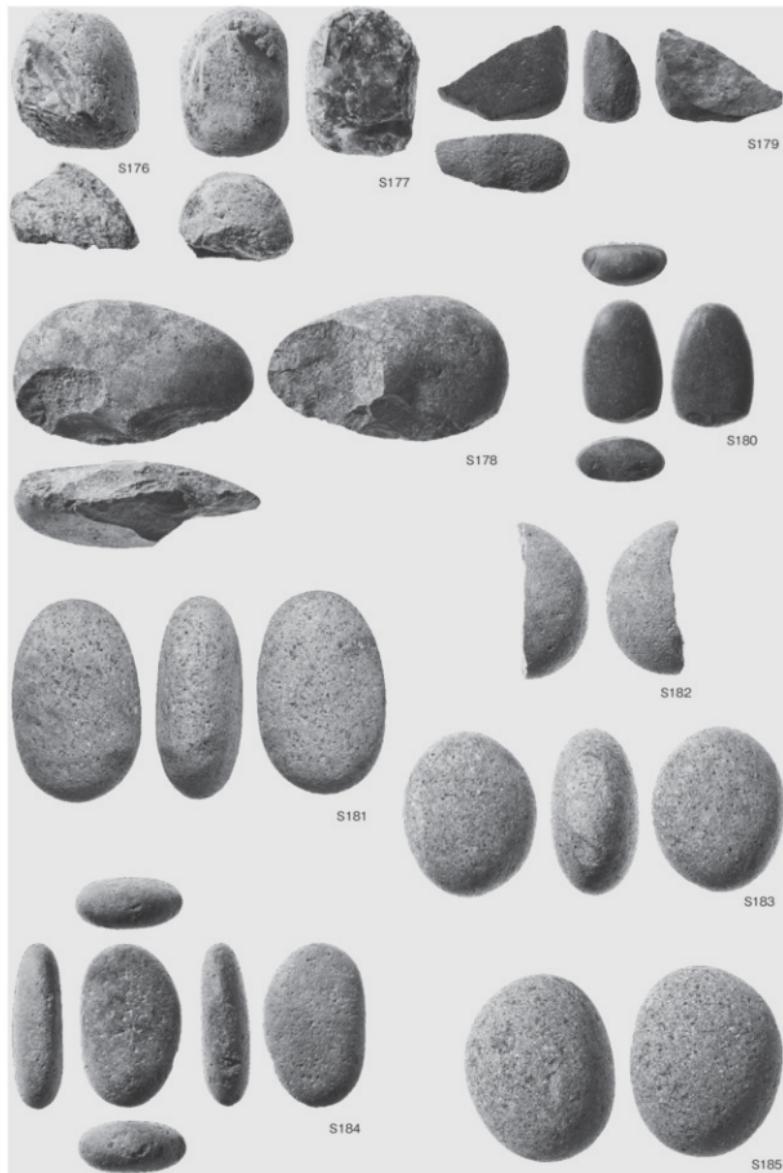
写真図版80 出土遺物(27)



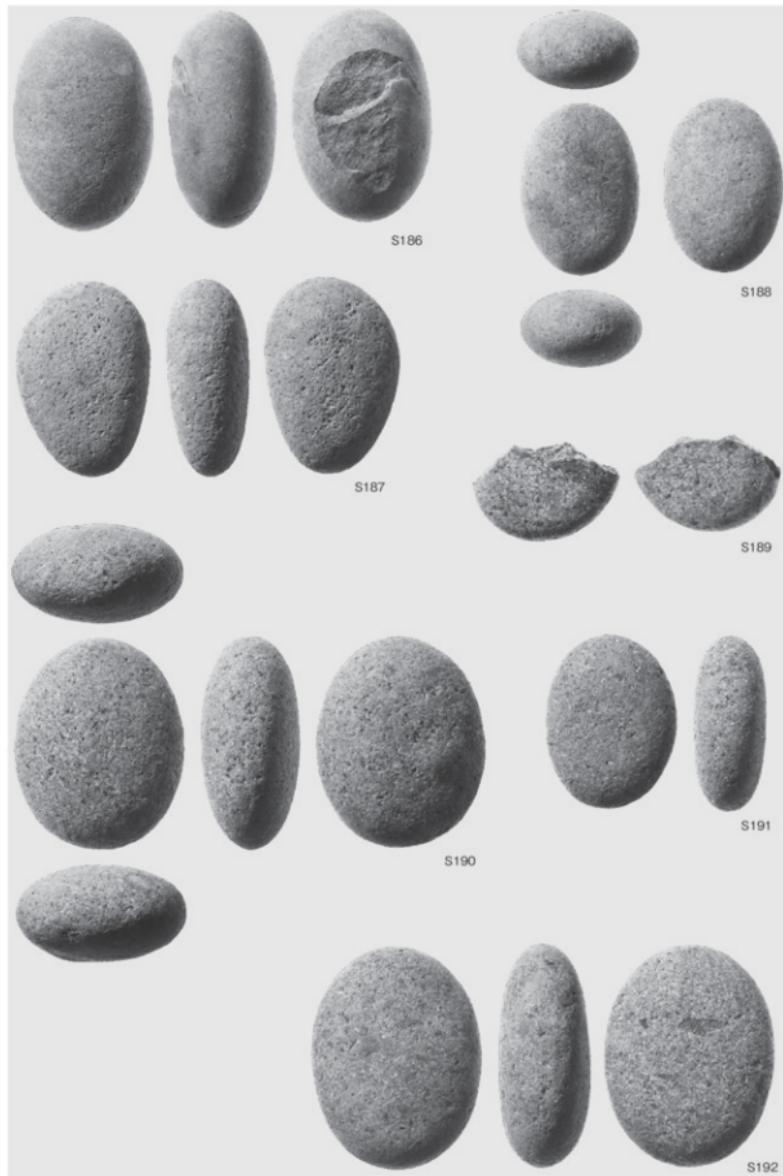
写真図版81 出土遺物(28)



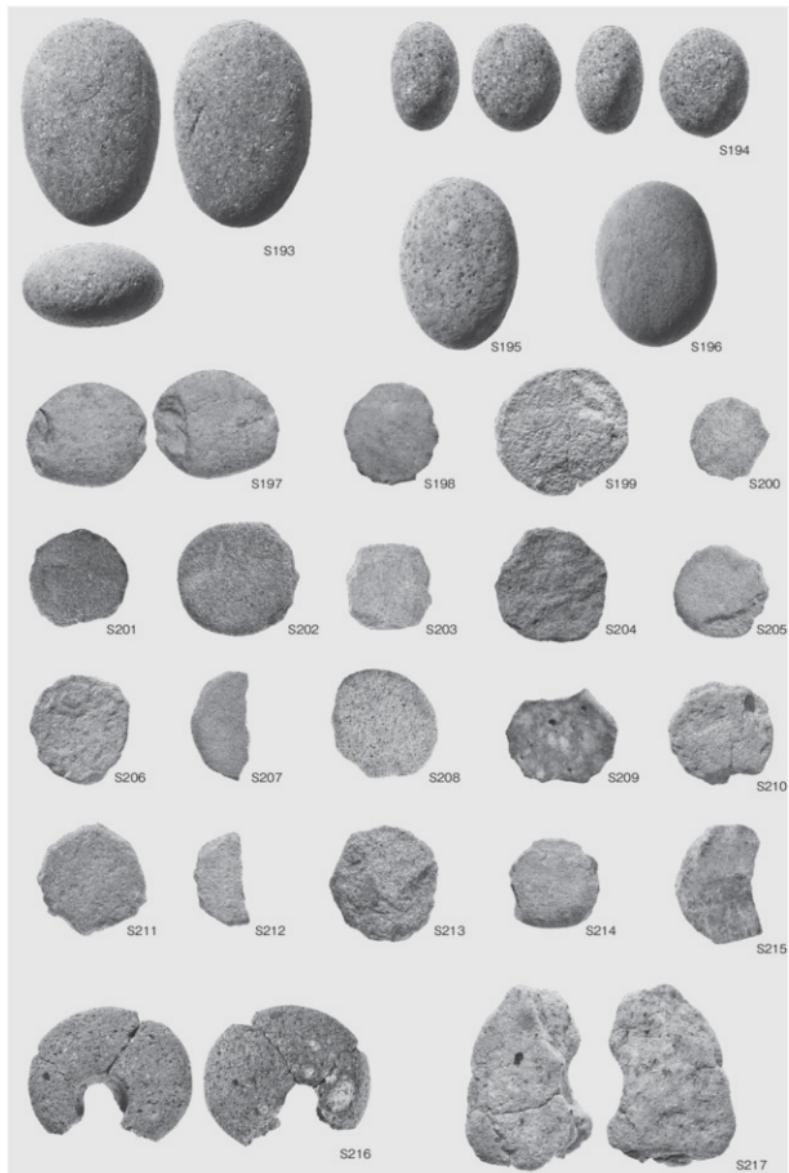
写真図版82 出土遺物(29)



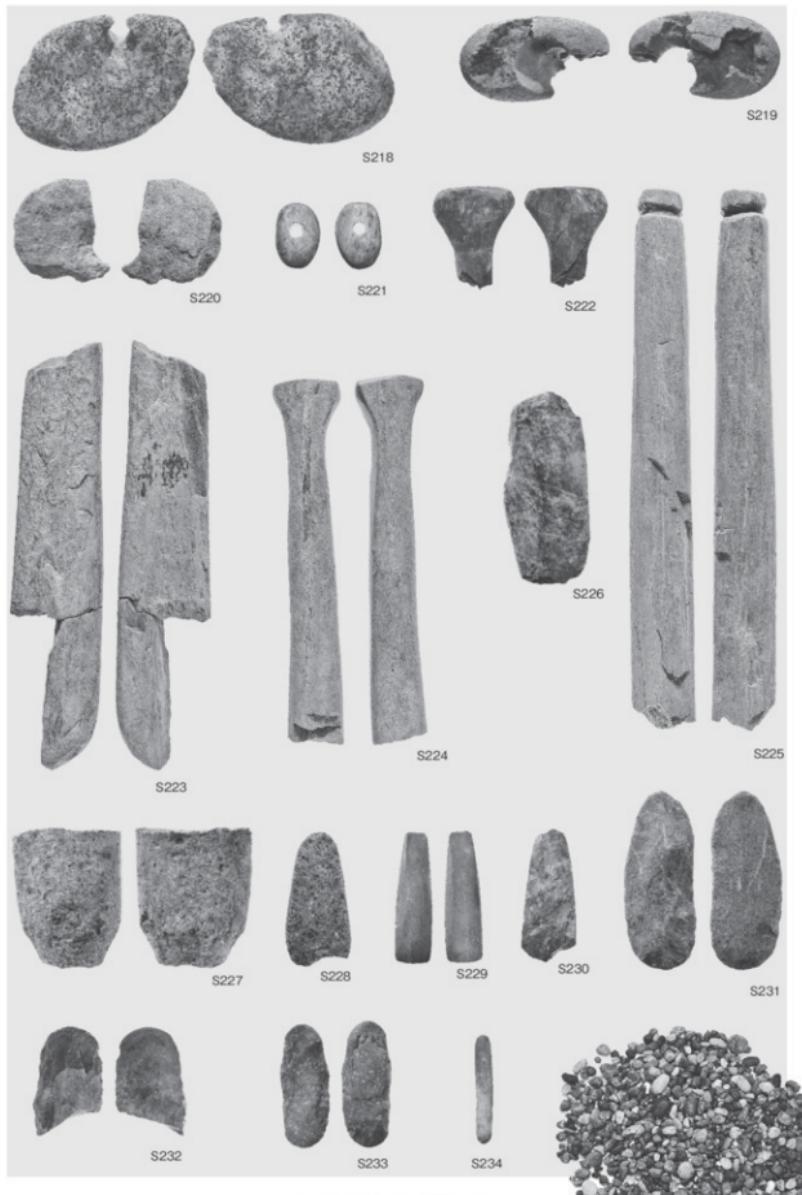
写真図版83 出土遺物(30)



写真図版84 出土遺物(31)



写真図版85 出土遺物(32)



写真図版86 出土遺物(33)

小砾
(小石)

報告書抄録

ふりがな	にしひらない いせきはっくつちょうさほうこくしょ						
書名	西平内I遺跡発掘調査報告書						
副書名	三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査						
卷次							
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	第673集						
編著者名	濱田宏・宮内勝巳・藤田崇志・川村均						
調査機関	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター						
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL(019)638-9001						
発行年月日	2017年3月17日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
にしひらない いせきはっくつちょうさほうこくしょ 西平内I遺跡	岩手県九戸郡洋野町種市第37地割地内	03507 IF480041	39度31分23秒	141度55分44秒	2014.06.02 ～ 2014.11.28 2015.04.20 ～ 2015.10.02	5,500m ²	三陸沿岸道路建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項	
西平内I遺跡	散布地	縄文時代	堅穴住居跡	5棟	縄文土器	石斧の製作に関わる集落でもあった。	
		後期 初頭～前葉	堅穴状遺構	1棟	(早・前・後期)、石器、土・石製品		
		掘立柱建物跡	5棟				
		陥し穴状遺構	16基				
		土坑	37基				
		焼土遺構	14基				
		炉跡	10基				
		埋設土器	4基				
		柱穴	10個				
		配石遺構(外帶集石群)	62基				
		配石遺構(内帶石列)	1基				
		整地層	2枚				
		弥生時代			弥生土器 (後期)		
要約	岩手県九戸郡洋野町に所在する本遺跡からは、縄文時代後期初頭から前葉の配石遺構群と2枚の整地層を確認し、さらにその整地層の下からは直径25m前後の弧状をなす石列を検出した。また、これらは複数の石の集合体からなる外側のものと、整地層下の内側に弧状に巡る石列という二重構造をなすことが判明した。出土遺物には、当該期の土器や土偶、錚形・円盤状の土製品、ミニチュア土器、焼けた粘土塊など、祭祀に関わるもののが目立ち、石器では未製品を含む石斧の出土点数がきわめて多いという特徴が見られた。2年目の調査では、内帶の石列よりも確實に古い堅穴住居が複数棟確認され、配石遺構構築以前から構築時までの様相が明らかとなり、貴重な成果となった。						

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集

西平内 I 遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成29年3月10日
発 行 平成29年3月17日

編 集 (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019) 638-9001

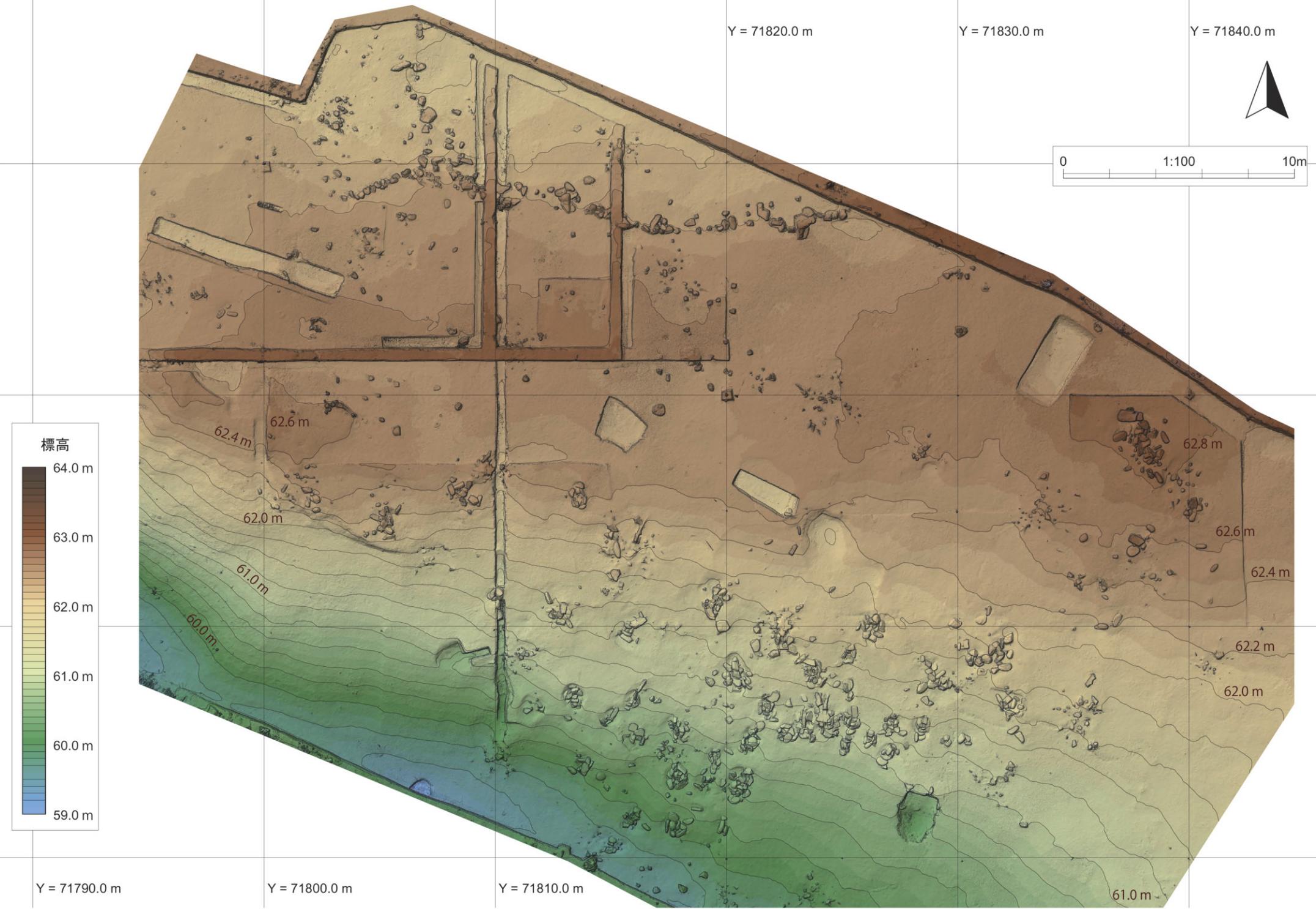
発 行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
〒027-0029 岩手県宮古市藤の川4番1号
電話 (0193) 71-1716

(公財)岩手県文化振興事業団
〒020-0023 岩手県盛岡市内丸13番1号
電話 (019) 654-2235

印 刷 (株)杜陵印刷
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ二丁目22番地50号
電話 (019) 641-8000



付図1 遺構配置図



付図2 立体遺構図

